

くしろちょう
釧路町

てんねる
天寧 1 遺跡(2)

—町道改良地点—

町道床丹5号線道路改良事業埋蔵文化財調査報告書

平成22年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

くしろちょう
釧路町

てんねる
天寧 1 遺跡 (2)

— 町道改良地点 —

町道床丹 5 号線道路改良事業埋蔵文化財調査報告書

平成22年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 天寧1遺跡と釧路市街と太平洋（北から）



2 天寧1遺跡と釧路湿原（南東から）

口絵 2 竪穴住居跡・土坑(1)



1 H-1完掘 (北西から)



2 P-5完掘 (北東から)



1 P-4 遺物出土状況 (南から)



2 西斜面魚骨層断面 (トレンチ1、北西から)

口絵 4 魚骨層(2)



1 西斜面魚骨層断面 (トレンチ1、西から)



2 魚骨層4遺物出土状況 (E16、東から)



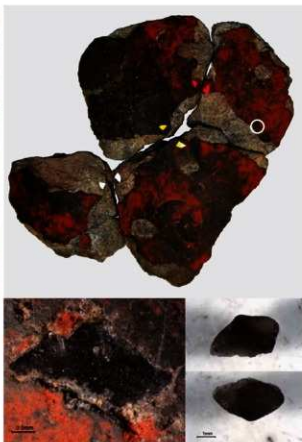
3 魚骨層13調査状況 (D8、西から)



1 魚骨層9動物遺存体出土状況 (D8区、北西から)



2 西斜面下部土器集中1検出状況 (D7、南西から)



3 黒曜石付着土器 (図V-14-144、VI章4参照)

口絵 6 出土遺物(1)



1 統繩文時代前半期土器群



2 魚骨層出土土器(1)



1 魚骨層出土土器(2)



2 魚骨層出土石器

口絵 8 出土遺物(3)



魚骨層出土骨角製品

例 言

1. 本書は、釧路町が行う町道床丹5号線道路改良事業に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成20(2008)年度に発掘調査を実施した釧路町天寧1遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成20年度は第2調査部第4調査課、平成21・22年度は第1調査部第4調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、笠原 興、鈴木宏行が行い、編集は鈴木が担当した。Ⅱ章については平成19年度刊行の北海道埋蔵文化財センター調査報告書第254集『天寧1遺跡』に一部加筆した。
4. 整理作業は、遺構を各担当職員、土器・石器類・骨角貝製品・動物遺存体を鈴木が担当した。土器・動物遺存体の整理については第2調査部第3調査課の土肥研晶の協力を得た。
5. 現場の写真撮影は各担当職員が行い、遺物の撮影は土器については第1調査部第1調査課の吉田裕史洋が行った。
6. 火山灰の同定は第1調査部第1調査課の花岡正光が行った。
7. 作業の一部および各種分析・同定は、下記の機関に依頼した。
石器実測の一部：㈱トラスト技研
石器・骨角貝製品写真撮影：㈱写真事務所クリーク佐藤雅彦
動物遺存体同定：富岡直人(岡山理科大学)
放射性炭素年代測定：㈱加速器分析研究所
黒曜石原産地分析：㈱パレオ・ラボ
黒曜石原産地分析：杉原重夫・金成太郎(明治大学文化財研究施設)
炭化材樹種同定・炭化種実同定：㈱古環境研究所
珪藻・花粉分析：バリノ・サーヴェイ㈱
赤色顔料分析：㈱パレオ・ラボ
人骨・歯分析：松村博文(札幌医科大学)
炭素・窒素同位体比分析：米田 穰(東京大学)
8. 報告書刊行後、遺物および台帳は釧路町教育委員会が、図面・写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏の御指導、御協力をいただいた。(順不同、敬称略)
北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課、釧路町教育委員会：寺田弘之・山本文男、釧路市埋蔵文化財調査センター：松田 猛・石川 朗・高橋勇人、釧路市：西 幸隆、標茶町郷土館：坪岡 始、厚岸町教育委員会：熊崎農夫博、根室市歴史と自然の資料館：猪熊樹人、斜里町立知床博物館：
松田 功、北網圏北見文化センター：太田敏量、ところ埋蔵文化財センター：武田 修、帯広市埋蔵文化財センター：山原俊朗、新ひだか町教育委員会：小野寺聡、江別市教育委員会：佐藤一志、北海道教育庁：工藤研治、北海道開拓記念館：添田雄二、北海道考古学研究所：横山英介、札幌市：
大沼忠春・種市幸生、三内丸山遺跡保存活用推進室：永嶋 豊、青森県立郷土館：伊藤由美子、外ヶ浜町教育委員会：駒田 透、東通村教育委員会：小山卓臣、八戸市縄文学習館：小林和彦、八戸市是川縄文館開館準備室：工藤竹久・宇部則保・横山寛剛、五所川原市教育委員会：藤原弘明、白河市：
山田しょう、新潟県教育庁：沢田 敦、東京都：金子浩昌、奈良文化財研究所：国武貞克・藤田美美、総合地球環境学研究所：石丸恵利子、羽島市：中村賢太郎、山口市埋蔵文化財センター：沖田絵麻、北海道大学：高倉 純、弘前大学：関根達人、東京大学：米田 穰、明治大学：杉原重夫・金成太郎、岡山理科大学：富岡直人・立石和也

記号等の説明

1. 遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。
H：住居跡 P：土坑 F：焼土 S：集石 HF：住居内の焼土 HP：住居内のピット・柱穴
2. 遺構図の縮尺は1/40としたが、遺物分布図については一部1/20・1/50としたものがある。いずれの場合もスケールを示した。
3. 遺構図の方位は真北を示す。遺構平面図の+はグリッドラインの交点で、傍らの名称番号は右下のグリッドを示している。レベルは標高(単位:m)である。
4. 遺構の規模は以下の要領で示した。なお、一部破壊されているものは現存長を()で示し、不明なものは「-」で示した。(単位はm)
住居跡・土坑…確認面での長軸長/床(底)面での長軸長×確認面での短軸長/床(底)面での短軸長×確認面からの最大深
集石…確認範囲の長軸長×短軸長
焼土…確認面での長軸長×短軸長/最大厚
5. 遺構に関連する遺物分布図には床面・底面出土遺物のみを掲載し、分布図中の数字は掲載番号を付し、土器・石器・骨角製品で同一の掲載番号があることから混同を避けるために石器・骨角製品は斜字体とした。
6. 土層の表記については、基本土層はローマ数字、遺構の層位はアラビア数字で示した。
7. 土層の色調は『新版 標準土色帖 2002年版』(小山・竹原2002)に従った。
8. 遺物の実測図の縮尺は以下のとおりである。
復元土器・土器拓影 1/3 土製品 1/2 焼成粘土塊 1/1
剥片石器・礫石器・石製品 1/2 台石(図IV-73-110のみ) 1/4 骨角貝製品 2/3
9. 土器図には正面図では表現できない箇所を図を追加して補助的に掲載しているものがある。この補助図は「⊕」印によってその実測位置を示している。「⊕」印は土器の上面観を模式化したもので、十字の垂直線は下端が正面側、上端が裏面側を、十字の水平線は左端が左面側、右端が右面側を示す。「⊕」に太線がある場所が補助図の位置で、太線が円の内側にある場合(⊕)は内面、外側にある場合(⊕)は外面を示している。
10. 土器の断面図を追加する場合、その位置を「▽」「▼」で示した。
11. 土器に粘土の積み上げ痕である接合面が確認できる場合、断面図に接合面を記入した。正面図の上に「▽」や「▼」の印を付けてその位置を示し、「▽」は正面側、「▼」は裏面側である。数字は断面図と対応し、下部から順に付けた。但し、記入された接合面のみが製作工程上の「継ぎ目」を示すものではない。
12. 土器図正面図に付されている「●」は接合面の露出した部分を示す。
13. 礫石器に関して敲打痕は▽——▽、すり痕は←——→で範囲を示した。
14. 骨製品に関しては尖頭状骨製品の縁辺の磨耗痕の範囲を←——→で示した。

目 次

口絵 (カラー図版)

例言・記号等の説明

目次・挿図目次・表目次・図版目次

I 調査の概要	
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経過	1
4 調査概要	2
(1) 調査区の設定	2
(2) 土層	2
(3) 調査の方法	8
(4) 整理の方法	10
(5) 遺物の分類	13
(6) 調査結果の概要	16
II 遺跡の位置と周辺の環境	
1 遺跡の位置と概要	21
2 釧路周辺の貝塚及び動物遺存体出土遺跡	24
III 遺構と遺物	
1 概要	29
2 竪穴住居跡	30
3 土坑	36
4 集石	50
5 焼土	54
6 動物遺存体	69
IV 魚骨屑と出土遺物	
1 概要	75
2 土器・土製品	85
3 石器・石製品	150
4 骨角貝製品	159
5 天塚1遺跡出土動物遺存体の分析 (富岡直人・鈴木宏行・沖田絵麻・立石和也)	173
(1) 動物遺存体の保存状況	173
(2) 概要	173
(3) 動物遺存体の特徴	180
(4) 天塚1遺跡における生業	183
6 その他	260
(1) 糞石	260
(2) その他	260

V	包含層出土の遺物	
1	概要	289
2	土器・土製品	289
3	石器・石製品	324
4	動物遺存体	336
VI	自然科学的分析等	
1	放射性炭素年代測定（㈱加速器分析研究所）	347
2	天寧1遺跡の火山灰（花岡正光：㈱北海道埋蔵文化財センター）	356
3	天寧1遺跡出土黒曜石製石器の産地推定（竹原弘展：㈱パレオ・ラボ）	360
4	北海道釧路郡釧路町天寧1遺跡出土土器付着黒曜石片の原産地推定 （金成太郎：明治大学文化財研究施設、杉原重夫：明治大学文学部地理学研究室）	365
5	釧路町天寧1遺跡出土試料の炭化材樹種同定（㈱古環境研究所）	371
6	釧路町天寧1遺跡出土試料の炭化種実同定（㈱古環境研究所）	374
7	天寧1遺跡出土試料の珪藻・花粉分析（バリノ・サーヴェイ㈱）	385
8	天寧1遺跡出土土器付着赤色顔料分析（竹原弘展：㈱パレオ・ラボ）	397
9	天寧1遺跡出土の人骨について（松村博文：札幌医科大学）	402
10	釧路町天寧1遺跡から出土した縄文時代人骨・動物骨の同位体比分析 （米田 穰・覚張隆史：東京大学）	404
VII	まとめ	
1	遺構について	409
2	遺物について	412
(1)	土器	412
(2)	石器	413
(3)	骨角貝製品	421
(4)	動物遺存体	424
3	分析について	427
(1)	遺跡の形成年代について	427
(2)	周辺の環境	429
(3)	資源の利用について	430
(4)	埋葬、食性について	431
4	総括	431

引用文献

写真図版

報告書抄録

挿図目次

I 調査の概要

図I-1 調査範囲図	3
図I-2 調査区設定図	3
図I-3 基本土層図	3
図I-4 土層断面図(1)	4
図I-5 土層断面図(2)	5
図I-6 土層断面図(3)	6
図I-7 土層断面図(4)	7
図I-8 西斜面魚骨層コラムサンプル位置	9
図I-9 包含層出土主要土器分布図	20

II 遺跡の位置と周辺の環境

図II-1 遺跡の位置	21
図II-2 周辺の遺跡分布図	22
図II-3 鋼路周辺の貝塚及び動物遺存体出土遺跡分布図	27

III 遺構と遺物

図III-1 遺構位置図	29
図III-2 H-1 平面図・断面図	31
図III-3 H-1 遺物分布図	32
図III-4 H-2 平面図・断面図	34
図III-5 H-3 平面図・断面図・遺物分布図	35
図III-6 H-4 平面図・断面図	37
図III-7 P-1～3 平面図・断面図	39
図III-8 P-4～6 平面図・断面図・遺物分布図	40
図III-9 P-7～11 平面図・断面図	43
図III-10 P-12～14 平面図・断面図・遺物分布図	45
図III-11 P-15～19 平面図・断面図	47
図III-12 P-20～24 平面図・断面図・遺物分布図	49
図III-13 P-25～29 平面図・断面図	51
図III-14 S-1～6 平面図・断面図	53
図III-15 F-1～11 平面図・断面図	55
図III-16 遺構出土土器(1)	57
図III-17 遺構出土土器(2)	58
図III-18 遺構出土土器(3)	59
図III-19 遺構出土土器(4)	60
図III-20 遺構出土土器(5)	61
図III-21 遺構出土土器(6)	62
図III-22 遺構出土土器(7)	63
図III-23 遺構出土土器(1)	64
図III-24 遺構出土土器(2)	65
図III-25 遺構出土土器(3)	66
図III-26 遺構出土土器(4)	67
図III-27 遺構出土土器(5)、遺構出土骨角製品	68

IV 魚骨層出土の遺物

図IV-1 魚骨層序概念図	76
図IV-2 土壌 pH 分布図	76
図IV-3 魚骨層 1～4 平面図	77
図IV-4 魚骨層 5～7 平面図	78
図IV-5 魚骨層 8～10 平面図	79
図IV-6 魚骨層 11・12・14 平面図	80
図IV-7 魚骨層 13 平面図	81

図IV-8 魚骨層 15(1)、土器集中 1・2 平面図	82
図IV-9 魚骨層 15(2)・IV 層上部平面図	83
図IV-10 魚骨層出土土器(1)	92
図IV-11 魚骨層出土土器(2)	93
図IV-12 魚骨層出土土器(3)	94
図IV-13 魚骨層出土土器(4)	95
図IV-14 魚骨層出土土器(5)	96
図IV-15 魚骨層出土土器(6)	97
図IV-16 魚骨層出土土器(7)	98
図IV-17 魚骨層出土土器(8)	99
図IV-18 魚骨層出土土器(9)	100
図IV-19 魚骨層出土土器(10)	101
図IV-20 魚骨層出土土器(11)	102
図IV-21 魚骨層出土土器(12)	103
図IV-22 魚骨層出土土器(13)	104
図IV-23 魚骨層出土土器(14)	105
図IV-24 魚骨層出土土器(15)	106
図IV-25 魚骨層出土土器(16)	107
図IV-26 魚骨層出土土器(17)	108
図IV-27 魚骨層出土土器(18)	109
図IV-28 魚骨層出土土器(19)	110
図IV-29 魚骨層出土土器(20)	111
図IV-30 魚骨層出土土器(21)	112
図IV-31 魚骨層出土土器(22)	113
図IV-32 魚骨層出土土器(23)	114
図IV-33 魚骨層出土土器(24)	115
図IV-34 魚骨層出土土器(25)	116
図IV-35 魚骨層出土土器(26)	117
図IV-36 魚骨層出土土器(27)	118
図IV-37 魚骨層出土土器(28)	119
図IV-38 魚骨層出土土器(29)	120
図IV-39 魚骨層出土土器(30)	121
図IV-40 魚骨層出土土器(31)	122
図IV-41 魚骨層出土土器(32)	123
図IV-42 魚骨層出土土器(33)	124
図IV-43 魚骨層出土土器(34)	125
図IV-44 魚骨層出土土器(35)	126
図IV-45 魚骨層出土土器(36)	127
図IV-46 魚骨層出土土器(37)	128
図IV-47 魚骨層出土土器(38)	129
図IV-48 魚骨層出土土器(39)	130
図IV-49 魚骨層出土土器(40)	131
図IV-50 魚骨層出土土器(41)	132
図IV-51 魚骨層出土土器(42)	133
図IV-52 魚骨層出土土器(43)	134
図IV-53 魚骨層出土土器(44)	135
図IV-54 魚骨層出土土器(45)	136
図IV-55 魚骨層出土土器(46)	137
図IV-56 魚骨層出土土器(47)	138
図IV-57 魚骨層出土土器(48)	139
図IV-58 魚骨層出土土器(49)	140

図IV-59	魚骨層出土土器50	141
図IV-60	魚骨層出土土器51	142
図IV-61	魚骨層出土土器52	143
図IV-62	魚骨層出土土器53	144
図IV-63	魚骨層出土土器54	145
図IV-64	魚骨層出土土器55	146
図IV-65	魚骨層出土土器56	147
図IV-66	魚骨層出土土器57	148
図IV-67	魚骨層出土土器58	149
図IV-68	魚骨層出土土器(1)	153
図IV-69	魚骨層出土土器(2)	154
図IV-70	魚骨層出土土器(3)	155
図IV-71	魚骨層出土土器(4)	156
図IV-72	魚骨層出土土器(5)	157
図IV-73	魚骨層出土土器(6)	158
図IV-74	魚骨層出土骨角貝製品(1)	163
図IV-75	魚骨層出土骨角貝製品(2)	164
図IV-76	魚骨層出土骨角貝製品(3)	165
図IV-77	魚骨層出土骨角貝製品(4)	166
図IV-78	魚骨層出土骨角貝製品(5)	167
図IV-79	魚骨層出土骨角貝製品(6)	168
図IV-80	魚骨層出土骨角貝製品(7)	169
図IV-81	魚骨層出土骨角貝製品(8)	170
図IV-82	魚骨層出土骨角貝製品(9)	171
図IV-83	魚骨層出土骨角貝製品(10)	172
図IV-84	鳥類上腕骨	185
図IV-85	カマイルカ頭蓋(D 8 a, 魚骨層9, 遺物№6)	186
図IV-86	出土鳥類の同定部位数 (NISP: Number of Identifiable Species)	186
図IV-87	鳥類部位別出土率 (NISP)	186
図IV-88	鳥類の成長状況	186
図IV-89	鳥類破損状況	186
図IV-90	イヌ頭蓋 (a, 1号犬, b, 2号犬, c, 3号犬)	187
図IV-91	イヌ下顎骨	187
図IV-92	層別別動物遺存体重量比 (ベルト1 コラムサンプル3 5mm資料)	188
図IV-93	層別別動物遺存体重量比 (ベルト1 コラムサンプル3 1mm資料)	188
図IV-94	層別別動物遺存体重量比 (ベルト1 コラムサンプル6 5mm資料)	188
図IV-95	層別別動物遺存体重量比 (ベルト1 コラムサンプル6 1mm資料)	188
図IV-96	層別別動物遺存体重量比 (ベルト2 コラムサンプル1 5mm資料)	188
図IV-97	層別別動物遺存体重量比 (ベルト2 コラムサンプル1 1mm資料)	188
図IV-98	魚骨層調査の流れ	259
V 包含層の遺物		
図V-1	包含層出土土器(1)	297
図V-2	包含層出土土器(2)	298

図V-3	包含層出土土器(3)	299
図V-4	包含層出土土器(4)	300
図V-5	包含層出土土器(5)	301
図V-6	包含層出土土器(6)	302
図V-7	包含層出土土器(7)	303
図V-8	包含層出土土器(8)	304
図V-9	包含層出土土器(9)	305
図V-10	包含層出土土器(10)	306
図V-11	包含層出土土器(11)	307
図V-12	包含層出土土器(12)	308
図V-13	包含層出土土器(13)	309
図V-14	包含層出土土器(14)	310
図V-15	包含層出土土器(15)	311
図V-16	包含層出土土器(16)	312
図V-17	包含層出土土器(17)	313
図V-18	包含層出土土器(18)	314
図V-19	包含層出土土器(19)	315
図V-20	包含層出土土器(20)	316
図V-21	包含層出土土器(21)	317
図V-22	包含層出土土器(22)	318
図V-23	包含層出土土器(23)	319
図V-24	包含層出土土器(24)	320
図V-25	包含層出土土器(25)	321
図V-26	包含層出土土器(26)	322
図V-27	包含層出土土器(27)	323
図V-28	包含層出土土器(1)	327
図V-29	包含層出土土器(2)	328
図V-30	包含層出土土器(3)	329
図V-31	包含層出土土器(4)	330
図V-32	包含層出土土器(5)	331
図V-33	包含層出土土器(6)	332
図V-34	包含層出土土器(7)	333
図V-35	包含層出土土器(8)	334
図V-36	包含層出土土器(9)	335

VI 自然科学的分析等

図VI-1	曆年較正年代グラフ(1)	352
図VI-2	曆年較正年代グラフ(2)	353
図VI-3	曆年較正年代グラフ(3) 較正年代一覧	354
図VI-4	天塚1 遺跡出土炭化物の較正年代一覧	355
図VI-5	火山ガラスの化学組成値分布	358
図VI-6	今回分析の火山灰の産状と火山ガラスの形態 (SEM像)	359
図VI-7	北海道・東北地方黒曜石原石分布図	361
図VI-8	黒曜石産地推定判別図(1)	363
図VI-9	黒曜石産地推定判別図(2)	363
図VI-10	黒曜石産地分析試料一覧	364
図VI-11	石器時代における北海道・東北地方の黒曜石 原産地	368
図VI-12	STKG7A (コリメーター: 7mm, 測定時間: 240秒, 測定数: n=185) の再現性	368
図VI-13	STKG7A (コリメーター: 1mm, 測定時間: 720秒, 測定数: n=11) の再現性	368
図VI-14	天塚1 遺跡出土土器付着黒曜石片の判別図	370

図VI-15	天寧1遺跡の炭化材	373
図VI-16	天寧1遺跡の種実	384
図VI-17	模式柱状図及び試料採取位置	390
図VI-18	主要珪酸化石群集の層位分布	391
図VI-19	花粉化石群集の層位分布	394
図VI-20	珪酸化石	395
図VI-21	花粉化石	396
図VI-22	赤色顔料分析対象試料一覧	398
図VI-23	赤色顔料の蛍光X線分析およびX線回折分析結果①	399
図VI-24	赤色顔料の蛍光X線分析およびX線回折分析結果②	400
図VI-25	赤色顔料の顕微鏡写真	401
図VI-26	出土ヒト歯 (S=1/1)	403
図VI-27	天寧1遺跡出土の炭素・窒素同位体比分析試料 (S=1/2)	407
図VI-28	天寧1遺跡から出土した縄文時代晩期および後期の人骨における炭素・窒素同位体比	408
図VI-29	天寧1遺跡から出土した縄文時代晩期の人骨と動物骨の炭素・窒素同位体比の比較	408
Ⅶ まとめ		
図VII-1	時期別遺構位置図	411

図VII-2	縄文時代晩期後葉(緑ヶ岡式古段階)土器組成①	416
図VII-3	縄文時代晩期後葉(緑ヶ岡式古段階)土器組成②(上段)、続縄文時代土器組成(下段)	417
図VII-4	縄文時代晩期後葉(緑ヶ岡式古段階)石器組成	419
図VII-5	続縄文時代前半期石器組成一部後半期含む	419
図VII-6	縄文時代晩期後葉～続縄文時代前半期の石器製作技術	420
図VII-7	ナイフの形態変化	420
図VII-8	縄文時代晩期後葉(緑ヶ岡式古段階)骨角貝製品組成	422
図VII-9	縄文時代晩期後葉(緑ヶ岡式古段階)骨角製品製作技術	423
図VII-10	魚骨層出土魚種組成(A選別(5mm)、最小個体数、イトヨ含む)	425
図VII-11	魚骨層出土魚種組成(A選別(5mm)、最小個体数、イトヨ除く)	425
図VII-12	魚骨層出土魚種組成(A選別(5mm)、重量)	426
図VII-13	魚骨層と放射性炭素年代測定値	429
図VII-14	日本産樹木年輪試料と魚骨層の放射性炭素年代測定値	429

表目次

I 調査の概要

表I-1	動物遺存体の選別基準	12
表I-2	出土遺物一覧①	17
表I-3	出土遺物一覧②	18

II 遺跡の位置と周辺環境

表II-1	周辺の遺跡一覧	23
表II-2	銅路周辺の貝塚等出土動物遺存体一覧	28

III 遺構と遺物

表III-1	遺構規模一覧	69
表III-2	遺構1mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外	69
表III-3	遺構5mm出土魚上綱	69
表III-4	遺構1mm出土魚上綱	70
表III-5	遺構5mm出土鳥綱	70
表III-6	遺構1mm出土鳥綱	70
表III-7	遺構5mm出土哺乳綱	70
表III-8	遺構1mm出土哺乳綱	71
表III-9	遺構出土掘載石器一覧	72
表III-10	遺構出土掘載石器一覧	74
表III-11	遺構出土掘載骨角製品一覧	74

IV 魚骨層出土の遺物

表IV-1	魚骨層一覧	84
表IV-2	天寧1遺跡出土動物遺存体種名表	184
表IV-3	破損状況の記録法	185
表IV-4	カモ科の分類と上腕骨全長	185
表IV-5	ハクチョウ属上腕骨計測値	186
表IV-6	A選別5mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外	189

表IV-7	A選別1mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外	189
表IV-8	B・C選別5mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外	189
表IV-9	D選別5mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外	189
表IV-10	A選別5mm出土魚上綱	190
表IV-11	A選別1mm出土魚上綱	216
表IV-12	B・C選別5mm出土魚上綱	222
表IV-13	D選別5mm出土魚上綱	230
表IV-14	A～D選別以外(点取り・手取り)出土魚上綱	232
表IV-15	A選別5mm出土鳥綱	232
表IV-16	A選別1mm出土鳥綱	235
表IV-17	B・C選別5mm出土鳥綱	236
表IV-18	D選別5mm出土鳥綱	244
表IV-19	A～D選別以外(点取り・手取り)5mm出土鳥綱	245
表IV-20	A選別5mm出土哺乳綱	245
表IV-21	A選別1mm出土哺乳綱	248
表IV-22	B・C選別5mm出土哺乳綱	249
表IV-23	D選別5mm出土哺乳綱	257
表IV-24	A～D選別以外(点取り・手取り)出土哺乳綱	258
表IV-25	魚骨層出土掘載石器一覧	260
表IV-26	魚骨層出土掘載石器一覧	280
表IV-27	魚骨層出土掘載骨角製品一覧	282

表IV-28 魚骨層出土写真掲載動物遺存体ほか一覧	285
---------------------------	-----

V 包含層の遺物

表V-1 包含層出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外	336
表V-2 包含層出土魚上綱	336
表V-3 包含層出土鳥綱	337
表V-4 包含層出土哺乳綱	337
表V-5 包含層出土掲載土器一覧	338
表V-6 包含層出土掲載土器一覧	344

VI 自然科学的分析等

表VI-1 放射性炭素年代測定結果(1)	349
表VI-2 放射性炭素年代測定結果(2)	350
表VI-3 放射性炭素年代測定結果(3)	351
表VI-4 鉱物組み合わせ	357
表VI-5 火山ガラスの化学組成	357
表VI-6 北海道・東北地方黒曜石産地の判別群	360
表VI-7 分析対象資料および産地推定結果	362
表VI-8 北海道・東北地方における黒曜石原産地の区分	368

表VI-9 XRF定性分析における測定再現性	369
表VI-10 判別分析における群間距離	369
表VI-11 天寧1遺跡出土土器付着黒曜石片の測定結果	369
表VI-12 岩木山系黒曜石原石の測定結果	369
表VI-13 天寧1遺跡における樹種同定結果	372
表VI-14 天寧1遺跡における種実同定結果(1)	380
表VI-15 天寧1遺跡における種実同定結果(2)	381
表VI-16 天寧1遺跡における種実同定結果(3)	382
表VI-17 天寧1遺跡における種実同定結果(4)	383
表VI-18 珪藻分析結果(1)	392
表VI-19 珪藻分析結果(2)	393
表VI-20 花粉分析結果	394
表VI-21 分析対象資料	397
表VI-22 出土人骨同定リスト	403
表VI-23 分析した試料と結果	406

Ⅷ まとめ

表VII-1 縄文時代晩期後葉から縄文時代後半期土器の特徴	414
-------------------------------	-----

図版目次

図版1 空中写真	
1 天寧1遺跡(1947年9月2日米軍撮影、南西から)	
2 天寧1遺跡(1947年7月24日米軍撮影、南西から)	
図版2 遠景	
1 遺跡遠景(西から)	
2 遺跡遠景(河野採石工業より、北西から)	
図版3 調査前状況	
1 調査前状況(南西から)	
図版4 土層(1)	
1 F15区 南東壁土層断面(北西から)	
2 F14区 南東壁土層断面(北西から)	
3 F13・14区 南東壁土層断面(北西から)	
図版5 土層(2)	
1 F13区 南東壁土層断面(北西から)	
2 F10・11区 南東壁土層断面(北西から)	
3 G9区 南東壁土層断面(北西から)	
図版6 竪穴住居跡(1)	
1 H-1 検出(北西から)	
2 H-1 土層断面(北西から)	
図版7 竪穴住居跡(2)	
1 H-1 土層断面・遺物出土状況(北から)	
2 H-1 土層断面(南西から)	
3 H-1 土層断面(南東から)	
図版8 竪穴住居跡(3)	
1 H-1 南東側遺物出土状況(北から)	
2 H-1 竪土検出状況(北から)	
図版9 竪穴住居跡(4)	
1 H-2 検出(北から)	
2 H-2 完掘(南東から)	
図版10 竪穴住居跡(5)	
1 H-2 HP-1土層断面(南から)	

2 H-2 HP-2土層断面(南から)	
3 H-2 HP-3土層断面(南から)	
4 H-2 HP-4土層断面(南から)	
5 H-2 HP-5土層断面(南から)	
6 H-2 HP-6土層断面(南から)	
7 H-2 HP-7土層断面(南から)	
8 H-3 遺物出土状況(南東から)	
図版11 竪穴住居跡(6)	
1 H-3 調査状況(東から)	
2 H-3 土層断面(北から)	
図版12 竪穴住居跡(7)	
1 H-3 土層断面(西から)	
2 H-3 完掘(南東から)	
図版13 竪穴住居跡(8)	
1 H-4 HF-1検出(北西から)	
2 H-4 HF-1土層断面(北西から)	
3 H-4 調査状況(北東から)	
4 H-4 HF-2検出(南西から)	
5 H-4 HF-1土層断面(南西から)	
図版14 竪穴住居跡(9)	
1 H-4 調査状況(南西から)	
2 H-4 完掘(南西から)	
図版15 土坑(1)	
1 P-1 土層断面(南から)	
2 P-1 完掘(南から)	
3 P-2 土層断面(西から)	
4 P-2 完掘(北西から)	
5 P-3 土層断面(南西から)	
6 P-3 坑底検出(南から)	
7 P-3 完掘(南西から)	
図版16 土坑(2)	

- 1 P-4 遺物出土状況(西から)
- 2 P-4 遺物出土状況(南から)
- 3 P-4 遺物出土状況(南から)
- 4 P-4 遺物出土状況(南から)
- 5 P-4 完掘(南から)
- 6 P-4 柱穴種ビット検出(南から)
- 7 P-5・6 土層断面(南西から)
- 8 P-5 土層断面(南西から)

図版17 土坑(3)

- 1 P-6 土層断面(南西から)
- 2 P-5 VI群b類土器出土状況(南西から)
- 3 P-5 完掘(南西から)
- 4 P-7 土層断面(西から)
- 5 P-7 完掘(西から)
- 6 P-8 土層断面(西から)
- 7 P-8 遺物出土状況(西から)
- 8 P-8 完掘(西から)

図版18 土坑(4)

- 1 P-9 土層断面(西から)
- 2 P-9 完掘(西から)
- 3 P-10 土層断面(西から)
- 4 P-10 完掘(西から)
- 5 P-11 遺物出土状況(南西から)
- 6 P-11 完掘(南西から)
- 7 P-12 土層断面(西から)
- 8 P-12 遺物出土状況1(西から)

図版19 土坑(5)

- 1 P-12 遺物出土状況2(西から)
- 2 P-12 遺物出土状況3(東から)
- 3 P-12 完掘(東から)
- 4 P-13 土層断面(西から)
- 5 P-13 完掘(西から)
- 6 P-14 土層断面(西から)
- 7 P-14 完掘(東から)
- 8 P-15 土層断面(北西から)

図版20 土坑(6)

- 1 P-15 完掘(北西から)
- 2 P-16 土層断面(北東から)
- 3 P-16 完掘(北東から)
- 4 P-17 土層断面(北西から)
- 5 P-17 完掘(北東から)
- 6 P-18 土層断面(西から)
- 7 P-18 完掘(東から)
- 8 P-19 土層断面(北から)

図版21 土坑(7)

- 1 P-19 完掘(西から)
- 2 P-20 検出(南東から)
- 3 P-20 土層断面(北から)
- 4 P-20 完掘(南東から)
- 5 P-21 土層断面(西から)
- 6 P-21 遺物出土状況(西から)
- 7 P-22 土層断面(西から)
- 8 P-22 完掘(西から)

図版22 土坑(8)

- 1 P-23 土層断面(西から)
- 2 P-23 完掘(南西から)
- 3 P-24 検出(北西から)
- 4 P-25 検出(北西から)
- 5 P-25 遺物出土状況(北西から)
- 6 P-25 完掘(北西から)
- 7 P-26 完掘(北西から)
- 8 P-27 土層断面(南西から)

図版23 土坑(9)・集石(1)

- 1 P-27 完掘(北西から)
- 2 P-28 完掘(南東から)
- 3 P-29 検出(北から)
- 4 S-1 検出(北東から)
- 5 S-2 検出(西から)
- 6 S-3 検出(北から)
- 7 S-4 検出(西から)
- 8 S-5 検出(南から)

図版24 集石(2)・焼土(1)

- 1 S-6 検出(東から)
- 2 F-1 検出(西から)
- 3 F-1 土層断面(西から)
- 4 F-2・3 検出(東から)
- 5 F-2 土層断面(南から)
- 6 F-3 土層断面(南西から)
- 7 F-4 土層断面(南西から)
- 8 F-5 土層断面(南から)

図版25 焼土(2)

- 1 F-6 検出(北から)
- 2 F-6 土層断面(東から)
- 3 F-7 検出(東から)
- 4 F-7 土層断面(東から)
- 5 F-8 検出(東から)
- 6 F-9 検出(南東から)
- 7 F-10 検出(北西から)
- 8 F-11 土層断面(南西から)

図版26 魚骨層(東斜面)の調査(1)

- 1 東斜面魚骨層検出状況(北東から)
- 2 東斜面土層断面(北から)

図版27 魚骨層(東斜面)の調査(2)

- 1 東斜面魚骨層調査状況(北東から)
- 2 魚形骨製品(魚骨層1、東から)
- 3 魚骨層2検出状況(北東から)
- 4 オオハクチョウ頭骨(魚骨層4、東から)
- 5 イヌ下顎骨(魚骨層4、東から)
- 6 鹿角ほか(魚骨層4、南東から)
- 7 シカ肩甲骨ほか(魚骨層5、東から)
- 8 鹿角(魚骨層5、北東から)

図版28 魚骨層(西斜面)の調査(1)

- 1 西斜面魚骨層検出状況(北西から)
- 2 西斜面土層断面(北東から)

図版29 魚骨層(西斜面)の調査(2)

- 1 西斜面トレンチ2土層断面(西から)

- 2 西斜面トレンチ2下部土層断面(西から)
 3 西斜面トレンチ3土層断面(西から)
 4 西斜面下部土層断面(北西から)
 5 西斜面下部調査状況(西から)
- 図版30 魚骨層(西斜面)の調査③
- 1 西斜面下部土器出土状況(北西から)
 2 西斜面下部マグロ属椎骨(北西から)
 3 海胆肋骨ほか(魚骨層6、北西から)
 4 イヌ頭骨・土器ほか(魚骨層9、北西から)
 5 鹿角ほか(魚骨層10・11、北西から)
- 図版31 魚骨層(西斜面)の調査④
- 1 尖頭状骨製品(魚骨層10、北西から)
 2 ヒラメ歯骨(魚骨層11、北西から)
 3 イノシシ下顎骨(魚骨層15、北西から)
 4 石製品(魚骨層15、北西から)
 5 F-12(魚骨層15、北西から)
 6 イノシシ上顎骨(IV層上部、北西から)
 7 Ta-c検出状況(IV層中、西から)
 8 西斜面完掘(北西から)
- 図版32 遺構出土土器①
- 1 掲載番号1
 2 掲載番号21
 3 掲載番号2
 4 掲載番号22
 5 掲載番号38
 6 掲載番号39
- 図版33 遺構出土土器②
- 1 掲載番号40
 2 掲載番号41
 3 掲載番号54
 4 掲載番号55
 5 掲載番号3~8
- 図版34 遺構出土土器③
- 1 掲載番号9~20・23~29
- 図版35 遺構出土土器④
- 1 掲載番号30~37・42~53・56~75
- 図版36 魚骨層出土土器①
- 1 掲載番号2
 2 掲載番号3
 3 掲載番号4
 4 掲載番号5
 5 掲載番号6
 6 掲載番号6 内面
- 図版37 魚骨層出土土器②
- 1 掲載番号29
 2 掲載番号30
 3 掲載番号31
 4 掲載番号32
 5 掲載番号33
 6 掲載番号34
- 図版38 魚骨層出土土器③
- 1 掲載番号35
 2 掲載番号39
- 3 掲載番号56
 4 掲載番号58
 5 掲載番号57
 6 掲載番号57 内面
- 図版39 魚骨層出土土器④
- 1 掲載番号59
 2 掲載番号59 内面
 3 掲載番号64
 4 掲載番号77
 5 掲載番号78
 6 掲載番号79
- 図版40 魚骨層出土土器⑤
- 1 掲載番号80
 2 掲載番号80 内面
 3 掲載番号81
 4 掲載番号82
 5 掲載番号111
 6 掲載番号112
- 図版41 魚骨層出土土器⑥
- 1 掲載番号113
 2 掲載番号113 内面
 3 掲載番号114
 4 掲載番号115
 5 掲載番号145
 6 掲載番号148
- 図版42 魚骨層出土土器⑦
- 1 掲載番号150
 2 掲載番号167
 3 掲載番号176
 4 掲載番号187
 5 掲載番号188
 6 掲載番号189
- 図版43 魚骨層出土土器⑧
- 1 掲載番号190
 2 掲載番号191
 3 掲載番号192
 4 掲載番号193
 5 掲載番号194
 6 掲載番号195
- 図版44 魚骨層出土土器⑨
- 1 掲載番号207
 2 掲載番号208
 3 掲載番号209
 4 掲載番号217
 5 掲載番号218
 6 掲載番号219
- 図版45 魚骨層出土土器⑩
- 1 掲載番号220
 2 掲載番号221
 3 掲載番号222
 4 掲載番号223
 5 掲載番号224
 6 掲載番号225

- 图版46 鱼骨桶出土土器01
- 1 掲載番号262
 - 2 掲載番号263
 - 3 掲載番号264
 - 4 掲載番号265
 - 5 掲載番号266
 - 6 掲載番号295
- 图版47 鱼骨桶出土土器02
- 1 掲載番号296
 - 2 掲載番号297
 - 3 掲載番号298
 - 4 掲載番号299
 - 5 掲載番号300
 - 6 掲載番号301
 - 7 掲載番号303
 - 8 掲載番号331
- 图版48 鱼骨桶出土土器03
- 1 掲載番号344
 - 2 掲載番号345
 - 3 掲載番号346
 - 4 掲載番号347
 - 5 掲載番号348
 - 6 掲載番号349
 - 7 掲載番号350
 - 8 掲載番号353
- 图版49 鱼骨桶出土土器04
- 1 掲載番号355
 - 2 掲載番号360
 - 3 掲載番号361
 - 4 掲載番号362
 - 5 掲載番号363
 - 6 掲載番号364
 - 7 掲載番号365
 - 8 掲載番号366
- 图版50 鱼骨桶出土土器05
- 1 掲載番号1・7~28
- 图版51 鱼骨桶出土土器06
- 1 掲載番号36~38・40~52
- 图版52 鱼骨桶出土土器07
- 1 掲載番号53~55・60~63・65・66
- 图版53 鱼骨桶出土土器08
- 1 掲載番号67~76・83・84
- 图版54 鱼骨桶出土土器09
- 1 掲載番号85~93
- 图版55 鱼骨桶出土土器00
- 1 掲載番号94~110・116~118
- 图版56 鱼骨桶出土土器20
- 1 掲載番号119~134
- 图版57 鱼骨桶出土土器02
- 1 掲載番号135~144・146・147・149・151~159
- 图版58 鱼骨桶出土土器03
- 1 掲載番号160~166・168~175・177~186・196~205
- 图版59 鱼骨桶出土土器04
- 1 掲載番号206・210~216・226~251
- 图版60 鱼骨桶出土土器05
- 1 掲載番号252~261・267~287
- 图版61 鱼骨桶出土土器09
- 1 掲載番号288~294・302・304~330
- 图版62 鱼骨桶出土土器07
- 1 掲載番号332~343・351・352・354・356~359・367~380
- 图版63 包含桶出土土器(1)
- 1 掲載番号4
 - 2 掲載番号5
 - 3 掲載番号11
 - 4 掲載番号12
 - 5 掲載番号103
 - 6 掲載番号104
- 图版64 包含桶出土土器(2)
- 1 掲載番号121
 - 2 掲載番号167
 - 3 掲載番号173
 - 4 掲載番号145
 - 5 掲載番号172
 - 6 掲載番号178
 - 7 掲載番号181
- 图版65 包含桶出土土器(3)
- 1 掲載番号210
 - 2 掲載番号211
 - 3 掲載番号212
 - 4 掲載番号213
 - 5 掲載番号214
 - 6 掲載番号215
- 图版66 包含桶出土土器(4)
- 1 掲載番号216
 - 2 掲載番号217
 - 3 掲載番号218(1)
 - 4 掲載番号218(2)
 - 5 掲載番号219
 - 6 掲載番号268
- 图版67 包含桶出土土器(5)
- 1 掲載番号335
 - 2 掲載番号336
 - 3 掲載番号352
 - 4 掲載番号352 細部
 - 5 掲載番号352 内面
- 图版68 包含桶出土土器(6)
- 1 掲載番号1~3・6~10・13~28
- 图版69 包含桶出土土器(7)
- 1 掲載番号29~53
- 图版70 包含桶出土土器(8)
- 1 掲載番号54~77
- 图版71 包含桶出土土器(9)
- 1 掲載番号78~102・105~120・122~136
- 图版72 包含桶出土土器00
- 1 掲載番号127~144・146~166・168
- 图版73 包含桶出土土器01

- 1 掲載番号169~171・174~177・179・180・182~209・220~236
- 図版74 包含層出土石器②
- 1 掲載番号237~267
- 図版75 包含層出土石器③
- 1 掲載番号269~309
- 図版76 包含層出土石器④
- 1 掲載番号310~334・337~351・353・354
- 図版77 遺構出土石器(1)
- 1 掲載番号1~30
- 図版78 遺構出土石器(2)・骨角製品
- 1 掲載番号31~51(石器)・掲載番号1・2(骨角製品)
- 図版79 魚骨層出土石器(1)
- 1 掲載番号1~60
- 図版80 魚骨層出土石器(2)
- 1 掲載番号61~94
- 図版81 魚骨層出土石器(3)
- 1 掲載番号95~106
- 図版82 魚骨層出土石器(4)
- 1 掲載番号107~133
- 図版83 包含層出土石器(1)
- 1 掲載番号1~49
- 図版84 包含層出土石器(2)
- 1 掲載番号50~78
- 図版85 包含層出土石器(3)
- 1 掲載番号79~118
- 図版86 包含層出土石器(4)
- 1 掲載番号119~131
- 図版87 包含層出土石器(5)
- 1 掲載番号132~144
- 図版88 魚骨層出土骨角貝製品(1)
- 1 掲載番号1~41
- 図版89 魚骨層出土骨角貝製品(2)
- 1 掲載番号42~69
- 図版90 魚骨層出土骨角貝製品(3)
- 1 掲載番号70~88
- 図版91 魚骨層出土骨角貝製品(4)
- 1 掲載番号89~118
- 図版92 魚骨層出土骨角貝製品(5)
- 1 掲載番号119~149
- 図版93 魚骨層出土動物遺存体(1)
- 1 芥足綱
- 2 ツノザメ目・サメ類
- 3 チョウザメ科
- 4 マツカワ・カレイ科(1)
- 5 カレイ科(2)
- 6 ヒラメ(1)
- 7 ヒラメ(2)
- 8 スズキ(1)
- 9 スズキ(2)
- 図版94 魚骨層出土動物遺存体(2)
- 1 ウグイ属
- 2 サケ・サケ科
- 3 イトウ
- 4 カジカ科・フサカサゴ科・カサゴ目・アイナメ科・ホッケ・コイ科
- 5 イトヨ
- 6 キュウリウオ科
- 7 ブリ・ボラ科・マダラ
- 8 マグロ
- 図版95 魚骨層出土動物遺存体(3)
- 1 オオハクチョウ(1)・コハクチョウ(1)
- 2 ウシタカ科・アホドリ属・オオハクチョウ(2)・ミズナギドリ科・ガン類・コハクチョウ(2)
- 3 オオハクチョウ(3)・コハクチョウ頭骨(標本)
- 4 アビ科・シギ科・スズメ科・タカ科?・鳥綱目不明・カモメ科
- 5 カモ科
- 図版96 魚骨層出土動物遺存体(4)
- 1 オオハクチョウ(4)・カモ類・アホドリ
- 2 イヌ(1)
- 3 イヌ(2)
- 4 イヌ(3)
- 5 イヌ(4)
- 図版97 魚骨層出土動物遺存体(5)
- 1 イヌ(5)
- 2 イヌ(6)
- 3 イヌ(7)
- 4 イヌ(8)
- 5 イヌ(9)
- 6 イヌ⑩
- 図版98 魚骨層出土動物遺存体(6)
- 1 イヌ⑪
- 2 ヒグマ
- 3 イノシシ
- 図版99 魚骨層出土動物遺存体(7)
- 1 エゾシカ(1)
- 2 エゾシカ(2)
- 3 エゾシカ(3)
- 図版100 魚骨層出土動物遺存体(8)
- 1 ラッコ・カワウソ?
- 2 海獣類(1)・クジラ目(1)
- 3 カマイルカ
- 図版101 魚骨層出土動物遺存体(9)
- 1 ハクジラ亜目(1)
- 2 ハクジラ亜目(2)
- 3 オットセイ・アシカ科・海獣類(2)
- 4 クジラ目(2)
- 図版102 魚骨層出土巖石ほか
- 1 巖石
- 2 鹿角
- 3 ナイフ着柄痕?
- 4 巻貝刺突文
- 5 土器土痕
- 6 土器口縁部切痕
- 7 焼成粘土塊切痕

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：町道床丹5号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

委託者：釧路町

受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：天寧1遺跡（北海道教育委員会登録番号：M-02-28）

所在地：釧路郡釧路町中央7-15

調査面積：700㎡

調査期間：平成20年6月2日～平成23年3月31日（発掘期間：平成20年6月23日～9月18日）

2 調査体制

平成20年度

理事長 森重 橋一（平成20年5月31日まで）

坂本 均（平成20年6月1日から）

専務理事 佐藤 俊和

常務理事 畑 宏明

総務部長 松本 昭一

第2調査部長 西田 茂

第4調査課長 熊谷 仁志

主 査 笠原 興（発掘担当者）

主 任 鈴木 宏行（発掘担当者）

平成21年度

理事長 坂本 均

専務理事 松本 昭一

常務理事 畑 宏明

総務部長 中田 仁

第1調査部長 越田賢一郎

第4調査課長 熊谷 仁志

主 査 鈴木 宏行

平成22年度

理事長 坂本 均

専務理事 松本 昭一

常務理事 畑 宏明

総務部長 中田 仁

第1調査部長 千葉 英一

第4調査課長 熊谷 仁志

主 査 鈴木 宏行

3 調査に至る経過

町道床丹5号線は釧路町中央から陸上自衛隊釧路駐屯地に向かう一般町道である。釧路町は、町道床丹5号線の改良工事を計画し、平成18年6月、北海道教育委員会（以下、「道教委」と記す。）へ埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。この区間には、天寧1遺跡が存在することから、道教委は釧路町教育委員会に試掘調査を依頼し、同教育委員会は同年9月に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、工事区域に縄文時代の遺構・遺物が確認され、道教委はその調査結果に基づき、丘陵部から斜面部にかけての700㎡の発掘調査を要する旨、釧路町に対して回答した。

道教委の調整により、発掘調査は当センターが受託し、平成20年6月23日から実施することとなった。調査を開始すると試掘調査で未確認であった魚骨層が斜面部の広い範囲に分布することが確認されたため、その土壌水洗作業を含めて期間を4週間延長し、現地調査を9月18日に終了した。

4 調査概要

(1) 調査区の設定

調査区はアルファベットの大文字と数字の組み合わせで表示し、規格は4×4mとした。調査区の設定基準は工事測定のH16R8とH16R9を基準点とし、その2点を通る直線を東西方向の基線とし、南北方向は基準点であるH16R8を通り、東西方向の基線に直交する直線とした(図I-1・2)。

ラインの設定は、南北方向をアルファベットの大文字とし、基線をGに設定後、北側はF、E、D…、南側は逆にH、Iとした。東西方向はアラビア数字で、調査区域全体をカバーできるようにH16R8を通る基線を10とし、西側は9、8、7…、東側は逆に11、12、13…とした。調査区域はアルファベットラインではB～I、数字ラインでは0～18の範囲である。調査区の呼称は4m四方区画の北西隅(図では左上)のライン交点で示した。例えば、Eラインと12ラインの交点の南東側が「E12区」ということになる。また、調査の必要に応じて4m方眼をさらに4分割し、2m方眼の区画で遺物の取り上げをおこなったところもある。その際はクリッドの北西角から反時計回りにa、b、c、dと各小グリッドの名を付した。

基準点であるH16R8とH16R9の世界測地系による平面直角座標は第XIII系で以下のとおり。

H16R8 (G10)	X = -109917.115	Y = 14978.192
H16R9	X = -109910.217	Y = 14999.303

なお、グリッド東西(数字)ラインに対する真北方向はN-71°54'19"-Wである。

(2) 土層

観察方法

土層については、以下の項目について観察・記録した。色調については『新版標準土色帖』を用い、土性・堅密度・粘性の区分は『土壌調査ハンドブック』(ペドロジスト懇話会1984)の基準を用いた。

- ・色調：色相・明度・彩度を記号および数値で表した。
- ・土性：砂土(S)・砂壤土(SL)・壤土(L)・シルト質壤土(SiL)・埴壤土(CL)・軽埴土(LiC)
 - ・重埴土(HC)に区分し、必要に応じて記載した。
- ・粘性：なし・弱・中・強に区分した。
- ・堅密度：すこぶるしょう・しょう・軟・堅・すこぶる堅・固結に区分した。

その他、主に混入物については種類・大きさなどを記載した。

基本土層(図I-3)

- I層：黒褐色(10YR2/2)埴壤土 粘性中 堅密度堅 白色の火山灰(駒ヶ岳c₃テフラ(Ko-c₃)
か樽前aテフラ(Ta-a)か樽前bテフラ(Ta-b)を含む 木根・笹根富む 表土・耕作土
- II層：黒色(10YR2/1)埴壤土 粘性中 堅密度堅 II層5ライン付近では暗褐色10YR4/3を呈する
- III層：黒褐色(7.5YR3/2)埴壤土 粘性強 堅密度軟 縄文晩期～統縄文期の遺物包含層 6ライン付近では炭化物含む
- IV層：黒色(10YR1.7/1)軽埴土 粘性強 堅密度堅 斜面部のみ堆積 ほぼ中間に樽前cテフラ(Ta-c)を挟む

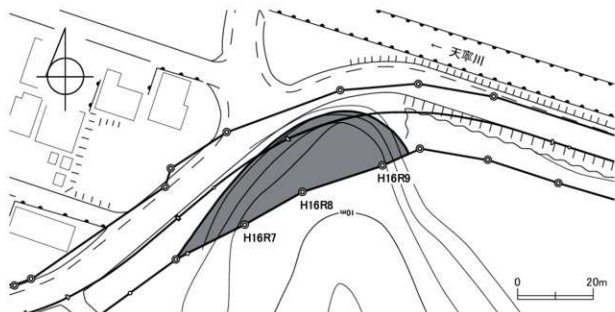


図 I-1 調査範囲図

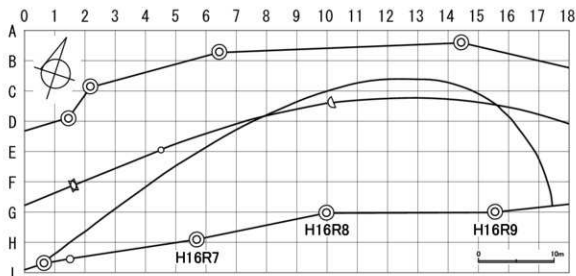


図 I-2 調査区設定図

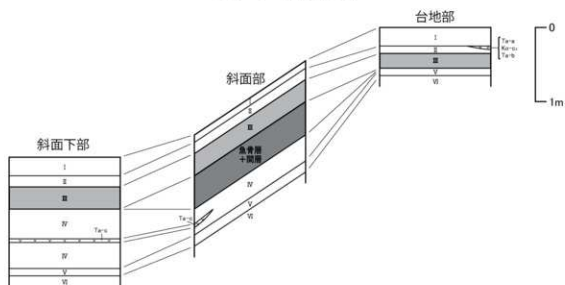
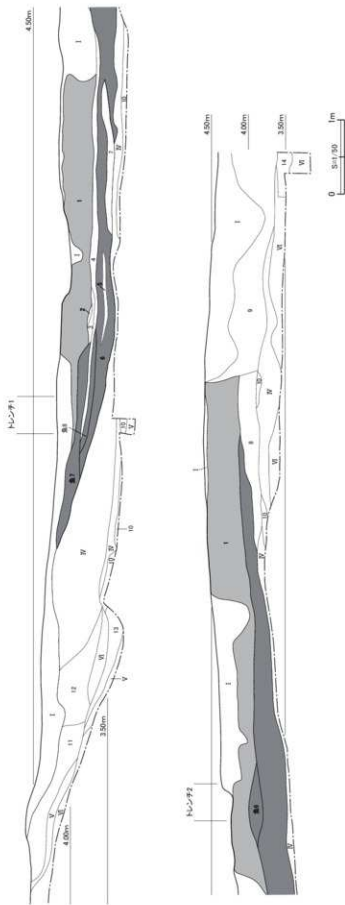


図 I-3 基本土層図

西斜面下部



西斜面下部

1. 表層部(IV)層上、粘り強 塑性状態 目 1mm 程度の黄褐色細少量含む 軟弱泥の
 2. 表層部(V)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度
 3. 表層部(VI)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度
 4. 表層部(VII)層上、粘り強 塑性状態
 5. 表層部(VIII)層上、粘り強 塑性状態
 6. 表層部(IX)層上、粘り強 塑性状態
 7. 表層部(X)層上、粘り強 塑性状態
 8. 表層部(XI)層上、粘り強 塑性状態
 9. 表層部(XII)層上、粘り強 塑性状態
 10. 表層部(XIII)層上、粘り強 塑性状態
 11. 表層部(XIV)層上、粘り強 塑性状態
 12. 表層部(XV)層上、粘り強 塑性状態
 13. 表層部(XVI)層上、粘り強 塑性状態
 14. 表層部(XVII)層上、粘り強 塑性状態

7. 表層部(XVIII)層上、粘り強 塑性状態 粘性土・粘土上、20m 程度の黄褐色土ブロック
 中に散在する 200 程度の 10mm 程度の黄褐色 粘り強 中等程度の塊状土を含む

8. 表層部(XIX)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

9. 表層部(XX)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

10. 表層部(XXI)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

11. 表層部(XXII)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

12. 表層部(XXIII)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

13. 表層部(XXIV)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

14. 表層部(XXV)層上、粘り強 塑性状態 粘り強 中等程度

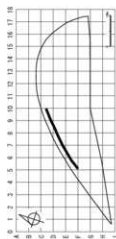


図 1-7 土層断面図(4)

V層：黒褐色（7.5YR 3/2）軽粘土 粘性弱 堅密度軟 漸移層 台地部ではⅢ>Ⅵ 斜面部ではⅣ=Ⅵ
 VI層：黄褐色（10YR 5/8）壤土 粘性中 堅密度堅

土層（図1-3～7）

調査区は釧路湿原に突出した台地にあたり（図Ⅲ-1）、地形的には台地部の平坦面と釧路湿原に続く斜面部に分けられ、斜面部は末端部で平坦になる。台地部はI層（表土）の下にII層があり、I層下部に樽前aテフラ、樽前bテフラ、駒ヶ岳c₂テフラがある。Ⅲ層は台地部・斜面部にあるが、斜面部は台地部に比べ遺物が多く、やや混じった土で盛土に近い。斜面部にはⅢ層の下位に魚骨を多量に含む魚骨層があり、魚骨のほかにはシカ・イヌなどの陸棲哺乳類、イルカなどの海棲哺乳類、オオハクチョウなどの鳥類などの動物遺存体のほか、灰・赤色顔料・炭化物・土器・石器などの生活の中で廃棄されたものが含まれる。斜面部の魚骨層の下位には黒色の腐植土層であるⅣ層があり、斜面下部にはⅣ層中に樽前cテフラ（Ta-c）が狭在する。Ta-cは斜面下部の平坦面では安定的に堆積し、斜面の裾野で途切れ途切れになり、斜面部中位以上には肉眼的に確認できない。Ⅳ層も同様に斜面下位では安定的に堆積しているが上位に行くに従い、厚みが減少し、台地部では確認できない。台地部のⅢ層、斜面部のⅣ層下位には漸移層であるV層が、さらに下位には黄褐色土のⅥ層がある。

（3）調査の方法

調査区域はマツの植林で、林床は熊笹に覆われていた。調査区は台地部の平坦面とそこから釧路湿原側に広がる斜面部に分けられ、調査はそれらを分けて進めた。

台地部はまず、重機によってII層まで除去し、杭の打設を行った。その後、包含層であるⅢ層の調査を行い、遺構の検出に努めた。大型の遺構については十字ベルトを残し、それ以外の遺構については半截、断面図作成後、完掘し、図面を作成した。遺物は床面や坑底面の主要なものについては図面に記載し、覆土中のものについては覆土単位で取上げ、包含層の遺物はグリッド単位で層位ごとに取り上げた。

斜面部も台地部同様II層までを重機によって除去し、当初の予定では斜面部は台地部からの流れ込みによる遺物が包含されているとの認識で、重機によってⅢ層以下を掘り上げた土壌から人力によって遺物を回収する予定であった。しかし、15ラインより東側の斜面部（以後、「東斜面」と呼称）において、スコップによって試掘しているとⅢ層下位から多くの骨片が出土し、動物遺存体を多量に含む層が確認されたため、重機による掘り上げをⅢ層途中までにとどめ、手掘り調査に切り替えた。12ラインより西側の斜面部（以後、「西斜面」と呼称）においても東斜面部の結果から判断して、重機の作業をⅢ層中まで留めた。作業員による本格的な調査は6月25日に開始したが、道路改修に関連する道路沿線の盛土工事を行う関係で西斜面の裾部の調査を6月27日までを終了してほしいとの要望があり、10ラインの西側は調査範囲の縁から2mの範囲を先行して調査を行った。東斜面で予想されたとおり魚骨を多量に含む層（以後、「魚骨層」と呼称）が検出され、分層せずにグリッド単位で一括して土壌を採取した。また、魚骨層には大量に土器が混じり、その他ベンガラ・灰なども確認された。その後、東斜面ではトレンチを1か所、西斜面ではトレンチを3か所設定し、魚骨層の厚さと魚骨層の広がりを確認した。

東斜面についてはⅢ層から人力で調査を行い、西斜面については魚骨層の範囲が広いことからトレンチの断面を確認しながら重機によってⅢ層を掘り下げ、残存したⅢ層以下を人力によって調査した。東西斜面部のⅢ層についてはグリッド一括で取上げ、魚骨層を検出すると肉眼的特徴や黒色土の間層などを基準に分層した層ごとにグリッド単位で土壌の悉皆採集を行い、大型の骨や土器については図面に記載し、取り上げた。骨のうち、海獣骨などの脆弱な遺物については木工用ボンドを薄く溶いて

遺物の表面に塗布し、強化した後に取り上げた。また、部分的に破砕したイヌの頭部やイルカの頭部などは土ごと取り上げた。

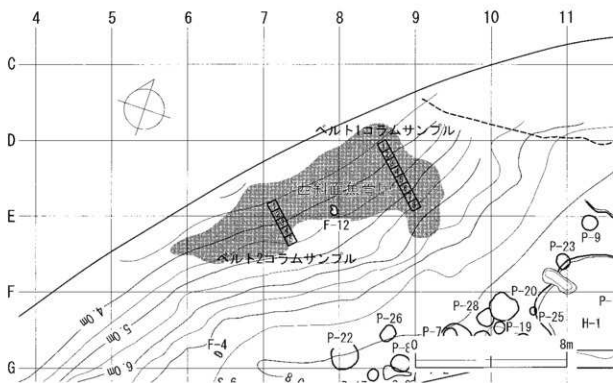
西斜面では遺物の層位的な変化を検討するために、トレンチ1・2に付随するベルト1・2は魚骨層の分析単位として50cm四方の柱状サンプルをそれぞれベルト1コラムサンプル1～8、ベルト2コラムサンプル1～5の14か所を設定し(図I-8)、層毎に採取した。魚骨層は、東斜面では魚骨層1～5の5層、西斜面では魚骨層6～15の10層に分離した。

採集された土壌は土嚢袋で1469袋、体積18.8m³である。調査開始時から広範囲に分布し、相当量が回収されることが予想されたため、土壌の水洗は調査と並行して調査2週目から開始した。採集した土壌は5mmと1mmメッシュの篩を組合せて水洗選別した。土壌の一部(ベルト1コラムサンプル3・6、ベルト2コラムサンプル1、魚骨層1～15の各層の一部)については有機質遺物の回収を目的としてフローテーション法による選別作業を行った。浮遊物は0.425mmと2mmメッシュで回収し、沈殿物は他の水洗選別資料と同じ基準になるように5mmと1mmメッシュを組合せて回収した。水洗選別とフローテーションの沈殿物については乾燥した後、土器・石器は5mmの篩に残ったもの(以下、「5mm選別資料」と呼称)から回収し、動物遺存体は骨角製品や特徴的な骨を抜き出して収納した。現地では以上の作業を行い、その後の作業は江別の整理作業所で行った。

台地部の焼土・坑底の赤色顔料は土壌を採集し、焼土は有機質遺物の回収を目的としてフローテーション法(浮遊物を0.425mmと2mmメッシュで、沈殿物を1mmメッシュの篩で選別)による選別作業を行い、坑底の赤色顔料は今後の分析資料として50ccのサンプルを残し、微細遺物の検出を目的として1mmメッシュで水洗選別を行った。

出土遺物は、現場段階で遺跡名・グリッド(遺構名)・層位・日付をマジックでビニール袋に明記して取り上げた。取り上げに際しては土器片、剥片石器類、礫石器類、骨類に袋を分けた。

調査状況や遺構等の確認状況・平面・断面、遺物出土状況については図化作業と写真撮影によって記録した。使用したフィルムは6×7判リバーサル・モノクロ、35mm判リバーサルである。



図I-8 西斜面魚骨層コラムサンプル位置

(4) 整理の方法

a 土器・石器

取り上げた遺物は①水洗・乾燥、②注記、③分類、④遺物カード作成、⑤遺物台帳作成の順で一次整理を行った。現地では魚骨屑の検出・土壌水洗が追加されたことにより、遺物の一次整理は水洗・乾燥と一部の分類作業にとどまった。それ以降の作業は発掘終了後に江別の整理作業所で行った。

土器は縄文時代晩期後半～統縄文時代前半期のものが主体であり、特に台地部では統縄文時代前半期が、斜面部では縄文時代晩期後半期が主体であることは現場段階で把握されていた。その中の細分については検討を要していたため明確に統縄文時代と判定できるもの以外は縄文時代晩期後半期に判定していた。そのため、分類については接合作業を通して修正していった。

石器は剥片以外のものを抜き出し、剥片石器は1点につき1つの袋に入れて分離した。礫石器・礫については取り上げ単位を基本として器種ごとにまとめて各々袋に分離した。それらの袋ごとに遺物整理カードを作成し、調査区・遺構名・遺物番号・層位・分類名(器種名)・石質・点数を記入した。遺物番号は点取り遺物がある場合にはその番号を優先的に1番から付け、その後剥片石器に番号を付けた。これらのカード情報を基に台帳作成を行い、データについてはエクセルで入力を行った。

注記については、土器は約1cm以上のものに、石器については遺構出土資料についてポスターカラーで行い、クリアラッカーで上塗りした。注記の順番は遺跡名、調査区・遺構、層位、遺物番号の順番でそれぞれの間にはビリオドをつけている。具体的な注記の要領は以下のとおりである。

遺跡名：平成17・18年度調査の天寧1遺跡では「テ1」としているため、それとは区別して漢字の頭文字と数字を用い、「天1」とした。

調査区・遺構名等：包含層出土物の場合はアルファベットと数字を連続させ、E12区の場合「E12」と記載し、遺構出土物の場合はアルファベットと数字の間にハイフン(-)を入れて「H-1」と記載した。魚骨屑出土資料は魚骨屑1の場合「ギ1」、ベルト1コラムサンプル2の場合「ベ1コ2」とした。

遺物番号：魚骨屑の点取り遺物については丸数字で、それ以外はアラビア数字で表現した。また、魚骨屑出土物は袋番号を注記した。

層位：基本層位にあるものはローマ数字で表現し、覆土や攪乱や床面の場合はカタカナや漢字で「ファ」「カク」「床」と表現した。

以上の注記法に従い、E12区Ⅲ層出土の遺物は「M12. Ⅲ」、竅穴住居跡1床面出土の遺物番号3の遺物は「H-1. 床. 3」となる。

以上の一次整理作業後に土器の接合、石器の接合(主に折れ面接合)を行った。土器の接合は分類ごとに進め、接合作業の終了後、まとまった資料には接合個体番号を与え、接合カードと展開写真を撮影してファイルに綴じて管理した。これらの資料は全て接着・復元の前に粘土紐の積み上げ痕である接合痕を観察し、展開写真にその位置、断面形状を記入し、実測時に断面図に追加した。その後、接合個体番号をつけた資料から掲載遺物を選択し、実測、拓本、トレース、写真撮影などの図版作成に関する作業を行った。土器の掲載基準は、実測図は復元できた個体、拓影図は大きく接合したものを優先的に、文様構成の特徴的なものとした。石器は、予想以上にツールが出土したため分類・細分類単位で特徴的なものを、骨角貝製品については定型的なものを中心に製作途中の骨片も掲載した。実測図や拓影図を示した土器・石器などは写真図版にも載せ、掲載遺物一覧表に表示した。

b 動物遺存体

動物遺存体は台地部、斜面部で出土している。台地部では包含層や遺構内部などから出土しているがその量は少なく、被熱して白色化したものがほとんどである。これらは、現場で手取り（目視による採集）し、水洗後選別作業を行った。斜面部では魚骨層上位の包含層から生骨などが少量出土し、それらは台地部同様、手取りし、水洗後選別作業を行った。動物遺存体が最も多量に出土したのは魚骨層である。魚骨層は前述のとおり、土壌を悉皆採集した。現場では魚骨層の検出後、魚骨層位・グリッド単位で土壌を土嚢袋に入れて回収した。一袋の量は15ℓ前後が多く、全部で1469袋となった。これらの袋は植物質遺物回収を目的とするフローテーション用（98袋）と通常水洗用（1371袋）に分け、それぞれ土嚢袋番号を1番から付けた。フローテーション番号1は略称「フロ1」、通常水洗番号1は略称「水1」として整理作業の管理番号として最後まで利用した。一袋の土嚢袋には土嚢袋番号、魚骨層層位、グリッド、日付、体積、重量の情報がつけられている。

水洗の手順は、①土嚢番号を付ける、②各土壌の重量（0.5kg単位）と体積（0.5ℓ単位）を測定し、台帳に記入、③水洗台で水洗する、④篩目ごとにコンテナに広げて乾燥させる、とした（図IV-98）。体積は15ℓの容量のパケツを利用し、0.5ℓ単位で記録し、重量はパケツのまま体重計で測り、パケツの重量を除いて0.5kg単位で記録した。水洗台には5mmメッシュと1mmメッシュの篩を上下に重ねてその上に計測した土壌をあけて、上からシャワー状に水を注ぎ、ブラシを補助的に利用して水洗の効率化を図った。フローテーションは③でフローテーション装置を使い、浮遊物を回収すると共に、1mmの篩目で回収された沈殿物を5mmと1mmメッシュの篩を重ねた水洗台に移して通常水洗選別と同一基準になるように篩別した。

5mm篩と1mm篩に残った資料は新聞紙を敷いた網目のコンテナにそれぞれ広げて、乾燥させた。好天日は屋外で、雨天の日や夜は事務所内にブルーシートで区画した簡易的な乾燥室を作り、除湿機を稼働させて乾燥に努めた。乾燥した資料からは約1cm以上の土器・石器を抜き出し、動物遺存体も特徴的なものは一部抜き出した。その後、ビニール袋に5mmと1mm資料をそれぞれ入れて、さらに土嚢袋単位で大きな袋に入れて江別の整理作業所に運んだ。

動物遺存体の選別は全体の出土傾向の把握と層位ごとの出土傾向の把握を目指した。選別作業の手順としてはコラムサンプルと全層位から抽出したサンプルの5mm資料を詳細な選別方法（A選別）で全ての内容物の検討を行い、その結果を踏まえて選別する魚骨の種類を厳選し（B選別）、さらに鳥綱・哺乳綱についても選択した（C選別）。この段階で魚骨層1～15については終了し、それ以外のトレンチ資料や西斜面下部魚骨層資料などはC選別からさらに魚骨を選択し（D選別）、全ての資料を選別した。1mm資料はA選別した同一の袋番号資料からコラムサンプルを優先し、さらに魚骨層1～15まで網羅するようにA選別した袋の半分程度を選んだ。各袋の中で50ccを抽出し、選別対象とした。結果的には5mm資料に比べ1mm資料にはキュウリウオ科の椎骨が多量に含まれ、その魚種組成の量的検討には1mmが必要であったことが分かった。詳細な選別基準は表I-1のとおりである。

動物遺存体の同定作業は、富岡直人准教授（岡山理科大学）の作成した分類基準に基づき作業員が行い、選別方式ごとに土嚢袋単位で抽出したもののや骨の種類不明なものを中心に富岡准教授に選別結果の確認・点検をしていただきながら進めた。作業は土嚢袋番号単位で行い、選別した動物遺存体には1から整理番号を付けてビニール袋に入れ、袋には土嚢袋番号と整理番号と内容を記入した。

c 遺物の収納

整理後の遺物は、報告書掲載資料と非掲載資料に分け、掲載資料は土器・石器・骨角貝製品・動物遺存体ごとに遺構・魚骨層・包含層出土資料に分け、掲載番号順にコンテナに収納した。復元土器に

表I-1 動物遺存体の選別基準

選別方法	A選別 (5mm)	A選別 (1mm)
対象資料	べ1コ3、べ1コ6、べ2コ1、フロ (魚骨層3～15の抽出分)、水洗 (魚骨層1・2・11・15の一部)	べ1コ3、べ1コ6、べ2コ1、フロ (魚骨層3～5・7・13の抽出分)、水洗 (魚骨層1・2・11の抽出分) *さらに袋から50ccを抽出
対象資料比率	袋数90袋 (全体比6.1%)	袋数40袋 (全体比2.7%) *体積比では0.27%
魚上綱	全魚種の同定部位	全魚種の同定部位
鳥綱	全同定部位 全破片被熱色分け	全同定部位 全破片被熱色分け
哺乳綱	全同定部位 全破片被熱色分け	全同定部位 全破片被熱色分け
骨角貝製品	全て抽出	全て抽出
目的	コラムサンプル資料における動物遺存体出土傾向 (種組成・大きさ組成・部位組成) の層的变化を詳細に検討する 各魚骨層における動物遺存体出土傾向 (種組成・大きさ組成・部位組成) の異同を詳細に検討する	コラムサンプル資料における動物遺存体 (小型個体) 出土傾向 (種組成・大きさ組成・部位組成) の層的变化を詳細に検討する 各魚骨層における動物遺存体 (小型個体) 出土傾向 (種組成・大きさ組成・部位組成) の異同を詳細に検討する

選別方法	B選別 (5mm)	C選別 (5mm)	D選別 (5mm)
対象資料	魚骨層1～15の抽出分 (10袋以上のものは10袋、それ以下のものは全部、西斜面下部の魚骨層は各小グッド単位で抽出)	魚骨層1～15のうちA・B選別以外のもの	魚骨層番号のないものでA選別以外のもの
対象資料比率	袋数221袋 (全体比15.0%)	袋数747袋 (全体比50.9%)	袋数405袋 (全体比27.6%)
魚上綱	全魚種共通 (前上顎骨・歯骨・方骨、但しカウント部位である関節部の残存するものに限る)	全魚種共通 (前上顎骨・歯骨・方骨、但しカウント部位である関節部の残存するものに限る)	全魚種共通 (前上顎骨・歯骨、但しカウント部位である関節部の残存するものに限る)
	サケ科: 歯・第1椎骨	サケ科: 歯・第1椎骨	サケ科: 歯・第1椎骨
	ウグイ属: 咽頭骨	ウグイ属: 咽頭骨	
	ボラ科: 主鰓蓋骨	ボラ科: 主鰓蓋骨	ボラ科: 主鰓蓋骨
	スズキ: 主鰓蓋骨	スズキ: 主鰓蓋骨	
	ヒラメ: 第1血管間棘	ヒラメ: 第1血管間棘	
	カレイ科: 第1血管間棘	カレイ科: 第1血管間棘	
	ニシン: 耳石		ニシン: 耳石
	ツノザメ目: 背鰭棘	ツノザメ目: 背鰭棘	ツノザメ目: 背鰭棘
	サメ類: 歯	サメ類: 歯	サメ類: 歯
	コイ科: 背鰭第2棘・腹鰭第2棘	コイ科: 背鰭第2棘・腹鰭第2棘	コイ科: 背鰭第2棘・腹鰭第2棘
	チョウザメ科: 鱗板	チョウザメ科: 鱗板	チョウザメ科: 鱗板
	*イトヨは対象外	*イトヨは対象外	*イトヨは対象外
鳥綱	全同定部位 全破片被熱色分け	カウント部位、全体の半分以上残存する骨幹部、頭骨片	カウント部位、全体の半分以上残存する骨幹部、頭骨片
哺乳綱	全同定部位 全破片被熱色分け	カウント部位、全体の半分以上残存する骨幹部、頭骨片	カウント部位、全体の半分以上残存する骨幹部、頭骨片 ネズミはカウント部位をまとめて抽出
骨角貝製品	全て抽出	全て抽出	全て抽出
目的	各魚骨層における鳥綱・哺乳綱の出土傾向を把握し、イトヨなどの小型魚を除く魚上綱の魚種組成・大きさ組成を検討する	各魚骨層における鳥綱・哺乳綱の出土傾向を把握し、イトヨなどの小型魚を除く魚上綱の魚種組成・大きさ組成を検討する	各魚骨層における鳥綱・哺乳綱の出土傾向を把握し、イトヨなどの小型魚を除く大まかな魚上綱の魚種組成・大きさ組成を検討する

※全体1699袋 (フローテーション98袋、水洗1371袋)

「べ1コ3」はベルト1コラムサンプル3の略、「フロ」はフローテーションの略

についてはダンボールに収納している。

非掲載資料は土器・石器・骨角製品に分け、それぞれ遺構・魚骨層・包含層出土資料に分け、遺構は全種別とも遺構毎に、土器は、包含層出土資料は分類ごと、発掘区ごとに分け、魚骨層出土資料は取り上げの袋番号順、または魚骨層位ごとに収納した。石器は、魚骨層・包含層出土資料ともに分類ごとに分け、魚骨層は取り上げ袋番号順に包含層は発掘区順に収納した。

動物遺存体は魚骨層出土資料のうち選別後の残渣は取り上げの袋番号順にし、選別によって抜き出した遺物は基本的に袋番号・整理番号順にし、一部種類ごとにまとめたものもある。

最終的にこれらのコンテナ・ダンボールに通し番号を付け、収納台帳を作成した。

(5) 遺物の分類

a 土器の分類

土器は北海道埋蔵文化財センターの一般的な分類に準じ、縄文時代早期～擦文文化期に至るまでⅠ～Ⅷ群に分類し、遺物の出土のみられる時期については細分類を使用している。

Ⅰ群 縄文早期に属するもの 本群は大きく二つに分類される

- a 類：貝殻腹縁圧痕文・条痕文のある土器群
- b 類：縄文・擦糸文・絡条体圧痕文・貼付文のある土器群
 - b 1 類：東釧路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの
 - b 2 類：コックロ式に相当するもの
 - b 3 類：中茶路式に相当するもの
 - b 4 類：東釧路Ⅳ式に相当するもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの

- a 類：胎土に繊維を含み厚手で縄文が施された丸底・尖底の土器群
- b 類：円筒土器下層式・植苗式に相当する土器群

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの

- a 類：北筒Ⅱ式の一部、北筒Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式に相当するもの
- b 類：船泊上層式・手稲式・鯉洞式・エリモB式に相当するもの
- c 類：堂林式・三ツ谷式・御殿山式に相当するもの

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの

- a 類：大洞B・BC式、上ノ国式に相当するもの
- b 類：大洞C₁・C₂、幣舞式に相当するもの
- c 類：大洞A・A'式、緑ヶ岡式に相当するもの
 - c 1 類：緑ヶ岡式に相当するもの
 - c 2 類：大洞A式に相当するもの

Ⅵ群 続縄文時代に相当するもの

- a 類：砂沢式、フシココタン下層式、興津式、下田ノ沢Ⅰ・Ⅱ式に相当するもの
 - a 1 類：フシココタン下層式、興津式、下田ノ沢Ⅰ・Ⅱ式に相当するもの
 - a 2 類：砂沢式に相当するもの
- b 類：後北C₂・D式、北大式に相当するもの

Ⅶ群 オホーツク文化期に相当するもの

Ⅷ群 檜文文化期に相当するもの

b 土製品等の分類

土玉 土製の玉

円盤形土製品 土器の破片を素材として周辺部の打ち欠きにより円形に整形されたもの

焼成粘土塊 土器や土製品の作成時に副次的に作出され、焼成を受けたと見られる粘土の塊

Ⅰ類：細長い形状で側縁に長軸方向の切断痕のあるもの 土器整形時に口縁部から切り取られたものと考えられる

Ⅱ類：塊状のもの

Ⅱ a 類：棒状、Ⅱ b 類：球状、Ⅱ c 類：不定形

c 石器類の分類

石鏃 素材を細かい加工により薄身にして、端部に尖頭部を作り出した 5 cm未満の石器

Ⅰ類：茎部が作出されるもの 基部形状によって2種類に分けられる

Ⅰ a 類：基部側縁が明瞭に内湾し、棒状に近い茎部のもの

Ⅰ b 類：基部側縁がやや内湾し、三角形の茎部のもの 全体的な形状は菱形に近い

Ⅱ類：幅が狭く、細長い形状のもの 基部が直線的で五角形を呈する

Ⅲ類：三角形を呈するもので、基部形状によって3種類に分けられる

Ⅲ a 類：基部がほぼ直線的なもの

Ⅲ b 類：基部が内湾するもの

Ⅲ c 類：基部に脚状の突出部が作出されるもの いわゆる「油駒型」に相当するもの

ナイフ 素材の両面を細かく加工して、基部を作り出した 5 cm以上の石器 尖頭部のみの破片もナイフに分類した

両面調整石器 素材の両面を粗く加工した石器で、ナイフ以外の石器

つまみ付きナイフ 素材端部にノッチ状の加工でつまみ部を作り出した石器

削器 素材の側縁を中心に連続的な二次加工を施した石器

Ⅰ類：縦長剥片素材のもの

Ⅰ a 類：尖頭状のもの Ⅰ b 類：非尖頭状のもの

Ⅱ類：剥片素材のもの

Ⅰ a 類：尖頭状のもの Ⅰ b 類：非尖頭状のもの

掻器 素材の端部に連続的な二次加工を施した石器

Ⅰ類：縦長剥片素材のもの

Ⅱ類：剥片素材で円形以外のもの

Ⅲ類：剥片素材で円形のもの

石錐 素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器

楔形石器 素材の両端に両極剥離による対向する剥離がある石器

異形石器 素材に二次加工を施し、定形的石器以外の特異な形状を呈する石器

二次加工ある剥片 素材に二次加工を施したもので、定形的石器に分類されない石器

剥片 石核・石器（ツール）から剥離されたもので、二次的な加工が施されていない石器

石核 目的剥片を剥離したと考えられる石器

I 類：転礫素材

I a 類：両極剥離のみのもの I b 類：作業面が1面のもの I c 類：作業面が2面以上のもの

II 類：角礫素材

II a 類：作業面が1面のもの II b 類：作業面が2面以上のもの

III 類：亜角礫素材

III a 類：作業面が1面のもの III b 類：作業面が2面以上のもの

IV 類：全面的に剥離面があり礫形状不明のもの

V 類：折損して細分類の困難なもの

石斧 打ち欠き・敲打・研磨により、斧状の刃部を作り出した石器**砥石** 礫に擦り痕の観察される石器

I 類：擦り面の形状が矢柄研磨器のように溝状のもの 溝の幅は2mm程度のものから1cm程度のものまで多様で、本数も一本から多数あるものまである

II 類：擦り面の形状が幅広く浅い窪み状のもの 全面を複数の擦り面が覆い、棒状で多面体を呈するものと扁平礫の片面ないし両面に擦り面があるものがある

たたき石 礫に潰打痕が観察される石器**すり石** 小型礫に擦り痕が観察される石器**台石** 扁平礫に打撃痕や擦り痕が観察される石器**原石** 石器の石材として利用される石で、人為的と考えられる剥離を受けていないもの**礫** 石器の石材として利用されない石で、剥離、敲打痕、潰打痕、擦り痕などが観察されないもの特に泥岩製の球状のものは球状礫とする**石製玉** 全面的な研磨によって円形に整形された小型の玉**勾玉** C字状に湾曲した玉**コハク玉** コハク製の玉**d 骨角貝製品の分類****銚頭** 繫留、着柄、柄からの離頭のための構造を有するもの

I 類：単尾、II 類：双尾、III 類：未成品、IV 類：尾部形状不明

骨針 直径5mm以下の棒状を呈し、先端な尖頭部をもつもの

I 類：直径が約3mm以下の小型で、一端には抉りのあるもの

II 類：直径が約3mm以上の大型で、一端に孔があるもの

管状骨製品 鳥網の長管骨を素材として中空の形状を残したまま加工されたもの

I 類：端部が斜めに切断されるもの

I a 類：一端が垂直に切断されるもの I b 類：骨端が残存するもの I c 類：折損しているもの

II 類：端部が垂直に切断されるもの

II a 類：両端が切断されるもの II b 類：骨端が残存するもの II c 類：折損しているもの

錐形骨製品 端部に断面円形で棒状の尖頭部を持つもの**尖頭状骨角製品** 管状骨製品・錐形骨製品以外で骨・角の一端に尖頭部が作出されたもの

I a 類：左右対称でかえし状のものがあるもの

I b 類：尖頭部の断面の厚いもの

Ⅱ類：薄い素材で端部に尖頭部があるもの

Ⅱ a類：先端部が尖るもの Ⅱ b類：先端部が丸いもの

Ⅲ類：先端部が欠損し、形状の不明なもの

短冊状骨角製品 両面の研磨により短冊状に整形されたもの

槍形骨製品 鯨骨製で槍の形をした大型のもの

骨角製品素材 左右の平行する切痕によって短冊状に切断されたもの

残片 骨角製品の素材分割時に付けられたとみられる切痕のある不定形なもの

I類：切断された骨端部

Ⅱ類：縦の切痕があるもの

Ⅲ類：横の切痕があるもの

Ⅳ類：その他

(6) 調査結果の概要

調査区は台地部と斜面部に分けられ、台地部からは竪穴住居跡4軒、土坑29基、焼土12か所、集石6か所が検出され、斜面部からは多量の動物遺存体を含む「魚骨層」、焼土1か所が検出された。

台地部の遺構は竪穴住居跡が縄文時代前半期で、土坑は縄文時代晩期後半～縄文時代前半期とみられる直径1m以下のものと縄文時代後半期北大Ⅱ式期の直径1.5m程度のものがある。

包含層からは土器・土製品が47,839点、石器類が32,865点出土した。土器はI群b2類が16点(0.03%)、I群b4類が864点(1.8%)、Ⅱ群a類が3点(0.006%)、Ⅳ群a類が63点(0.1%)、V群c1類が36,305点(76%)、V群c2類が26点(0.05%)、Ⅵ群a1類が10,022点(21%)、Ⅵ群a2類が3点(0.006%)、Ⅵ群b類が424点(0.9%)、Ⅶ群が50点(0.1%)、Ⅷ群が4点(0.008%)出土している。V群c1類が群を抜いて多く、Ⅵ群a1類が次に多い。V群c類は東西斜面部に、Ⅵ群a・Ⅵ群b類は台地部に多く、それぞれ分布域が分かれる(図I-10)。概ね台地上には縄文時代前半期フシコタン下層式・興津式期と北大Ⅱ式期の遺物が、斜面部には縄文時代晩期後葉緑ヶ岡式期の遺物が分布する。

斜面部には包含層であるⅢ層下位に魚骨層が分布している。魚骨層の下位には黒色土の無遺物層を挟んで樽前cテフラ(Ta-c)が確認された。魚骨層には大量の魚骨、鳥骨、海棲・陸棲哺乳類骨などの動物遺存体のほか、多くの土器・石器・鈎頭や骨針などの骨角製品や灰・炭化物・赤色顔料なども含まれている。貝塚とは違い貝がほとんど含まれないのが特徴で、多量の貝類がなくても動物遺存体が良好に残存する条件があったものと思われる。

魚骨層中からは土器・土製品が90,363点、石器類が44,880点、骨角製品が266点出土した。土器はV群c類が99.8%を占める。それらは縄文時代晩期後葉でも特に平行沈線が多用される緑ヶ岡式古段階(大沼1999)に限定され、また、魚骨層出土の炭化クルミ片18点の放射性炭素年代測定では、 $2,460 \pm 30 \sim 2,370 \pm 30$ yrBPの年代値が得られている。これらのことから魚骨層は数十年程度の短い期間に形成されたと推測される。また、搬入土器として大洞A式の壺が共伴し、東北地方との並行関係が確認できる。

動物遺存体は、魚骨はイトヨ・カレイ科・ウグイ属・ヒラメ・スズキ・キュウリウオ・イトウなどが出土している。砂泥底・汽水域に棲息する魚種がほとんどで、当時遺跡には砂地の内湾が近接していたと推測される。鳥骨はオオハクチョウ・コハクチョウやガン類・カモ類、アホドリ、ウミウ、カモメ、スズメ目、タカ科などが出土し、陸棲哺乳類骨はイヌ・シカ・イノシシ・ウサギ・クマ・ネズミなどが、海棲哺乳類骨はイルカ・クジラ・ラッコ・アシカ・オットセイなどが出土しているが陸棲哺乳類に比べて少量である。(鈴木)

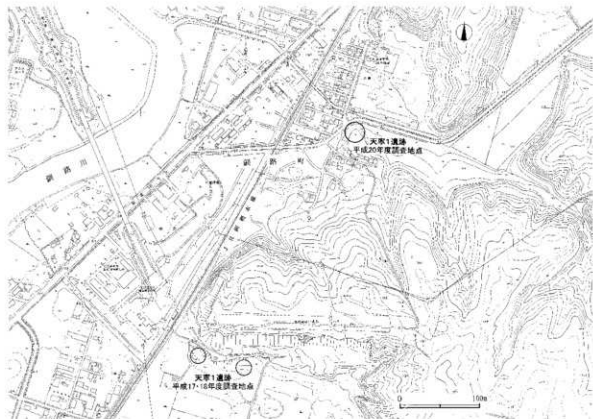
II 遺跡の位置と周辺の環境

1 遺跡の位置と概要

天寧1遺跡は、JR釧路駅から東北東へ約4.5km離れた別保原野に位置する。今回の調査区は、釧路段丘の西端にあたる標高8～9mの低位段丘面と標高3～8mの段丘崖の斜面部で、釧路川の左岸、小河川天寧川の左岸に立地する。斜面部下部に広がる平坦面はヨシとハンノキを主とする低層湿原である。調査区周辺の湿原は、釧路湿原の東縁にあたり、谷地坊主が見られる地点もあったが、宅地化によりその範囲は狭められている。遺跡名に冠される「天寧（てんねい）」の地名は、旧釧路川沿いの湿地帯を指していたとされるアイヌ語の「テイネイ・ル（湿地の路）」と解されている。

天寧1遺跡として登載されているのは、主に段丘上の縄文早期～晩期、続縄文、擦文、近世アイヌ期の各時期にまたがる堅穴群、貝塚を含む広い範囲である。遺跡は、小支谷によって隔てられた南側が「第1地点」、北側が「第2地点」と呼ばれていた。以下、天寧1遺跡に関する諸記録を抜粋する。

標高30～35mの高位段丘上の遺跡範囲南側は「第1地点」とされ、縄文早期テンネル式、東釧路Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式、北筒Ⅱ・Ⅲ式、幣舞式土器が採集されている。この周辺には、近世アイヌ期の包含層、擦文期の堅穴住居跡もあったらしい。堅穴は方形38、円形3、不定形1、不明11が記録されている（釧路町役場1990）。1953年創設された釧路駐屯地の滑走路造成時に削平されたが、60年代には滑走路の両側に堅穴群があったという。滑走路中央付近から採集された土器が澤四郎により報告され、「テンネル式土器」の標式遺跡とされる。その後、さらに1973年周辺がブルドーザーで削平されている。また、滑走路から北側の斜面の裾にも貝塚、堅穴、縄文晩期の墳墓があったという（澤1963、1964a、1964b、1968a、小西1983、1985）。2005・2006年度に調査された天寧1遺跡は「第1地点」南側の段丘裾部にあたる標高2～5mの低層湿原に立地し、後期前葉の貝塚、盛土遺構が検出された。



図II-1 遺跡の位置



図Ⅱ-2 周辺の遺跡分布図

表II-1 周辺の遺跡一覧

遺跡番号	名称	種別	時代	立地	標高m	遺構	遺物	文献・備考
M-01-03	大塚1号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	20	遺構不明		石巻1905、大塚1937
M-01-04	大塚第1号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	20	石瓦、土子燗		石巻1909(大塚北キョウコフ)
M-01-05	大塚2号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	20	無形土、埋土基		石巻1909、礎で段は階段
M-01-06	大塚3号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	20	土基の礎で区画		町教育委員会
M-01-07	大塚第1号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	20~20	C7灰燼		石巻1955、基本編1983
M-01-08	大塚第2号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	25~25	新形土、土子燗		石巻1909(大塚北キョウコフ)
M-01-09	大塚第3号キョウコフ	キョウコフ	アイヌ	段丘上	20~32	無形土、土子燗		基本編1980、礎は積石付
M-01-10	式部北1号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	20~30	方形土・円形土		津本ほか1972、山本編1981
M-01-11	式部南1号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	15~30	方形土・円形土		津本ほか1972、山本編1981
M-01-20	式部川原遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	25~25	方形土・円形土		津本ほか1972、山本編1981
M-01-21	式部川原2号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	10~20	方形土・円形土		山本編1981、積石燼
M-01-22	式部川原3号遺跡	集落跡	オホホツツ	段丘上	10~20			オホツツ
M-01-23	釜ヶ崎4号内遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢編
M-01-24	ツツツツ山石原遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			津1983、日誌遺構で確認
M-01-25	釜ヶ崎1号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	30~40	円形燼穴数軒		北沢、北沢
M-01-26	釜ヶ崎2号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	20~40	円形燼穴20		北沢
M-01-27	釜ヶ崎3号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	20~40	燼穴数軒		北沢
M-01-28	大塚1号遺跡	集落跡	縄文・アイヌ	段丘上	5~30	燼穴、柱礎		津1982/1964、1966、遺構付1980s、小内1983、毎日編2008
M-01-29	大塚2号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	20~30	燼穴1		
M-01-30	大塚3号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	30	燼穴2		
M-01-31	大塚4号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	20	燼穴2		
M-01-32	大塚5号遺跡	集落跡	縄文・アイヌ	段丘上	25~25	燼穴5、柱礎		西沢編
M-01-33	大塚6号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	25~25	燼穴5、柱礎		北沢、積石・柱礎
M-01-34	大塚7号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	25~25	燼穴5		北沢
M-01-35	大塚8号遺跡	集落跡	縄文・弥生	段丘上	20~30	円形土、方形土		北沢
M-01-36	大塚9号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	30	柱礎		津1975、土砂堆積で確認
M-01-38	大塚10号遺跡	集落跡	縄文・アイヌ	段丘上	20~40	燼穴1		北沢、積石、柱礎、遺構
M-01-39	大塚11号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~30			古瀬、北沢
M-01-40	大塚12号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	20~30			柱・燼
M-01-41	大塚13号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	20~20			北沢
M-01-42	大塚14号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			燼穴5
M-01-43	大塚15号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-44	大塚16号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			燼穴3
M-01-45	大塚17号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-46	大塚18号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	20~20			柱・燼
M-01-47	大塚19号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-48	大塚20号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			燼穴3
M-01-49	大塚21号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-50	大塚22号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-51	大塚23号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-52	大塚24号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-53	大塚25号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-54	大塚26号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-55	大塚27号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-56	大塚28号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-57	大塚29号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-58	大塚30号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-59	大塚31号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-60	大塚32号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-61	大塚33号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-62	大塚34号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-63	大塚35号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-64	大塚36号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-65	大塚37号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-66	大塚38号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-67	大塚39号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-68	大塚40号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-69	大塚41号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-70	大塚42号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-71	大塚43号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-72	大塚44号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-73	大塚45号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-74	大塚46号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-75	大塚47号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-76	大塚48号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-77	大塚49号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-78	大塚50号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-79	大塚51号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-80	大塚52号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-81	大塚53号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-82	大塚54号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-83	大塚55号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-84	大塚56号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-85	大塚57号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-86	大塚58号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-87	大塚59号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-88	大塚60号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-89	大塚61号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-90	大塚62号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-91	大塚63号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-92	大塚64号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-93	大塚65号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-94	大塚66号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-95	大塚67号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-96	大塚68号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-97	大塚69号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-98	大塚70号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-99	大塚71号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-100	大塚72号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-101	大塚73号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-102	大塚74号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-103	大塚75号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-104	大塚76号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-105	大塚77号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-106	大塚78号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-107	大塚79号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-108	大塚80号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-109	大塚81号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-110	大塚82号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-111	大塚83号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-112	大塚84号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-113	大塚85号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-114	大塚86号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-115	大塚87号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-116	大塚88号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-117	大塚89号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-118	大塚90号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-119	大塚91号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-120	大塚92号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-121	大塚93号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-122	大塚94号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-123	大塚95号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-124	大塚96号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-125	大塚97号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-126	大塚98号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-127	大塚99号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-128	大塚100号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-129	大塚101号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-130	大塚102号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-131	大塚103号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-132	大塚104号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-133	大塚105号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-134	大塚106号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-135	大塚107号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-136	大塚108号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-137	大塚109号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-138	大塚110号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-139	大塚111号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-140	大塚112号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-141	大塚113号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-142	大塚114号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-143	大塚115号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-144	大塚116号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-145	大塚117号遺跡	集落跡	縄文	段丘上	10~20			北沢
M-01-146	大塚118号遺跡	集落跡	縄文	段				

貝塚はオオノガイを主体として、オットセイ・トドなどの海獣類が多く、エゾシカ、アホウドリ、カモ類も多く出土し、魚骨はキュウリウオが多く、メカジキも目立つ。縄文時代晩期においても盛土遺構が形成され、イノシシの臼歯をはじめ多数の動物遺存体が出土した。また、縄文時代前期東鋼路V式期の包含層からも骨角器、動物遺存体が得られている（福井編2008）。

「トンネル南貝塚」は「第1地点」南側の斜面に存在した東鋼路Ⅲ式土器を伴う貝塚とされるが、詳細が不明なまま1967年以降の土砂採取で消滅した。周囲には竪穴群も存在したらしい（澤1968）。貝塚の厚さは20cm、広がりには3㎡ほどとされる。貝類はアサリ、オオノガイを主体に、カキ、ホタテ、ホソミナを含む。ほかに、少量の魚骨と鳥骨が出土した（澤1987）。土砂採取による削平により基盤層が露出した段丘南西側では洪積層貝化石が層をなして見られる。化石は、マガキが最多で、アサリ、エゾタマガイも多い（山代1986）。

「トンネル貝塚」は、段丘先端部の湿原との比高6m程度の地点に立地する。貝塚は、厚さ50cmほどで、東西10m、南北18mの範囲に広がることがボーリングステッキによる調査で推定されている。貝類はカキとオオノガイを主とするようである。土器は、周囲から東鋼路Ⅳ・Ⅴ式、北筒Ⅱ・Ⅲ式、幣舞式、緑ヶ岡式、興津式、擦文土器が出土し、黒曜石製石槍も出土している（澤1960、1963）。

「トンネル東貝塚」は、3㎡に満たない貝塚で、カキ・オオノガイからなるという。時期は北筒Ⅱ式期のものである。周囲から東鋼路Ⅲ・Ⅳ式土器も採集されている。（澤・西1975、澤1987）。

遺跡範囲北側は「第2地点」と呼ばれ、標高10m内外の低位の段丘北西に「トンネル北貝塚」が存在した。発掘が1968年に行われたが、貝塚調査時には乱掘により破壊されていたという。ボーリングステッキにより貝の分布が10㎡と推定されたことから、規模はさらに小さなものであった可能性がある。時期は緑ヶ岡式～興津式期の貝塚とされ、貝類の主体はウバガイで、エゾタマガイ、カキも目立つ。骨類ではエゾシカが多く、イルカ類も見られ、鳥類は少なかった。魚骨ではマグロのほか小魚骨もあるという（岡崎・澤1968、高橋2006）。「トンネル北貝塚」は今回の調査地点の南側に隣接する地点で、出土土器の時期幅も類似するが、本調査の魚骨層が緑ヶ岡式期と特定可能な一方、「トンネル北貝塚」はその時期が特定できないため、同時期かどうかは判断としない。

「第2地点」には、ほかに縄文晩期の墳墓2か所、続縄文期の堅穴住居跡10数か所があり、近世アイヌ期とされる「骨塚」も存在した。「骨塚」はエゾシカの四肢骨を中心とするものであったが、いずれも1968年の宅地造成時に破壊されている（澤1968）。また、沼尻式、東鋼路Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ式、北筒Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ式、幣舞式、緑ヶ岡式、興津式、下田ノ沢Ⅰ式、後北C式、北大式、擦文式、オホーツク式などの土器が採集されている（澤1963）。中でも緑ヶ岡式土器の赤彩土器が多数発見され、耕作された畑の表面に赤色顔料の露出が見られたという（澤1987）。

2 鋼路周辺の貝塚及び動物遺存体出土遺跡

鋼路周辺の貝塚については、河野（1953）、佐藤（1960）、澤（1966）によりそれぞれ集成がなされ、紹介されている。以下、天塚1遺跡のほかに動物遺存体が出土している遺跡のうち、時期や種名が明らかなものについてまとめておく。

縄文文化早期

東鋼路2遺跡（東鋼路遺跡第2地点）（西・澤1977）：石刃礫石器群の遺物が出土した土坑坑底から、アサリ、エゾイソシジミ、エゾイガイ、カキと微量の小魚骨が出土している。

二ツ山遺跡第1地点：土坑から石刃礫石器群の遺物と少量のアサリ、イガイが検出されている。

東鋼路遺跡第1地点(西・澤1977):縄文前期の貝塚の下層に間層をはさんで、径30~50cm内外のブロック状の貝塚が5か所みられた。東鋼路Ⅲ式土器を伴い、貝類はアサリを主体に、カキ、オノガイなどが含まれていた。

北斗遺跡第1地点(西・澤1977):東鋼路Ⅲ式土器が伴う3㎡の貝塚1か所、0.5㎡前後の貝塚5か所が列状に並んで検出された。貝類はカキを主体に、オノガイ、ヒメシラトリが次ぎ、ほかにホソウミナ、チシマタマガイ、ヒメエゾボラが見られる状況であった。

武佐川1遺跡(金子1998):東鋼路Ⅲ式土器を伴う遺構覆土や包含層から魚類、鳥類、哺乳類の焼骨が検出されている。中でも海獣骨が多い。骨角器として、銚頭と骨針がある。

縄文文化前期

東鋼路貝塚(金子1968、1986、金子2010):東鋼路Ⅴ式土器を伴う11ブロックの貝塚が、湿原に突き出た半島状の標高15m前後の段丘上及び斜面に形成される。長さ・幅とも約90mの範囲で、西側が開くU字状に分布していた。貝層の厚さは最大80cmで、骨角器は銚頭、結合式釣針、刺突具、骨針、骨錐、貝刃、有孔貝などがある。貝類はアサリを主体に、カキ、オノガイが次ぎ、下層からはアカガイ、シオフキといった暖流系の貝種も検出されている(澤1987)。魚類としては、ニシン、イワシ類、スズキ、ヒラメ、カレイ類などがある。鳥類ではウ類、ミズナギドリ類が多く、アホウドリも少なくない。哺乳類では海獣類が多い。また動物遺体が特別な取り扱いを受けた例として、イルカ類の頭骨を放射状に配列したり、並列して板状に積み重ねたりした例があった。アシカ類の骨も、四肢骨を含めてまとめられた例、遺体の周りに石器類が集中し、ベンガラが伴う例などがあった。2009年にも調査が行われ、東鋼路Ⅴ式期と思われる貝塚4か所が確認された。動物遺存体の出土傾向は以前の調査と概ね一致するようである。

細岡(トリトウシ)貝塚(佐藤1957、岡崎・澤1968、澤1969):鋼路湿原に北面した段丘斜面に位置し、その規模は25×25m、厚さは30~40cmあったという。東鋼路Ⅴ式土器を伴い、骨角器に銚頭がある。貝類は、アサリが主体で、オノガイ、カキ、ヒメエゾボラなどのほかに、アカガイ、シオフキ、ハマグリ、ウチムラサキなどの暖流系の貝種が含まれる。ここでは、シオフキ、ハマグリの出現率が高かった。貝類のほか、トド・アシカ類や魚骨、鳥骨も検出されている。

達古布2遺跡(タブコブ貝塚)(澤1969):貝塚は、達古布湖南岸の段丘斜面に位置し、厚さは60cmほどであった。規模は3㎡ほどと推定されている。貝類はカキが多く、少量のオノガイ、魚骨、鳥骨も含まれる。土器は東鋼路Ⅴ式に近いものが出土している。

東鋼路第3遺跡(鋼路市立郷土博物館ほか1978):東鋼路Ⅴ式土器に伴ってトド・アシカ類などの海獣類の骨片が出土し、貝類も散発的に出土した。

貝塚町1丁目遺跡(鋼路市立郷土博物館1974):大型土坑から東鋼路Ⅴ式土器を伴い、トド・イルカ類が出土した。

縄文文化中期~後期

岩保木10遺跡(岩保木貝塚)(澤・西1975、澤1987):標高35~40mほどの段丘先端斜面に位置する。堅穴住居様の落ち込みに残されていた3㎡に満たない貝塚で、骨類は少なく、オノガイを主にカキが次ぐという。時期は北簡Ⅱ式期。

武佐貝塚(澤・岡崎1974、澤1987):堅穴住居様の落ち込みに残されていた3㎡に満たない貝塚で、骨類は少なく、オノガイを主にカキが次ぐという。時期は北簡式Ⅲ期。

貝塚町1丁目遺跡(鋼路市立郷土博物館1974、澤1987):北簡Ⅱ式土器と共に海獣肩甲骨、カキ、ホタテガイが住居跡から出土している。またカキが200個近く出土した住居跡もある。

床丹6遺跡(澤・岡崎1974、澤1972): 渥原との比高10mほどの段丘突端緩斜面に立地し、貝層の厚さ50cm未満、規模3㎡ほどと推定される。貝類は、全てオノガイで、少量の獣骨を含む。共存する土器などは無いが、上記の類似する貝塚の存在から該期と推定されている。

この時期はほかに、塘路二股周辺、武佐などにカキ・オノガイからなる小貝塚群がある(澤1987)。

縄文文化晩期

幣舞遺跡(金子1990・1996・1999、石川2004): 貝塚は、標高20mほどの段丘の落ち際に位置し、規模は2.5×1.5m、厚さは最大で15cm。共存した土器は幣舞式、緑ヶ岡式、フシココタン下層式、奥津式。骨角器には、銚頭、刺突具、骨針、鯨骨製品、貝製平玉、貝輪、男根状骨製品などがある。貝類は、タマキビ類を主に、多様な種が多く含まれる。魚類ではヒラメ、カレイ類が多く、マダラ、カサゴ類、キュウリウオも少なくない。鳥類ではアホウドリ、ミズナギドリ類、哺乳類ではオットセイ、アシカ、イルカ類、エゾシカ、イヌが多く出土している。また、イノシシ、ラッコも出土している。ほかにほとんど貝の分布しないエリアからも被熱したものを含む骨類が出土し、シカが多い。またクマの頭蓋骨が土坑に納められた形で出土している。その周囲には緑ヶ岡式土器片、アビ類の嘴部分、シカ中足骨製刺突具未成品が共存している。

緑ヶ岡1遺跡(澤1964、1966、石川2007): 段丘上に位置し、緑ヶ岡式土器と共に「骨塚」が検出されている。「骨塚」からはクジラ、シカの骨、魚骨などが採集されたほかに、径1.5mほどの魚骨ブロックに、ウバガイ、サラガイが若干混入した状態もあった。また、墓坑内にもホタテ、ウバガイ、シカ、イノシシ、イルカ、サメ、トドなどがあったという。骨角器としては、銚頭、刺突具、棒状骨角器、骨針、鯨骨製品、スプーン状製品がある。

続縄文文化期

奥津遺跡(牛沢1979): 海岸台地に立地する。奥津式土器と共に焼けた骨が検出された。イルカ類、アシカ類といった海獣類、カジキ類が多く、ほかにエゾシカ、ウ類、サケ類が確認された。

三津浦遺跡(澤・西1976): 海岸台地に立地する竪穴住居跡覆土からメカジキ、アイナメ、ソイ類、オットセイ、アシカ類、アホウドリ類、オオミズナギドリ、ウ類などが出土している。

擦文文化期

材木町5遺跡(西・松田1989): 竪穴住居跡の竈及び床面の焼土から焼けた魚骨が多く検出されている。サケ属とニシンが多く、ほかにイトウ、コイ科、タラ科、中型カモ類、エゾシカがある。

北斗遺跡(金子1994): 竈内焼土から焼けた状態で、サケ科、ウグイ、ニシン、カレイ類、アビ類、カイツブリ、カモ類、海獣類が検出されている。骨角器として骨鏃、針入れ?が出土している。

幣舞遺跡(金子1990): 住居跡床面焼土からニシン、サケマス類、コイ科、鳥類の焼骨が検出されている。

幣舞2遺跡(石川2005): 住居跡竈、覆土から焼けた魚骨とウバガイ、少量のエゾシカが検出されている。

アイヌ文化期

幣舞遺跡(金子1990、1999): 1.5×1m、厚さは最大で15cmの貝塚が確認されている。骨角器としてキテ、中柄、刺突具、装飾品などがある。貝類はエゾタマキビが最も多く、ウバガイ、サラガイなどがある。魚類はマダラ、ヒラメ、カレイ類、カサゴ類、カジキ類が多い。鳥類はアホウドリ、ミズナギドリ類、哺乳類はシカ、イヌ、オットセイが多かった。また、擦文文化期竪穴住居跡の覆土上層からエゾタマガイ、ウバガイ、サラガイといった貝類と共に、魚類も検出されている。

遠矢第2チャシ跡(西本1975): エゾシカを主体に、貝類、魚類、鳥類、哺乳類が出土している。

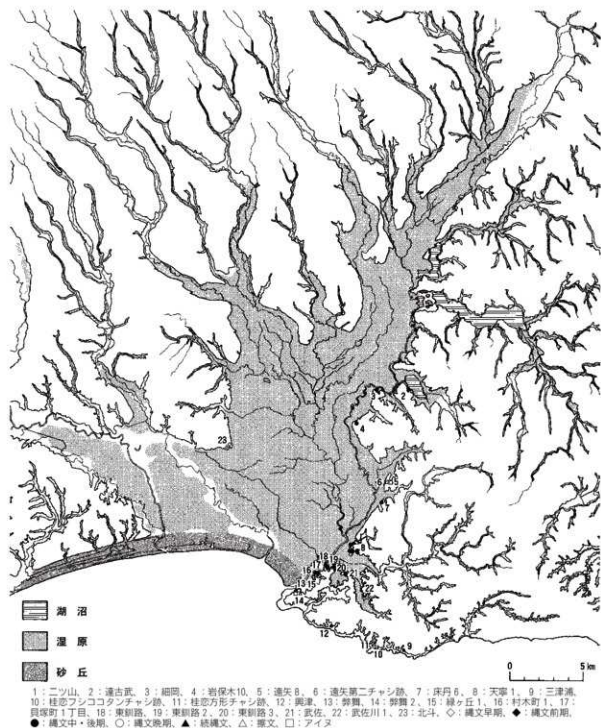
骨角器には、キテ、骨鏃、中柄、装飾品などがある。

遠矢8遺跡（西本1987）：エゾシカを主体に、ウバガイなどの貝類、魚類、鳥類、哺乳類が検出されている。骨角器にはキテ、骨針、刺突具、中柄、骨鏃、環状骨製品、棍棒状骨製品がある。

桂恋フシココタンチャシ跡（澤・西1975b）：エゾシカを主体に、各種貝類が出土している。また、アカウミガメを納めた土坑も検出されている。

材木町5遺跡（金子1989）：シカを主体に、少量の貝類と、魚類、哺乳類が出土している。

シカを主体とする「骨塚」は、モシリヤチャシ、桂恋方形チャシ（澤1966）、床丹（岡崎・澤1968）、桂恋フシココタンチャシ跡附近（澤・西1975b）でも記録されている。



図II-3 釧路周辺の貝塚及び動物遺存体出土遺跡分布図

III 遺構と遺物

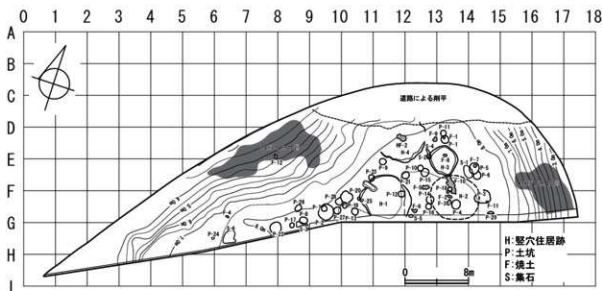
1 概要

遺構は竪穴住居跡4軒、(H-1~4)、土坑29基(P-1~29)、集石6か所(S-1~6)、焼土12か所(F-1~12)、魚骨層2か所である。本章では、魚骨層中で確認されたF-12と魚骨層を除いた台地部で検出された遺構について説明する。

台地部は釧路湿原へ向かって張り出す釧路段丘の突端に貼り付く標高8~9mの河岸段丘上である。調査区の南側には同一面が続き、連続した段丘面上では本調査と同様の縄文時代晩期後葉~続縄文時代前半期の遺物が多数採集されている(高橋2006)。9~16ラインのCラインより北側は既設の道路により削平されており、段丘末端部はH-4の北側をはじめその他消滅した遺構も想定される。

遺構はほぼ全域に高密度で分布し、切り合う土坑は比較的少ない。住居跡は直径7m程度の浅い皿状のものが3軒あり、1軒は直径4m弱と小型である。それぞれは重複しないが、隣接している。土坑は住居跡内には比較的少ない。赤色顔料が坑底に分布し、埋め戻しが確認される墓坑とみられるものと埋め戻しが確認できないもの、直径1m以上で断面方形のやや大型のものと直径1m以下の小型のものがある。集石は住居跡の周辺に分布し、被熱礫を含むものが多い。焼土は住居跡に関連するものと住居跡周辺に分布するものがあり、その他特徴的にP-1・5の大型のタイプの覆土上部で確認されるものがある。

竪穴住居跡は関連する遺物から続縄文時代前半期と推定され、土坑は、P-5は大型のタイプで北大Ⅱ式の土器二個体が副葬され、続縄文時代後半期である。その他の土坑は土器の副葬品が無く、時期の特定が比較的難しいが、覆土中の土器から縄文時代晩期後葉~続縄文時代前半期と考えられる。集石・焼土はほとんどがⅢ層で確認され、遺物や分布から続縄文時代前半期が主体で、大型タイプの土坑に伴うものは続縄文時代後半期と推定される。(鈴木)



図III-1 遺構位置図

2 竪穴住居跡

竪穴住居跡 1 (H-1) (図Ⅲ-2・3・16・17・23、図版 6～8・32～34・77)

位置：E10・11、F10～12区

規模：(6.75)/(5.79)×6.00/(5.54)×(0.28)m 平面形：隅丸方形 長軸方向：N-77°-W

確認・調査：表土除去後この周辺を精査したところ暗褐色土の堆積を確認した。南側の一部が調査区域外にかかるために全体を明らかにする事はできなかった。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。出入り口と考えられる舌状部様の落ち込みも確認したが、風倒木痕の可能性がある。壁は南東側で比較的残りが良く、ほぼ垂直に立ち上がる。床面中央部には攪乱があり、これに切られるか焼土を確認した。床面北東側には砂岩製の台石を伴い、床面からはVI群 a 1 類土器片を含む計792点を数える遺物が出土した。HP-1からは砂岩製の台石が1点、安山岩製の礫が3点出土した。HP-2の坑底からもVI群 a 1 類土器片が3点、砂岩製の台石1点、台石片8点、覆土中から砂岩製の砥石が1点、黒曜石製の両面調整石器2点、剥片7点、VI群 a 1 類土器が6点出土した。(笠原)

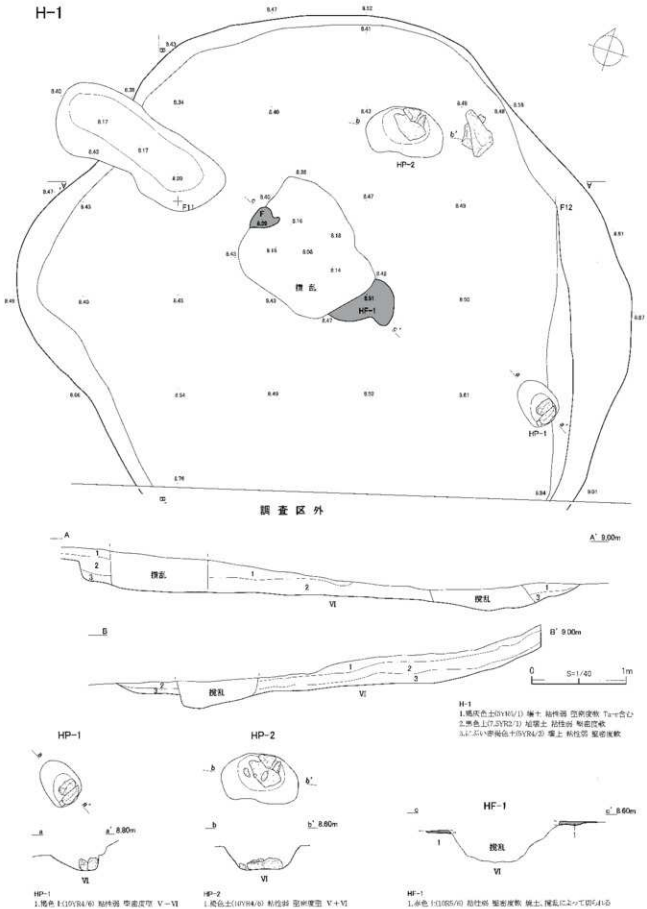
掲載遺物：図Ⅲ-16・17-1～13はVI群 a 1 類土器である。1は平底で、底部からほぼ直角に立ち上がり、やや膨らみを持って胴部に続き、口縁部まで直線的に立ち上がる。口縁部は突起部に縄の圧痕による刻みのある山形突起が4か所あり、二個一対のものと単独のものがそれぞれ対向する。口縁部内側角には縄の圧痕が見られる。縄文はLR横走縄文が施文される。接合面は両傾である。底部は内外面とも角があり、平坦な円盤に垂直に立ち上がる側面をつけた底部を作成後、胴部の粘土を積み上げていく。2はミニチュア土器で、赤彩されている。3は無文地に横走沈線と刺突列が施されるもの。4は縄線文が施文され、刻みのある山形突起がある。口縁部は切り出し状で外反し、口唇部内側には縄文が施される。5は外面・口唇部に撚糸文が施文され、破片左上の口縁部突起下に穿孔が見られる。6～10はRL縦走縄文が施されるもので、口縁部形状は、6・9は角形、7・10は切り出し状、8は角形で外反する。7の口唇部外側、8の口唇部内外面には縄端圧痕が、10の口唇部外面には縄の刻み列が見られる。9は底部から直線的に立ち上がり、胴上部でやや内湾し、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。刻みのある山形突起があり、突起部は外反する。縄文は口唇部付近のみ斜行で、口唇部には縦走に近い縄文が施文される。10は刻みのある山形突起がある。11はLR斜行縄文が外面・口唇部に施文される。12・13は底部片で、12は底角が明瞭で、底面の縄文は羽状である。13は壺の胴部から底部にかけての資料で表面の剥落が激しいが縦走縄文が見られる。接合面は、底部付近は両傾で、胴部は内傾である。内面には炭化物が厚く付着している。

14はVI群 b 類土器である。口縁部には外面からの円形刺突列とその間に鋸歯状文が施される。口縁部下部から胴部にかけては2本の縄を結んだ綾絡文が8条見られ、口唇部には幅の狭い刻みが巡る。

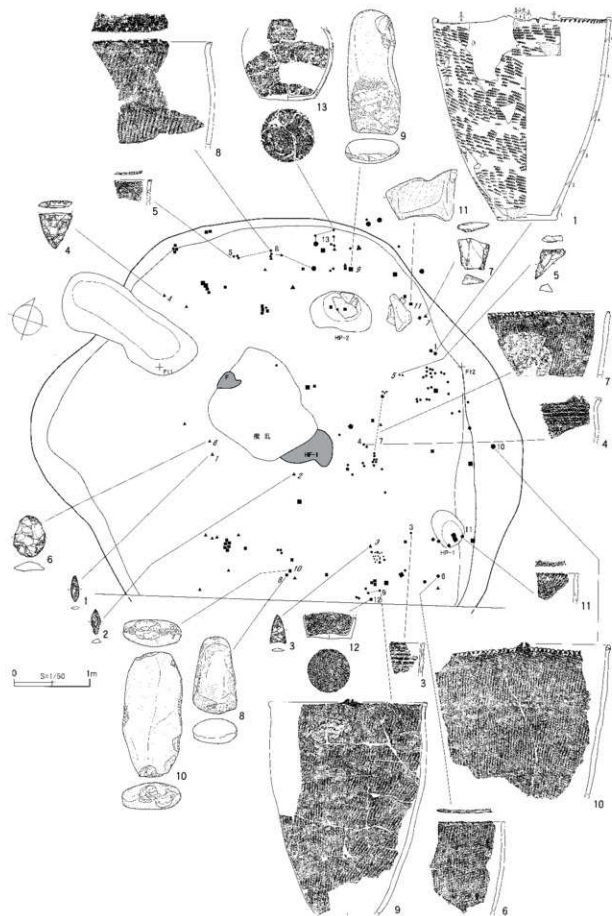
Ⅲ-23-1～3は石鏃、4はナイフ、5・6は両面調整石器、7は削器、8・9は石斧、10はたたき石、11は砥石である。1・2はI b 類、3はIII b 類の石鏃である。4はナイフの先端部と思われる。5は両面調整片が折損し、折れ面から正面側に剝離が行われ、右側縁が大きく取り込まれる。6は円形に近い形状である。7は頁岩製で、両側縁に連続的な加工がある。8・9は石斧で小型の原石を利用して主に刃部の研磨により整形される。10はたたき石で、側縁・上下端部に敲打痕がある。9のような石斧の未成品ないしその段階でのたたき石としての機能があった可能性がある。11は砂岩製の砥石II類で幅広いやや浅い擦り面が正面・右側面・下面・上面に残る。(鈴木)

時期：出土遺物等から判断すると縄文時代前半と考えられる。

(笠原)



図III-2 H-1平面図・断面図



圖III-3 H-1遺物分布圖

竪穴住居跡 2 (H-2) (図Ⅲ-4・17・18・24、図版9・10・34・77)

位置：E・F13区

規模：不明 平面形：不明 長軸方向：不明

確認・調査：本遺構はプランが明らかではなく、焼土の有無や、遺物の分布状況、柱穴の位置や土性の違い等から範囲を想定し、住居跡として調査した。床面と想定される範囲の東側には砂岩製の台石があり、この他にVI群 a 1 類の土器片が110点、黒曜石を素材にした削器が1点、石核1点、石斧が2点、台石5点等、計347点の遺物が分布していた。焼土は2か所検出し、F-2・3として扱った。F-2からはVI群 a 類土器が46点、VI群 b 類土器21点、F-3からはVI群 a 1 類土器が110点、VI群 b 類土器が4点出土した。当初住居跡に伴うものとして調査した焼土であったが、その後、VI群 b 類土器が含まれていたことから、二つの焼土は本遺構とは時期が異なることが考えられる。この他に柱穴は6か所検出した。径は約15~20cm、深さ約20~40cmである。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-17・18-15~20はVI群 a 1 類土器である。15~17は口縁部破片で、15は縦走、16は斜走、17は羽状縄文が施文される。口唇部は角形で16には縄端圧痕が、17には縄文が施文される。17は波状口縁で、口縁部に沿って縄線が見られる。19は大型の深鉢の胴部で中央部が張り出す。接合面は両傾である。20は粗い縦走縄文が施文される。

図Ⅲ-24-12は安山岩製のナイフ、13・14は搔器、15・16は石斧である。12は大型の横長剥片素材で、縁辺のみ加工される。13は素材先端部が折損し、打面側に刃部が作出される。15・16は緑色泥岩製で、15は全面的に剝離によって整形され、部分的に敲打が見られる。研磨は行われない。16は幅9cmの大型の折損品でほぼ全面が研磨される。(鈴木)

時期：出土遺物等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

竪穴住居跡 3 (H-3) (図Ⅲ-5・18・24、図版10~12・32・34・77)

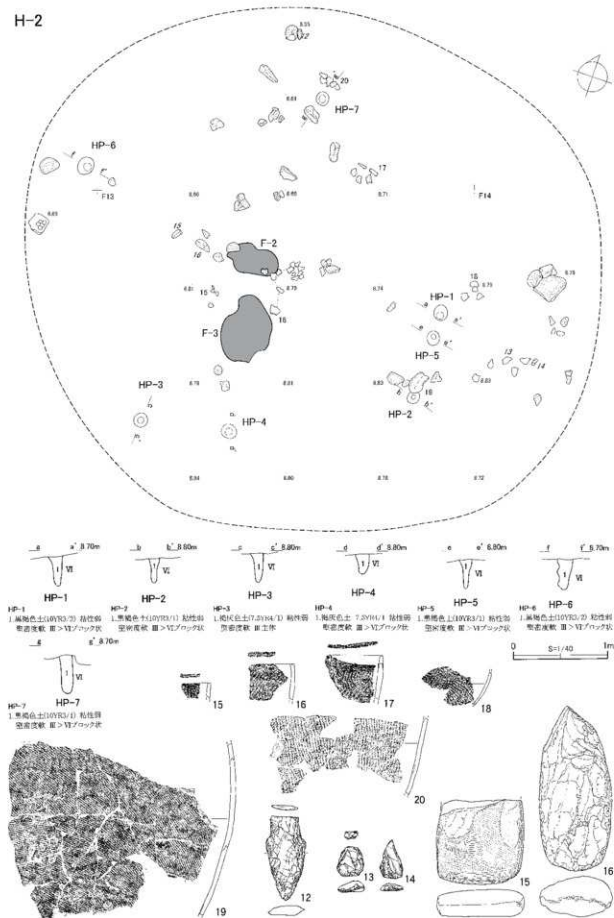
位置：D・E12・13区

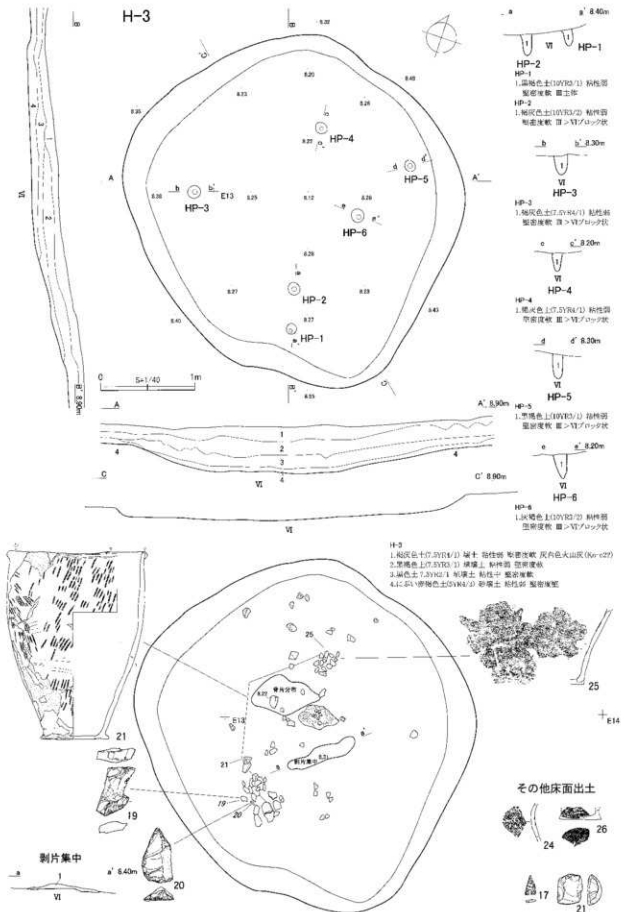
規模：3.70/3.33×3.36/2.94×0.30m 平面形：不整形円形 長軸方向：N-40°-W

確認・調査：表土除去後、包含層の調査中に暗褐色土の堆積を確認した。土質観察用のベルトを設定して掘り下げたところ、床面と遺物、緩やかな立ち上がりを確認し、竪穴状遺構と判断した。不整形円形を呈した小型のもので、最大径は3.7mである。舌状部のような施設はなく、床面には焼土も認められない。床面から壁面への立ち上がりは非常に緩やかで、自然地形を利用して築かれたかのである。床面中央に砂岩製の台石が置かれ、これを挟んで黒曜石の剥片集中約80cm×16cmと灰白色を呈した骨片の広がり約80cm×40cmを検出した。黒曜石の剥片集中は8,954点を数えた。また、骨片は粉末状で形態から同定することは困難である。台石を挟んでその南側と北側には土器片も分布していた。床面からはVI群 a 1 類土器が317点、石鏝6点、搔器2点、削器5点、ナイフ1点、つまみ付きナイフ1点、両面調整器5点、砥石1点、二次加工ある剥片7点等、計703点の遺物が出土した。柱穴は6か所検出した。径は約10cm~15cm、深さ約20cm~25cmである。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-18-21~25はVI群 a 1 類土器である。21は平底で底角が外側に張り出す。胴部は斜めに立ち上がり、胴中央部で湾曲し、口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、口唇部は外反する。縄文は縦走気味で、節の間隔が広い。22は小型の深鉢で、胴下部が斜めに立ち上がり、胴上部で湾曲し、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部には4か所突起があり、刻みのある二個一対の山形突起と単独の突起がそれぞれ対向する。斜行縄文施文後、無文地の口縁部上下に引かれた横走沈線間に5単位の菱形文が描かれ、その間に刺突文が充填される。23は口縁部で平行沈線と刺突列が巡る。24は深鉢ないし壺の頸部で縦走縄文の上に縄端圧痕列が2列巡る。25は底部で、胴部が外反する。

H-2





図III-5 H-3平面図・断面図・遺物分布図

26はVI b群土器である。平底で、底角は外側に張り出す。

図Ⅲ-24-17は石鏃、18はナイフ、19は両面調整石器、20は掻器I類、21は石核I b類である。17は左側縁が折れた素材を利用している。18は最終段階で裏面右側縁にやや粗い加工が行われる。19は両面調整の折損後、折れ面を打面として粗い剥離が行われている。20は亜角礫面が残る素材で、打面側に不整な刃部が作出される。21は小型の転礫素材で、正面のみで剥離が行われる。(鈴木)

時期：出土遺物等から判断すると縄文時代前半と考えられる。

(笠原)

竪穴住居跡4 (H-4) (図Ⅲ-6・19・24・27、図版13・14・34・77・78)

位置：D11・12区

規模：不明 平面形：不明 長軸方向：不明

確認・調査：調査区北側の斜面際を調査中に、半円形に浅く窪む地形を認識した。周辺を精査したところ、焼土が2か所検出されたため、住居跡として調査を行なった。

北西側は斜面部の削平と自然崩落によって約半分程度が失われている。焼土HF-1は砂岩を素材にした石組みを伴い、石組みは南西側が崩れているが、残された焼土を見ると、組まれていたときの状態を残し焼土がほぼ方形に残存している。焼土中には灰白色を呈した骨片が含まれていた。また、石組みには砂岩製の台石片が一部転用されている。

焼土HF-2は最大長が1.2mで東側に砂岩製の礫が1点確認された。この二つの焼土からは共にVI群a1類の土器片が15点出土しているが、2を切るように1の石組みが埋設されていることから1の方が新しいと思われる。HF-2の焼土廃棄後にHF-1が構築された可能性がある。壁の立ち上がりは南東側で確認でき、緩やかに立ち上がる。床面からはVI群a1類土器を含む計448点の遺物が出土した。柱穴は3か所検出し、径は約15cm~20cm、深さ約30cm~40cmである。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-19-27~29はVI群a1類土器である。27~29は同一個体で、胴部に縦走に近い縄文施文後、口縁部無文地部の上下が平行沈線によって区画され、その間に菱形文が描かれる。口縁部には刻みのある山形突起が作出され、口唇部には縦走に近い縄文が施文される。底部は縄文の施される平底で、胴部は直線的に斜めに立ち上がる。

図Ⅲ-24-22は両面調整石器である。上面・左面に折れ面が残り、折損後に折れ面からの再加工や折れ面への槌状剥離が行われる。

図Ⅲ-27-1は骨針II類である。針先に近い部分で、被熱により白色に変化している。(鈴木)

時期：出土遺物等から判断すると縄文時代前半と考えられる。

(笠原)

3 土坑

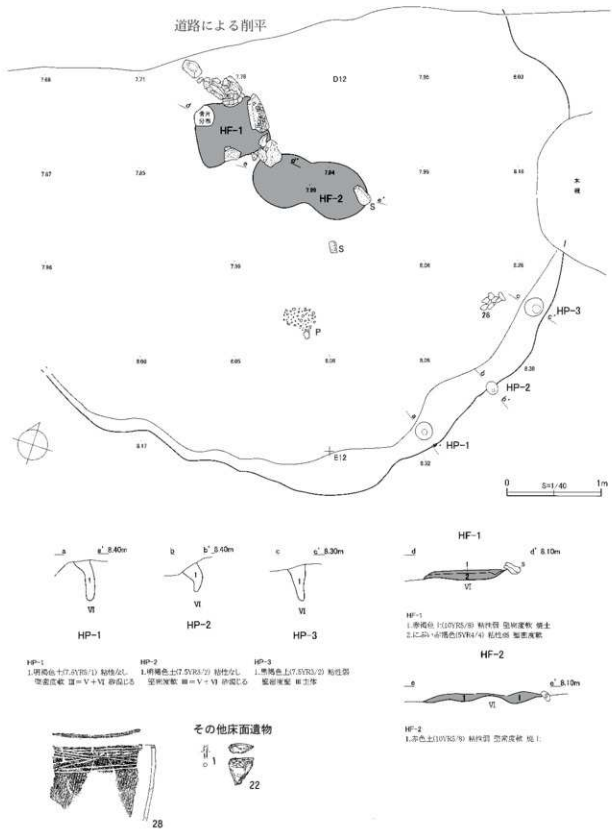
土坑1 (P-1) (図Ⅲ-7・19・25、図版15・35・77)

位置：D13区 規模：0.98/1.05×0.90/0.95×0.56m 平面形：円形

確認・調査：包含層調査後、V層上面で円形の黒色土のまとまりと焼土F-1を確認した。調査の結果、平坦な底面とほぼ垂直に立ち上がる壁面を確認した。南東側の底面からの立ち上がりはやや内傾している。覆土は埋め戻し状の堆積で人為的であることから土坑墓と判断した。坑底には微量な赤色顔料と灰白色の骨片様のものが僅かに認められた。覆土中からV群a1類の土器片が67点出土し、全体で217点の遺物が出土した。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-19-30・31・33・34はVI群a1類土器である。30は小型土器。31は外面に横走縄文が、口唇部にも縄文が施文される。33は縦走縄文に横走沈線が施される。34は平底の底部である。32

H-4



図III-6 H-4平面図・断面図

はVI群 a 2 類土器で、刻みのある山形突起部である。口唇部外側には刻みがあり、内面は丁寧に磨かれ、沈線が1条巡る。図Ⅲ-25-23は搔器Ⅲ類、24は泥岩製剥片、25は砥石Ⅱ類である。24は表面に葉脈が見られる。(鈴木)

時期：土坑の規模や形態等から縄文時代後半北大Ⅱ式土器の時期と考えられる。(笠原)

土坑2 (P-2) (図Ⅲ-7・19、図版15・35)

位置：F9区 規模：2.00/1.60×1.80/1.60×0.28m 平面形：円形

確認・調査：包含層調査後、V層上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。調査の結果、平坦な底面とこれに伴う直角礫を確認した。覆土にはI層下位で散見できる灰白色の火山灰が混じる。本遺構の南側に隣接して小ピットを検出した。径約25cm、深さ27cmである。覆土中から剥片を主体に計360点の遺物が出土した。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-19-35~37はVI群 a 1 類土器である。35は軸形状が断面円形の絡条体圧痕文である。36は縦位の縄線文が施されるもの。37は底部片で、底角が張り出す。(鈴木)

時期：アイヌ文化期以降と考えられる。(笠原)

土坑3 (P-3) (図Ⅲ-7・19~21・25・27、図版15・32・33・35・77・78)

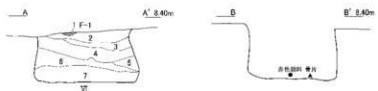
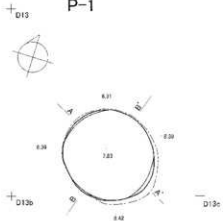
位置：F14区 規模：2.05/1.40×1.65/0.63×1.55m 平面形：楕円形

確認・調査：包含層調査後のV層上面で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。短軸(南北)方向に半截し、西側を掘り下げたところ深さ1.6mの深い円形の土坑(P-3 a)で、二つの土坑が切り合うことが推測された。残り半分を長軸(東西)方向にさらに半截したところ、深さ1mの土坑(P-3 b)が検出され、その坑底には赤色顔料が分布し、また、坑底付近の土層がⅢ・VI層の混じる埋め戻しによるものであることから土坑墓と考えられる。P-3 bの覆土上層はP-3 aに向かって落ち込んでいることからP-3 aが後に形成されている。

土器はI群 b 2 類が4点、I群 b 4 類が4点、V群 c 1 類が100点、V群 c 2 類が1点、VI群 a 1 類が912点、VI群 b 類が4点出土し、VI群 a 1 類が多く、4 個体が復元された。調査の所見ではそのほとんどがP-3 aの覆土中からの出土である。

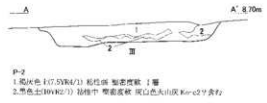
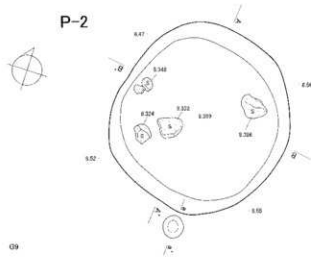
掲載遺物：図Ⅲ-20-42はI群 b 2 類土器である。微隆起線に縄の圧痕が施される。図Ⅲ-19~21-38~41・43~51・53はVI群 a 1 類土器である。38は口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。刻みのある山形突起が3か所あり、突起の下部には直径2mm程度の小さな穿孔がある。縄文はRL斜行縄文が施される。39は胴部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がる。口唇部は切り出し状で内側には縄の圧痕が施される。RL縄文が縦位に施文される。40は小型土器で、底部は凸底である。口縁部には平行沈線が巡り、中の二本は4か所の切れ間があり、1か所は連結する。41は底角のある平底で、胴下部で内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。山形突起は4か所あり、二個一對の山形突起と単体の山形突起がそれぞれ対向する位置にある。突起には内外面に縄の圧痕が施される。外面にはRL縦走縄文が、口唇部にもRL縄文が施文される。接合面は両傾である。土器の表面は橙色の部分と黒斑が見られるが、その模様は破片で途切れることから破損後に二次的に被熱していると考えられる。43・44は同一個体である。口縁部下部でわずかに内湾し、口縁部は垂直に立ち上がる。胴部にはRL縦走縄文が施文され、口縁部に横走沈線の施文後、その下部に1段分RL斜行縄文が施される。口唇部には斜めに棒状工具にてキザミが付けられる。45は底部で、底角が不明瞭である。46は沈線文が、47は縄線文が、48は撚糸文が施文され、49~51は縦走縄文が施される。53は壺の頸部から胴下部にかけての破片で、頸部には深い横走沈線が2条、その下に縄端圧痕列が施され、胴部には縦走縄文が施文される。胴部は丸い。図Ⅲ-21-52はVI群 b 類土器の底部である。底部近くで若干内湾している。

P-1



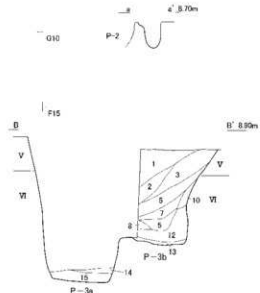
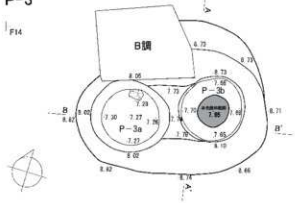
- P-1
 1.赤色土(10V95/4) 粘性中 堅硬成軟 緩土 P-1
 2.黒色土(10V92/1) 粘性弱 堅硬成軟
 3.褐色土(7.5V96/6) 粘性弱 堅硬成軟 III+IV層位土ブロック状
 4.暗褐色土(7.5V93/1) 粘性强 軟硬成軟 III>IV土V
 5.褐色土(7.5V98/4) 粘性强 軟硬成軟 III+IV層位土ブロック状
 6.褐色土(7.5V94/3) 粘性强 堅硬成軟 III+IV層位土ブロック状
 7.褐色土(7.5V96/6) 粘性强 堅硬成軟 III中心 粘結凝非色面状、骨片?

P-2



- P-2
 1.褐色土(7.5V94/1) 粘性强 堅硬成軟 I層
 2.褐色土(10V92/1) 粘性强 堅硬成軟 灰白色土(10K-c2)骨片?

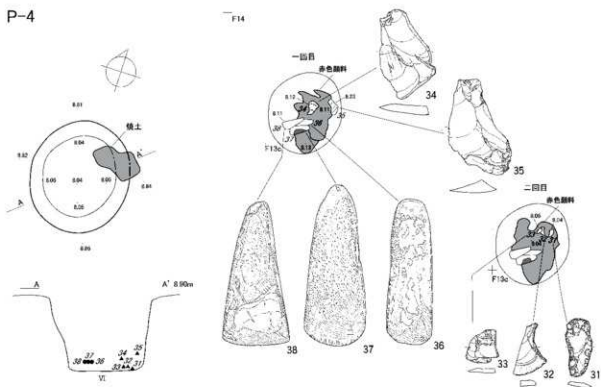
P-3



- P-3
 1.褐色土(7.5V93.2/1) 粘性强 堅硬成軟 II層
 2.褐色土(7.5V92/2) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 III土
 3.暗褐色土(7.5V93/1) 粘性强 粘性强 堅硬成軟 III層位
 4.褐色土(7.5V95/6) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 VI層位
 5.褐色土(10V92/2) 粘性强 粘性强 軟硬成軟 III>IV
 6.褐色土(10V94/3) 粘性强 粘性强 堅硬成軟 V>VI
 7.暗褐色土(10V92/2) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 III>IV IIIにVI混じる
 8.暗褐色土(10V92/3) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 V層
 9.褐色土(10V92/2) 粘性强 粘性强 軟硬成軟 III>IV
 10.赤褐色土(10V93/3) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 VI混
 11.褐色土(10V92/3) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 VI混
 12.褐色土(10V94/4) 粘性强 粘性强 堅硬成軟 V>VI
 13.褐色土(10V93/3) シルト質粘土 粘性强 堅硬成軟 VI>VII
 14.褐色土(7.5V93/3) 粘性强 粘性强 堅硬成軟 V混
 15.褐色土(10V94/6) 粘性强 粘性强 堅硬成軟 V>VI

図III-7 P-1~3平面図・断面図

P-4



P-5-6

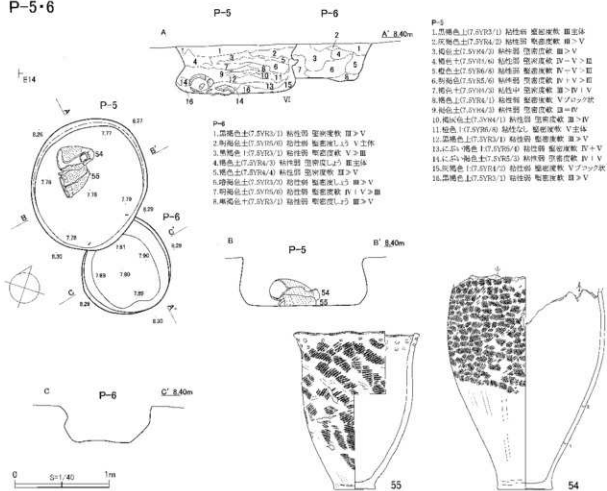


图 III-8 P-4~6 平面图·断面图·遗物分布图

図Ⅲ-25-26は石鉄Ⅰb類、27・28は石鉄Ⅲb類である。29・30は搔器Ⅲ類である。図Ⅲ-27-2は骨製品で、2mm間隔で縦方向に溝が刻まれ、両側縁に刻みが施される。被熱により白色に変化している。

時期：P-3aはVI群a1類が覆土中に多量に含まれることから縄文時代前半期と考えられ、P-3bは縄文時代晩期後葉～縄文時代前半期と考えられる。（鈴木）

土坑4（P-4）（図Ⅲ-8・25・26、図版16・78）

位置：D13区 規模：1.20/0.86×1.05/0.78×0.82m 平面形：円形

確認・調査：包含層調査後のV層上面で近現代の攪乱を確認した。近代の廃棄物等があったためにスコップによる掘り下げを30cm程度行っていた。異物除去後、移植ゴテで周辺を精査していた際に、上面に焼土と下に続く壁面を確認した。以後、土坑を想定して調査を行なった。その結果、覆土下層から黒色腐植土に混じる赤色顔料を確認し、その下位から黒曜石製の剥片石器と石斧が出土したことから土坑墓であると判断した。底面は平坦で壁面の立ち上がりは開口部に向かってやや開きぎみである。確認面からの深さは82cmを測る。開口部北側の壁面には暗褐色土の柱穴様のまとまりが数か所認められる。副葬品は重ねられる様に置かれた石斧が3本、黒曜石製大型剥片が3点、削器が2点である。覆土中からはV群c1類の土器片が29点、VI群a1類の土器片が3点、黒曜石の剥片20点等、計69点の遺物が出土した。また、覆土下層の赤色顔料を含む黒色腐植土はすべて採取し、内容物の選別も行なった。その結果、被葬者の歯、骨片を確認した。歯冠計測値による判別分析の結果（V章9）では被葬者は熟年女性と判定されている。（笠原）

掲載遺物：図Ⅲ-25-31はナイフ、32は削器Ⅱb類、33～35は剥片、36～38は石斧である。31・32は縁辺のみの加工で、32は側縁が内湾する。原産地分析の結果、31は「上土幌群」、32・35は「白滝2群」、33・34は「白滝1群」と判定された。32～35には角縁面が残存し、原石は白滝の露頭付近で採集されたと思われる。遺跡全体で34・35のような10cm程度の大型剥片は無く、また、分析結果でも置戸産黒曜石が主体で、上土幌産が少数含まれる状況を見ると副葬品として特徴的な産地組成である。36～38はほぼ同じサイズの完形品で、敲打と研磨によって整形される。全て赤色顔料が分布する坑底出土であるため赤色顔料が付着していたが、特に38の基部側には線状に赤色顔料の付着が確認された。着柄時の露出部に相当する可能性があり、着柄状態での副葬の可能性もある。（鈴木）

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。（笠原）

土坑5（P-5）（図Ⅲ-8・21、図版16・17・33・35）

位置：E14区 規模：1.30/1.40×1.15/1.20×0.50m 平面形：円形

確認・調査：包含層調査後のV層上面で、切り合う二つの黒褐色土の堆積を確認した。二つの遺構を半截し、底面と壁面の確認、土層の観察を行ない新旧関係の確認も行なった。P-5はP-6を壊すように構築されていた。覆土は主にⅢ層やV層がブロック状に混じる埋め戻しによる堆積で人為的である。坑底からはVI群b類土器が2個体隣接して横倒しの状態で出土した。床面はほぼ平坦で、壁面はやや内傾ぎみに立ちあがる。覆土中からはVI群a1類の土器片が88点、V群c1類の土器片が13点、黒曜石の剥片が16点等、計197点の遺物が出土した。規模や覆土の状態等から土坑墓と考えられる。（笠原）

掲載遺物：図Ⅲ-21-54～57はP-5出土で、56・57はVI群a1類、54・55はVI群b1類土器である。

56は口唇部が切り出し状で、口縁部には沈線と刺突列が巡る。57はLR縦走縄文が施文され、角形の口唇部には棒状工具による刻みが見られる。54は平底で、垂直に立ち上がり、外反して胴中央部でほぼ垂直に立ち上がり、頸部がくびれる。縄文は細かく、胴中央部から上位にかけて施文される。口縁

部は内面からの剥離によって壊されているが、破片は、土坑内はもとより調査区内からも出土しなかった。表面の炭化物の付着が激しい。55はほぼ完形品である。底部は平底で底部から胴部にかけて斜めに立ち上がり、胴中央部から垂直に変化し、口縁部が外反する。縄文は疎らで、LR縄文を斜め方向に回転し、特に、胴下部では縞状である。口縁部には2段の突起状の円形刺突列が巡る。口唇部は角形で、縄文が施文される。54・55とも接合面は内傾の可能性が高い。(鈴木)

時期：出土した遺物から判断すると縄文時代後半北大Ⅱ式の時期である。(笠原)

土坑6 (P-6) (図Ⅲ-8・26、図版16・17・78)

位置：E14区 規模：1.00/0.70×(0.94)/(0.78)×0.40m 平面形：円形

確認・調査：包含層調査後のV層上面で、切り合う二つの黒褐色土の堆積を確認した。本遺構はP-5によって1/3程度壊されており、P-5に比べやや小型である。覆土は埋め戻し状の堆積でⅢ層、V層がブロック状に混じり、覆土中には微量の赤色顔料が認められる。底面の形態はほぼ平坦であるが、底から立ち上がる壁面は北東側が開きぎみに立ち上がるのに対し、南西側はフラスコ状を呈する。底面出土の遺物はない。覆土中からは黒曜石製のつまみ付きナイフが1点、削器が2点、楔形石器が1点、両面調整石器1点等、計31点の遺物が出土した。覆土の状態などから土壌墓と考えられる。

(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-26-39はつまみ付きナイフ、40は楔形石器である。(鈴木)

時期：P-5との関連性から縄文時代晩期後葉以降、縄文時代後半北大Ⅱ式土器までの時期が考えられる。(笠原)

土坑7 (P-7) (図Ⅲ-9、図版17)

位置：F9区 規模：0.70/0.60×0.68/0.58×0.15m 平面形：円形

確認・調査：漸移層であるV層を調査中に黒褐色土の堆積を確認した。底面はうねりがあり、平坦ではなく、壁は皿状に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。

時期：周囲の状況等から判断すると縄文時代晩期後葉から縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑8 (P-8) (図Ⅲ-9・21、図版17・35)

位置：F8区 規模：1.00/0.87×0.90/0.80×0.80m 平面形：円形

確認・調査：V層を調査中に黒色土の堆積を確認した。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がり、深さ約80cmを測る。覆土は埋め戻してⅢ層、V層、VI層がブロック状に混じる人為的な堆積であることから土坑墓と考えられる。床面直上から砂岩製のたたき石が1点出土した。また、覆土7層と覆土8層のほぼ同一面からV群c1類土器が1点、たたき石が1点、鎌が10点確認された。その他に覆土中からVI群a1類の土器片が5点、石斧1点、削器2点等、計84点の遺物が出土した。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-21-58・59はVI群a1類土器である。59には縦横の縄線文が施される。(鈴木)

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑9 (P-9) (図Ⅲ-9、図版18)

位置：E11区 規模：0.85/0.65×0.80/0.65×0.45m 平面形：円形

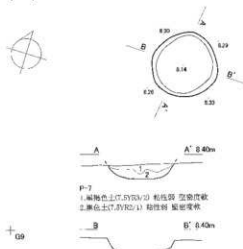
確認・調査：V層を調査後、VI層上面で黒褐色土の堆積を確認した。底面はやや丸みを帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は埋め戻してⅢ層、V層、VI層がブロック状に混じる人為的な堆積であることから土坑墓と考えられる。覆土中からV群c1類の土器片を含む計5点の遺物が出土した。

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代晩期後葉から縄文時代前半と考えられる。(笠原)

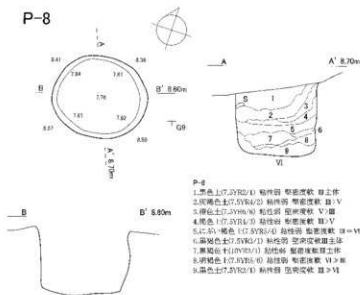
土坑10 (P-10) (図Ⅲ-9、図版18)

位置：E12区 規模：0.70/0.65×0.70/0.60×0.35m 平面形：円形

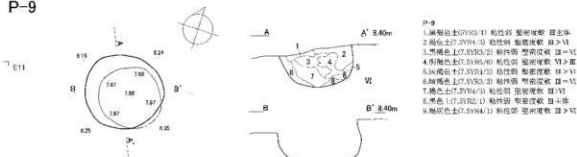
P-7



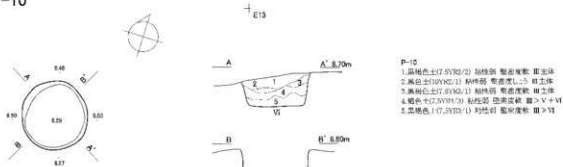
P-8



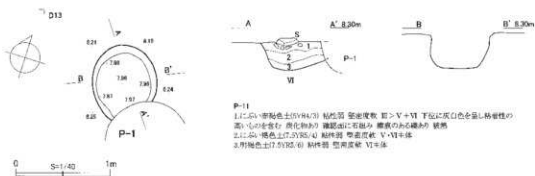
P-9



P-10



P-11



図III-9 P-7~11平面図・断面図

確認・調査：V層を調査中に黒褐色土の堆積を確認した。底面は平坦で壁面はやや外傾するように立ち上がる。覆土は埋め戻して、赤色顔料が混じる人為的な堆積であることから土坑墓と考えられる。覆土下層から黒曜石の剥片が9点出土した。この他に覆土中からはVI群a1類の土器片が19点、V群c1類の土器片が2点、黒曜石の剥片が15点、砂岩の礫1点等、計49点の遺物が出土した。

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。（笠原）

土坑11（P-11）（図Ⅲ-9、図版18）

位置：D13区 **規模**：0.77/0.60×0.68/0.56×0.38m **平面形**：円形

確認・調査：V層を調査中にP-1に切られる小規模な赤褐色土の堆積を確認した。P-1によって南東側の約1/4程度が壊されている。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土1層には擦痕のある泥岩を素材にした砥石や砂岩製の台石等が出土し、V群c1類の土器片3点とVI群a1類の土器片も3点含まれていた。また、覆土1層中には灰白色を呈した粘性の高い骨片様のものも含まれる。この他に覆土中等から計72点の遺物が出土した。

時期：遺物の出土状況やP-1との関連性から縄文時代晩期後葉以降、縄文時代後半北大Ⅱ式までの時期が考えられる。（笠原）

土坑12（P-12）（図Ⅲ-10・26・27、図版18・19・78）

位置：F11区 **規模**：0.83/0.63×0.72/0.63×0.30m **平面形**：円形

確認・調査：V層を調査中に黒褐色土の堆積を確認した。底面はほぼ平坦であり南東側に傾斜している。壁面は底部が広く、内傾するように立ち上がる。覆土は埋め戻して、人為的な堆積である。底面直上の赤色顔料の混じる黒褐色土層の中からは、滑石を素材にした勾玉が1点、砂岩製のたたき石が1点、黒曜石製のナイフが2点、頁岩製のナイフが1点出土した。この他に覆土中から計14点の遺物が出土した。土器は出土していない。土坑墓である。（笠原）

掲載遺物：図Ⅲ-26-41~43はナイフ、44は剥片、45は勾玉、46はたたき石である。41は頁岩製で整った形状である。42は押圧剥離によるとみられる加工により薄い。43は表面の稜の潰れが激しい。44はやや大型の剥片で、角礫面が残る。46は正面の上下にくぼみがあり、上部の周辺や下部の右側面に敲打痕がある。二か所のくぼみの位置から上下を持ち替えて利用したものと推察される。産地分析では42が「白滝1」群、43が「所山」群と判定された。（鈴木）

時期：遺物の出土状況などから判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。（笠原）

土坑13（P-13）（図Ⅲ-10、図版19）

位置：F10区 **規模**：0.84/0.84×0.80/0.73×0.48m **平面形**：円形

確認・調査：V層調査後のVI層上面で明褐色土の堆積を確認した。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、南東側がフラスコ状を呈する。下層の黒色土層の上に明褐色のVI層が被せられるように堆積していることから人為的に手が増えられたように見受けられる。出土遺物はない。

時期：周囲の状況等から判断すると縄文時代晩期後葉から縄文時代前半と考えられる。（笠原）

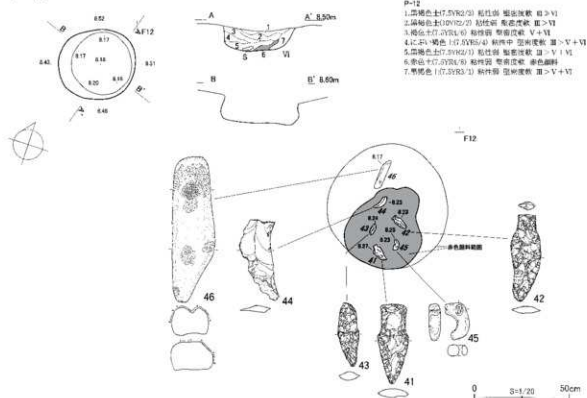
土坑14（P-14）（図Ⅲ-10・22、図版19・35）

位置：F12区 **規模**：1.02/0.75×0.97/0.70×0.25m **平面形**：円形

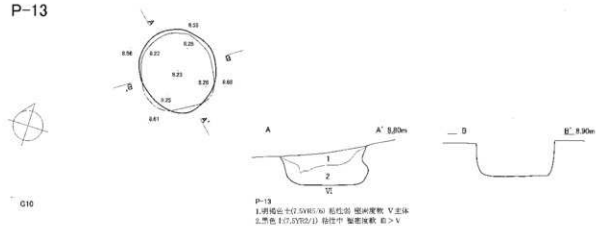
確認・調査：V層調査後のVI層上面で、にぶい褐色土の堆積を確認した。底面はややうねりがあり、東側に少し傾斜している。壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は覆土中からV群c1類の土器片が2点、VI群a1類の土器片が2点出土した。（笠原）

掲載遺物：図Ⅲ-22-60・61はVI群a1類土器である。60は口縁部で、縦走縄文の上に沈線文と縄線文が交互に施文され、口唇部には縄の圧痕が見られる。61は底部で、底角が明瞭で、上げ底気味の底

P-12



P-13



P-14

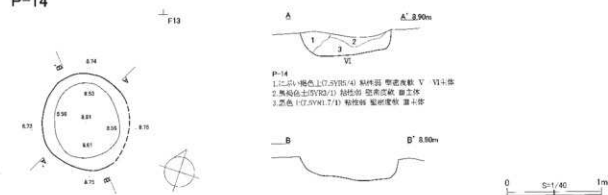


图 III-10 P-12~14 平面图・断面图・遺物分布图

面には縄文が施文される。上部には両傾の接合面が残る。(鈴木)

時期：遺物の出土状況等から判断すると統縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑15 (P-15) (図Ⅲ-11、図版19・20)

位置：E12区 規模：1.05/0.80×0.95/0.77×0.28m 平面形：円形

確認・調査：P-10調査後、隣接する樹根の下部を精査中に赤褐色を呈した赤色顔料を確認した。樹根に覆われていたためこれを除去してから調査を行なった。西側の一部はP-10に切られる。土坑を想定し、半截を行い平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を検出した。底面直上で黒色腐植土とこれに混じる赤色顔料も確認した。土坑墓と考えられる。黒曜石製の両面調整石器1点と剥片が3点出土した。

時期：P-10との関連性から縄文時代晩期後葉から統縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑16 (P-16) (図Ⅲ-11、図版20)

位置：F12区 規模：0.75/0.60×0.73/0.63×0.27m 平面形：円形

確認・調査：V層調査後のVI層上面で、暗褐色土の堆積を確認した。半截を行ない底面と壁面、土層の観察を行なった。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。坑底中央には赤色顔料が分布し、覆土は人為的な埋戻しが考えられる。遺物は覆土中からV群c1類の土器片7点、剥片1点が出土した。

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。(鈴木)

土坑17 (P-17) (図Ⅲ-11、図版20)

位置：G8区 規模：0.62/0.53×0.55/0.44×0.35m 平面形：円形

確認・調査：V層調査後のVI層上面で、にぶい黄褐色土の堆積を確認した。半截を行ない底面と壁面、土層の観察を行なった。底面は皿状で、壁面はオーバーハングして立ち上がる。覆土は土坑下部に黒褐色土が堆積している。出土遺物はない。

時期：遺物の形状等から判断すると縄文時代晩期後葉から統縄文時代前半期と考えられる。(鈴木)

土坑18 (P-18) (図Ⅲ-11・22、図版20・35)

位置：E12区 規模：0.54/0.31×0.50/0.25×0.40m 平面形：円形

確認・調査：焼土F-10の調査後、VI層上面を精査したところ黄褐色土の堆積を確認した。半截したところ小型の土坑であることが判明した。径は約50cm、深さが40cmである。底面は丸みを呈し、壁面は緩やかに外傾する。覆土はV層とVI層が混じり合い、炭化物が全体に多く含まれている。遺物は覆土下層からV群c1類の土器片が1点、黒曜石製の剥片が2点出土し、覆土上層からVI群a1類の土器片が3点、黒曜石製の剥片が4点、めのう製剥片が1点、骨片様のものが1点出土している。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-22-62はVI群a1類土器で、沈線文、2条の縄線文、縄端丘痕列が見られる。(鈴木)

時期：遺物の出土状況等から判断すると統縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑19 (P-19) (図Ⅲ-11、図版20・21)

位置：F10区 規模：0.60/0.55×0.60/0.50×0.30m 平面形：円形

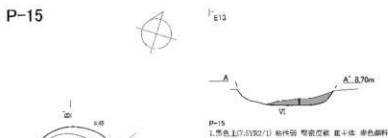
確認・調査：VI層上面を精査中に明褐色土の堆積を確認した。底面はほぼ平坦で壁面は外傾するように立ち上がる。覆土は埋戻しでⅢ層、V層、VI層がブロック状に混じる人為的な堆積であることから土坑墓と考えられる。覆土中からはV群c1類土器を含む計6点の遺物が出土した。

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。(笠原)

土坑20 (P-20) (図Ⅲ-12・22、図版21・35)

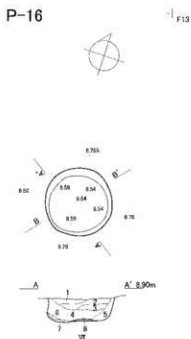
位置：F10区 規模：1.50/1.17×1.48/1.25×0.80m 平面形：円形

P-15



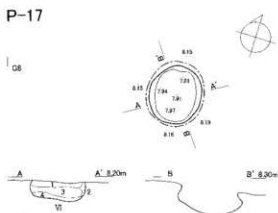
P-15
1.赤色土(7.5)R2/D 粘埃質 壺底灰紋 葦斗体 赤色顔料

P-16



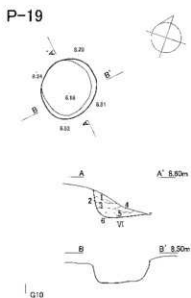
P-16
1.緑褐色土(7.5)R3/D 粘埃質 壺底灰紋 葦斗V シルト質層上
2.緑色土(1)R2/D 粘埃質 壺底灰紋 V>VI シルト質層上
3.緑褐色土(1)R2/D 粘埃質 壺底灰紋 葦斗体 粘埃層上
4.緑褐色土(1)R2/D シルト質層上 粘埃質 壺底灰紋 葦斗VI
5.黄褐色土(1)R2/D シルト質層上 粘埃質 壺底灰紋 VI>V
6.褐色土(1)R2/D 粘埃質 粘埃質 壺底灰紋 VI斗体
7.緑褐色土(1)R2/D シルト質層上 粘埃質 壺底灰紋 葦斗体
8.緑赤褐色土(5)R2/D 粘埃質 粘埃質 壺底灰紋 赤色顔料

P-17



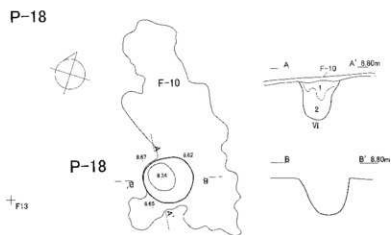
P-17
1.赤土・黄褐色土(1)R4/D 粘埃質 粘埃質中 壺底灰紋 葦斗体
2.黄褐色土(1)R5/D 粘埃質 粘埃質中 壺底灰紋 VI>V
3.赤褐色土(1)R2/D 粘埃質 粘埃質中 壺底灰紋 葦斗体
4.緑褐色土(1)R2/D 粘埃質 粘埃質中 壺底灰紋 VI>VI

P-19



P-19
1.黄褐色土(7.5)R2/D 粘埃質 壺底灰紋 V+VI斗体
2.赤褐色土(7.5)R4/D 粘埃質 壺底灰紋
3.褐色土(7.5)R4/D 粘埃質 壺底灰紋
4.緑褐色土(7.5)R4/D 粘埃質 壺底灰紋
5.黄褐色土(7.5)R2/D 粘埃質 壺底灰紋
6.赤褐色土(7.5)R2/D 粘埃質 壺底灰紋 2>P-15赤色顔料機軸

P-18



P-18
1.黄褐色土(1)R2/D 粘埃質 壺底灰紋 V+VI 同化物中心
2.褐色土(7.5)R4/D 粘埃質 壺底灰紋 V-VI 同化物、VI貯土層片状化

0 5m/40 1m

図III-11 P-15~19平面図・断面図

確認・調査：VI層上面を精査中に黒褐色土の堆積を確認した。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がり、開口部で外反する。覆土は下部がⅢ・VI層がブロック状に混じる人為的な堆積で、上部は黒褐色土がレンズ状に堆積する自然堆積状である。土坑墓と考えられ、上部は遺体の腐敗による土坑上面の落ち込みに伴う自然堆積の可能性がある。坑底からは7点の礫が出土し、覆土中からは土器がI群b4類1点、V群c1類2点、VI群a1類66点、VI群b類1点、石器は石鏃2点、両面調整石器1点、二次加工ある剥片4点、剥片120点、礫3点が出土した。

掲載遺物：図Ⅲ-22-64~66はVI群a1類土器である。全てRL縦走縄文が施文され、64には沈線と円形刺突列が、65には縄線文が施文される。65は二個一対の山形突起がある。

時期：遺構の形態と出土遺物から判断して縄文時代後半期と考えられる。(鈴木)

土坑21 (P-21) (図Ⅲ-12・27、図版21・78)

位置：E11・12区 **規模**：0.95/0.70×0.90/0.66×0.52m **平面形**：円形

確認・調査：VI層上面を精査中に黒褐色土の堆積を確認した。底面はほぼ平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がり、開口部で僅かに外傾する。覆土は埋め戻してⅢ層、V層、VI層がブロック状に混じる人為的な堆積である。覆土下層からは黒褐色土に混じる赤色顔料も確認した。この層の下からは泥岩を素材にした球状礫が1点、両面調整石器が1点、黒曜石製の剥片が2点出土した。この他に覆土中からV群c1類土器を含む計24点の遺物が出土している。なお、覆土下層の赤色顔料を含む黒色腐植土はすべて採取し、内容物の選別も行った。その結果、被葬者の歯を確認した。冠計測値による判別分析の結果、被葬者は子供(5-6歳)女性であると推定された(VI章9)。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-27-47は両面調整石器で、裏面には粗い剥離が見られる。48は球状礫である。(鈴木)

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。(笠原)

土坑22 (P-22) (図Ⅲ-12、図版21)

位置：F7・8区 **規模**：1.50/1.37×1.38/1.20×0.33m **平面形**：円形

確認・調査：V層調査後、VI層上面で黒色土の堆積を確認した。底面はややうねりがあり、北西側にやや傾斜している。壁面は北東側が内傾し、南西側は皿状に立ち上がる。覆土は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。

時期：周囲の状況等から判断すると縄文時代晩期後葉から縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑23 (P-23) (図Ⅲ-12、図版22)

位置：E10・11区 **規模**：0.80/0.65×0.70/0.65×0.35m **平面形**：円形

確認・調査：V層調査後、VI層上面で黒褐色土の堆積を確認した。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がり、開口部でやや外傾する。覆土はⅢ層、V層、VI層がブロック状に混じる人為的な堆積である。覆土10層の暗赤褐色土の中には粘性の高い灰白色土が含まれることから、土坑墓と考えられる。出土遺物はない。

時期：土坑の形態やH-1の関連性から縄文時代晩期後葉と考えられる。(笠原)

土坑24 (P-24) (図Ⅲ-12・22、図版22・35)

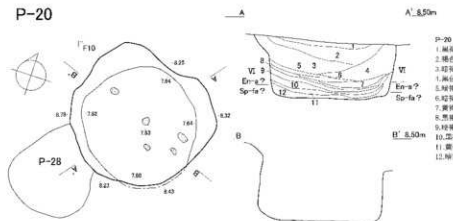
位置：G5区 **規模**：不明 **平面形**：不明

確認・調査：VI層上面で樹根の下部を精査中、赤色顔料の混じる赤色土を検出した。プランや掘り込みは残っていないため、規模や形態は不明である。底面に残る覆土の範囲は40cm×20cmである。覆土中からV群c1類の土器片が13点、黒曜石の剥片が1点出土した。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-22-63はV群c1類土器である。無文の壺の底部付近とみられる。(鈴木)

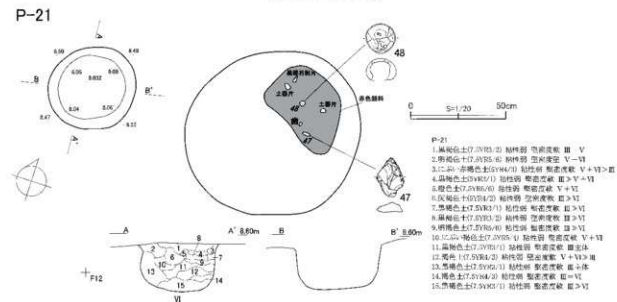
時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。(笠原)

P-20



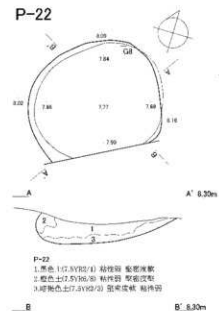
- P-20
- 1.黒褐色土(17.5V13/3) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 2.褐色土(17.5V14/4) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅴ>Ⅲ>Ⅱ
 - 3.暗褐色土(17.5V15/5) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 4.黒褐色土(17.5V16/6) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 5.暗褐色土(17.5V17/7) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 6.暗褐色土(17.5V18/8) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 7.黄褐色土(17.5V19/9) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅴ>Ⅲ
 - 8.黄褐色土(17.5V20/10) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅴ>Ⅲ
 - 9.黄褐色土(17.5V21/11) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅴ>Ⅲ
 - 10.赤褐色土(17.5V22/12) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 11.黄褐色土(17.5V23/13) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅴ>Ⅲ
 - 12.黄褐色土(17.5V24/14) 粘結性 起粒中 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ

P-21



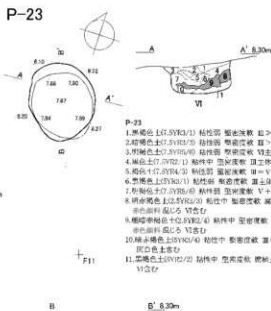
- P-21
- 1.黒褐色土(17.5V13/3) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ V
 - 2.黄褐色土(17.5V15/5) 粘結性 堅硬度軟 V-Ⅴ
 - 3.赤褐色土(17.5V16/6) 粘結性 堅硬度軟 V+Ⅴ>Ⅲ
 - 4.黄褐色土(17.5V17/7) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ+Ⅴ
 - 5.黄褐色土(17.5V18/8) 粘結性 堅硬度軟 V+Ⅴ
 - 6.黄褐色土(17.5V19/9) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 7.黄褐色土(17.5V20/10) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 8.黄褐色土(17.5V21/11) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 9.黄褐色土(17.5V22/12) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 10.赤褐色土(17.5V23/13) 粘結性 堅硬度軟 V+Ⅴ
 - 11.黄褐色土(17.5V24/14) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 12.黄褐色土(17.5V25/15) 粘結性 堅硬度軟 V+Ⅴ>Ⅲ
 - 13.黄褐色土(17.5V26/16) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 14.黄褐色土(17.5V27/17) 粘結性 堅硬度軟 V+Ⅴ>Ⅲ
 - 15.黄褐色土(17.5V28/18) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ

P-22



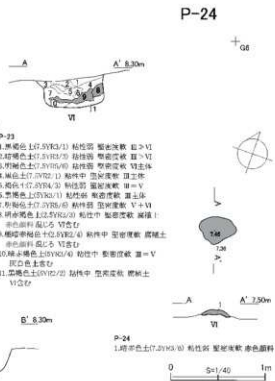
- P-22
- 1.黒色土(17.5V13/3) 粘結性 堅硬度軟
 - 2.褐色土(17.5V14/4) 粘結性 堅硬度軟
 - 3.暗褐色土(17.5V15/5) 堅硬度軟 粘結性弱

P-23



- P-23
- 1.黒褐色土(17.5V13/3) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 2.暗褐色土(17.5V15/5) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 3.明褐色土(17.5V16/6) 粘結性 堅硬度軟 ⅤⅢⅤⅢ
 - 4.黒色土(17.5V22/12) 粘結性 堅硬度軟 ⅢⅢⅢⅢ
 - 5.褐色土(17.5V14/4) 粘結性 堅硬度軟 Ⅲ>Ⅴ
 - 6.黄褐色土(17.5V19/9) 粘結性 堅硬度軟 ⅢⅢⅢⅢ
 - 7.明褐色土(17.5V16/6) 粘結性 堅硬度軟 V+Ⅴ
 - 8.明褐色土(17.5V19/9) 粘結性 堅硬度軟 ⅢⅢⅢⅢ
 - 9.赤褐色土(17.5V22/12) 粘結性 堅硬度軟 ⅢⅢⅢⅢ
 - 10.明褐色土(17.5V19/9) 粘結性 堅硬度軟 ⅢⅢⅢⅢ
 - 11.赤褐色土(17.5V22/12) 粘結性 堅硬度軟 ⅢⅢⅢⅢ

P-24



- P-24
- 1.暗褐色土(17.5V15/5) 粘結性 堅硬度軟 赤色顔料

図III-12 P-20~24平面図・断面図・遺物分布図

土坑25 (P-25) (図Ⅲ-13・22、図版22・35)

位置：F 10 規模：0.40/0.20×0.35/0.20×0.30m 平面形：円形

確認・調査：VI層上面を精査中に柱穴様の黒褐色土の堆積を確認した。検出面の径は約40cm、深さは約30cmである。底面は丸みを帯び、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。15cm程掘り下げたところ、炭化物の混じる赤色土を検出した。この覆土の下には長さ31cm、重さ約7kgの砂岩製台石と、この上に被せるように置かれたVI群a 1類土器のやや大型の破片が出土した。この土器と台石を取り上げたところ、坑底には灰白色を呈した粉末状の骨片様のものが認められ、台石の破片も51点出土した。(笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-22-67はVI群a 1類土器である。胴下部が内湾し、口縁部までほぼ直線的に立ち上がる。RL縦走縄文の施文後に、口縁部に縄線文が施される。角形の口唇部にも縄文が見られる。(鈴木)

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

土坑26 (P-26) (図Ⅲ-13、図版22)

位置：F 8区 規模：0.95/0.38×0.70/0.41×0.40m 平面形：楕円形

確認・調査：V層調査後、VI層上面で黒褐色土の堆積を確認した。底面は平坦で、壁面は南東側がほぼ垂直に、北西側は外反して立ち上がる。覆土はⅢ層を主体にVI層が混じる。坑底に赤色顔料が分布することから土坑墓と考えられる。出土遺物は剥片1点のみである。

時期：遺物の形状等から判断して縄文時代晩期後葉から縄文時代と考えられる。(鈴木)

土坑27 (P-27) (図Ⅲ-13、図版22・23)

位置：F 9区 規模：0.95/0.80×0.89/0.75×0.45m 平面形：円形

確認・調査：V層調査後、西斜面トレンチ1に伴うベルトにて黒色土の堆積を確認した。掘り込み面はⅢ層中である。底面は平坦で、壁面は南東側がオーバーハング気味に、北西側は外反して立ち上がる。覆土は下半部に黒褐色土が堆積する。出土遺物はない。

時期：遺物の形状等から判断して縄文時代晩期後葉から縄文時代と考えられる。(鈴木)

土坑28 (P-28) (図Ⅲ-13、図版23)

位置：F 9・10区 規模：(1.05)/(0.90)×0.90/0.80×0.25m 平面形：円形

確認・調査：西斜面トレンチ1に伴うベルトのV層調査後、暗褐色土の堆積を確認した。底面は平坦で、壁面は外反する南西側を除いてほぼ垂直に立ち上がる。北側はP-20に切られる。覆土はⅢ・VI層が混じり、埋め戻しとみられる。覆土中からV群c 1類の土器片が7点出土した。

時期：出土遺物から判断して縄文時代晩期後葉と考えられる。(鈴木)

土坑29 (P-29) (図Ⅲ-13、図版23)

位置：F 14区 規模：不明 平面形：楕円形

確認・調査：V層調査後、調査区南壁に暗褐色土の堆積を確認した。調査区外に広がるため全体の調査はできなかったが、調査区内で底面と壁面、土層の観察を行なった。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。掘り込み面はⅢ層下部で、覆土は黒褐色土が主体である。出土遺物はない。

時期：掘り込み面の層位から縄文時代晩期後葉と考えられる。(鈴木)

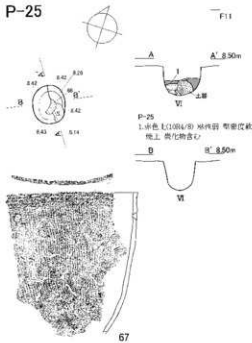
4 集石

集石1 (S-1) (図Ⅲ-14・22・27、図版23・35・78)

位置：E 13・14区 規模：1.82×1.10m

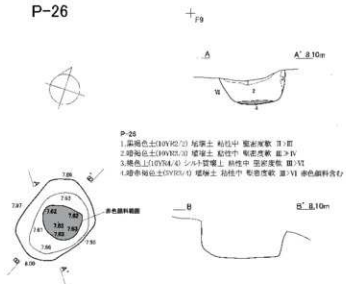
確認・調査：Ⅲ層下位を調査中に、大小の円礫や亜角礫がまとまっている範囲を検出した。これらの

P-25



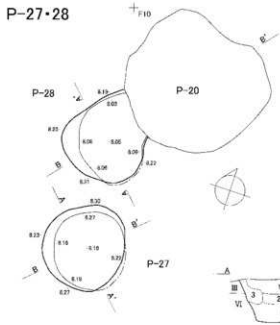
P-25
1.赤色土(10B4/6) 粘性弱 壱密成軟
地上 炭化物含む

P-26

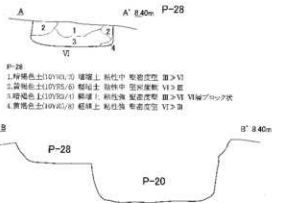


P-26
1.黒褐色土(10V12/2) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>IV
2.黒褐色土(10V12/3) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>IV
3.褐色土(10V14/4) シルト質礫土 粘性中 壱密成軟 III>VI
4.黒赤褐色土(10V15/1) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>VI 赤色顔料含む

P-27・28

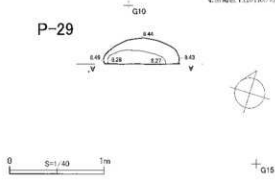


P-27
1.褐色土(10V14/6) 礫層上 粘性中 壱密成軟 黒色顔料
2.黒褐色土(10V12/2) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>IV 3層に壱取
3.黒色土(10V12/4) 礫層上 粘性中 壱密成軟 III>IV 礫? 木炭?
4.黒褐色土(10V12/3) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>IV



P-28
1.黒褐色土(10V12/2) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>VI
2.黒褐色土(10V12/3) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>VI
3.褐色土(10V12/4) シルト質礫土 粘性中 壱密成軟 III>VI 礫? 木炭?
4.黒褐色土(10V12/3) 粘厚土 粘性中 壱密成軟 III>VI

P-29



P-29
1.黒褐色土(10V12/2) 粘厚土 粘性中 壱密成軟
2.黒褐色土(10V12/3) シルト質礫土 粘性中 壱密成軟 III>IV
3.褐色土(10V14/6) シルト質礫土 粘性中 壱密成軟 III>IV
4.黒褐色土(10V12/3) 粘厚土 粘性中 壱密成軟

図III-13 P-25~29平面図・断面図

礫は約1.82×1.10cmの範囲に分布しており集石遺構と判断した。礫は91点を数え、主に安山岩と砂岩で構成され、多くが被熱している。これらの中には擦り面のある砂岩製の台石が1点含まれていた。この他にVI群 a 1 類の土器片が10点、黒曜石製のナイフが2点出土した。(笠原)

掲載遺物: 図Ⅲ-22-69はVI群 a 1 類土器である。底部は上げ底気味で、頸部がすぼまる形状で、横走縄文施文後、無文地の頸部に縄線文と刺突列が巡る。頸部上部には内面からの刺突による突瘤が見られる。図Ⅲ-27-49・50はナイフで、50の基部は尖頭状である。(鈴木)

時期: 遺物の出土状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

集石 2 (S-2) (図Ⅲ-14、図版23)

位置: D12区 **規模:** 0.45×0.35m

確認・調査: III層下位を調査中に4つの礫が向き合うように出土した。石質は砂岩が2点で安山岩が2点である。砂岩製の礫のひとつは風化が著しく取り上げ時に細かく割れたものがある。また、やや小型の安山岩には、黒色を呈した顕著な被熱痕が認められた。

時期: 周囲の状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

集石 3 (S-3) (図Ⅲ-14、図版23)

位置: G8区 **規模:** 1.40×0.78m

確認・調査: III層上面を調査中に扇状に広がる円礫の分布を確認した。南側は調査区域外に伸びており、全体の形は捉えられない。安山岩が約20点、砂岩が4点で、一部被熱の痕跡が認められる。

時期: 周囲の状況や出土層位等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

集石 4 (S-4) (図Ⅲ-14・27、図版23・78)

位置: D12区 **規模:** 1.72×0.83m

確認・調査: V層上面を調査中に大型の礫で構成される集石を検出した。二つのまとまりに分かれ、北側には安山岩を素材にした台石とたたき石、泥岩製の砥石の3点が、南側は大型の安山岩2点と砂岩の礫が2点、重なり合うように配置されていた。南側の4つの礫を取り上げたところ、その下位から明赤褐色土の堆積を確認した。深さは約10cmで覆土には多くの炭化物が含まれていた。(笠原)

掲載遺物: 図Ⅲ-27-51は砥石で、上・正・左・裏面に幅広の擦り面があり、裏面上部には幅2mmの狭く、深い擦り面がある。(鈴木)

時期: 周囲の状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

集石 5 (S-5) (図Ⅲ-14、図版23)

位置: F12区 **規模:** 0.45×0.30m

確認・調査: V層上面を調査中にやや扁平な礫で組まれた礫のまとまりを確認した。石質は安山岩と砂岩で構成され、砂岩製の砥石が1点含まれる。扁平な礫の上には安山岩の円礫が乗せられたように出土した。円礫に顕著な使用痕は見られないがたたき石と思われる。

時期: 周囲の状況等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

集石 6 (S-6) (図Ⅲ-14・22、図版24・35)

位置: G6区 **規模:** 1.90×1.58m

確認・調査: V層上面を調査中に礫の分布する範囲を検出した。礫は安山岩、砂岩、緑色泥岩、花崗岩等があり、被熱しているものが多い。この中には砂岩製の台石が1点含まれていた。本遺構の中央部には灰白色を呈した骨片の広がりが確認され、VI群 a 1 類の土器片も24点出土した。また、南側で検出した3つの礫の下には径約40cm、深さ約30cmの掘り込みがあり、坑底から重さ約7kgを量る砂岩製の礫が出土した。この礫を取り上げたところ、その下位から鹿角が出土した(図版102-2)。鹿角

は長さが約16cmで、重さは61gを量る。角幹の角座から又状部分で先端部は欠損している。(笠原)
掲載遺物：図Ⅲ-22-70~75はVI群 a 1 類土器である。70は胴部が膨らみ、口縁部がやや内傾するものである。RL縦走縄文が施文される。口縁部には外面から内面への突瘤列が巡る。口縁部には山形突起があり、口唇部には縄文が施される。71は平行・斜位の沈線文に刺突文が充填される。72・74・75は同一個体とみられるものでRL縦走縄文が施文される。底部はわずかに凸状で、底部付近には両傾の接合面がある。73はRL縦走縄文が施文され、切り出し状の口縁部は外反する。(鈴木)
時期：出土遺物等から判断すると縄文時代前半と考えられる。(笠原)

5 焼土

焼土 1 (F-1) (図Ⅲ-15、図版24)

位置：D13区 **規模**：0.40×0.33/0.05m

確認・調査：P-1を検出した際に覆土の上面で検出した。断面の形態は薄い凸レンズ状である。土坑墓として扱ったP-1に関わる焼土の可能性がある。

時期：P-1に伴うと考えられることから縄文時代後半、北大Ⅱ式土器の時期が考えられる。(笠原)

焼土 2 (F-2) (図Ⅲ-15、図版24)

位置：F13区 **規模**：0.30×0.18/0.08mm

確認・調査：Ⅲ層の下部を精査中に、標高約8.9mで南北に隣接する二つの焼土を検出した。北側の焼土をF-2として調査を行なった。断面の形態は薄い凸レンズ状である。H-2として扱った遺構の中央やや南西側に位置している。遺物は黒曜石製の石鏃が1点、搔器が1点、VI群 a 1 類の土器片が46点、VI群 b 類の土器片21点等、計71点が出土した。

時期：遺物出土状況等から判断すると縄文時代後半が考えられる。(笠原)

焼土 3 (F-3) (図Ⅲ-15、図版24)

位置：F13区 **規模**：0.35×0.27/0.08m

確認・調査：Ⅲ層の下部を精査中に、標高約8.9mで二つの焼土を検出した。F-2の南側に位置している。断面の形態は薄い凸レンズ状である。遺物はVI群 a 1 類の土器片が110点、VI群 b 類が4点、焼成粘土塊が4点の計118点が出土している。

時期：遺物の出土状況等から判断すると縄文時代前半から縄文時代後半が考えられる。(笠原)

焼土 4 (F-4) (図Ⅲ-15、図版24)

位置：F6区 **規模**：0.45×0.20/0.15m

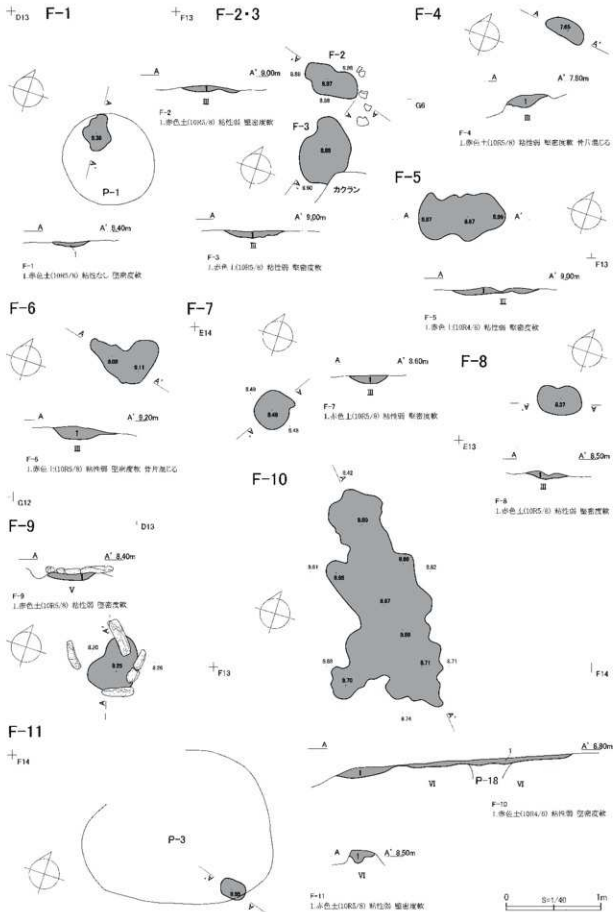
確認・調査：調査区南西端の斜面際、標高7.65mで検出した。断面の形態は凸レンズ状であり、焼土中には微細な骨片様のものが認められる。斜面際にあるために、本来もう少し広がっていた焼土が一部流失していることが考えられる。遺物は焼土中からV群 c 1 類の土器片が40点出土した。この焼土の下部には樽前 c 火山灰がある。また、出土した炭化材とクルミ片を用いて放射性炭素年代測定を行なった。その結果、炭化材：2,210±30yrBP、クルミ片：2510±30yrBPという年代値が測定された。

時期：遺物出土状況や年代測定結果から、縄文時代晩期後葉から縄文時代前半と考えられる。(笠原)

焼土 5 (F-5) (図Ⅲ-15、図版24)

位置：E12区 **規模**：0.92×0.55/0.07m

確認・調査：Ⅲ層上面の標高8.90mで検出した。断面の形態は薄い凸レンズ状である。遺物は焼土中からVI群 a 1 類の土器片が25点出土した。性格は不明である。



図III-15 F-1~11平面図・断面図

時期：遺物の出土状況等から判断すると統縄文時代前半と考えられる。 (笠原)

焼土6 (F-6) (図Ⅲ-15、図版25)

位置：F12区 規模：0.75×0.46/0.15m

確認・調査：Ⅲ層上面の標高 約9mで検出した。断面の形態は凸レンズ状である。遺物は焼土中からVI群 a 1類の土器片が6点出土し、灰白色の骨片様のものも含まれていた。焼土中から出土したクルミ片を用いて放射性炭素年代測定を行なった結果、2,290±30yrBPの測定値が得られている。

時期：遺物出土状況や年代測定値等からみて統縄文時代前半と考えられる。 (笠原)

焼土7 (F-7) (図Ⅲ-15、図版25)

位置：E14区 規模：0.43×0.36/0.10m

確認・調査：Ⅲ層上面の標高 8.48mで検出した。断面の形態は凸レンズ状である。遺物は焼土中からVI群 a 1類の土器片が36点出土した。この焼土の下部からP-5を検出し、坑底からは2個体のVI群 b類土器が出土している。

時期：P-5との関連性から統縄文時代後半北大Ⅱ式土器の時期が考えられる。 (笠原)

焼土8 (F-8) (図Ⅲ-15、図版25)

位置：D13区 規模：0.45×0.34/0.10m

確認・調査：H-3の覆土1層と覆土3層の層界で検出した。標高は8.37mで、断面の形態は薄い凸レンズ状である。遺物は焼土中からVI群 a 1類の土器片が34点出土した。焼土中から出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行なった結果、1,600±30yrBPの測定値が得られている。

時期：年代測定の結果から判断すると統縄文時代後半と考えられる。 (笠原)

焼土9 (F-9) (図Ⅲ-15、図版25)

位置：D12区 規模：0.63×0.50/0.08m

確認・調査：V層上面の標高約8.3mで検出した。炉石と考えられる、長さ30cm～40cmの砂岩製の棒状礫を4つ伴う。いずれの石も板状に細かく割れており、接合作業も行なった。焼土の断面形はレンズ状を呈する。遺物はVI群 a 1類の土器片が2点出土した。

時期：遺物出土状況や周囲の状況等から判断すると統縄文時代前半と考えられる。 (笠原)

焼土10 (F-10) (図Ⅲ-15・22、図版25)

位置：E・F13区 規模：2.54×1.32/0.10m

確認・調査：VI層上面の標高約8.6m～8.7mで検出した。北西方向から南東側に広範囲に広がる。断面の形態は北西側がやや厚い凸レンズ状である。南東側に向かいほぼ均一に堆積している。遺物はVI群 a 1類の土器片が15点、V群 c 1類の土器片が71点、両面調整石器が2点、剥片113点等、計205点の遺物が出土した。焼土中から出土したクルミ片を用いて放射性炭素年代測定を行なった結果、2,580±30yrBPの測定値が得られている。 (笠原)

掲載遺物：図Ⅲ-22-68はVI群 a 1類土器である。外面・口唇部に縄文が見られる。(鈴木)

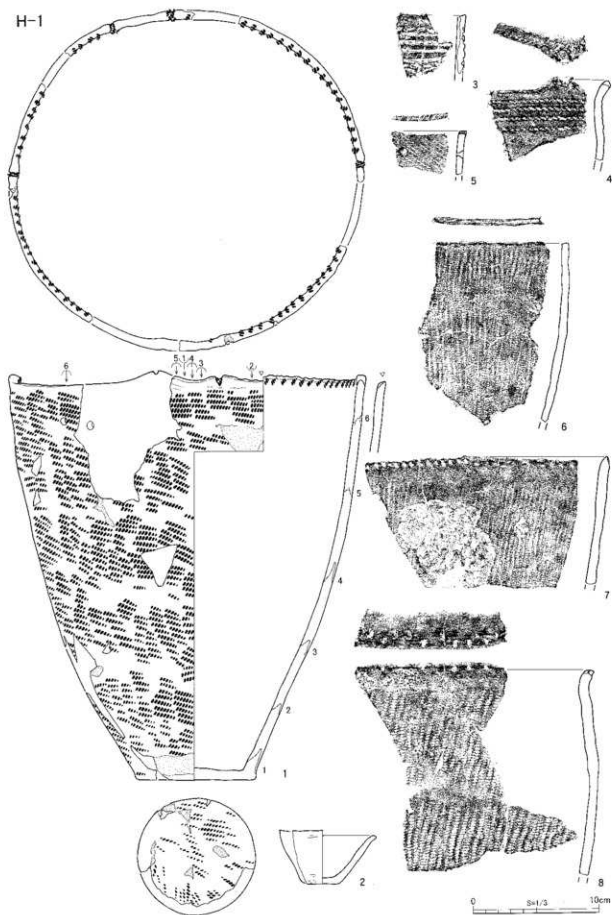
時期：年代測定値は縄文時代晩期後葉頃であるが、本遺構の下部からVI群 a 1類の土器片を伴うP-18が出土している。遺物の出土状況とP-18との関連性から統縄文時代前半と考えられる。 (笠原)

焼土11 (F-11) (図Ⅲ-15、図版25)

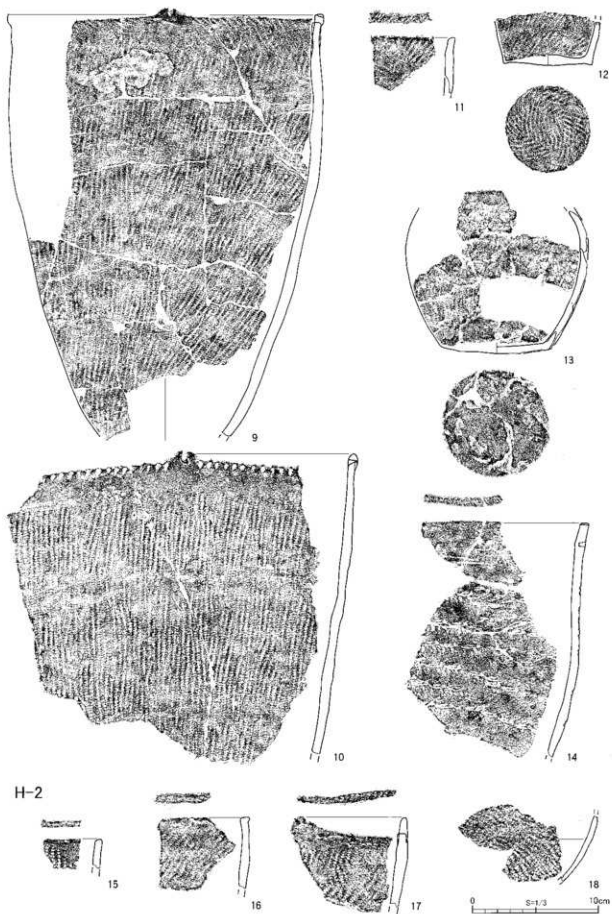
位置：F14区 規模：0.32×0.20/0.13m

確認・調査：V層上面の標高8.5mで検出した。断面の形態は凸レンズ状である。焼土中から出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行なった結果、2,500±30yrBPの測定値が得られている。

時期：年代測定値から判断すると縄文時代晩期後葉と考えられる。 (笠原)

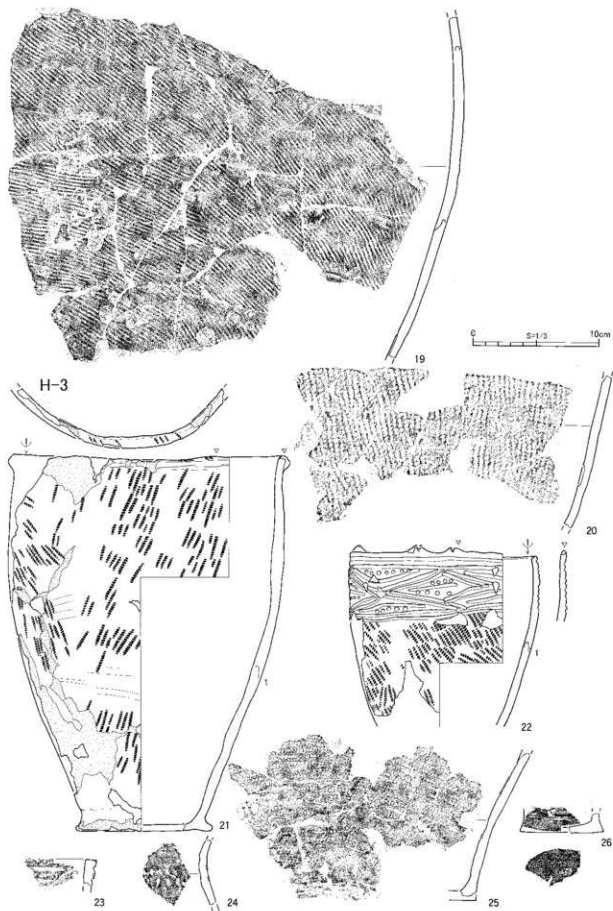


図III-16 遺構出土土器(1)



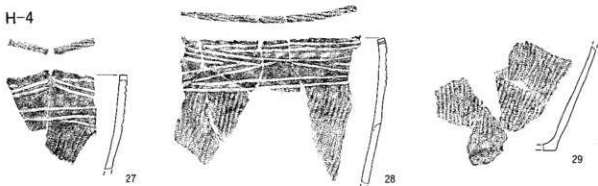
H-2

圖III-17 遺構出土土器(2)

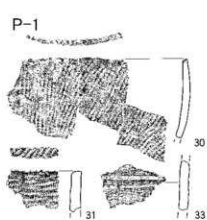


図III-18 遺構出土土器(3)

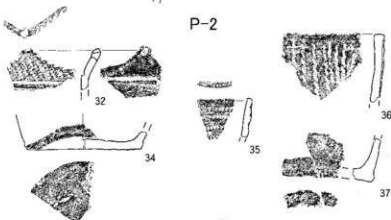
H-4



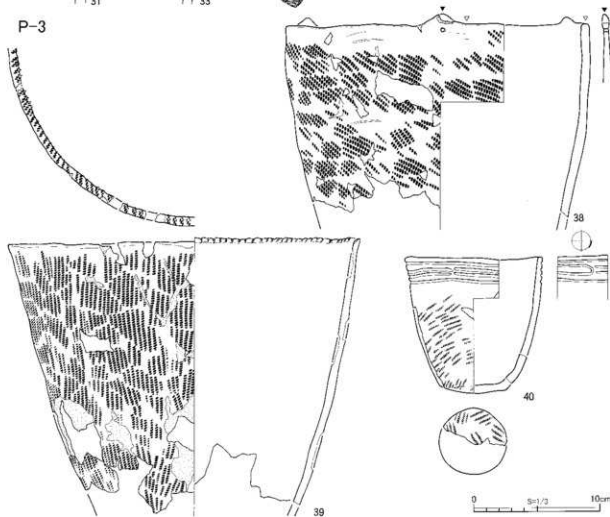
P-1

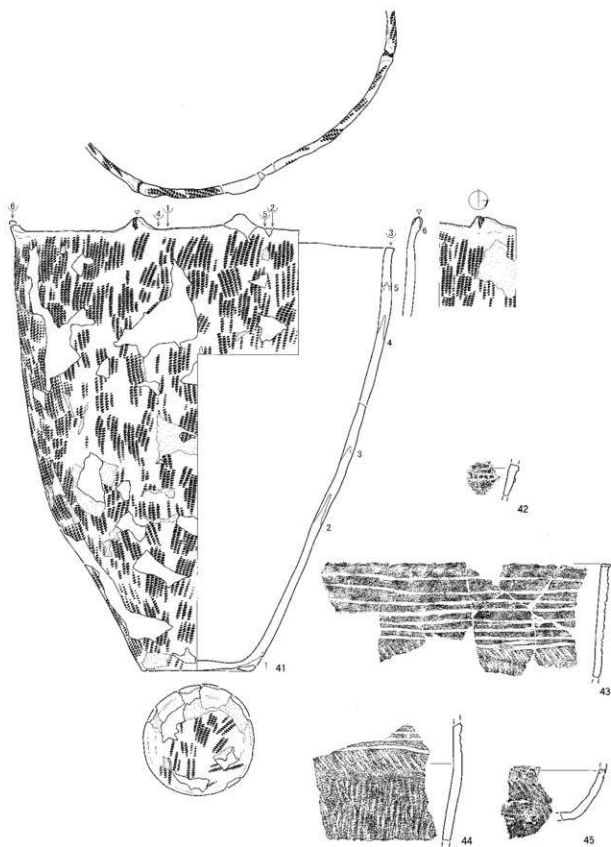


P-2



P-3

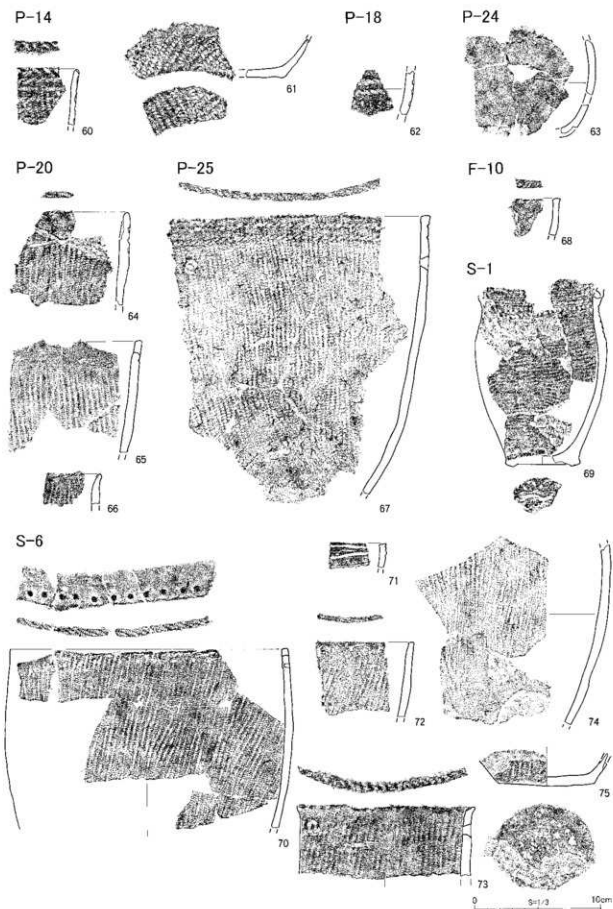




図III-20 遺構出土土器(5)



圖III-21 遺構出土土器(6)



図III-22 遺構出土土器(7)

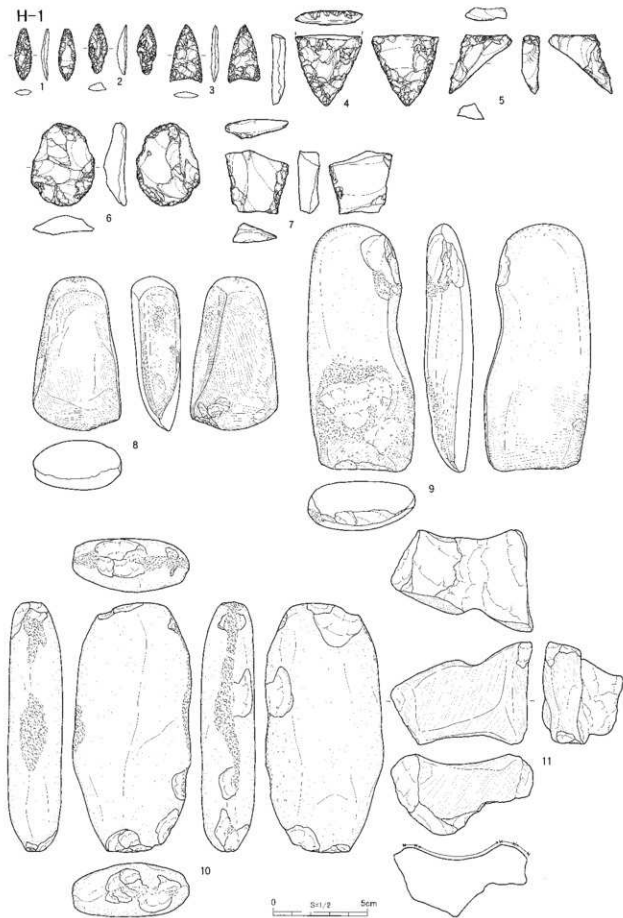
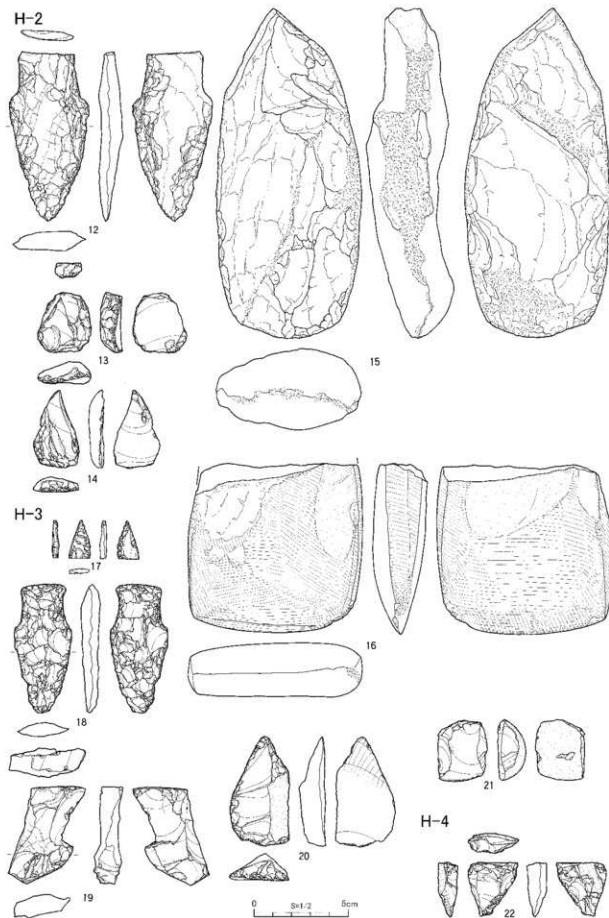
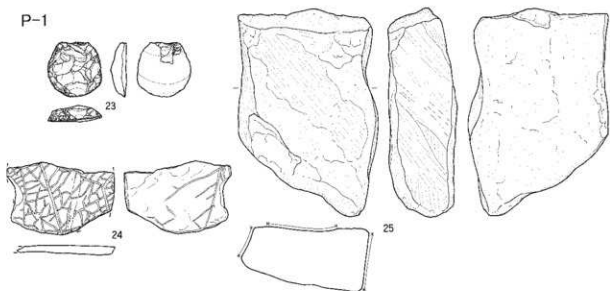


图 III-23 遺構出土石器(1)



図III-24 遺構出土石器(2)

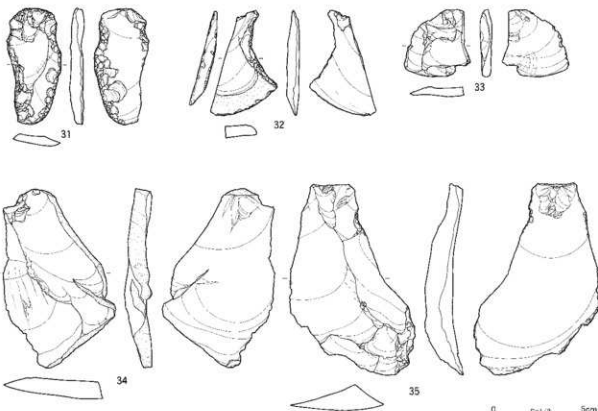
P-1



P-3

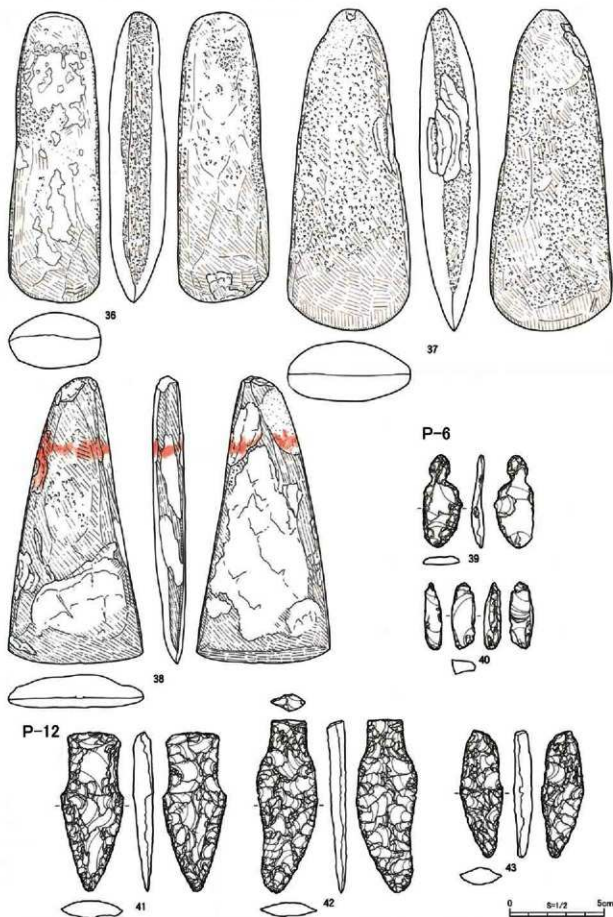


P-4

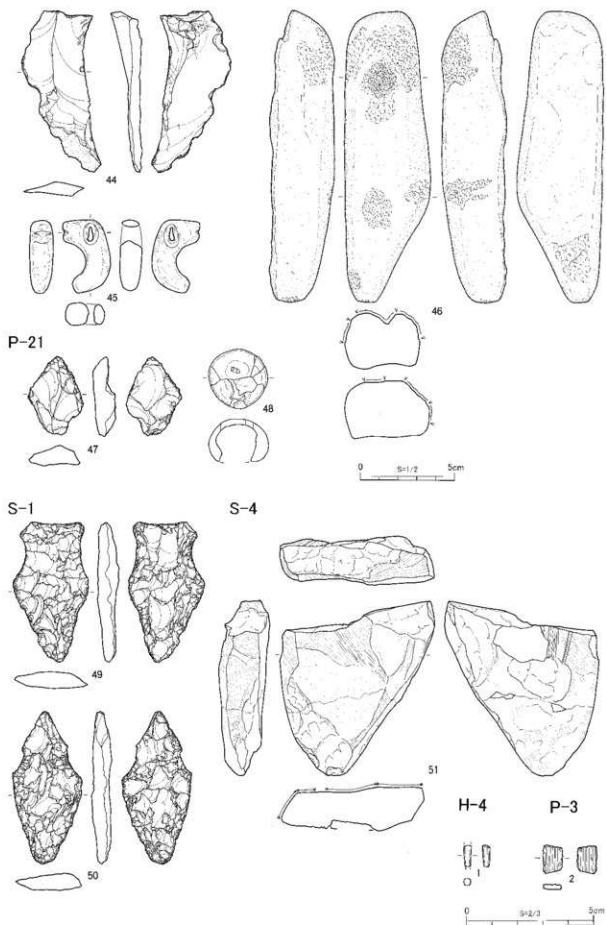


0 5cm 1/2 5cm

圖III-25 遺構出土石器(3)



図III-26 遺構出土石器(4)



圖III-27 遺構出土石器(5)、遺構出土骨角製品

6 動物遺存体

焼土を中心に被熱した骨が出土し、生骨が残存する魚骨類とは保存状態が異なるものと考えられる。魚骨は少量であるがサケ科椎骨が多くの焼土から出土し、その他、イトヨ、カレイ科、チョウザメ科、ニシン目などが見られる(表Ⅲ-2~8)。鳥骨は目不明・部位不明の小骨片が、哺乳類骨はシカ・イヌが土坑から少量出土している。特に、鹿角はP-10・S-6の覆土から出土し、緑ヶ岡遺跡(宇田川・澤1984)の土坑にも鹿角が出土した類例がある。(鈴木)

表Ⅲ-1 遺構規模一覽

遺構種類	遺構名	遺構高さ	階位	規模(m)		時期	備考
				幅	長さ		
土坑	H-1	E10・F10	Ⅱ	0.70/0.70	0.80/0.80	縄文時代前半	
	H-2	E・F・F13	Ⅱ			縄文時代前半	
	H-3	D・F・F13・F13	Ⅱ	3.70/3.30	3.30/2.80	縄文時代前半	
	H-4	D11・F13	Ⅱ			縄文時代前半	
	P-1	F13	V	0.98/1.05	0.90/0.96	縄文時代後半止人式	土坑墓
	P-2	F・F	V	2.00/1.60	1.80/1.60	マヌ文化期以降	
	P-3	F・F13	Ⅱ	2.00/1.40	1.60/0.60	縄文時代前期	土坑墓
	P-4	D13	V	1.50/0.80	1.05/0.70	縄文時代前期	土坑墓
	P-5	E・F13	V	1.30/1.40	1.15/1.30	縄文時代後半止人式	土坑墓
	P-6	E・F13	V	0.80/0.70	0.80/0.70	縄文時代前期	土坑墓
	P-7	F・F	V	0.70/0.60	0.68/0.58	縄文時代前期	土坑墓
	P-8	F・F	V	1.00/0.67	0.90/0.80	縄文時代前半	土坑墓
	P-9	E・F13	V	0.80/0.65	0.80/0.65	縄文時代前期	土坑墓
	P-10	E13	V	0.70/0.65	0.70/0.60	縄文時代前期	土坑墓
	P-11	D13	V	0.77/0.60	0.68/0.56	縄文時代前期	土坑墓
	P-12	F・F13	V	0.80/0.63	0.72/0.63	縄文時代前期	土坑墓
	P-13	F10	V	0.84/0.84	0.80/0.73	縄文時代前期	土坑墓
	P-14	F13	V	1.02/0.75	0.97/0.70	縄文時代前半	土坑墓
	P-15	E13	V	1.00/0.60	0.80/0.77	縄文時代前期	土坑墓
	P-16	F13	V	0.75/0.60	0.73/0.63	縄文時代前期	土坑墓
P-17	G・E	V	0.67/0.63	0.65/0.44	縄文時代前期	土坑墓	
P-18	E13	V	0.54/0.51	0.50/0.35	縄文時代前期	土坑墓	
P-19	F10	V	0.60/0.55	0.60/0.50	縄文時代前期	土坑墓	
P-20	F10	V	1.60/1.12	1.18/1.30	縄文時代後半止人式	土坑墓	
P-21	E11・F13	V	1.00/0.60	0.80/0.77	縄文時代前期	土坑墓	
P-22	F・F・E	V	1.60/1.37	1.38/1.30	縄文時代前期	土坑墓	
P-23	E10・F11	V	0.80/0.65	0.70/0.65	縄文時代前期	土坑墓	
P-24	G・E	V			縄文時代前期		
P-25	F10	V	0.40/0.30	0.35/0.30	縄文時代前半		
P-26	F・F	V	0.85/0.58	0.70/0.41	縄文時代前期	土坑墓	
P-27	F・F	V	0.95/0.80	0.80/0.75	縄文時代前期	土坑墓	
P-28	F・F・F10	V	1.00/0.90	0.80/0.80	縄文時代前期		
P-29	F10	V			縄文時代前期		
集石	S-1	E10・F13	Ⅱ	1.80	1.10	縄文時代前半	
	S-2	F13	Ⅱ	0.35	0.35	縄文時代前半	
	S-3	G・E	Ⅱ	1.60	0.70	縄文時代前半	
	S-4	F13	V	1.70	0.80	縄文時代前半	
	S-5	F13	V	0.35	0.30	縄文時代前半	
焼土	S-6	G・E	V	1.80	1.20	縄文時代前半	
	F-1	F13	Ⅱ・1層止人式	0.40	0.35/0.35	縄文時代後半止人式	
	F-2	F13	Ⅱ	0.30	0.18/0.18	縄文時代後半	
	F-3	F13	Ⅱ	0.30	0.27/0.18	縄文時代前半	
	F-4	F・E	Ⅱ	0.45	0.30/0.15	縄文時代前期	
	F-5	E13	Ⅱ	0.60	0.35/0.17	縄文時代前半	
	F-6	F13	Ⅱ	0.70	0.30/0.15	縄文時代前半	
	F-7	F13	Ⅱ	0.45	0.30/0.10	縄文時代後半止人式	
	F-8	E13	Ⅱ・1層止人式	0.45	0.34/0.10	縄文時代後半	
	F-9	F13	V	0.60	0.50/0.10	縄文時代前半	
F-10	E・F・F13	V	2.64	1.37/0.10	縄文時代前半		
F-11	F13	V	0.30	0.30/0.10	縄文時代前期		

表Ⅲ-2 遺構1mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外

遺構名	階位	土質	骨数		骨長		骨数	骨長	骨数	骨長	骨数	骨長
			種別	種別	種別	種別						
S-4	Ⅱ	カワンツンゾク										
S-1 集石												
集石												

表Ⅲ-3 遺構5mm出土魚上綱

遺構名	階位	魚骨類				その他				合計種別数	全骨数(片)		
		小笠原	魚骨類	鳥骨類	哺乳類	小笠原	魚骨類	鳥骨類	哺乳類				
H-3		小笠原	魚骨類	鳥骨類	哺乳類	小笠原	魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数
H-1(10F-1)	Ⅱ	魚骨類				魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
H-1(10F-1) 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-3	Ⅱ	魚骨類				魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-1	Ⅱ	魚骨類				魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-1 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-2 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-3 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-4 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-5 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-6 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-7 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-8 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-9 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
F-10 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
S-1 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
S-2 集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	
集石						魚骨類	鳥骨類	哺乳類	種別	骨数	種別	骨数	

表Ⅲ-9 遺構出土掲載土器一覽

棟号	図取	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	袋番号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
Ⅲ-16	32	1	H-1		床面	32①		Vb1	18	深鉢	口縁~底部	28.2	32.4	9.2	
			H-1		覆土 2		1								
			H-1		覆土 3		41								
			B調		B調	A-2		48							
Ⅲ-16	32	2	H-10P-2		覆土			Vb1	4	1=7+7	口縁~底部	7.2	4.3	2.7	
Ⅲ-16	33	3	H-1		床面	49		Vb1	7	深鉢	口縁				
Ⅲ-16	33	4	H-1		床面	39①		Vb1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-16	33	5	H-1		床面	29		Vb1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-16	33	6	H-1		床面	68		Vb1	4	深鉢	口縁				
Ⅲ-16	33	7	H-1		床面	35		Vb1	1	深鉢	口縁				
			H-1		床面	39①	2								
					F11	Ⅲ	1								
Ⅲ-16	33	8	H-1		床面	14		Vb1	3	深鉢	口縁				
			H-1		床面	17	3								
			H-1		床面	20	1								
			E11		Ⅲ			1							
Ⅲ-17	34	9	H-1		床面	72①		Vb1	2	深鉢	口縁				
					F11	Ⅲ	17								
					F11	V器残片	1								
Ⅲ-17	34	10	H-1		床面	64		Vb1	3	深鉢	口縁				
Ⅲ-17	34	11	H-1		床面	47		Vb1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-17	34	12	H-1		床面	73		Vb1	1	深鉢	底部				
Ⅲ-17	34	13	H-1		床面	11①		Vb1	13	窓	底部				
Ⅲ-17	34	14	H-1		覆土 3			Vb1	3	深鉢	口縁				
					D92	Ⅲ	3								
Ⅲ-17	34	15	H-2		床面	27①		Vb1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-17	34	16	H-2		床面	7		Vb1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-17	34	17	H-2		床面	10		Vb1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-17	34	18	H-2		床面	6		Vb1	2	深鉢	底部				
Ⅲ-18	34	19	H-2		床面	1		Vb1	23	深鉢	胴部				
					F11	Ⅲ	2								
					F13	Ⅲ	8								
Ⅲ-18	34	20	H-2		床面	11		Vb1	4	深鉢	胴部				
					E13	I	1								
					E13	Ⅲ	4								
					F13	Ⅲ	2								
Ⅲ-18	32	21	H-3		床面	1		Vb1	10	深鉢	口縁~底部	22.2	29.6	10.7	
			H-3		床面	2	14								
			H-3		床面	3	3								
			H-3		床面	16	3								
			H-3		床面	22	1								
Ⅲ-18	32	22	H-3		覆土 1			Vb1	1	深鉢	口縁~底部	14.7	(14.3)	-	
					E10	Ⅲ	1								
					E11	I	1								
					E11	Ⅲ	4								
					E12	I	2								
					E12	Ⅲ	9								
					E13	Ⅲ	1								
					F11	Ⅲ	1								
					F12	Ⅲ	4								
Ⅲ-18	34	23	H-3		覆土 2		Vb1	1	深鉢	口縁					
Ⅲ-18	34	24	H-3		床面上		Vb1	2	深鉢	胴部					
Ⅲ-18	34	25	H-3		床面	16		Vb1	12	深鉢	底部				
			H-3		床面	22		1							
			D13		Ⅲ			5							
Ⅲ-18	34	26	H-3		床面上			Vb1	1	深鉢	底部				
Ⅲ-19	34	27			D92	Ⅲ		Vb1	3	深鉢	口縁				
Ⅲ-19	34	28	H-4		床面	2		Vb1	6	深鉢	口縁				同一個体
					D12	Ⅲ		1							
Ⅲ-19	34	29			D12	Ⅲ		Vb1	4	深鉢	底部				
Ⅲ-19	35	30	P-1		覆土 2			Vb1	1	深鉢	口縁				

III 遺構と遺物

図号	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発番号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	備考
Ⅲ-19	35	30	P-1		覆土Ⅱ			Vn1	1						
			P-1		覆土Ⅲ				1	深鉢	口縁				
			P-1		覆土上				1						
Ⅲ-19	35	31	P-1		覆土Ⅴ			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-19	35	32	P-1		覆土上			Vn2	1	台付鉢?	口縁				
Ⅲ-19	35	33	P-1		覆土Ⅴ			Vn1	1	深鉢	胴部				
Ⅲ-19	35	34	P-1		覆土下			Vn1	1	深鉢	底部				
Ⅲ-19	35	35	P-2		覆土			I b1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-19	35	36	P-2		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-19	35	37	P-2		覆土			Vn1	2	深鉢	底部				
Ⅲ-19	32	38	P-3		覆土			Vn1	51	深鉢	口縁~胴部	(13.9)	(16.9)	—	
Ⅲ-19	32	39	P-3		覆土			Vn1	141	深鉢	口縁~胴部	(27.8)	(22.0)	—	
Ⅲ-19	33	40	P-3		覆土			V c 1	5						
			F14	Ⅲ			9		10×7	口縁~底部	10.8	10.8	(5.4)		
Ⅲ-20	33	41	P-3		覆土			Vn1	174						
			F14	Ⅱ			1		深鉢	口縁~底部	(30.2)	36.9	8.7		
Ⅲ-20	35	42	P-3		覆土			I b3	1	深鉢	胴部				
			P-3		覆土				1						
Ⅲ-20	35	43		F13	Ⅱ			Vn1	2	深鉢	口縁				同一個体
				F13	Ⅲ		5								
				F14	Ⅲ		1								
							1								
Ⅲ-20	35	44		F15	Ⅲ			Vn1	1	深鉢	胴部				
Ⅲ-20	35	45	P-3		覆土			Vn1	2	深鉢	底部				
Ⅲ-21	35	46	P-3		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	47	P-3		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	48	P-3		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	49	P-3		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	50	P-3		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	51	P-3		覆土			Vn1	2	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	52	P-3		覆土			Vb	4	深鉢	底部				
Ⅲ-21	35	53	P-3		覆土			Vn1	1						
				F14	Ⅱ		2		瓷	胴部					
				F14	Ⅲ		9								
Ⅲ-21	33	54	P-5		坑底	1		Vb	19	深鉢	胴部~底部	—	(23.9)	8.6	
Ⅲ-21	33	55	P-5		坑底	2		Vb	21	深鉢	口縁~胴部	20.0	24.9	6.4	
Ⅲ-21	35	56	P-5		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	57	P-5		覆土			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	58	P-8		覆土中			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-21	35	59	P-8		覆土中			Vn1	1	深鉢	胴部				
Ⅲ-22	35	60	P-14		覆土			Vn1	2	深鉢	口縁				
Ⅲ-22	35	61	P-14		覆土			V c 1	1	深鉢	底部				
Ⅲ-22	35	62	P-18		覆土上			Vn1	1	深鉢	胴部				
Ⅲ-22	35	63	P-24		覆土上			V c 1	3						
			P-24		覆土中				2	瓷	底部				
			P-20		覆土下				1						
Ⅲ-22	35	64	P-20		覆土中			Vn1	1	深鉢	口縁				
			P-20		覆土中				1						
Ⅲ-22	35	65		F10	Ⅰ			Vn1	1	深鉢	口縁				
				F10	Ⅱ		1								
Ⅲ-22	35	66	P-20		覆土上			Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-22	35	67	P-25		覆土中	1		Vn1	6	深鉢	口縁				
Ⅲ-22	35	68	F-10		V		フ0111	Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-22	35	69	S-1		Ⅲ	17		Vn1	4	瓷	胴部~底部				
			E13	Ⅲ			1								
Ⅲ-22	35	70	S-6		V~VI	4		Vn1	7	深鉢	口縁				
			G6	V			7								
Ⅲ-22	35	71	S-6		V~VI	4		Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-22	35	72	S-6		V~VI	2		Vn1	1	深鉢	口縁				
Ⅲ-22	35	73	S-6		V~VI	3		Vn1	2	深鉢	口縁				器形不明(Ⅱ)~(Ⅲ)
Ⅲ-22	35	74	S-6		V~VI	1		Vn1	2	深鉢	胴部				器形不明(Ⅱ)~(Ⅲ)
Ⅲ-22	35	75	S-6		V~VI	1		Vn1	1	深鉢	底部				

表III-10 遺構出土掲載石器一覧

棟区	図版	番号	器種名	遺構名	調査区	層位	遺物群	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
Ⅲ-23	77	1	石鏃	H-1	F11a	床面	42	27.5	9.5	4.5	0.9	黒曜石	
Ⅲ-23	77	2	石鏃	H-1	F11a	床面	63	26.5	10.5	5.5	0.7	黒曜石	
Ⅲ-23	77	3	石鏃	H-1	F11c	床面	52	31.0	17.0	3.5	1.5	黒曜石	
Ⅲ-23	77	4	ナイフ	H-1	E11b	床面	31	(37.0)	35.5	6.0	8.3	黒曜石	
Ⅲ-23	77	5	刮片	H-1	F11d	床面	34	31.5	34.0	10.0	4.0	黒曜石	
Ⅲ-23	77	6	掻器	H-1	F11a	床面	42	44.0	33.5	13.0	12.0	黒曜石	
Ⅲ-23	77	7	削器	H-1	E11c	床面	25	(34.0)	33.5	12.0	11.7	頁岩	
Ⅲ-23	77	8	石斧	H-1	F11b	床面	57	81.0	46.5	26.5	145.1	不明	
Ⅲ-23	77	9	石斧	H-1	E11c	床面	7	131.0	57.0	26.0	290.8	砂岩	
Ⅲ-23	77	10	たたき石	H-1	F11b	床面	57	132.0	63.0	29.0	371.7	砂岩	
Ⅲ-23	77	11	砥石	H-1	E11c	床面	26	54.0	75.0	43.0	117.6	砂岩	
Ⅲ-24	77	12	ナイフ	H-2	E13c	床面	32	88.0	42.0	11.0	44.4	安山岩	
Ⅲ-24	77	13	掻器	H-2	F14a	床面	2	31.5	28.5	12.0	10.5	黒曜石	
Ⅲ-24	77	14	掻器	H-2	F14a	床面	13	(41.0)	24.5	10.0	6.3	黒曜石	
Ⅲ-24	77	15	石斧	H-2	F13a	床面	24	173.5	77.0	43.5	621.5	緑色泥岩	
Ⅲ-24	77	16	石斧	H-2	F13a	床面	23	(89.0)	92.5	27.0	407.3	緑色泥岩	
Ⅲ-24	77	17	石鏃	H-3		床面	34	(20.5)	12.0	4.0	0.7	黒曜石	
Ⅲ-24	77	18	ナイフ	H-3		覆土2	42	67.0	30.0	9.0	18.8	黒曜石	
Ⅲ-24	77	19	両面調整石器	H-3	E13a	床面	7	51.5	41.0	15.0	18.3	黒曜石	
Ⅲ-24	77	20	掻器	H-3	E13a	床面	7	58.0	31.5	14.5	16.7	黒曜石	
Ⅲ-24	77	21	石鏃	H-3		床面	38	32.0	26.5	15.0	15.1	黒曜石	
Ⅲ-24	77	22	両面調整石器	H-4		床面上	5	28.5	26.5	11.0	5.8	黒曜石	
Ⅲ-25	77	23	掻器	P-1		覆土5	9	28.5	28.5	9.0	6.5	黒曜石	
Ⅲ-25	77	24	刮片	P-1		覆土		(38.5)	57.0	6.0	14.7	泥岩	
Ⅲ-25	77	25	砥石	P-1		覆土4	12	110.0	74.0	36.5	340.7	泥岩	
Ⅲ-25	77	26	石鏃	P-3		覆土	7	28.0	9.5	4.5	0.9	黒曜石	
Ⅲ-25	77	27	石鏃	P-3		覆土	2	20.0	17.0	5.5	1.1	黒曜石	
Ⅲ-25	77	28	石鏃	P-3		覆土	36	28.5	23.5	5.0	2.4	珪岩	
Ⅲ-25	77	29	掻器	P-3		覆土	15	29.0	21.5	8.5	3.6	黒曜石	
Ⅲ-25	77	30	掻器	P-3		覆土	16	27.0	21.5	16.5	2.9	黒曜石	
Ⅲ-25	78	31	削器	P-4	F13d	床面	6	61.5	29.0	7.5	10.5	黒曜石	産地分析08TN-X24
Ⅲ-25	78	32	削器	P-4	F13d	床面	8	55.0	35.5	7.0	9.3	黒曜石	産地分析08TN-X25
Ⅲ-25	78	33	刮片	P-4	F13d	床面	7	35.5	35.5	7.0	6.0	黒曜石	産地分析08TN-X26
Ⅲ-25	78	34	刮片	P-4	F13d	床面直上	2	94.0	60.0	15.0	50.5	黒曜石	産地分析08TN-X19
Ⅲ-25	78	35	刮片	P-4	F13d	覆土下	1	101.0	66.5	20.5	57.7	黒曜石	産地分析08TN-X20
Ⅲ-26	78	36	石斧	P-4	F13d	床面	5	153.5	49.0	30.0	372.1	泥岩	
Ⅲ-26	78	37	石斧	P-4	F13d	床面	4	170.5	65.0	32.0	532.9	玄武岩	
Ⅲ-26	78	38	石斧	P-4	F13d	床面	3	152.0	71.0	17.5	255.9	片岩	
Ⅲ-26	78	39	つまみ付きナイフ	P-6		覆土	2	49.0	21.0	7.5	5.1	黒曜石	
Ⅲ-26	78	40	模形石器	P-6		覆土	1	36.0	12.5	9.0	3.4	黒曜石	
Ⅲ-26	78	41	ナイフ	P-12	F11d	坑底	6	84.0	33.0	11.0	30.1	頁岩	
Ⅲ-26	78	42	ナイフ	P-12	F11d	坑底	2	93.0	32.0	8.0	22.1	黒曜石	産地分析08TN-X27
Ⅲ-26	78	43	ナイフ	P-12	F11d	坑底	5	67.0	22.0	9.0	12.5	黒曜石	産地分析08TN-X28
Ⅲ-27	78	44	刮片	P-12	F11d	坑底	1	85.0	42.0	17.0	20.2	黒曜石	
Ⅲ-27	78	45	石製品(写本)	P-12	F11d	坑底	4	39.0	25.0	13.0	14.4	滑石	
Ⅲ-27	78	46	たたき石	P-12	F11d	坑底	3	154.0	45.5	35.0	338.2	砂岩	
Ⅲ-27	78	47	両面調整石器	P-21	E12b	坑底	1	41.5	29.5	13.0	8.1	黒曜石	
Ⅲ-27	78	48	球状鏃	P-21	E12a	坑底	5	32.0	31.0	19.5	6.8	泥岩	
Ⅲ-27	78	49	ナイフ	S-1	E13d	層間	6	74.0	40.0	10.0	26.6	黒曜石	
Ⅲ-27	78	50	ナイフ	S-1	E13d	層間	7	81.0	37.0	10.0	24.2	黒曜石	
Ⅲ-27	78	51	砥石	S-4	D12c	IV層	1	92.0	81.5	27.0	161.9	泥岩	

表III-11 遺構出土掲載骨角製品一覧

棟区	図版	番号	器種名	遺構名	層位	図物群	時期(土器)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	小分類	部位名	備考
Ⅲ-27	78	1	骨針Ⅱ	非-III-1	地土	アロ115	13		8.1	2.5	2.6	0.1	脊椎動物門	不明
Ⅲ-27	78	2	その他骨角製品	P-3	覆土		37		11.0	7.8	1.9	0.2	脊椎動物門	不明

IV 魚骨層と出土遺物

1 概要

魚骨層は魚骨が大量に含まれている層で、鳥骨、陸棲・海棲哺乳類骨などの動物遺存体のほか、多くの土器・石器・鈎頭や骨針などの骨角製品や灰・炭化物・ベンガラなども含まれている。貝塚とは異なり、貝がほとんど含まれないのが特徴で、多量の貝類が無くても動物遺存体が良好に残存する条件があったものと思われる。貝塚という特殊な条件以外の場所で残されており、通常的环境下では腐食して喪失された情報が保存されている。遺存体が埋存した環境を検討するため、発掘時に土壌のpHを測定した(図IV-2・98)。その結果、西斜面トレンチ1・2、南壁の魚骨層(東斜面)及びその上下の層でpH6.5~7.0の測定値が得られ、その多くが7.0前後であった。土壌はほぼ中性で、カルシウム成分を構成要素とする動物硬組織の保存には比較的適していた環境であると判断できる。

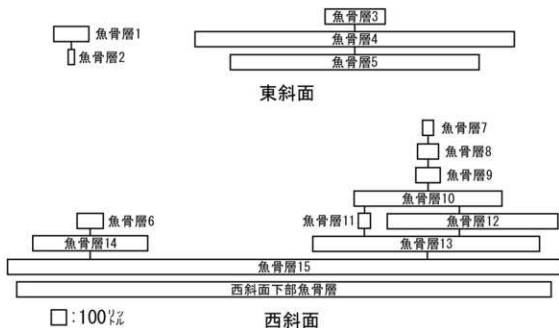
魚骨層は東西斜面で検出された(図III-1)。斜面部は河岸段丘面の台地部から釧路湿原に向かって形成された段丘崖で、縄文時代晩期後葉~続縄文時代前半期の斜面堆積物であるIII層の下部で検出され、東斜面では最大層厚30cm、西斜面では最大層厚50cmである。地形的には河岸段丘の突端のやや内湾した両側に形成されている。魚骨層の下位には無遺物層の黒色腐植土であるIV層が斜面部下部では50cmほど堆積し、ほぼその中ほどに厚さ5cmの樽前cテフラ(Ta-c)が挟在する。但し、IV層とTa-cは斜面部下部では安定的に堆積しているが斜面部上部では徐々に薄くなり、台地部では確認できない。斜面部下部ではTa-c降灰後、15~20cmほどの腐植土が堆積した後に形成されている。

魚骨層出土の炭化クルミ片18点の放射性炭素年代測定の結果、2,460±30~2,370±30yrBPの年代値が得られ、概ね下位から上位の層へ年代値が新しくなっている(Ⅵ章1)。出土土器はV群c1類がほとんどで、その他、I群b2類、I群b4類、II群a類、IV群a類、V群c2類が極少量含まれる程度である。V群c1類土器は縄文時代晩期後葉の土器である緑ヶ岡式の古段階に限定され、数十年程度の短期間に形成されたと推定される。

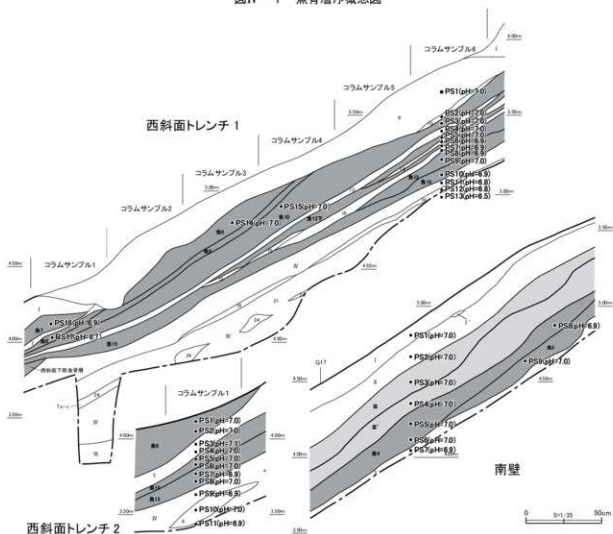
調査はIII層を除去したのち、広がりや厚さを把握するために、東斜面では1か所(東斜面トレンチ)、西斜面では3か所トレンチ(西斜面トレンチ1~3)を掘削した。その後、魚骨層の上面を精査し、肉眼的特徴やトレンチの断面を基準に分層した。その結果、東斜面では約27m²の範囲で魚骨層1~5の5層が、西斜面では約46m²の範囲に魚骨層6~15の10層が検出された。東斜面では南東部の調査範囲の外側に分布が連続しており、西斜面と同等の規模があったと推定される。各層は斜面部の傾斜に沿って堆積し、13・16層など黒色土の間層が挟まれる(図I-6)。

図IV-1は各魚骨層の上下関係を模式的に示したものである。東斜面には魚骨層4・5が広く分布し、魚骨層3~5の順に堆積する。魚骨層1・2は魚骨層3~5と分布域が異なり、上下関係は確認できない。西斜面は東側と西側に分けられ、東側には魚骨層7~13がほぼ順番に、西側には魚骨層6・14が順に堆積し、魚骨層15がそれらの下位に東西にまたがって全体に分布している。西斜面下部魚骨層は調査の初期段階で斜面縁辺部を調査したもので、西斜面の魚骨層6~15が連続しているものであるが、分層できなかった。東西魚骨層の関係であるが、①両者の土器型式に違いが見られないこと、②両者に接合関係が見られること(図IV-61-283、図IV-66-351)、③放射性炭素年代測定値に違いが認められないことから同一時期に形成されたと判断した。

次に各魚骨層の分布を概観する。東斜面では魚骨層1~5が検出された。魚骨層1・2は斜面部上部に位置し(図IV-3)、比較的狭い範囲で確認された。魚骨層1からは魚形骨製品が出土している。

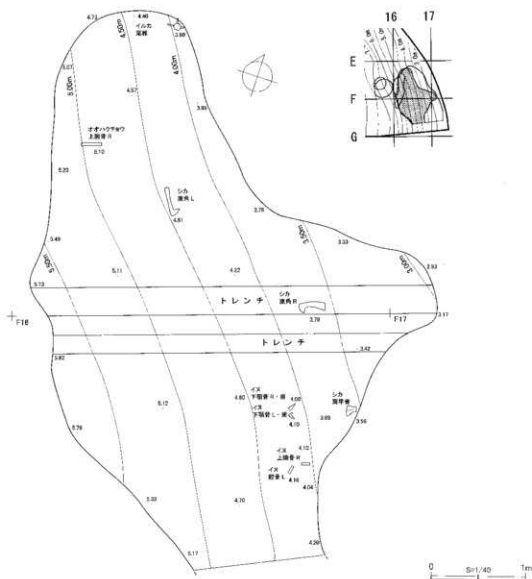


図IV-1 魚骨層序概念図

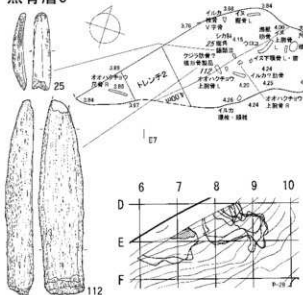


図IV-2 土壌pH分布図

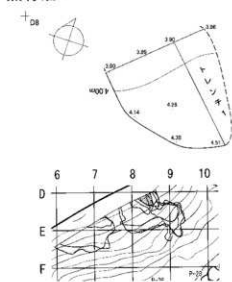
魚骨層5



魚骨層6

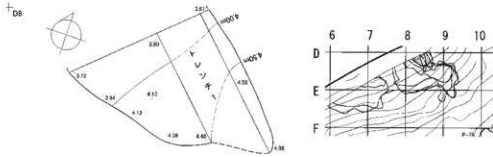


魚骨層7

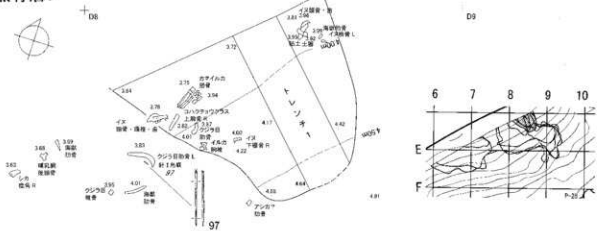


図IV-4 魚骨層5~7平面図

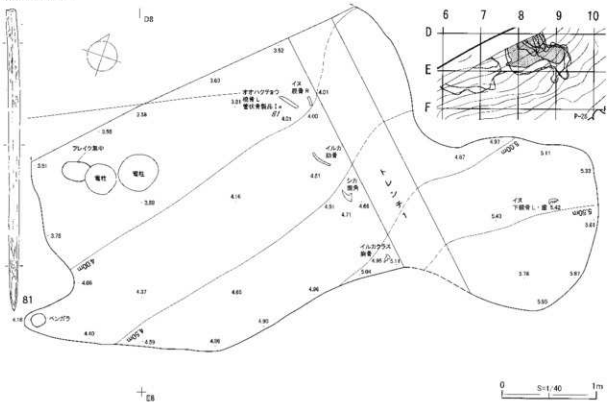
魚骨層8



魚骨層9

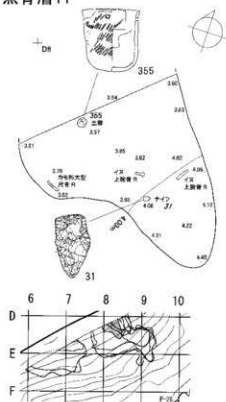


魚骨層10

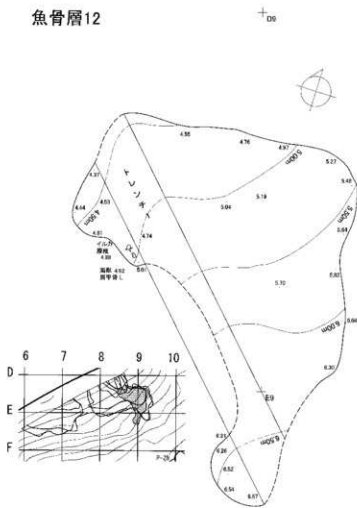


図IV-5 魚骨層8~10平面図

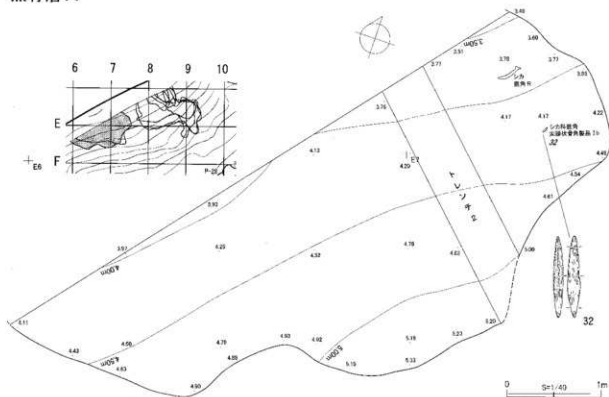
魚骨層11



魚骨層12

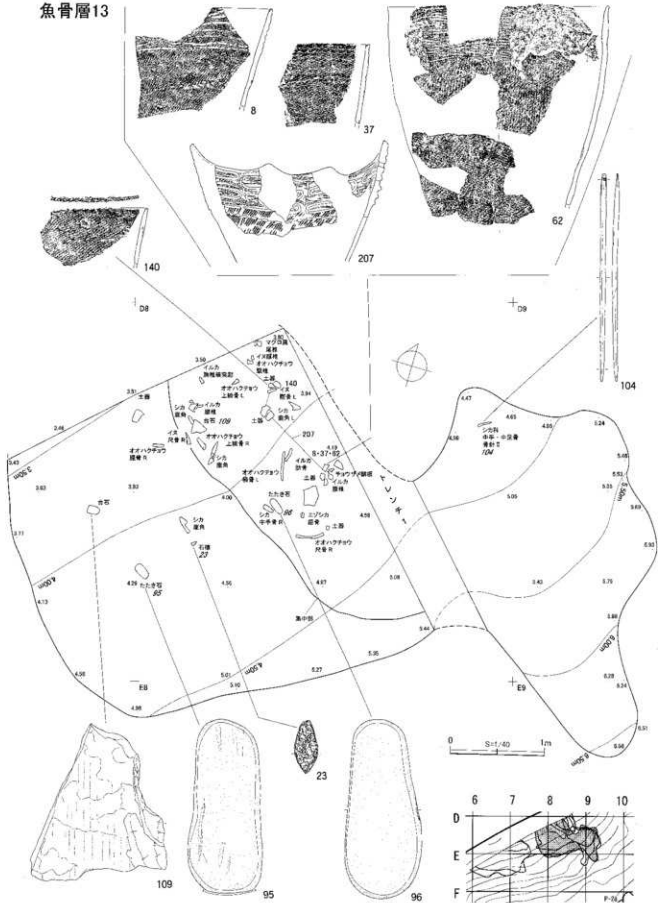


魚骨層14



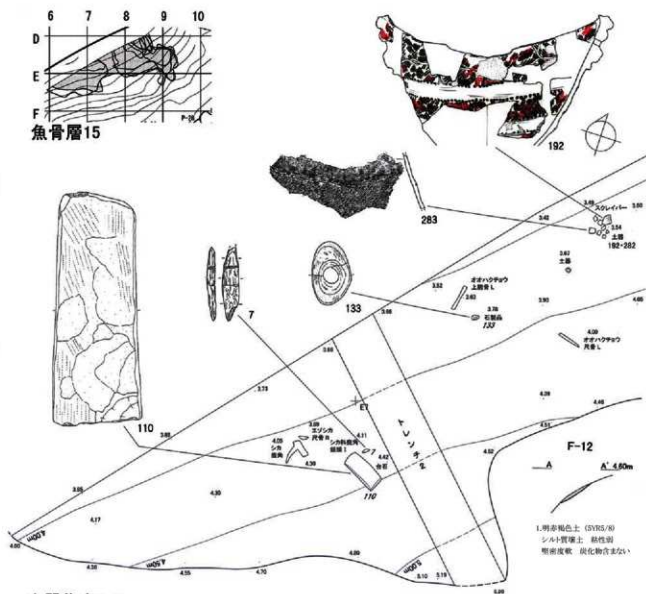
図IV-6 魚骨層11・12・14平面図

魚骨層13

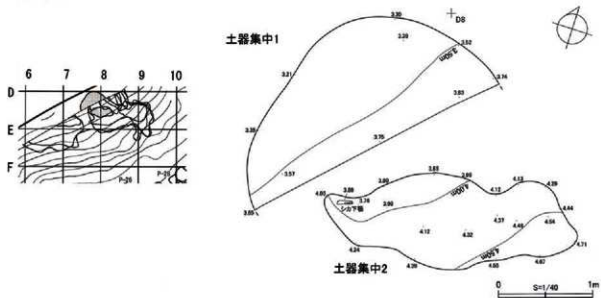


図IV-7 魚骨層13平面図

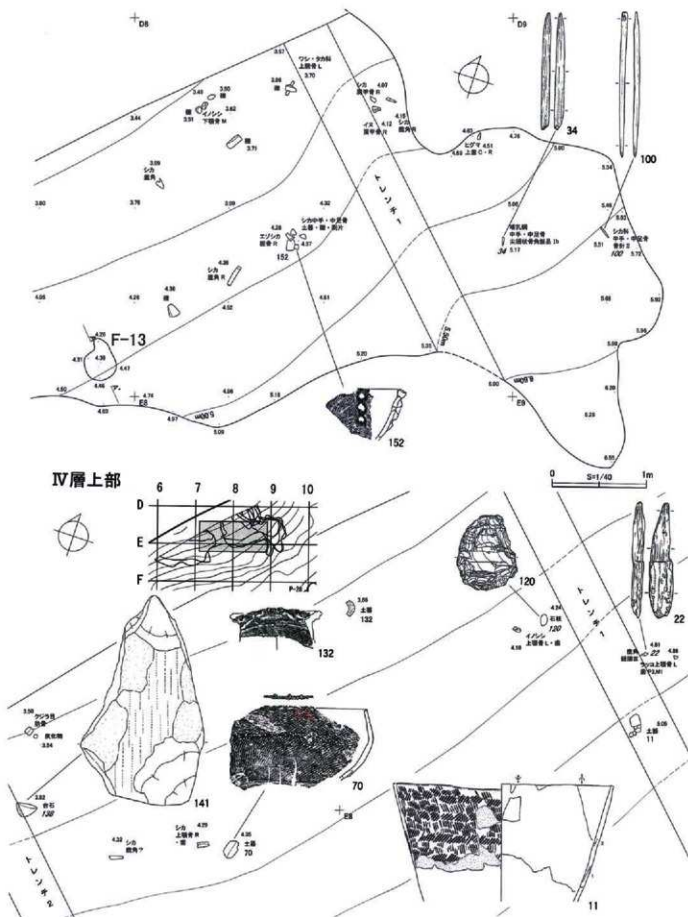
1 概要



土器集中1・2



図IV-8 魚骨層15(1)、土器集中1・2平面図



図IV-9 魚骨層152・IV層上部平面図

表Ⅳ-1 魚骨層一覽

	魚骨層 層位	土層注記	重量 (kg)	体積 (ℓ)	規模 (m)	
東斜面	魚骨層1	黒褐色 (7.5YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅密度軟	214.5	232.5	2.07×1.66×0.10	
	魚骨層2	灰褐色 (5YR4/2) 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 灰混じる	34.5	41.0	1.38×1.27×0.05	
	魚骨層3	灰褐色 (5YR4/2) 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 灰層炭化物含む	357.3	397.6	3.74×1.20×0.10	
	魚骨層4	暗赤褐色 (2.5YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 炭化物・魚骨多量に含む	1,674.8	2,110.5	(6.77)×4.20×0.12	
	魚骨層5	黒褐色 (10YR3/2) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 灰・炭化物・魚骨多量に含む	1,355.1	1,644.4	(6.12)×4.12×0.20	
西斜面	魚骨層6	暗赤褐色 (5YR3/6) 埴壤土 粘性中 堅密度堅 埴土・灰・ベンガラ・炭化物含む	151.2	173.2	(2.60)×0.94×0.08	
	魚骨層7	褐色 (7.5YR4/3) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 灰層	64.7	72.0	(1.48)×(1.20)×0.10	
	魚骨層8	灰褐色 (5YR4/2) 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 魚骨高密度	116.3	139.0	(2.29)×(1.48)×0.07	
	魚骨層9	赤褐色 (5YR4/6) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 5mm大の炭化物・灰・ベンガラ魚骨を含む	137.1	161.1	(2.61)×(2.23)×0.06	
	魚骨層10	暗褐色 (10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 1cm大の炭化物・ベンガラ・灰・魚骨を多量に含む	816.3	977.3	6.22×(2.92)×0.17	
	魚骨層11	黒褐色 (7.5YR3/2) 埴壤土 粘性中 堅密度堅 1cm以上の大型の炭化物多い	70.0	80.0	(2.32)×(1.56)×0.12	
	魚骨層12	上層：褐色 (7.5YR4/4) 埴壤土 粘性中 堅密度堅 1cm大の炭化物・魚骨・灰を含む 下層：暗褐色 (10YR3/4) 埴壤土 粘性強 堅密度堅 1cm大の炭化物・灰・魚骨を含む	924.4	1,128.0	4.16×2.80×0.13	
	魚骨層13	暗褐色 (10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅密度堅 3mm程度の炭化物・灰・魚骨を含む	1,313.2	1,498.2	(6.92)×(3.88)×0.10	
	魚骨層14	暗褐色 (10YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅密度軟	668.3	759.4	(6.64)×(2.80)×0.10	
	魚骨層15	黒褐色 (10YR2/2) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 1cm大の炭化物・魚骨・灰を含む	3,360.6	3,653.6	(13.32)×(3.5)×0.10	
	攪乱魚骨層	—	143.5	162.5	—	
	IV層上部	暗褐色 (10YR3/4) 埴土 粘性弱 堅密度軟 灰・炭化物・ベンガラ含む	193.5	217.5	—	
	下西斜面部	魚骨層 (西斜面下部魚骨層)	暗褐色 (10YR3/4) 埴土 粘性弱 堅密度軟 灰・炭化物・ベンガラ含む	3,394.9	3,533.5	—
	ト西斜面部	西斜面下部①	黒褐色 (7.5YR3/2) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 骨・灰・炭骨・灰・土器・石器を含む	313.5	369.0	—
		西斜面下部②-③	暗赤褐色 (2.5YR3/2) 埴壤土 粘性強 堅密度軟 骨・炭化物・土器・石器を多量に含む。土器集中1の出土層	630.0	770.5	—
西斜面下部①		黒褐色土 (10YR2/2) 軽埴土 粘性中 堅密度軟 骨を多量に含む。炭化物・土器・石器含む	394.5	422.0	—	
ト東斜面部	東斜面①	灰褐色 (5YR4/2) 埴壤土 粘性弱 堅密度軟 灰層炭化物含む	23.3	29.0	—	
	東斜面②	暗赤褐色 (2.5YR3/4) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 炭化物・魚骨多量に含む	302.1	374.5	—	
	東斜面③	黒褐色 (10YR3/2) 埴壤土 粘性中 堅密度軟 灰・炭化物・魚骨多量に含む	64.8	71.0	—	
	合計		16,718.4	19,017.3		

魚骨層3は魚骨層1・2の斜面下側に隣接するように南北に細長く分布している(図IV-3)。海獣肋骨や鹿角や赤色顔料が出土している。魚骨層4・5は東斜面の中～下位にかけて広範囲に、厚く堆積し、南側は調査範囲外に続いている(図IV-3・4)。魚骨層4からはオオハクチョウ頭骨、アホウドリ・コハクチョウの上腕骨、鹿角などが散漫に、イヌの四肢骨や下顎骨などが比較的近い範囲から出土している。魚骨層5からはオオハクチョウ上腕骨、イルカ尾椎、鹿角などが散漫に、イヌの下顎骨・上腕骨・脛骨などが近い範囲から出土している。

西斜面では魚骨層6～15が検出された。魚骨層6は西斜面西側下部、魚骨層14上位の狭い範囲に分布している(図IV-4)。範囲は狭いが、オオハクチョウ上腕骨・尺骨、カモ科尺骨、イルカ椎骨、イヌ下顎骨・四肢骨のほか、銚頭未成品・鯨骨製槍形骨製品の骨角製品が出土している。魚骨層7～9は西斜面東側下部、D8区北側の狭い範囲に分布し、魚骨層9からは西側でカマイルカの頭骨とイヌの頭骨(1号犬)が向き合うように、東側でイヌの頭骨(2号犬)・橈骨が出土している(図IV-4・5)。また、魚骨層9の西側に隣接するⅢ層からも海獣類の肋骨や鹿角と骨針Ⅰ類が出土している。

魚骨層10は長径6m程度の比較的広い範囲に分布している(図IV-5)。トレンチに沿った中央部にはイルカ肋骨や鹿角イヌ脛骨などのほか、オオハクチョウ橈骨製の管状骨製品Ⅰa類が出土している。魚骨層11は魚骨層7～9とほぼ同様な場所で検出され、イヌ上腕骨やカモ科尺骨のほか、ほぼ完形の小型土器やナイフなどが出土した(図IV-6)。魚骨層12は西斜面の東端に位置する(図IV-6)。大型の遺存体は少なく、西側にイルカ椎骨がある。魚骨層11・12の下位には魚骨層13が長径7m程度の広い範囲に分布している(図IV-7)。魚骨層13の中央にはやや大型の骨や大型の土器破片が出土している。大型の遺存体はマグロ尾椎、イルカ椎骨、シカ四肢骨、鹿角、オオハクチョウ上腕骨・尺骨・橈骨・脛骨・頸椎、イヌ頸椎・尺骨などがあり、マグロ尾椎はこれに連結する椎骨が西斜面下部の調査で確認されており(図版30-2)、5～6個の椎骨が連なった状態で出土している。マグロ椎骨は、これら以外には魚骨層から出土しておらず、遺跡には筒切りにされた状態で搬入され、椎骨が連結した状態で廃棄されたとみられる。土器は大型深鉢や大型の舟形土器の破片がややまとまって出土し、石器はたたき石や台石が西側に散漫に分布している。魚骨層14は西斜面の西側に広く分布するが、大型の骨は少なく、東側で鹿角や尖頭状骨角製品Ⅰb類が出土している(図IV-6)。魚骨層15は西斜面東部と西部の魚骨層の最下部にまたがるように広範囲に分布し、中央からは焼土13(F-13)が検出されている(図IV-8・9)。魚骨層15からは東側でタカ科上腕骨、ヒグマ犬歯、イノシシ下顎骨、シカ肩甲骨・脛骨、鹿角、イヌ肩甲骨などと尖頭状骨角製品Ⅰb類・骨針Ⅱ類が、西側でオオハクチョウ上腕骨・尺骨、シカ尺骨、鹿角などと銚頭Ⅰ類のほか、舟形土器・在地系壺の破片、有孔石製品、台石などが出土した。魚骨層15の下部には黒色土のIV層が堆積し、その上部からはラッコ・イノシシ・シカ上顎骨、在地系の壺の口縁部破片や深鉢破片、黒曜石製石核、銚頭未成品などが出土した(図IV-9)。

西斜面からは魚骨層以外に2か所の土器集中部を確認した。土器集中1は西斜面下部の調査中に魚骨層中で検出された(口絵5-2)。土器集中2は魚骨層を調査中、魚骨層14層の上位で検出されている。土器集中2については明確に魚骨層から検出されなかったので出土遺物は包含層で報告した。ただし、土器集中1・2は連続する可能性があることから魚骨層の時期に対応するものと推測される。

2 土器・土製品

IV群a類(図IV-10-1、図版50)

1は深鉢の胴部片である。

V群 c 1類 (図IV-10-2～図IV-61-285・図IV-62-295～図IV-67-380、図版36～62)

深鉢 (図IV-10-2～図IV-39-144、図版36～41・50～57)

器形は平底が主体で、やや湾曲して立ち上がり、胴部から口縁部にかけてはほぼ直線的に斜めに立ち上がる。口縁部は平縁のほか、二個一對の山形突起が3ないし4単位あるものが多い。口唇部形状は角形がほとんどで、口唇部には縄文が施文されるものが多い。縄文はLR斜行縄文が主体で、RL斜行縄文や無節斜行縄文がある。外面には段のあるものも多く、文様帯を区切り、段の上には短沈線列・刺突列・縄端圧痕列などが施される。また、段は粘土の接合部にあたる。

2～28は沈線文が施文されるもの。2は口縁部に4本の平行沈線が廻り、部分的に縦の沈線によって区切られる。沈線による文様帯の下部は無文帯が廻り、さらに縄文施文帯、無文帯があり、胴下部は縄文が施される。それぞれの境界は段があり、段上部に刺突が廻る。口唇部内面には刻みがあり、口縁部内面には縦の沈線で区切られた2・3重の横走沈線が6単位ある。底部は平底で、底面に縄文が施文される。接合面が3か所確認でき、接合面2は両傾接合である。また、接合部と外面の段が一致し、外面においては接合部を平坦に撫で付けないで段を作出している。3は二個一對の山形突起が1ないし2か所あり、突起下部に2本の沈線が施文される。縄文は胴上・下部にはLR斜行縄文が、胴中央部には無節Lr縄文が施文され、突起下部には斜めに綾絡文が施文される。4は二個一對の山形突起が3単位あり、口縁部には不整な横走沈線が廻る。内面にも口縁部に縄文が施文され、不整な横走沈線が廻る。口唇部には内外面に交互に刻みが付けられる。5・6は縦・横の沈線が施されるもので、5は縄文施文後、口縁部が磨り消され、沈線が描かれる。縦の沈線は3～6本と不定で、施文箇所は6か所と推定される。6は無節R1縄文の施文後、口縁部下部の刺突列・縦横の沈線が施文される。口縁部内面には不整な横走沈線が描かれる。

7～18は平行沈線が描かれるもので7～13は縄文地に、14～16は口縁部の無文地に沈線が施文され、17は縦の縄線で部分的に無文地が区切られる。18は沈線が太く断面が滑らかである。19～28は横走沈線と斜行沈線によって菱形やそれに類する模様を描かれる。19～21は横走沈線に斜行沈線が描かれるもの。22は沈線により鱗状に描かれる。23は蛇行する沈線によって菱形が描かれ、その内部に横方向の沈線が施文され、その両端には円形の刺突が施される。24・25は同一個体で横走沈線と斜行沈線が描かれる。26は蛇行文によって連続的な菱形文が描かれる。

29～55は綾絡文が施文されるもの。29・30は口縁部のみ複数廻る。29は厚手で、口縁部と胴部の縄文の回転方向が異なり、胴部は羽状を呈する。31は口縁部・体部に3～5本を単位に3単位廻る。32は口縁部から体部にかけて綾絡文が廻り、口縁部と胴部の間に斜めの綾絡文が施される。33は口縁部に刻みのある降帯が廻り、胴上部には綾絡文が7・8列廻る。降帯は推定5か所切れ間があり、その直上の口唇部には二つの低平な瘤が作出される。口縁部の縄文帯と綾絡帯は段で区画され、縄文、綾絡文施文後に沈線状の整形によって段が強調される。また、口縁部内面には条痕文が施文される。34・35は胴部中央に2・3条の綾絡文があるもの。35は段が上半部に2か所あり、段上部に縄端による短沈線列がそれぞれ1条廻る。底面には縄文が施される。36～41は口縁部に綾絡文が複数列施され、42は口縁部無文地に沈線文が、その下位に綾絡文が施文される。43・44は口縁部下部に綾絡文が施文され、44には口縁部下部に段がある。45は段で区切られた口縁部に綾絡文が複数列施文され、一部縦の条痕が見られる。46～49は綾絡文が斜行するものである。50～55は口縁部無文地に綾絡文が施文され、50～52には口縁部突起から垂下する降帯があり、50・51には横方向の縄の圧痕が、52には縦の刻みが残る。

56～76は条痕文が施されたもの。56は条痕文帯と縄文帯が段をもって区画される。57は口縁部に二個一對の山形突起が4単位あり、口縁部縄文帯下位の刺突列で区画された範囲に条痕文が施され、そ

の下部は段になる。突起部の内面と突起間の中央には棒状工具によって刻みが付けられ、口唇部の内外面には縄の圧痕が付けられる。口縁部内面には刺突列で区画された範囲に横走条痕が付けられる。接合面は接合面5のように外面に偏るものはあるが他は全て両傾接合である。接合面1は底部と胴部の接続部であるが、両傾接合である。円盤状の底部を作り、縁辺を斜め上方に揃って接合部を作り出し、その上に粘土を内外面に撫で付けるようにして積み上げたものと考えられる。58～64は口縁部のみに条痕のあるものである。58・62は横走条痕に縦走する条痕が付加される。59は3か所の山形突起があり、突起の口唇部には縄の圧痕が施文される。口縁部には横走の条痕と突起部には頂点から斜めに条痕が施される。突起部の内面には縄文が施文され、口縁部には横走条痕が廻る。60の胴下部には貫通していない補修孔に似た円形の窪みが5か所ある。64・65は刺突列で区画される。67は内外面とも広範囲に横走条痕が施される。68は無文で口縁部に条痕が見られる。69・70は条痕が鋸歯状に描かれるもので、見た目上綾絡文に類似する。71は条痕文帯が2段あり、文様帯の境目は段があり、2段目の条痕帯の下部には刺突列が施文される。内面には斜位に条痕文が施される。72・73は同一個体で、縦位の条痕の上に横位の条痕が、74は横位の条痕に斜位の条痕が描かれる。75は縦位の条痕のみ施文される。76は横走条痕が少なくとも3段あり、上位の条痕帯の上には山形の条痕が付けられる。全般的に外面に条痕文のあるものは内面にも条痕のあるものが多く、条痕は無文地に施されるものが多い。

77～99は短沈線列・刺突列・縄端圧痕列が施される。77は短沈線列が7条施文される。口縁部には4か所に二個一対の山形突起があり、突起部の口唇内面と突起間に刻みがある。内面には山形突起の谷部から隣の山形突起に連なる沈線が2本描かれる。83は短沈線列が4条施文される。78～82・84～97は刺突列・短沈線列・縄端圧痕列が口縁部や胴部を区切るように施されるもので、それらは形成された段の上に廻るものが多い。93～96は無文帯のあるもので、93は口縁部・94は口縁下部、95・96は口縁部と胴上部にあり、93は口縁部突起から垂下する隆帯がある。98・99は巻目の刺突によって矩形が描かれる。100は段に沈線が描かれ、その端に円形刺突が並ぶ。

101～107は縄線文が施文されるものである。101・102は同一個体である。101は段と刺突によって区画された口縁部無文地に縦・横・連続山形の縄線文が施される。底部は平底で、内外面に縄文が施文される。103は波状口縁で口縁部の突起に沿うように3条の縄線が施文される。104～107は同一個体である。段と刺突で区画された口縁部にやや細い縄線が施文される。

108～110は貝殻複縁圧痕文が施文される。108は横方向のみ、同一個体の109・110は横方向と斜方向によって菱形が描かれる。

111～144は縄文のみの深鉢で、内面に116～120には縄文が、121には沈線が、115・122には条痕に似た沈線が、114・123～125には条痕が施文される。113の内面には刺突列で区画された口縁部側には縄文が、下部には条痕が施文される。右側面内面には織籠状の圧痕がある。縄文は同一のRL縄文の回転方向を90度変えて羽状にしている。115は4か所に山形突起があり垂下する隆帯に刻みが付けられる。119は撚りの緩い原体で施文される。126～130は波状口縁である。131にはボタン状貼り付けがある。137・138は同一個体で、底部は凹底で、両面に縄文が施文される。

浅鉢 (図IV-40-145～図IV-44-186、図版41・42・57・58)

145～156は沈線文が描かれるもの。145～147・150は沈線が折り返され、工字文風で、145はその間に瓢箪のような形が描かれる。145の底部はやや凸状で、底角に刺突列が廻る。接合面は全て両傾で、底部は円形の円盤を作成し、その上部に粘土を積み上げ、外側を撫で付ける際、角を作って底角を作り出している。そのため、底部中央部は出っ張り、縁辺がやや上げ底気味になり、底角が張り出す結果となる。胴部は短沈線列が1条廻る。145～147は文様帯の下部でやや屈曲している。145・148・150

には四か所突起があり、その形態は、145・148は山形で、150は台形状である。145・148には1か所の突起の下に二個一対の穿孔がある。148・150には胴部に無文帯があり、150は口縁部文縁帯と無文帯の間が刺突列のある段で区切られる。148の内面には条痕が、150の内面には縄文と短沈線列がある。152・153は縦の貼り付けがある。154は二個一対の山形突起である。155・156は同一個体で、幅の狭い深い沈線である。胴部が斜めに立ち上がり、口縁部付近で内屈する。

157～163は条痕文のあるもの。157・158の外側は斜格子目状で、内側は横走条痕である。二個一対の山形突起がある。159・160は同一個体で、二個一対の山形突起の下に半円形の貼り付けがあるが、159は貼り付けの内側に、160は貼り付けの外側に2か所穿孔がある。161は波状の口縁部に格子状の条痕があり、内面には刺突列がある。波状部の下部に段があり、平縁の状態から突起部を付け足して整形される。163の内面には貼り付けによって模様が付けれられる。

164・165は貝殻腹縁圧痕文のあるもので、同一個体である。外面には格子状の模様が付けられ、内面には縦の連続した貝殻腹縁圧痕文の上に工字文風な沈線が描かれる。

166は綾格文があるもの。波状口縁で波状部の下部に段があり、刺突列で区画される。外面には綾格文が水平方向に複数条施され、内面には口縁部に沿って縄線が施文される。

167～182は外面が縄文のみのもの。167には台形状の突起があり、胴部には刺突列を伴う段が2段ある。168～175は波状口縁の波状部で168～170は波状部の下部に段があり、169には二個一対の穿孔がある。170～173・175の内面は縄線・沈線・刺突によって装飾される。172は円形の突起があり、そこから垂下する縦の貼り付けがあり、貼り付けの両脇には穿孔が施される。176は他の浅鉢に比べ浅く、上面観も一端が張り出し、特徴的である。波状部下部には2か所の穿孔がある。177は小型の浅鉢で波状口縁の下部には二個一対の穿孔がある。178には縦の貼り付けがある。

183には円形の突起が、184には二個一対の山形突起の2か所の突起部から垂下する「U」字状の貼り付けが、185には幅広の縦の貼り付けがある。186は波状口縁で波頂部下部に1か所穿孔がある。

舟形土器（図Ⅳ-45-187～図Ⅳ-61-278、図版42～46・58～60）

舟形土器は形状から以下の二つに分けた。

I類：側面観が底部から斜めに立ち上がり、上部が弧状に湾曲し、上面観はラグビーボール形のもので、概ね舟の形ないしはそれに準じる形状のもの。

II類：側面観が底部から斜めに立ち上がり胴中央部で強く張り出し、内屈して胴上部は緩やかに外湾するように立ち上がり、口縁部ではほぼ垂直に立ち上がるもの。

187～261はI類である。両端の縦の貼り付けには1か所水平方向に穿孔される。平底で、底部形状はほとんどが楕円形、一部円形がある。器形は底部から斜めに立ち上がり、無文帯下部や刺突列で区画された胴部で屈曲し、やや外反して立ち上がるもの（187・189・190・191・193）、底部から斜めにほぼ直線的に立ち上がるもの（188・192・194・207・208・219・223・224）、緩やかに湾曲しながら口縁部はほぼ垂直に立ち上がるもの（195・209・217・218・220・221・222・225）がある。

187～206は胴部無文帯があるもので、187～190・192・194・196～205は左右の縦の貼り付けの下部に、191・193・195は左右の縦の貼り付けの範囲に無文帯がある。206は無文帯があるが、側面破片のため貼り付けとの位置関係が不明なもの。

187は口縁部と胴部無文帯に工字文風な沈線文が描かれる。口唇部内側には貝殻腹縁圧痕文が施される。188は口縁部には工字文風な沈線文が描かれる。口唇部には縄文が施文され、口唇部内側には縄の圧痕が施される。上面・底面形ともに円形である。189は口縁部と胴下部に沈線と短沈線が交互に施文され、口唇部には棒状工具による側面圧痕が施される。突起下部の縦の貼り付けには上下2か

所に横方向の穿孔が見られる。190は胴部中央の無文帯下部に張り出しがあり、無文帯部でくびれて口縁部が外反する。口縁部は石器のような鋭い工具による横位の沈線が充填され、その上に菱形の沈線文が施文される。口縁部には両端の波状の大型突起のほか4か所の低平な突起があり、その上には刻みが施される。口唇部には縄文が施文され、内側には三個一単位の刻みが施される。底部は平底であるが中央部が窪む。191は口縁部に工字文風の沈線が描かれ、口唇部内面には刻みが施される。192は胴部に無文帯が2段あり、口縁部には横位の沈線間に片面につき2か所小さい菱形が描かれる。口縁部は中央が一段低くなっている。口唇部は縄文の上に円形刺突が施文され、内側には二・三個一単位の刻みが施される。刺突列で区画された口縁部内面には3～5条の横走沈線が巡る。外面の縄文は原体を横方向に回転させた左下がりのLR斜行縄文地に縦方向に回転させた右下がりのLR斜行縄文を重ねて、斜格子状に表現される。193は縄端圧痕列で区画された無文地に矩形的沈線文が描かれる。外面・口唇部にはR1縄文が施文される。194は無文帯幅が両端で広く、口唇部には縄文が施される。右側の降帯の穿孔は右側にずれている。195は無文帯の下部のみ段があり、口唇部には縄文が施文される。口縁部に補修孔が3か所穿孔される。196・198～203は工字文風の沈線または平行沈線が施文され、200は沈線間に刺突列が施される。196～198の無文帯には187同様の沈線が描かれる。200・204の内面には条痕文が施文される。203は降帯の上部と降帯の左右に合わせて4か所穿孔が見られる。204は降帯側に矢羽根状の沈線が描かれる。205・206は縄文のみ施文される。

207～261は胴部無文帯が無いもので、207～216は口縁部に縄文が施されないもの。

207は口縁部にさきく裂った工具による細沈線と工字文風の太い沈線が描かれる。矩形的沈線間には「I」字状の縦の沈線が施文される。口縁部には片側に山形の突起が2か所あり、口縁部内面・口唇部には縄文が施文され、口唇部内側には刻みが施される。208は工字文風の沈線文が施文され、口唇部には縄文が、口唇部内側には刻みが施される。209は口縁部に平行沈線、裏側の一部は蛇行文が描かれ、胴部には綾格文が2条巡る。口縁部は中央が一段低く、その内側には刻みが施される。底部は丸底で、縄文が施文される。210は工字文風の沈線文が施文され、211は狭い口縁部無文帯の下部に工字文風の沈線文が描かれる。212は沈線文が施文され、「U」字状の貼り付けがある。213・214は無文の突起部で、全体的に作りが粗雑である。215は降帯の無い突起部で、突起下部に穿孔が見られる。突起左右の口唇部内面側には口唇部縁辺を切り取った際に残されたと思われる粘土のはみ出しが認められる(図版102-6)。同じものが焼成粘土塊1類(377など、図版102-7)にも残り、口唇部整形段階で石器のような鋭い工具で外面から切り取った際に着いた痕跡と推測される。

217～223・225～250は全面に縄文が施文されるもので、217～223・225は復元個体、227～238は口縁部突起部、239は底部、240～250は側面の破片である。217～221・226～236・240～248は沈線文が施され、217～219・226～230・240～242は平行沈線ないし工字文風の沈線文が、221・231～236・243～246は蛇行文などにより菱形が描かれ、220・247・248は平行沈線に変則的な文様が沈線に施文される。222・237・238は複数条の綾格文が横環し、223は口縁部に2条の縄線文が巡る。224は条痕文が施文され、249は短沈線列が、250は縄線文が施文される。

217は口縁部下部が綾格文で区画され、口唇部には縄文が施文される。左側の突起下の降帯は剥がれているが、降帯を貼り付ける前の縄文が残る。218は胴部に2条の短沈線列が巡る。底部は底角のある円形の平底で、内外面に縄文が施される。口唇部には縄文のみ施文され、表面の赤色顔料の上には炭化物が付着している。219は平底である。220は2条の縄線文で区画された口縁部に蛇行文が3条認められ、その間を短沈線が列状に施文される。突起部の内面には縄文が施され、口唇部は縄文が施文され、内側には刻みが見られる。221は左側の降帯の貼り付け前の縄文が残る。222は底部付近に縄

端圧痕列が巡り、底部側は無文である。器形は直立し、口縁部がやや外反する。口唇部には縄文が施され、内側には縄の圧痕が巡る。223は胴中央部に段がある。口唇部には縄文が施文され、三個一単位の刻みが口縁部中央と、中央と突起の間に施される。224は刺突列で区画された口縁部から胴部にかけて、横位、右下がり、左下がりの順で斜格子状の条痕文が施文される。口縁部には4か所小さい山形突起があり、底部は平底である。225は短沈線を伴う段が2段あり、内面は条痕文が施文される。226は沈線間に刺突列が充填され、胴部には綾格文が2条見られる。230は隆帯の中央と横に2か所穿孔がある。231・232は同一個体で、山形の突起下部に「U」字の中央に縦線のある沈線が描かれる。233・234は同一個体で234には「U」字状の貼り付けがある。239は厚みのある円形の平底である。240・241は工字文風の沈線間に細い短沈線が充填される。

251~257は無文帯の有無が不明なもの。251・252・254・255は工字文風の沈線が、256は平行沈線が、257は工字文風の条痕が施文され、253は縄文のみである。257の突起部口唇内側には貝殻腹縁圧痕が見られ、口縁部内面には条痕文が巡る。

258~260は貝殻腹縁圧痕文が施文されるもの。258の口縁部には全面的に貝殻腹縁が横位に押捺され、工字文風な沈線文が描かれる。口縁部内面にも横位の貝殻腹縁圧痕文が巡る。259は沈線で四角に区画された内側に楕円が施文される。260は縦位に押捺した貝殻腹縁圧痕の上に沈線が施文される。胴下部には条痕文が見られる。261は突起下の隆帯に巻貝による刺突が施文され、隆帯の両脇には穿孔が施される。

262~278はⅡ類である。胴上部の肩部に無文帯があるのが特徴である。262は口縁部文様帯に縄文、石器のような鋭い工具による短沈線、工字文風の沈線の順で描かれ、文様帯と無文帯は刺突列によって区画される。263は刺突列と鋸歯状の沈線によって文様が描かれる。接合面1では屈曲する胴下部と胴上部を接合する際、上部の粘土を内側に、下部の粘土を外側から覆いかぶせるように接合している。264は口縁部に条痕があり、刺突のある段の下部に無文帯、さらに刺突で区画された胴上部に複節RLR縄文が施文される。刺突列のある段の下部の肩部に無文帯があり、刺突列によって胴下部が区画される。刺突列は全て貝殻腹縁の押捺による。口縁部内面にも条痕が施文される。265は胴上部に無文帯があり、その上下には段上に刺突列がある。胴中部の張り出し部の下部には刺突群がある。縄文は非常に小さく、底部は平底である。266は胴上部に段が3段あり、胴下部との変曲点と合わせて4か所に縄端圧痕列が廻る。上位から2番目と4番目に無文帯がある。側面にはボタン状の貼り付けと把手状の貼り付けがあり、その両脇に縦の貝殻腹縁圧痕が見られる。底部は凹底である。縄文は口縁部と胴上部・下部のものが異なり、前者はRLR、後者はLR縄文である。

267~272は胴上部から胴下部にかけての屈曲部である。267は口縁部から胴上部にかけて横位の擦糸文が施文される。肩部と胴下部との接合面が残り、肩部が内側に接合されている。268は肩部の突起部上の無文帯の上の部分であるが区画された刺突列に沿って「工」字状に赤色顔料が塗布されている。273~275は同一個体で口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、沈線によって交点に菱形を含む格子が描かれる。276~278はやや内傾する口縁部で276は工字文風、277は変則的な工字文風、278は横走沈線に斜位の沈線が加わり、縦の貼り付けも見られる。

壺 (図IV-61-279~285、図版60)

壺は在地系のもので大洞系の搬入品がある。279~285は在地系のものである。280は頸部で、隆帯がある。281は頸部に無文帯があり、肩部に沈線により工字文が表現されている。282は肩部で横走沈線が描かれ、縄文は縦位に施文される。283は頸部無文帯が短沈線によって区画されている。東西魚骨層の2破片が接合している。284は比較的小型の壺で、肩部と胴部が屈曲し、その角には刺突列がある。

肩部には横走条痕と沈線が施文される。接合面は、胴下部、胴部と肩部の接合面ともに外傾である。285は大型の壺の胴部片で、RL縦走縄文が施文される。胎土に径2mm程度の砂粒を多く含む。

底部 (図IV-62-295~図IV-66-343、図版46・47・61・62)

295~320は円形の底部で、角度を持って立ち上がり、深鉢と見られるもの。295~297・302・303は凸底、298・299・313~315は凹底、304~310・319はやや上げ底、311・312は平底である。底部形状に関わらず底面に縄文が施文されるものが多く、底面の内面にも縄文が施文されるものがある。298は底面近くに横走条痕が見られる。318は無文、319は内外面と底面に条痕が施される。317は縁辺が全て接合面で、最初に作られた底部形状を示している。円盤状の粘土を作成し、胴部の粘土を上のにせて内外面上から撫で付けたと考えられる。同様な接合痕は295・301などで確認でき、底部が張り出す凸底やや上げ底などはこの技術によって特徴的に残されやすいと考えられる。

321~329は円形の底部で、斜めに立ち上がり、浅鉢または舟形土器と見られるもの。321~325は凸底、326・327は平底である。329は胴下部に段がある。ほとんどは底面に縄文が施文される。

330~343は楕円形の底部で舟形土器の底部である。331は底角が作出される凸底、332・335・338・341は凸底、333・334は平底、336・337・340は上げ底気味である。330~332・341の底面には沈線や刺突によって模様を描かれる。340は胴下部に明瞭な段が形成される。342は横走条痕が見られる。

ミニチュア土器 (図IV-66-344~図IV-67-366、図版48・49・62)

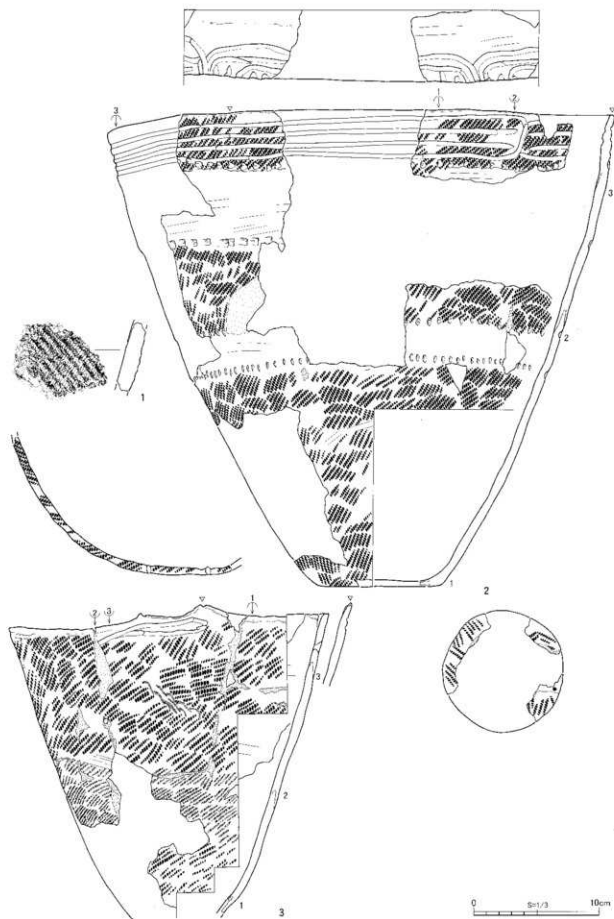
344・345は工字文風の沈線が描かれ、344の底部は凹底である。346は平行沈線のみである。347は斜位の格子目が描かれる。349は二個一対の山形突起が3単位あり、刺突列で区画された口縁部には綾絡文が3条描かれる。350は器面全体に、352は段上に綾絡文が施文される。351は東斜面魚骨層と西斜面魚骨層の遺物が接合したもので、胴上部に貝殻腹縁圧痕文が施文される。353は口縁・胴中部・胴下部に刺突列がある。354・355・359は口縁付近に1か所穿孔がある。357~359は無文で357は段上に2列短沈線列が巡る。360は碗状で底部付近に1条沈線が巡る。361には無筋R1縄文が施文される。362・363は小型の台付鉢、365は手づくね土器、366は上げ底の底部と見られるものである。

土製品 (図IV-67-367~371、図版62)

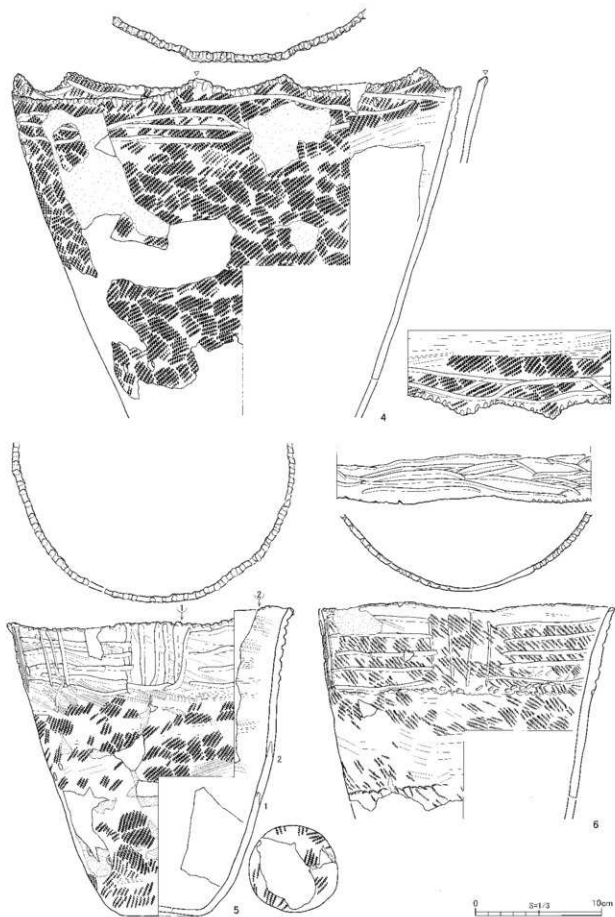
367は土器の貼り付けとみられる。368は円盤形土製品で、縁辺が打ち欠きによって整形され、中央には両側から穿孔されるが貫通していない。369は土玉である。370・371は漏斗状土製品である。断面円形の芯に粘土を巻いて製作される。2点とも上部は欠損しているが、371の上部は製作時の縁辺に近く、旭町1遺跡SP-139出土資料(種市ほか1983)と同様、漏斗のような形が欠損前の形態だったと考えられる。

焼成粘土塊 (図IV-67-372~380、図版62)

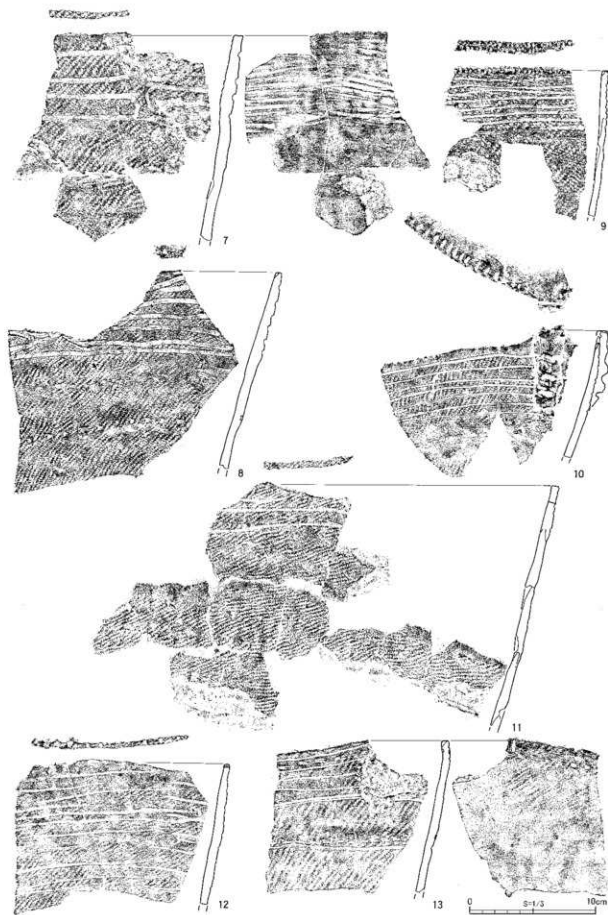
焼成粘土塊は本土器群に特徴的なI類とそれ以外のII類がある。I類は細長い形状で下面に長軸方向の切断痕が残る。土器整形時に口縁部から切り取られたものと推定される。372~380はI類である。372の上面には中央まで切断痕が見られる。373の下面には切断面が二面残り、左側は器壁に沿って、右側は斜めに切られる。切断作業の繋ぎ目とみられる(図版102-7)。378・379は縄文が残る。縄文施文後に口縁部が切断されたと思われるが、全体の中では非常に少なく、多くは口縁部切断工程後に口縁部近くの施文が行われたものと考えられる。380は上下に切断痕がある。一度切断した後、再度、切断されたものであるが、このようなものは非常に少ない。373・376・377・380は切断面の断面が直線ではなく、一端が下方にはみ出している(図版102-7)。これは、切断時の切残しと考えられる。このような切残しはひも状のもので口縁部を切断した場合には形成されず、片側から石器のようなもので切断した場合、入刀した面から他の面まで到達しない場合に形成されるものである。切断された



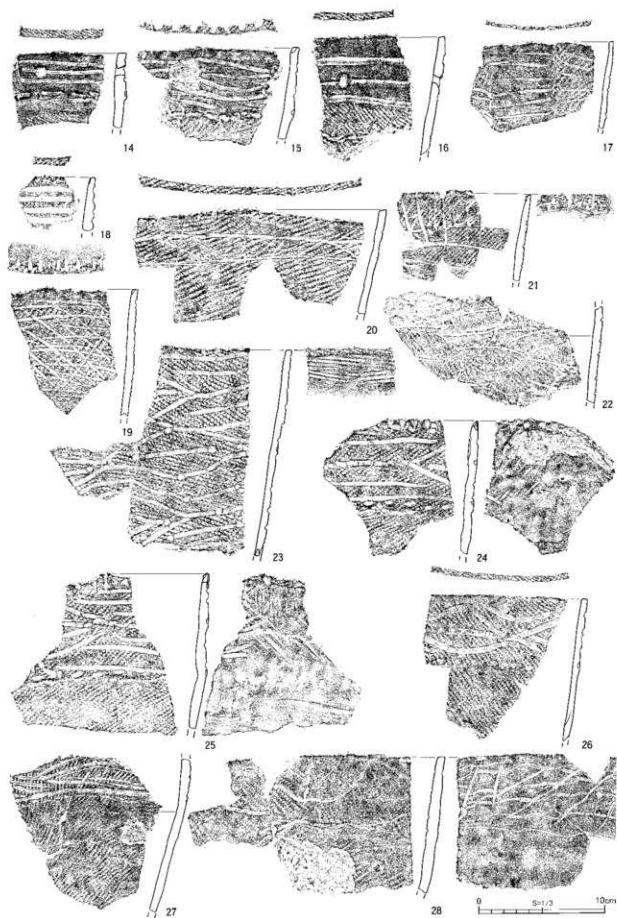
图IV-10 魚骨層出土土器(1)



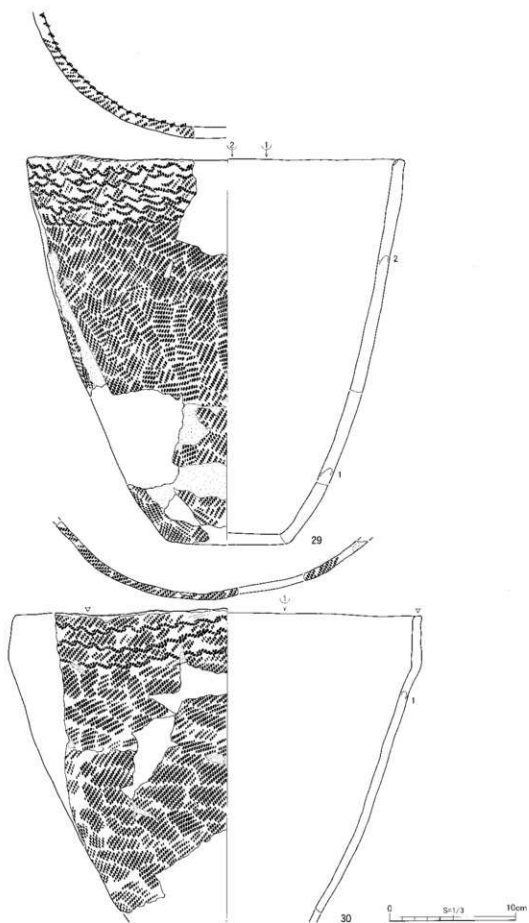
圖IV-11 魚骨層出土土器(2)



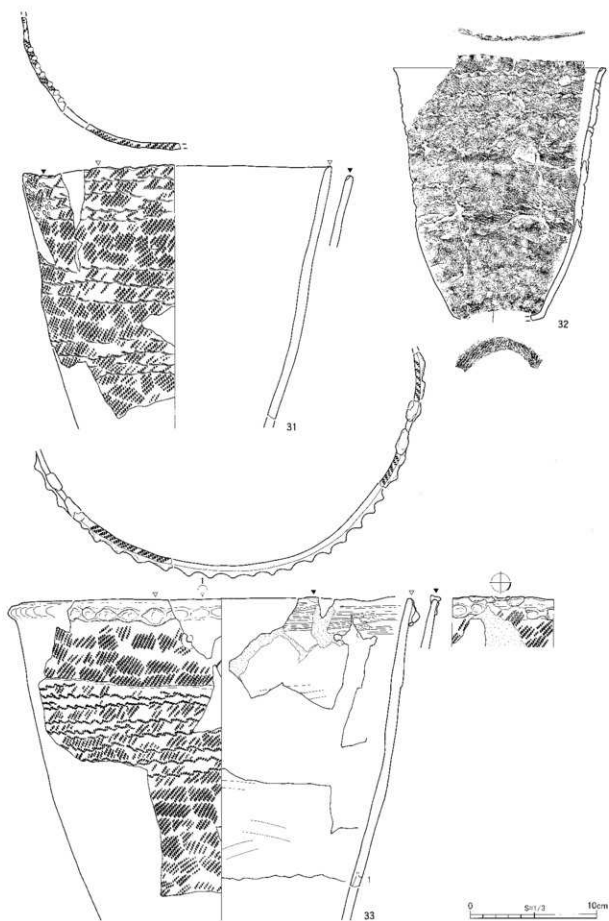
図IV-12 魚骨層出土土器③



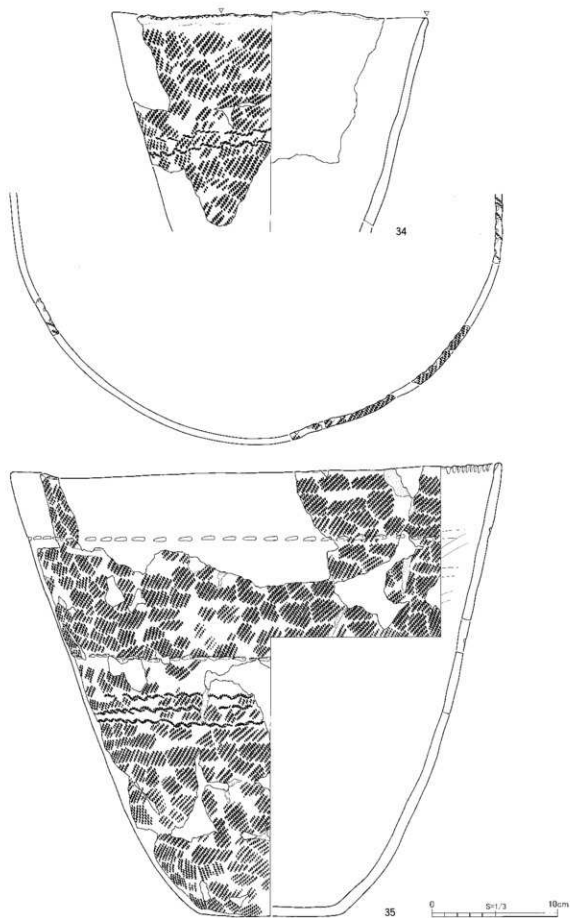
圖IV-13 魚骨層出土土器(4)



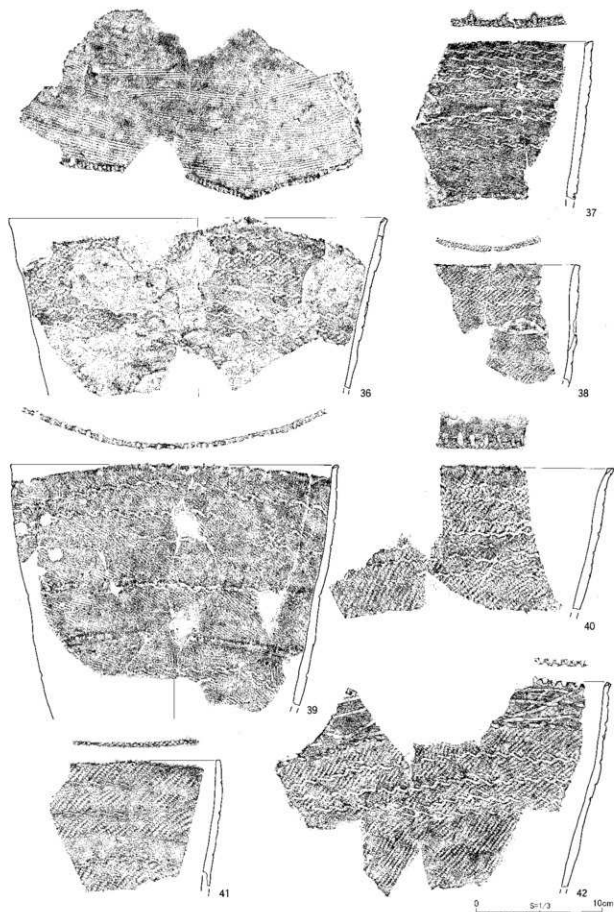
圖IV-14 魚骨層出土土器(5)



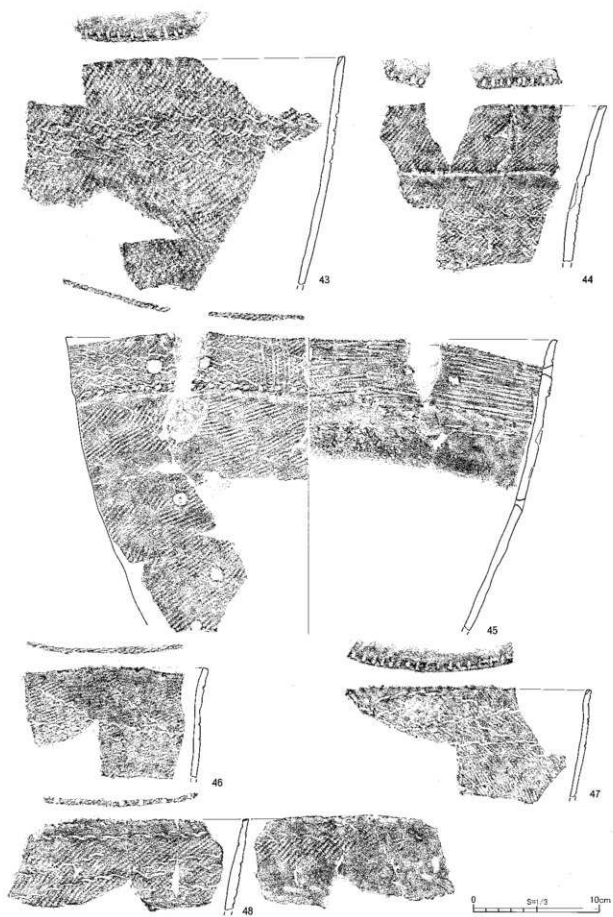
圖IV-15 魚骨層出土土器(6)



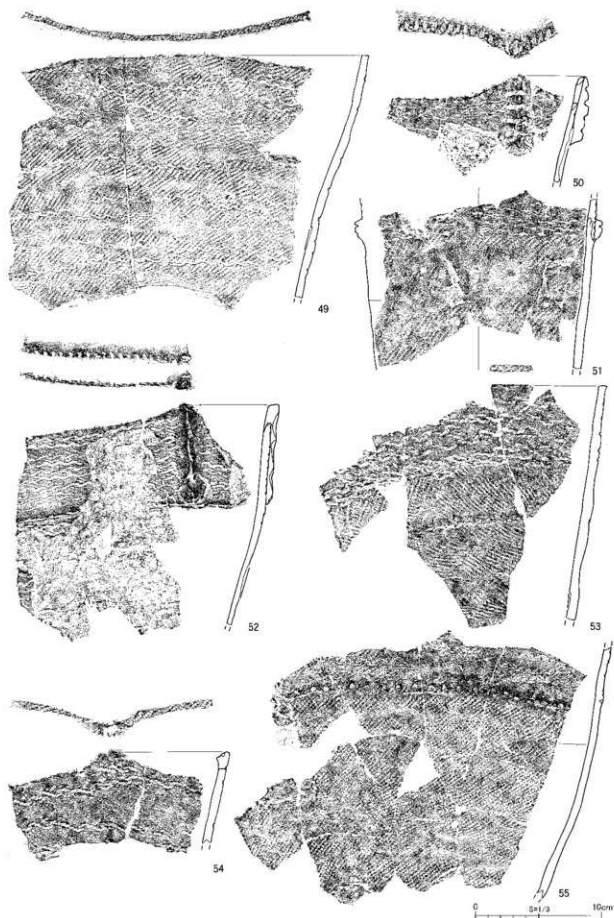
図IV-16 魚骨層出土土器(7)



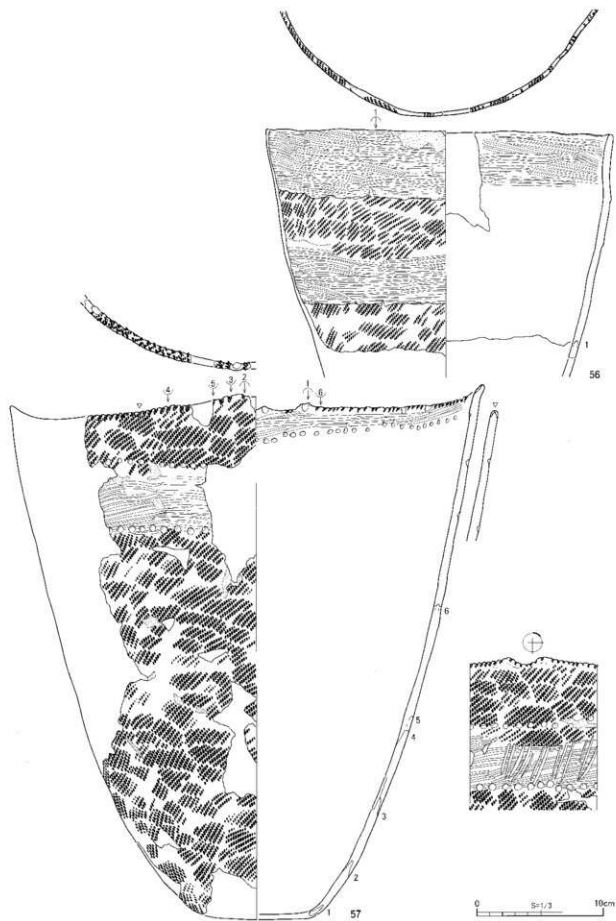
圖IV-17 魚骨層出土土器(8)



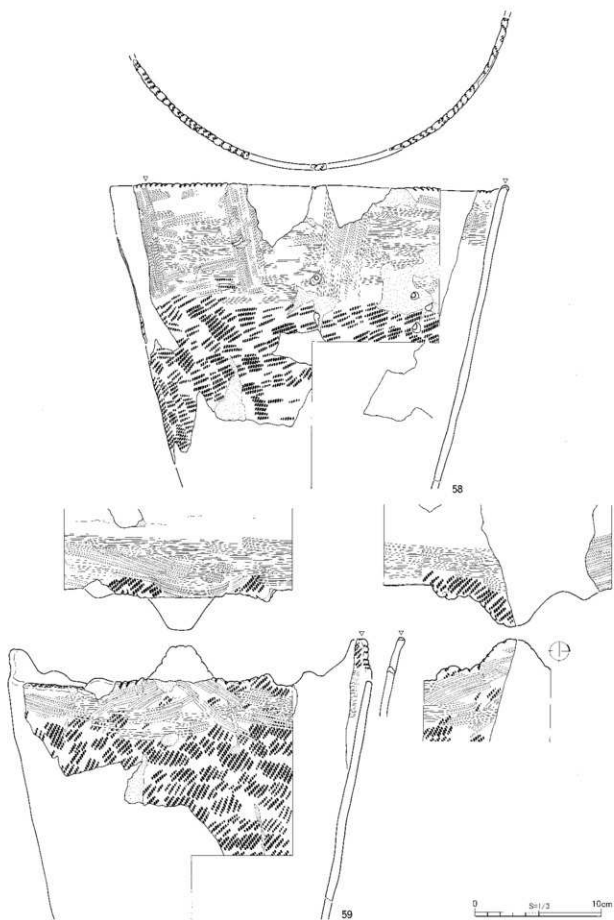
圖IV-18 魚骨層出土土器(9)



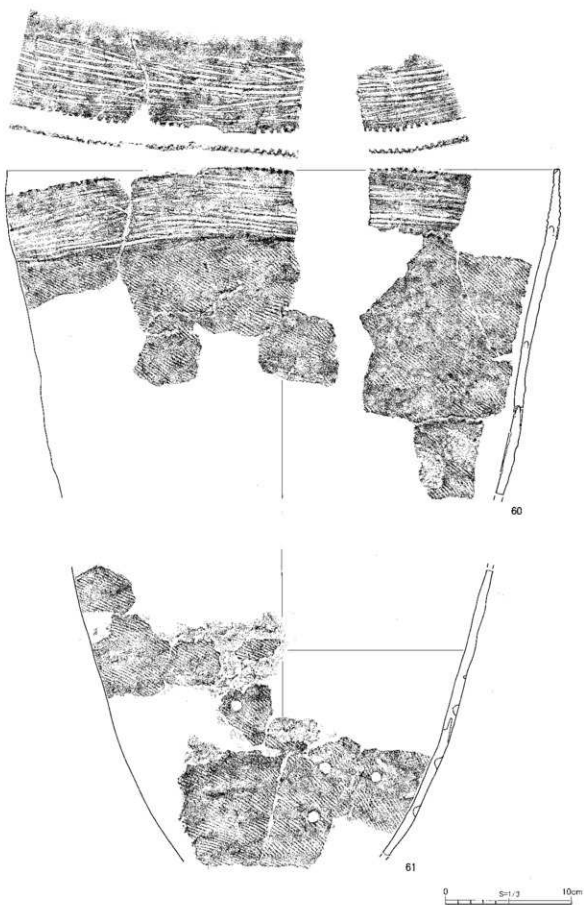
圖IV-19 魚骨層出土土器



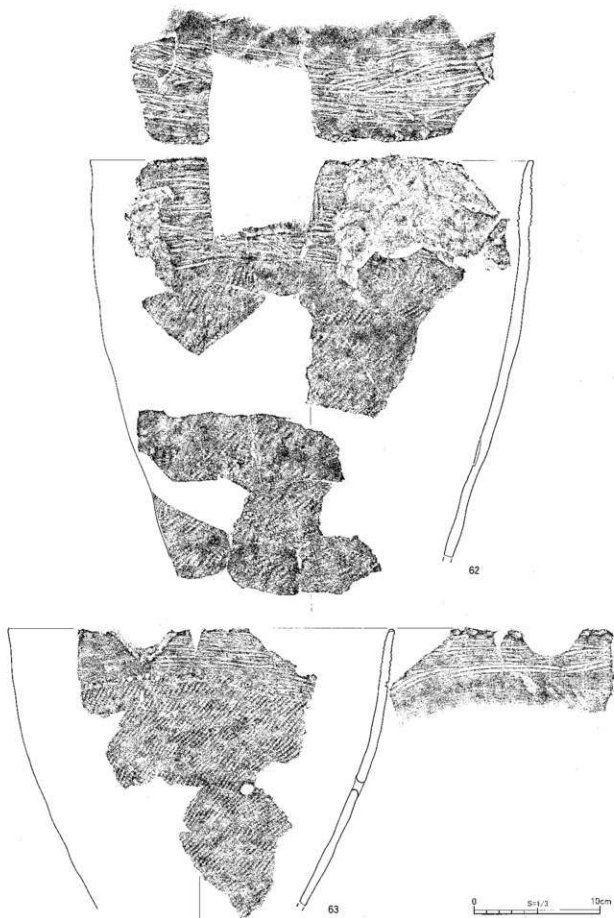
圖IV-20 魚骨層出土土器II



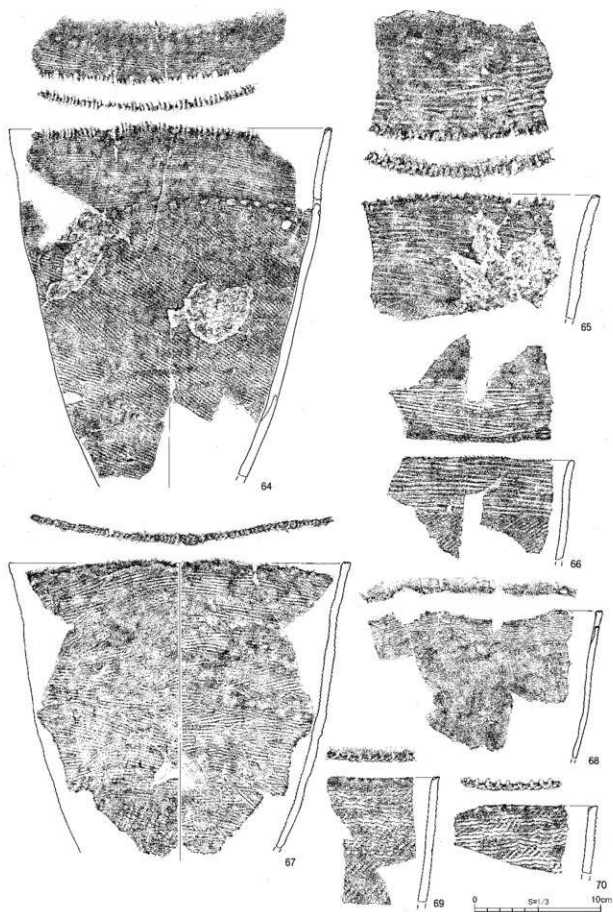
圖IV-21 魚骨層出土土器



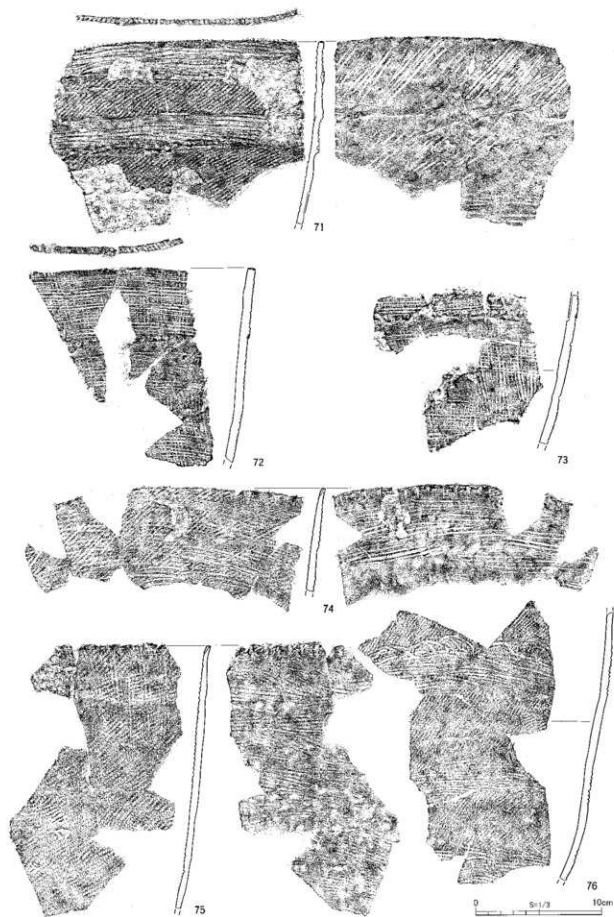
圖IV-22 魚骨層出土土器⑬



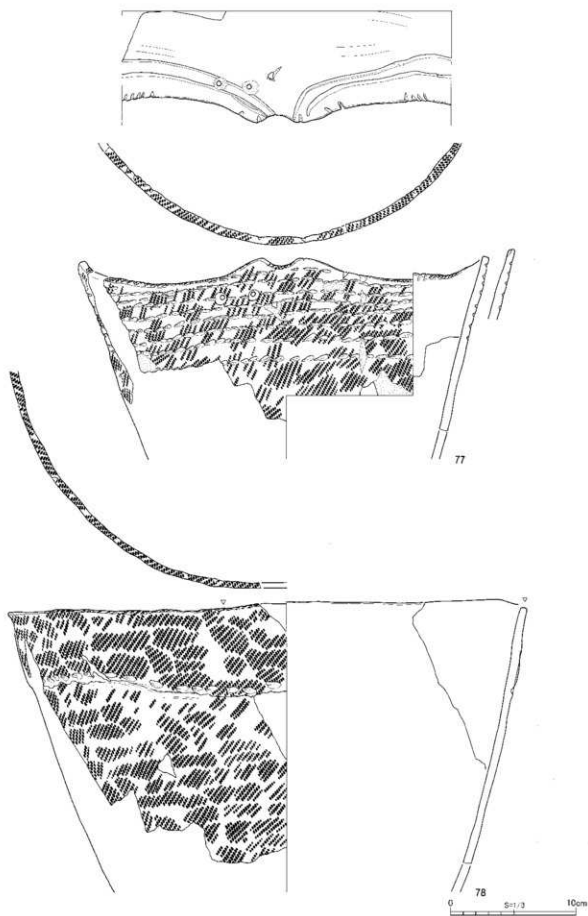
図IV-23 魚骨層出土土器14



図IV-24 魚骨層出土土器⑯



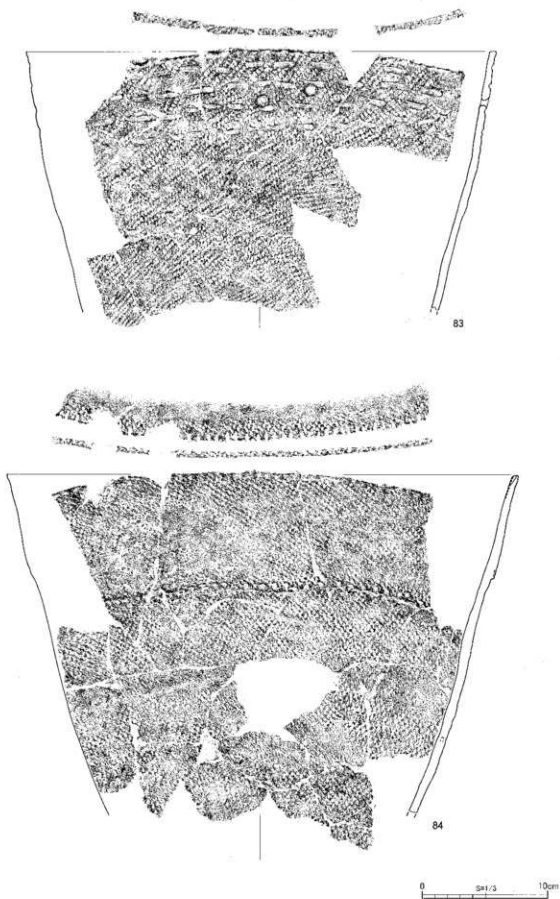
図IV-25 魚骨層出土土器⑩



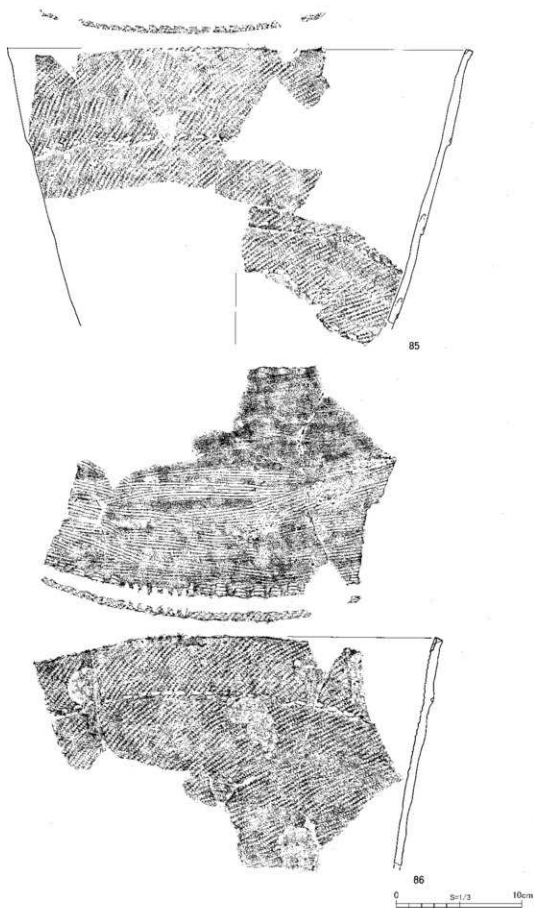
図IV-26 魚骨層出土土器17



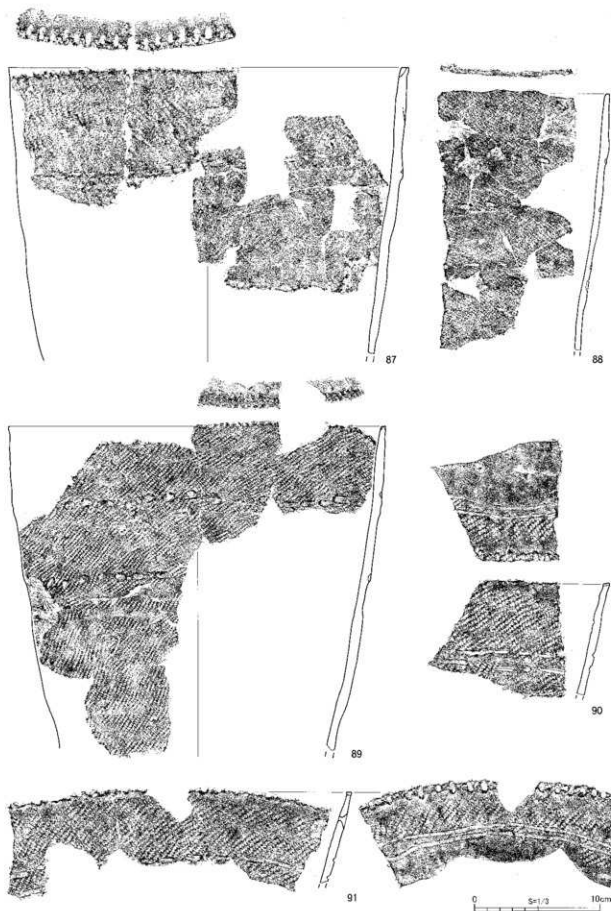
圖IV-27 魚骨層出土土器⑩



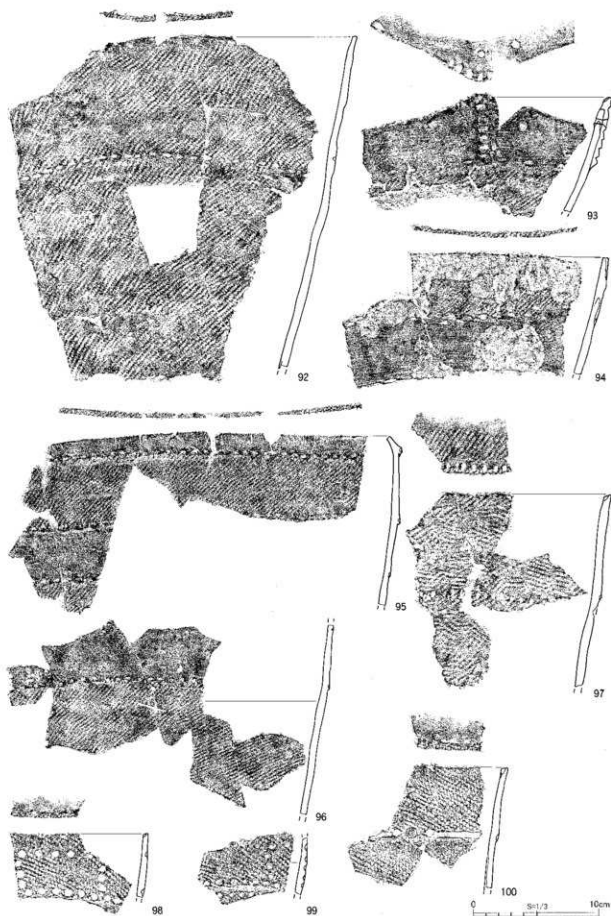
図IV-28 魚骨層出土土器⑨



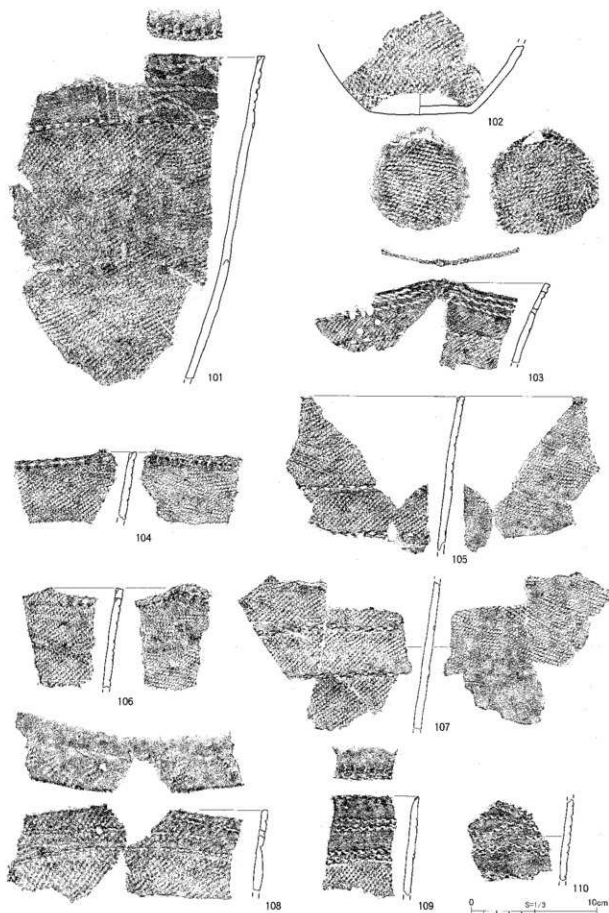
図IV-29 魚骨層出土土器②



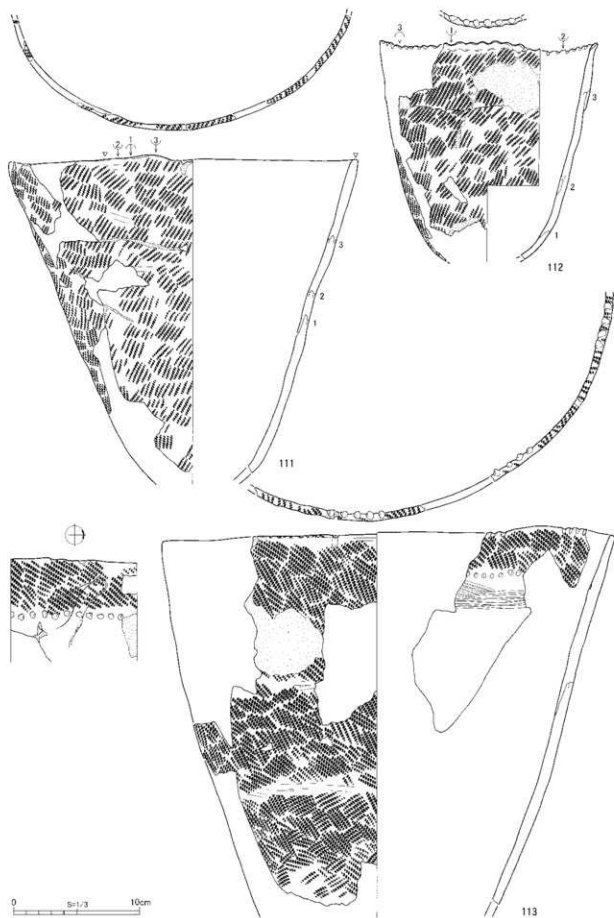
圖IV-30 魚骨層出土土器(2)



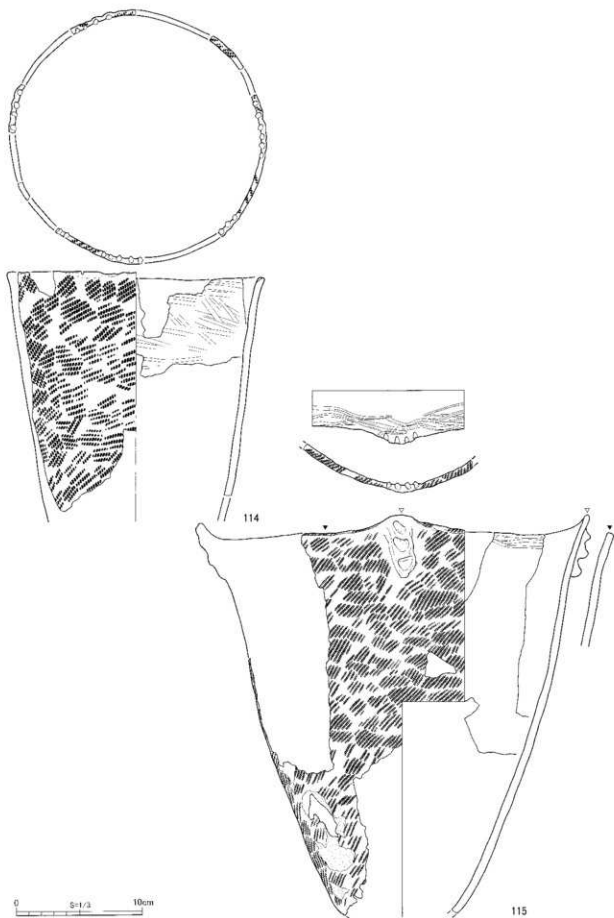
図IV-31 魚骨層出土土器②



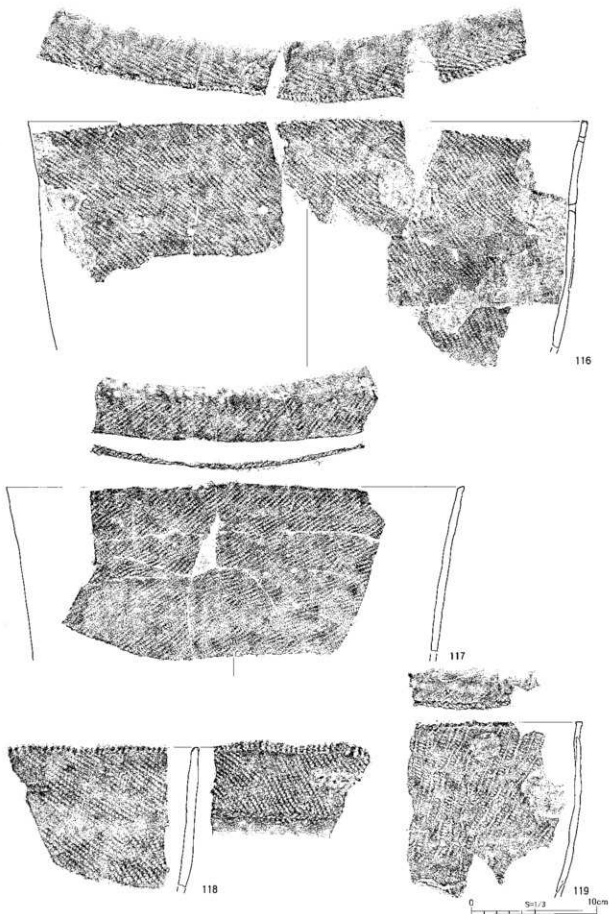
圖IV-32 魚骨層出土土器



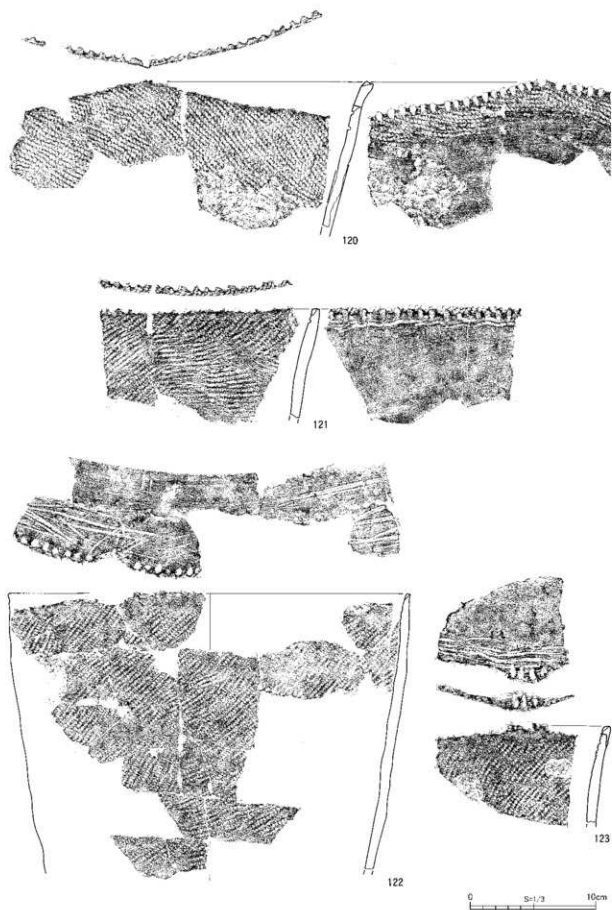
圖IV-33 魚骨層出土土器20



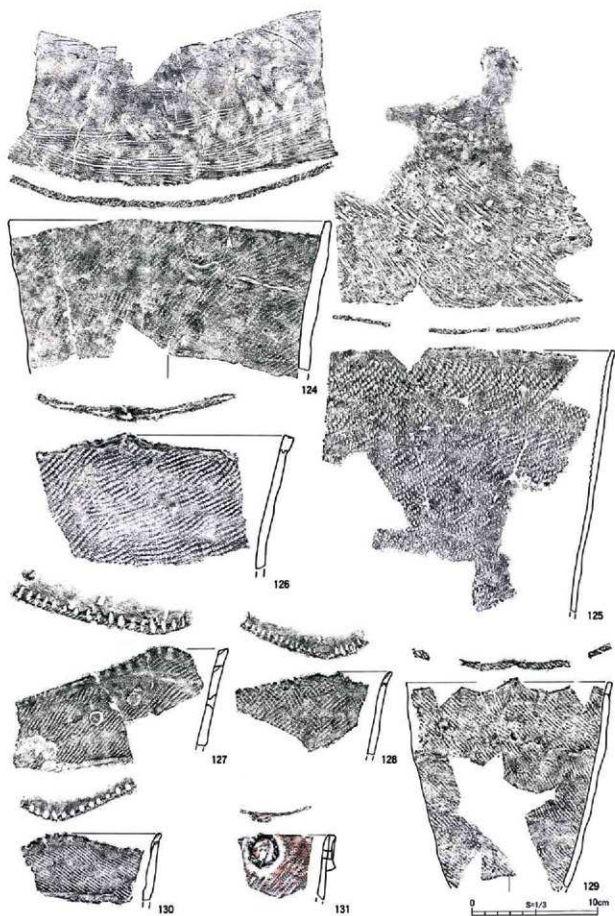
図IV-34 魚骨層出土土器29



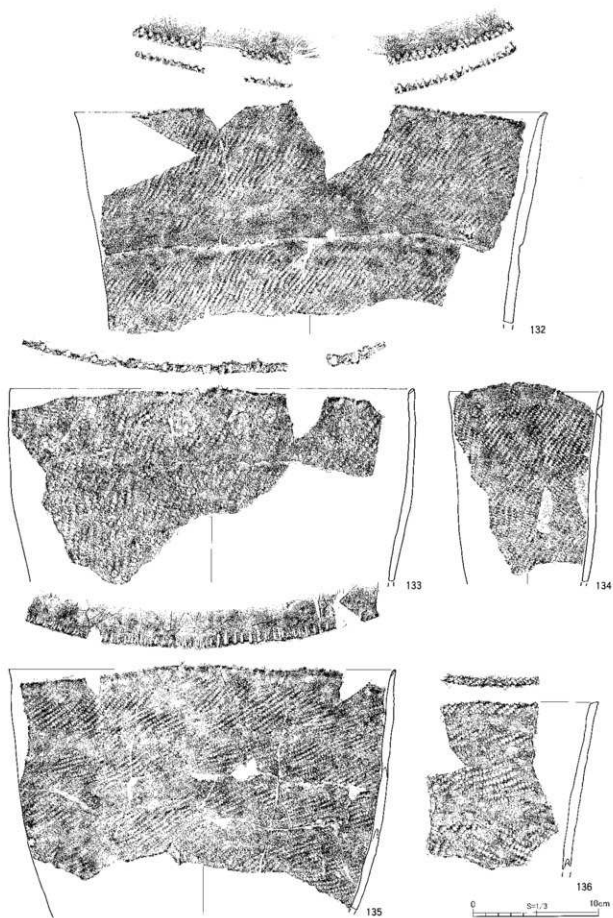
図IV-35 魚骨層出土土器②



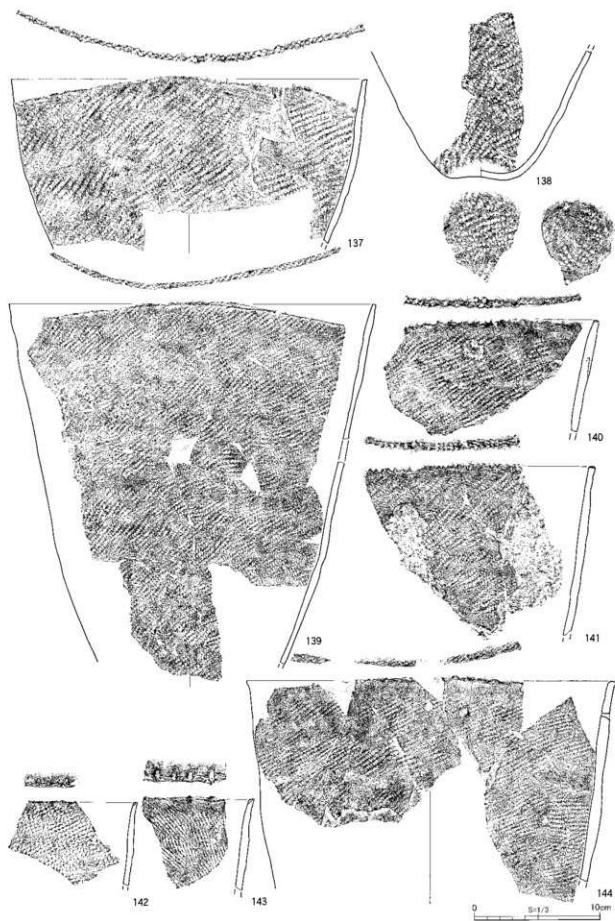
圖IV-36 魚骨層出土土器切



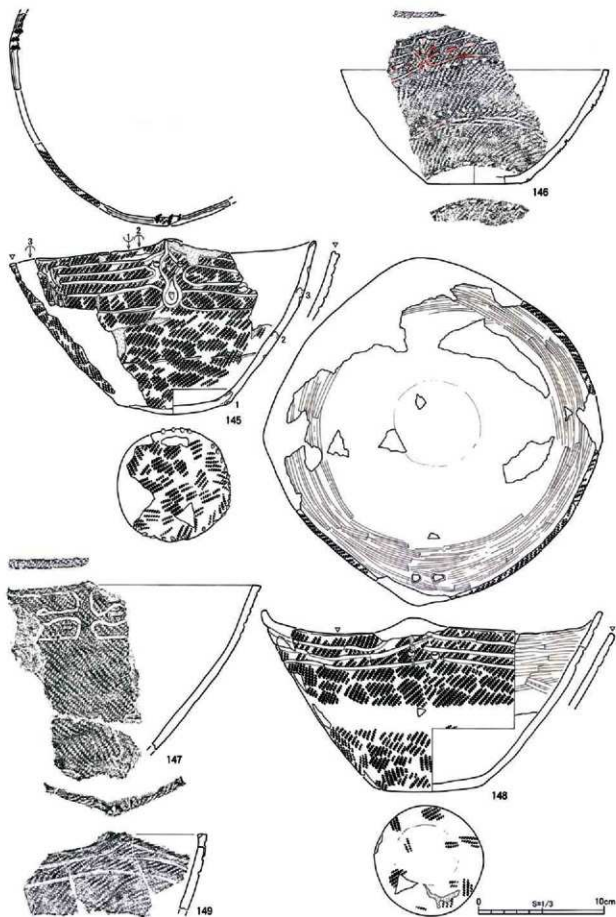
圖IV-37 魚骨層出土土器②

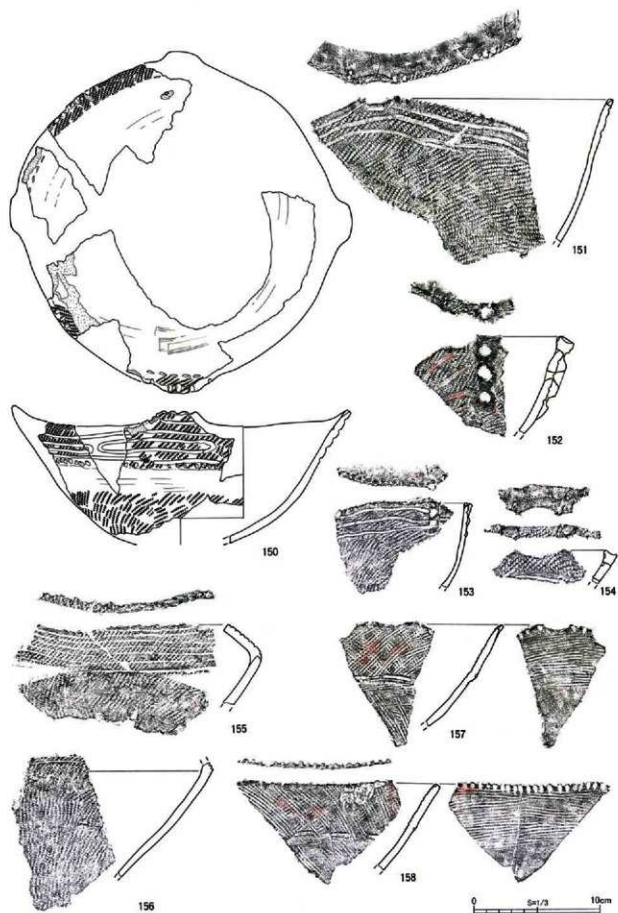


圖IV-38 魚骨層出土土器

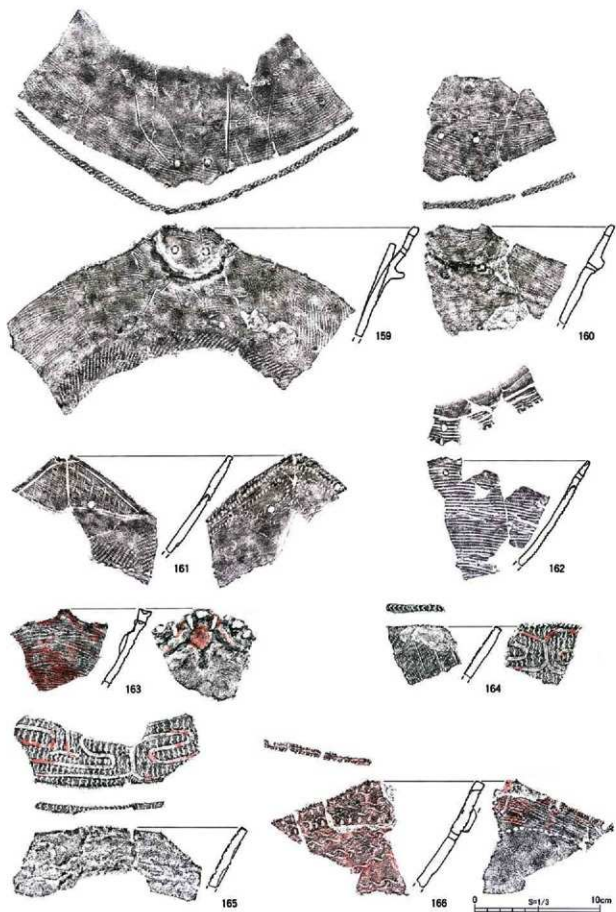


図IV-39 魚骨層出土土器③

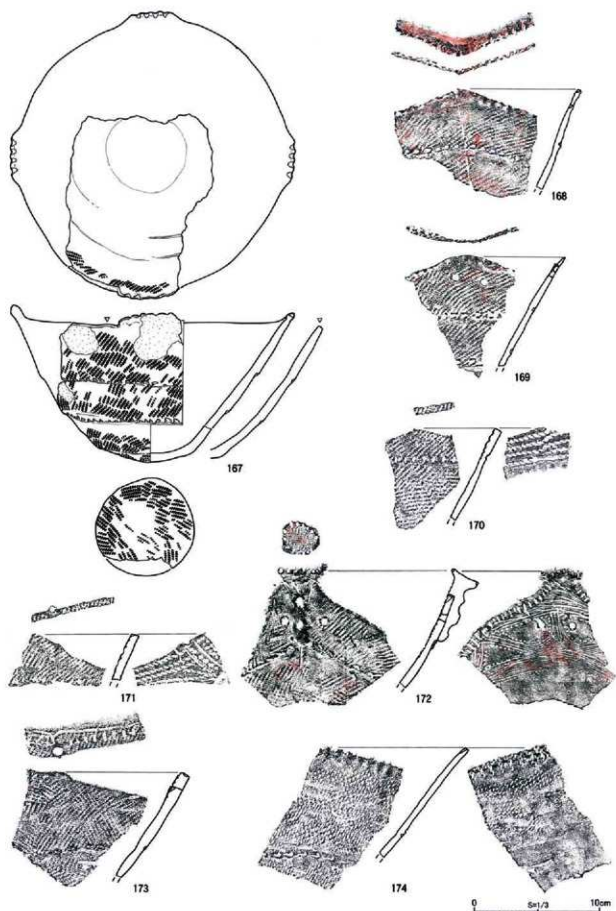




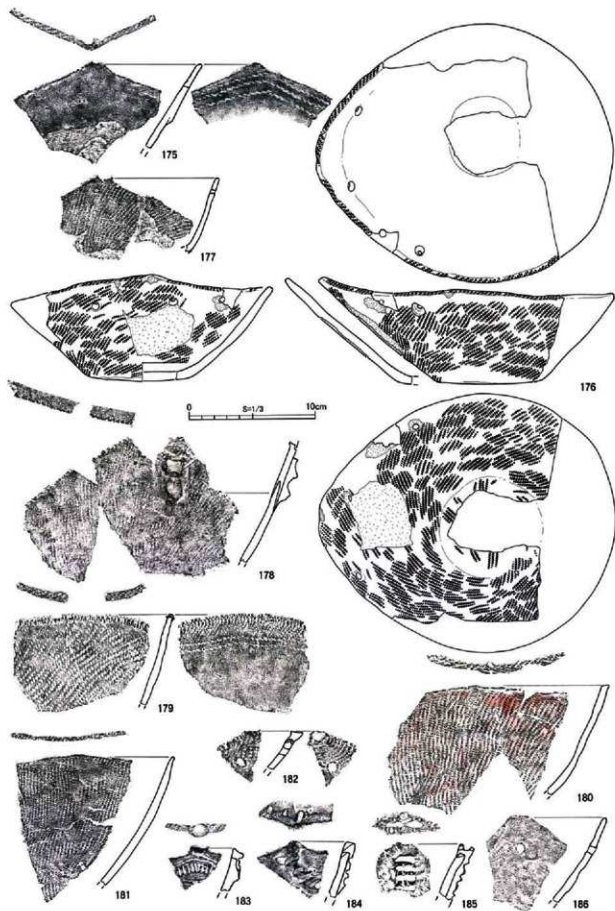
圖IV-41 魚骨層出土土器③



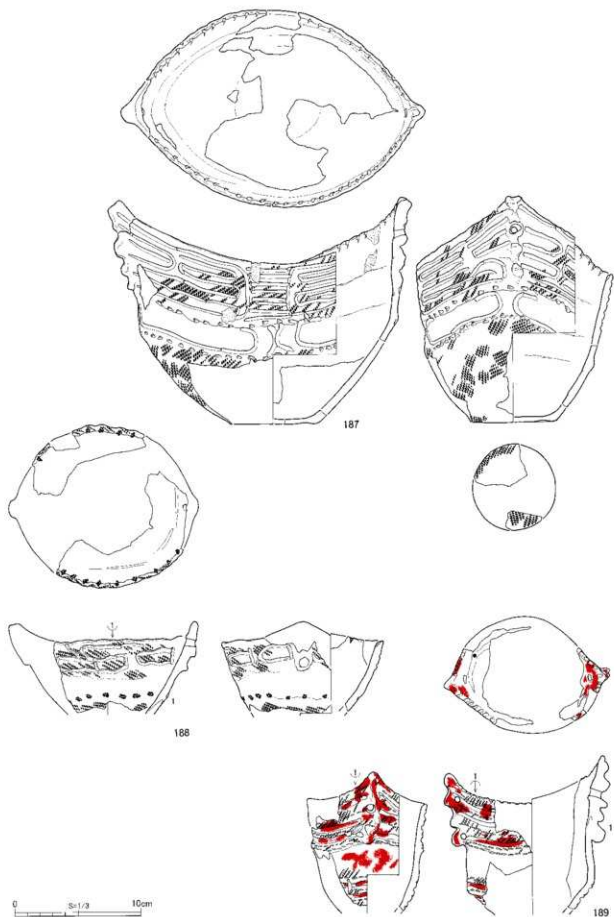
圖IV-42 魚骨層出土土器③



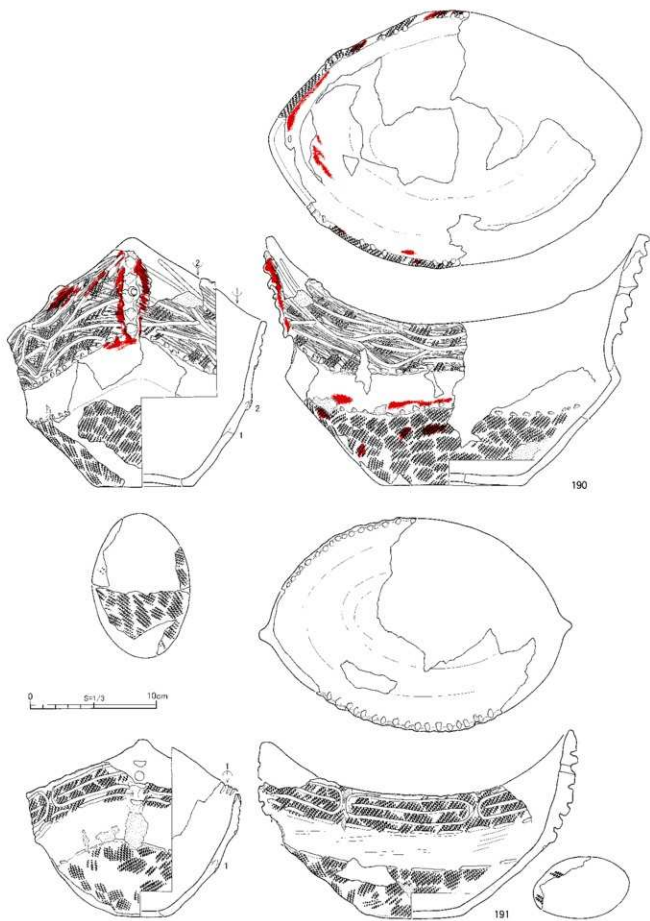
圖IV-43 魚骨層出土土器34

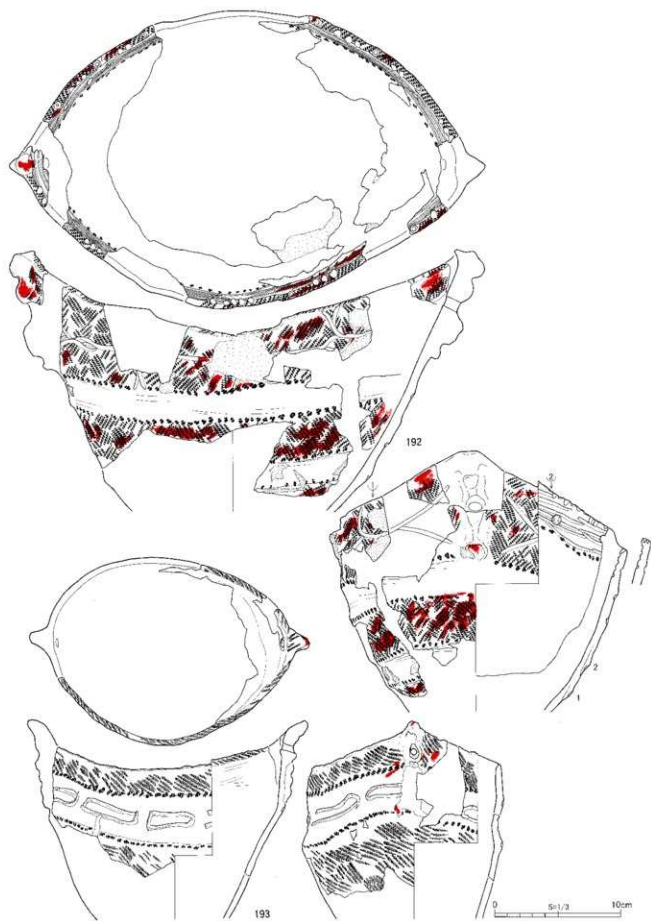


圖IV-44 魚骨層出土土器③

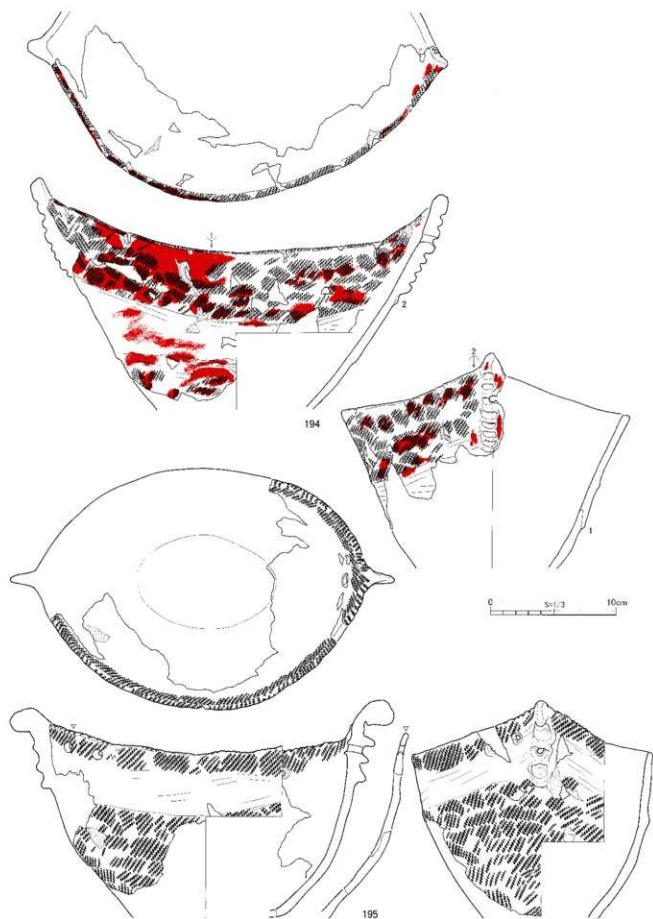


圖IV-45 魚骨層出土土器③

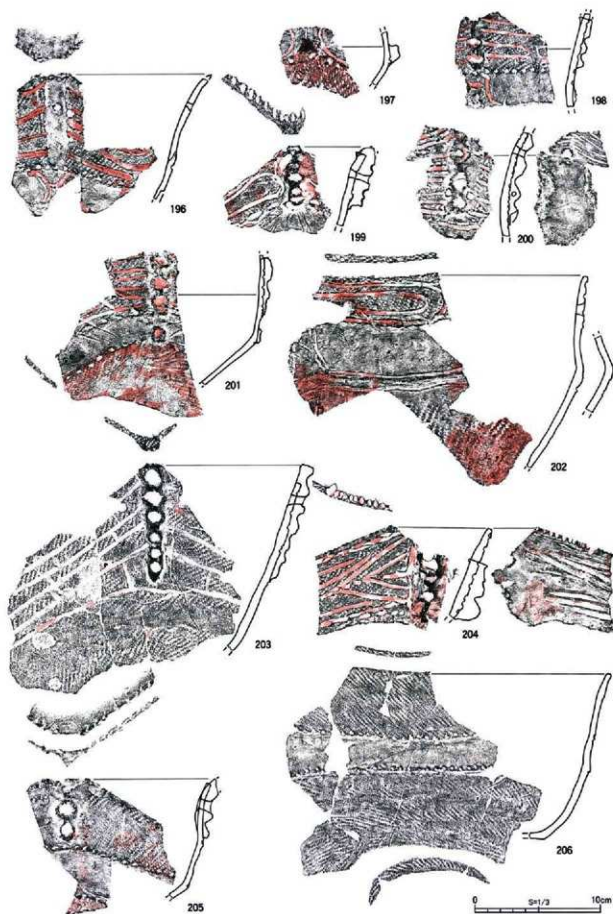




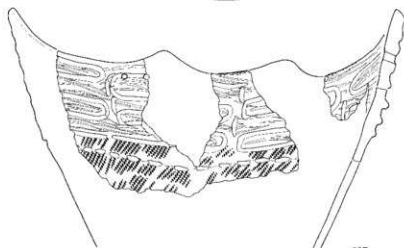
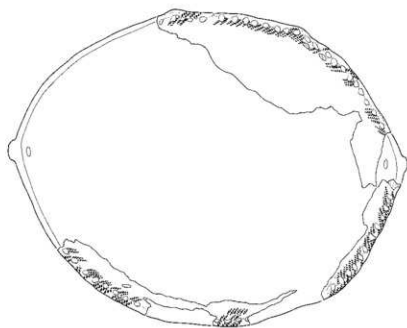
図IV-47 魚骨層出土土器



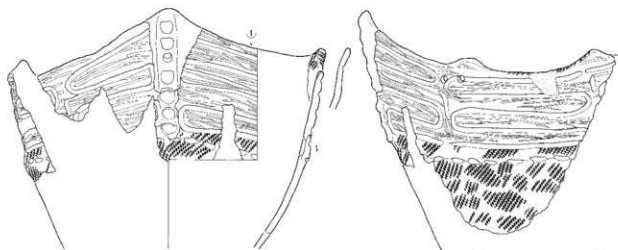
図IV-48 魚骨層出土土器③



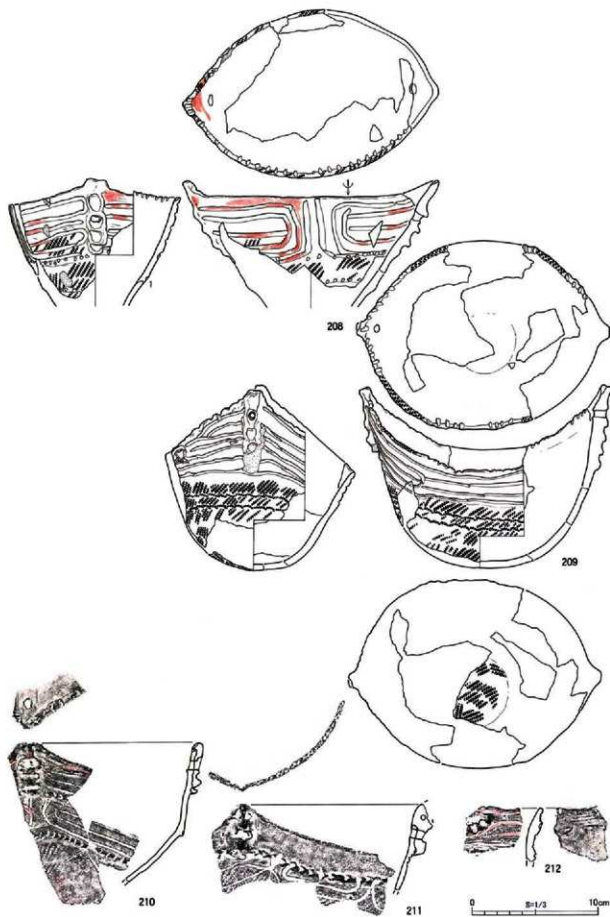
圖IV-49 魚骨層出土土器④



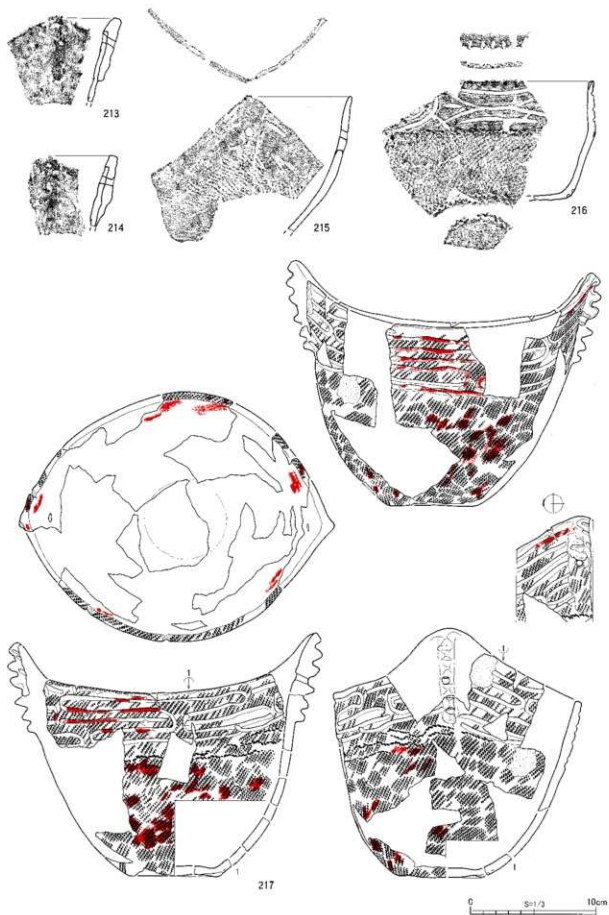
207



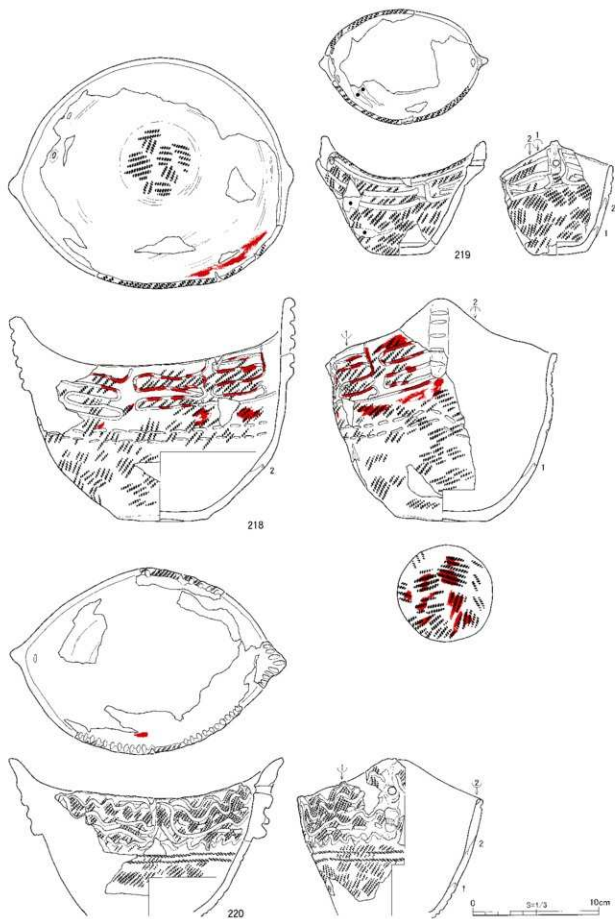
0 5-1.3 10cm



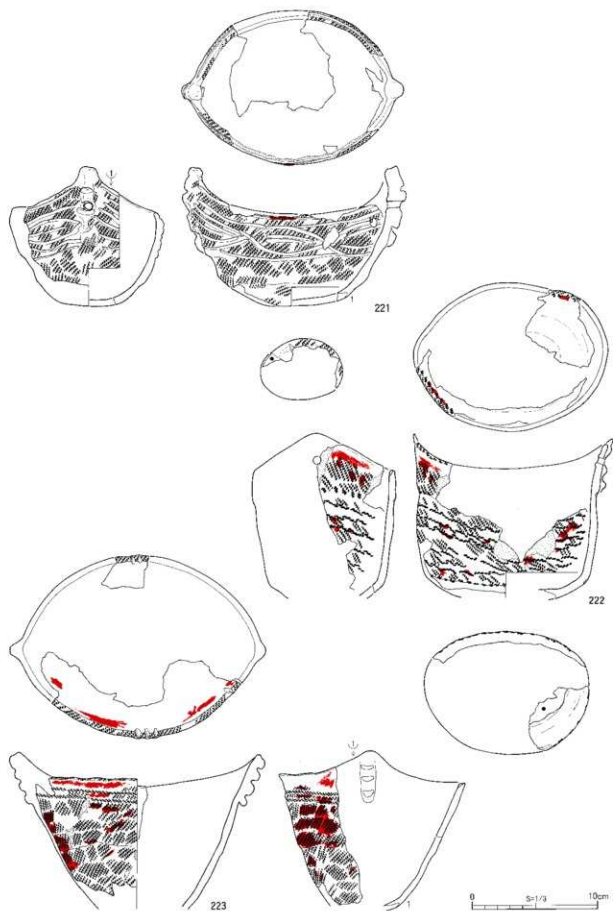
圖IV-51 魚骨層出土土器



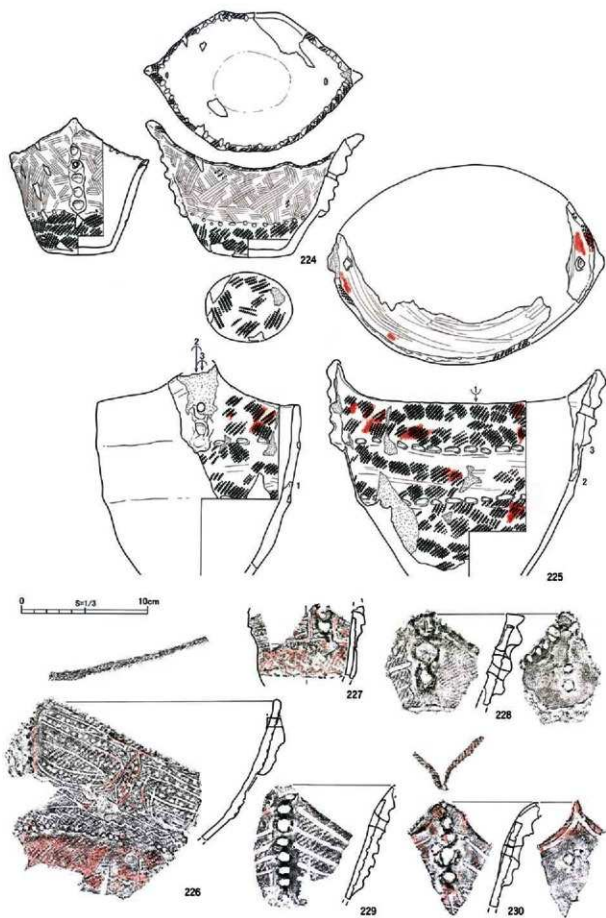
図IV-52 魚骨層出土土器③



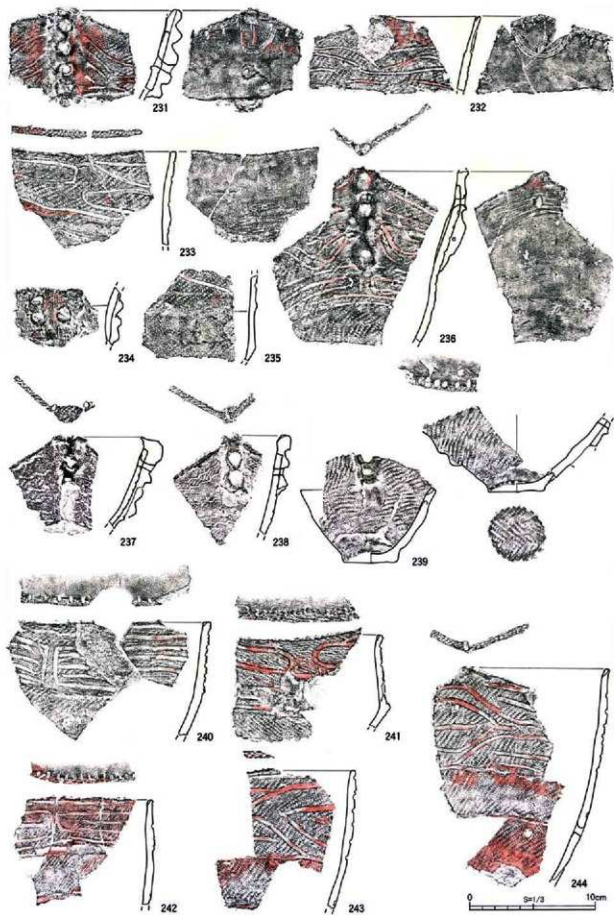
圖IV-53 魚骨層出土土器40



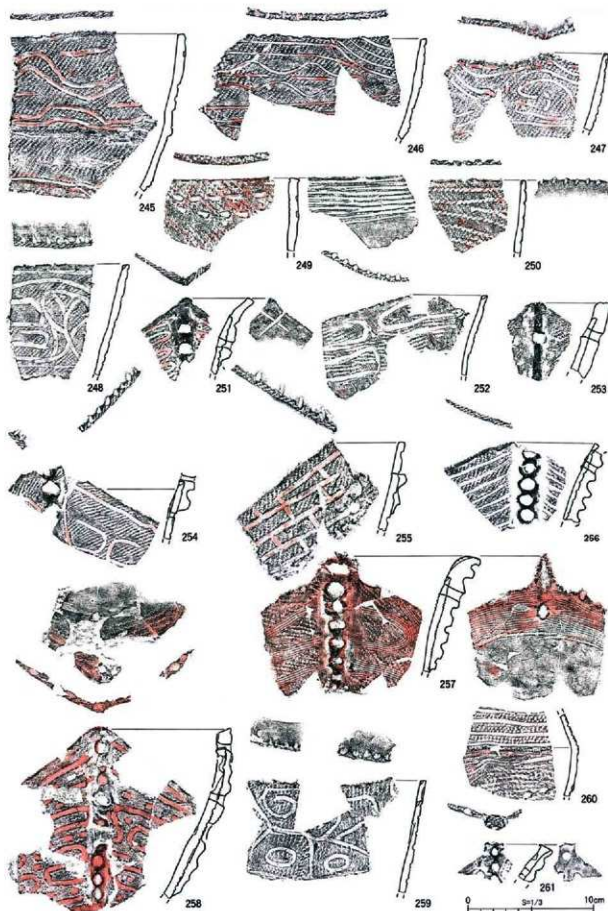
圖IV-54 魚骨層出土土器(49)



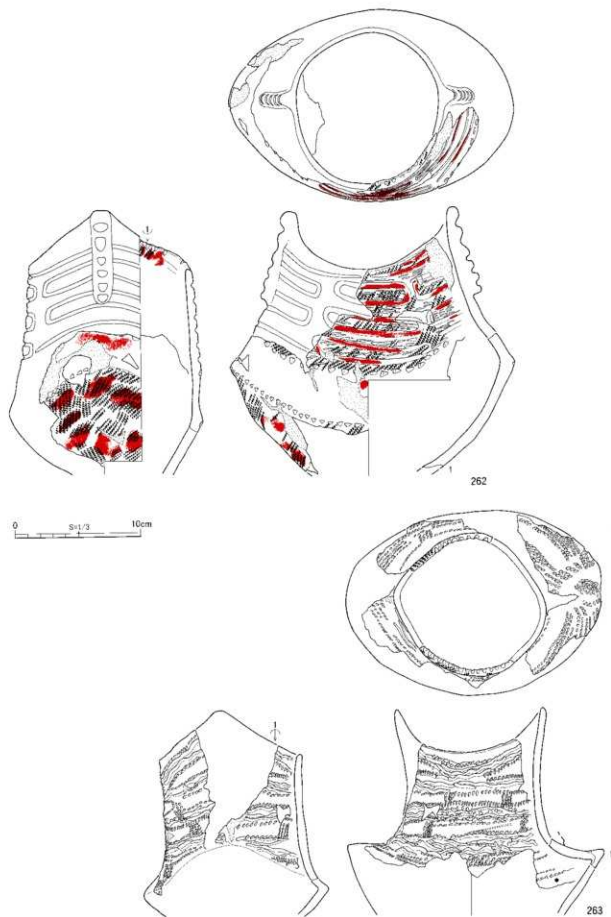
圖IV-55 魚骨層出土土器④



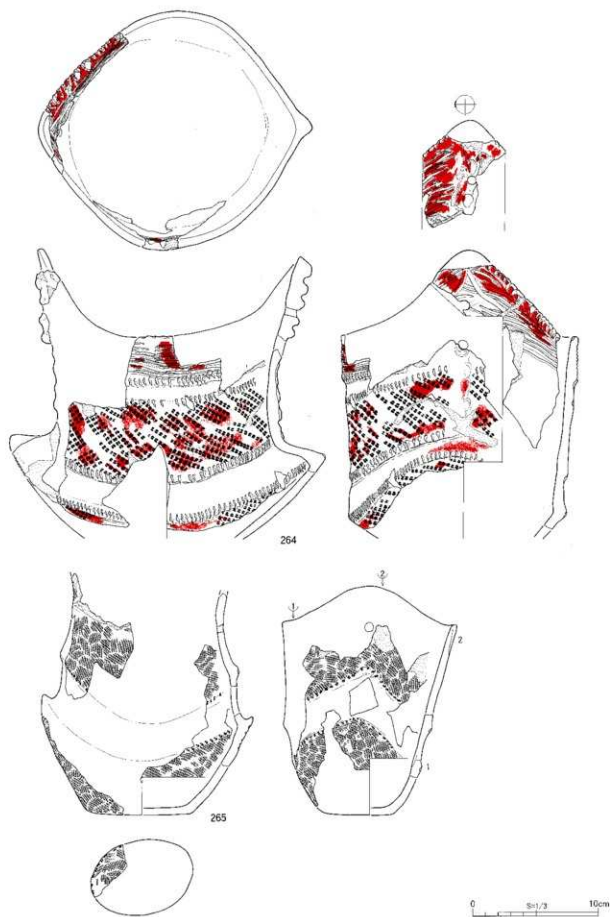
図IV-56 魚骨層出土土器(47)



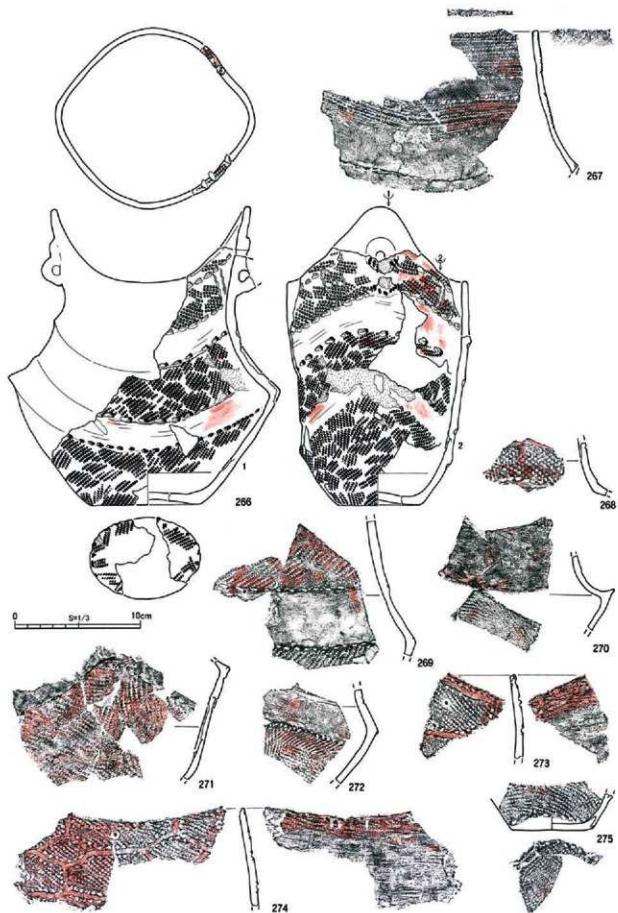
図IV-57 魚骨層出土土器④



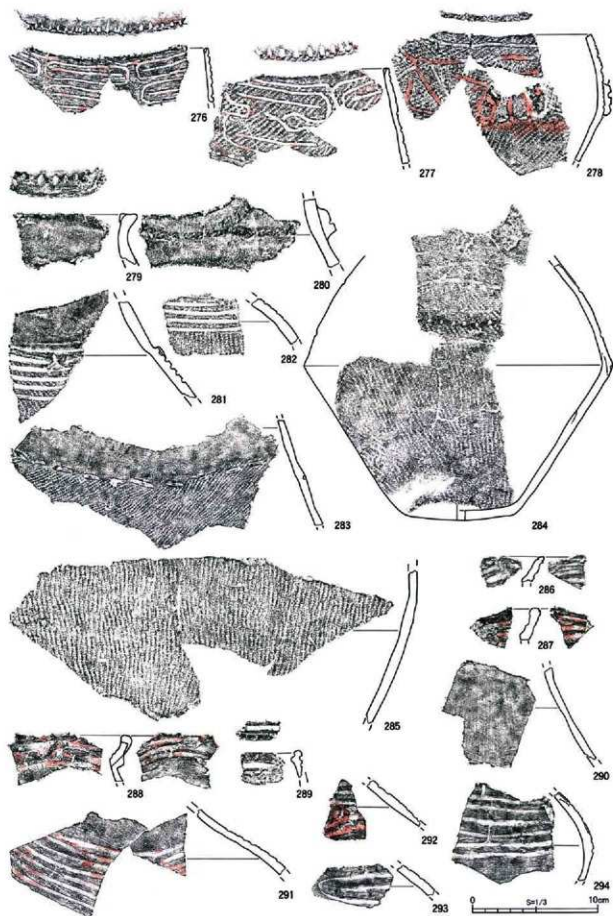
図IV-58 魚骨層出土土器④



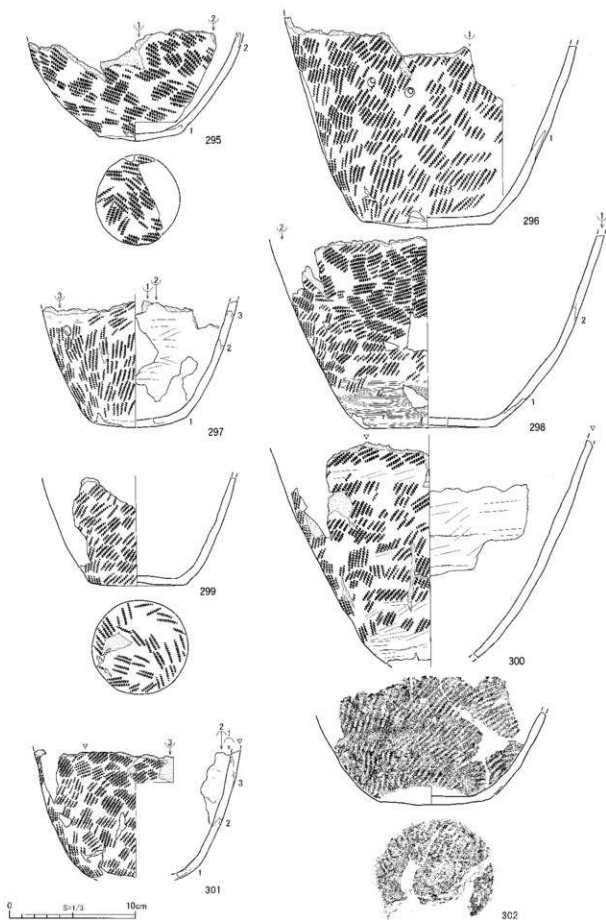
図IV-59 魚骨層出土土器⑤



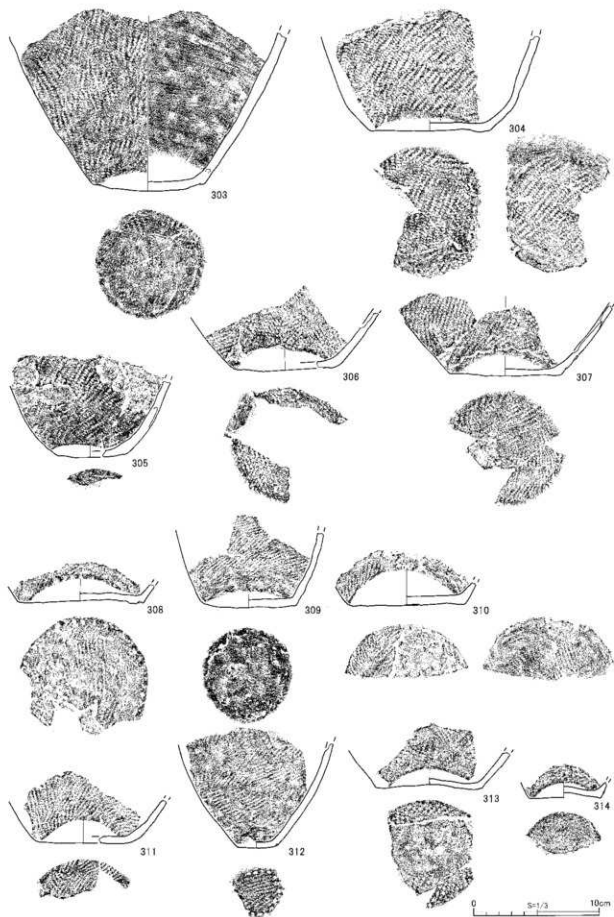
圖IV-60 魚骨層出土土器51



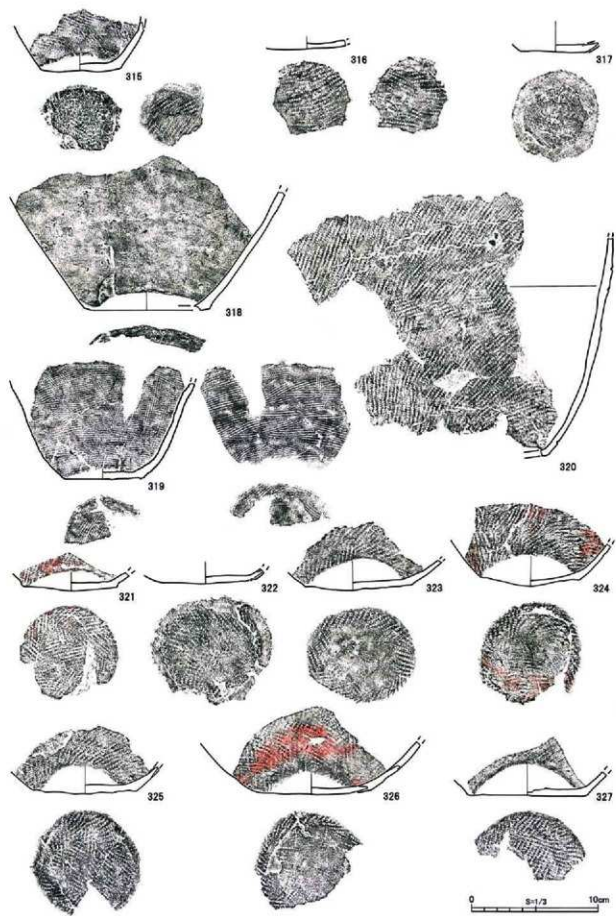
圖IV-61 魚骨層出土土器50



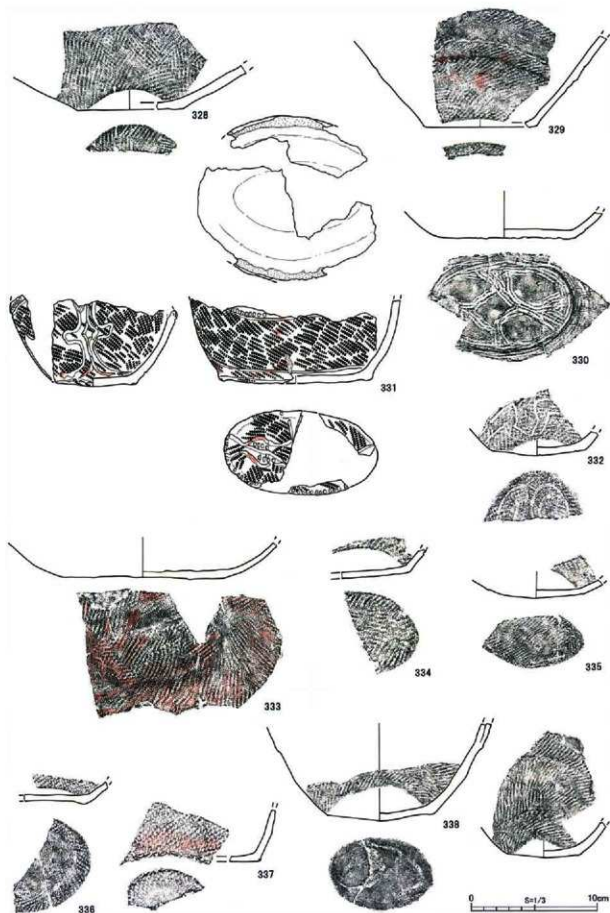
図IV-62 魚骨層出土土器53



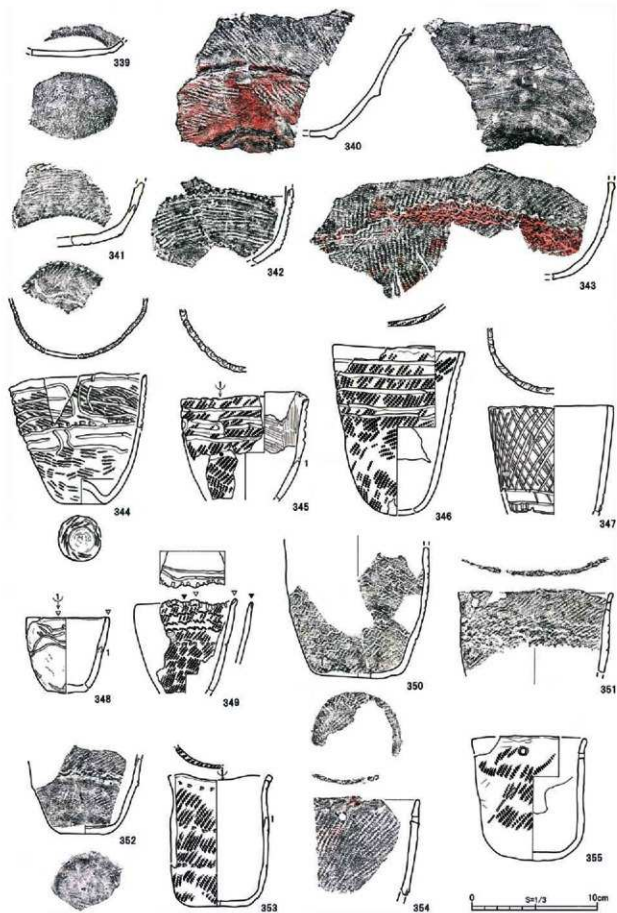
図IV-63 魚骨層出土土器54



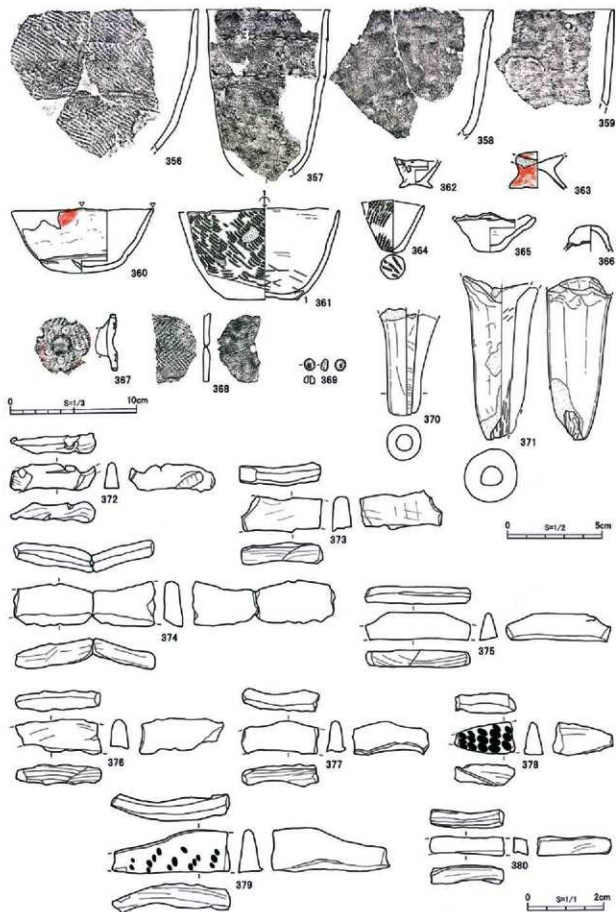
図IV-64 魚骨層出土土器59



図IV-65 魚骨層出土土器50



圖IV-66 魚骨層出土土器57



圖IV-67 魚骨層出土土器50

土器本体は口唇部断面が角形になり、口唇部への縄文施文が容易になったと思われる。焼成粘土塊の存在から遺跡周辺で土器作りが行われていたことが推定できる。

V群c 2類 (図IV-61-286~294、図版60・61)

壺 (図IV-61-286~294、図版60・61)

286~294は大洞系の壺の破片である。表面のミガキ・胎土・色・厚さ・器面が層状にはがれる特徴などが在地系のもものと異なり、明確に区別される。器形は壺のみで縄文は施文されない。286~288は口縁部、290は頸部、291~294は肩部である。口縁部には沈線と貼り付けによって三角形が描かれ、口縁上部には蓋受けがある。口唇部には大小の山形突起がある。頸部は内傾し、外面は細い工具で上下に丁寧に磨かれる。頸部のミガキの特徴は字跡遺跡(葛西ほか1996)の頸部が内傾する壺にも確認できる。肩は張り、浅く幅広い平行沈線が描かれ、部分的に縦の沈線によって工字文が表現されるもの(291・294)と流水状に描かれるもの(292・293)がある。沈線の縁はミガキによって角が取れてなだらかである。肩部から胴部にかけては角張らず丸い。文様は胴最長部の下部に及ぶ。肩部は比較的水平和近く、胴最長部は胴部の上位に位置していたと思われる。接合痕は288・294で確認でき、蓋受けの部分は上にのせるように接合し、その接合部には縦に爪で付けられた痕跡があることから、接合面に爪で凹凸をつけることで外れにくくしていたと考えられる。

3 石器・石製品

石鏃 (図IV-68-1~22、図版79)

491点出土し、I a類が24点、I b類が108点、II類が2点、III a類が42点、III b類が108点、III c類が1点、折損等で分類不明が206点である。I a類5点、I b類7点、II類1点、III a類3点、III b類5点、III c類1点を図示した。

1~5はI a類で、全て黒曜石製。6~12はI b類で、全て黒曜石製。非常に小型の6を除くと3cm前後のもの(7~10)、4cmを超える細長いもの(11・12)がある。13はII類で、黒曜石製。14~16はIII a類、17~21はIII b類、22はIII c類で、全て黒曜石製。III c類を除き基部形状は漸移的である。21のような4cm程度の細長いものがあるが、3cm前後のものが多い。III cはいわゆる「油筒型」(赤石・中岡2000)と呼ばれるものだが本遺跡では1点のみであった。

ナイフ (図IV-68-23~図IV-69-49、図版79)

66点出土している。27点を図示した。多くの資料が出土しているが、完形品が少なく、破損品が多いのが特徴で、台地部の包含層出土資料に比べても同様である。この比率の違いは魚骨層と包含層の遺棄された脈絡の違いが想定される。

23~34は完形品である。基本形状は、基部は四角ないし基端部が張り出す形状で、先端は尖頭状である。23は基部の作り出しが不明瞭である。25の裏面には素材面が残り、正面右側縁・裏面右側縁には表面の平坦剥離を切る錯向状の急角度のやや粗い剥離がある。26は正面右側縁に平坦剥離を切る急角度の加工がある。27は先端部両面に粗い剥離が残る。28・29はやや細長いもので、28の側縁は両面右側縁の急角度剥離によって先端部がねじれている。31は幅広い基部、32は基端部がすばまる形状である。33・34は基部がすばまり、基端部は曲線的である。34の先端部は四角である。

35~46は基部である。36~40は基部の付け根で折損したもの、41は基部中央付近、35・42~46は尖頭部途中で折損したものである。35~44・47は基部側縁が内湾し、基端部が張り出すもの、45・46は基部がややすばまるものである。47は基部折損後、折れ面を打面にして正面側で剥離が行われたもの

である。48・49は先端部で、48は尖頭状、49は四角である。めのう製の24を除いて黒曜石製である。産地分析の結果、27(X7)・28(X11)・33(X12)の3点が「所山」と判定された。包含層のナイフも全て「所山」と判定されており、他の石器に比べ大型の素材が利用されているナイフは「所山」産の黒曜石が利用されている可能性が高い。また、ナイフを製作可能な大型の剥片や石核が無いことから遺跡内には剥片やトールの形状で搬入されている可能性が高い。

両面調整石器 (図IV-69-50~56、図版79)

350点出土している。7点を図示した。50~55は黒曜石製、56は凝灰岩製である。50・53・55はナイフのような比較的形態の整った両面調整体が折損し、再加工が行われている。51・52・54は剥片素材のやや粗い加工の両面調整体である。58は扁平で細長い形状のもので上部左右で斜めに剥離されている。

石錐 (図IV-69-57~60、図版79)

22点出土している。4点を図示した。57~59はめのう製、60は黒曜石製である。57は薄い素材、58~60は厚手の素材の一端に突出部を作出している。突出部の稜線は摩滅している。石錐のほとんどが黒曜石以外の石材が利用される。

削器 (図IV-69-61~図IV-70-64、図版80)

279点出土、I a類が30点、I b類が21点、II a類が26点、II b類が14点、不明が18点である。I a類1点、I b類2点、II a類1点を図示した。62はI a類、61・63はI b類、64はII a類である。62~64が黒曜石製で、61には転蹀面が、62・64には角蹀面が残る。

搔器 (図IV-70-65~73、図版80)

116点出土し、I類が9点、II類が41点、III類が32点、不明が34点である。I類1点、II類3点、III類5点を図示した。65はI類、66~68はII類、69~73はIII類である。65~72は黒曜石製、73は安山岩製。65・67・72には角蹀面が残る。66~69には裏面にも剥離が見られ、66・67・69は正面の加工を切っている。73は大型である。

異形石器 (図IV-70-74、図版80)

1点出土している。1点を図示した。74は黒曜石製で腹面の一部の素材面を除いて細かい剥離で三日月形に整形されている。右側縁中央には2か所の浅いノッチ状の剥離がある。

石核 (図IV-70-75~84、図版80)

162点出土、I a類が6点、I b類が35点、I c類が49点、II a類が10点、II b類が26点、III a類が10点、III b類が8点、不明(IV類)が18点である。I a類1点、I b類3点、I c類4点、II b類2点を図示した。75は両極剥離によって分割されたと考えられるI a類。76~78はI b類、79~82はI c類、83・84はII b類である。75~81・83・84は黒曜石製、82はめのう製である。転蹀素材であるI類が多く、角蹀素材のII類は少ない。転蹀は蹀面が残存するものが多く、復元されるサイズは5 cm程度と小さい。一方、角蹀は蹀面が残存するものが少なく、83のような小型もあるが、より大型のものが予想される。ただし、剥片を含め、角蹀面を残すものが少ないことから大型の石器は剥片ないし石器の状態では搬入された可能性が高い。転蹀の剥離工程は両極剥離による分割後、分割面を作業面に設定し、剥離が行われる。また、分割面を打面として側面では剥離が行われ、打面と作業面を入れ替えながら進行すると推定される。

産地分析の結果、78(X21)は「上土幌」、80(X22)・84(X23)は「所山」と判定された。78は蹀面を多く残す転蹀で一般的なサイズである。80は蹀面の残存が少なく、やや大型の原石である。84は角蹀である。このことから5 cm前後の小型の原石は「上土幌」産のもので、角蹀と一部大型の転蹀(亜角蹀程度のものを含む)は所山産であることが予想される。

石斧 (図IV-70-85~図IV-71-90、図版80)

15点出土している。6点を図示した。85・86は片岩、87・88は泥岩、89は花崗岩、90は緑色泥岩製である。85~87は小型の剥片ないし石核素材で、85は側縁の剥離と研磨、86・87は刃部だけの研磨によって整形される。88は全面的な研磨の後、剥離による加工が行われる。89は折損品で全面的な敲打によって整形されている。90は左右側面に敲打痕があり、その後、研磨が行われる。上下とも刃部が形成され、どちらも長軸方向の刃こぼれとみられる剥離がある。

たたき石 (図IV-71-91~96、図版80・81)

21点出土している。6点を図示した。91・92・95・96は砂岩、93は花崗岩、94はチャート製である。91・92は小型の扁平で細長い形状の原石を素材としてその四つの角を利用している。敲打面は直線のかつ平坦で手の平で握むように持って上下左右を持ち替えながら敲いて使用したと思われる。93・94は小型のすんぐりした形状でその一端ないし両端に敲打痕がある。95・96は15cmを超える大型品で、95は下端に、96は右側面中央に敲打痕がある。

砥石 (図IV-72-97~図IV-73-108、図版81・82)

198点出土し、I類が117点、II類が81点である。I類10点、II類2点を図示した。多量に出土し、軽石、砂岩、泥岩、凝灰岩など粒度や素材の異なるものが出土している。97~104は軽石、105は泥岩、106・107は凝灰岩、108は砂岩製である。97~104・106・107は線状のすり面のあるI類。すり面の幅は1mm以下のもの(107)、2~5mm程度のもの(103・104・106)、5~10mmのもの(97~99)、10mm以上のもの(100~102)など多様である。また、103・104・107のように多条のものも多い。105・108はすり面の形状が幅広く浅いII類である。I類にも97・104・107のように幅広く浅いすり面と複合するものがある。

台石 (図IV-73-109・110、図版82)

27点出土している。2個体を図示した。109・110は砂岩製。両方とも扁平で部分的に打ち欠きがあり、平坦面がある。110は長さ約50cmと大型である。

球状礫 (図IV-73-111~113、図版82)

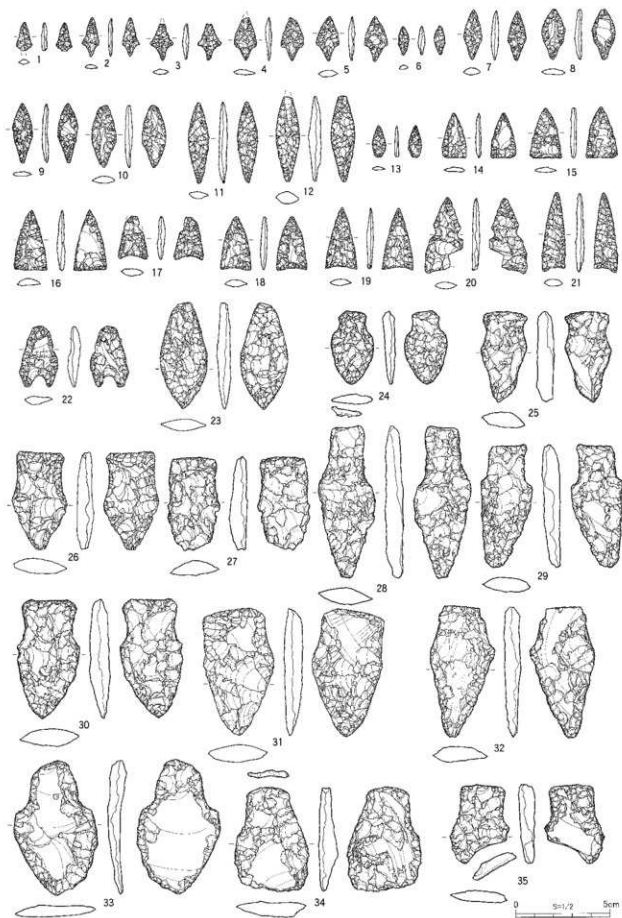
3点出土している。2点を図示した。111・112は直径3cm前後の球状の凝灰岩製の礫である。幣舞遺跡でも出土しており、特徴的に組成される。113はピーナツ形であるが、自然礫として持ち込まれたと思われる。

原石 (図IV-73-114~116、図版82)

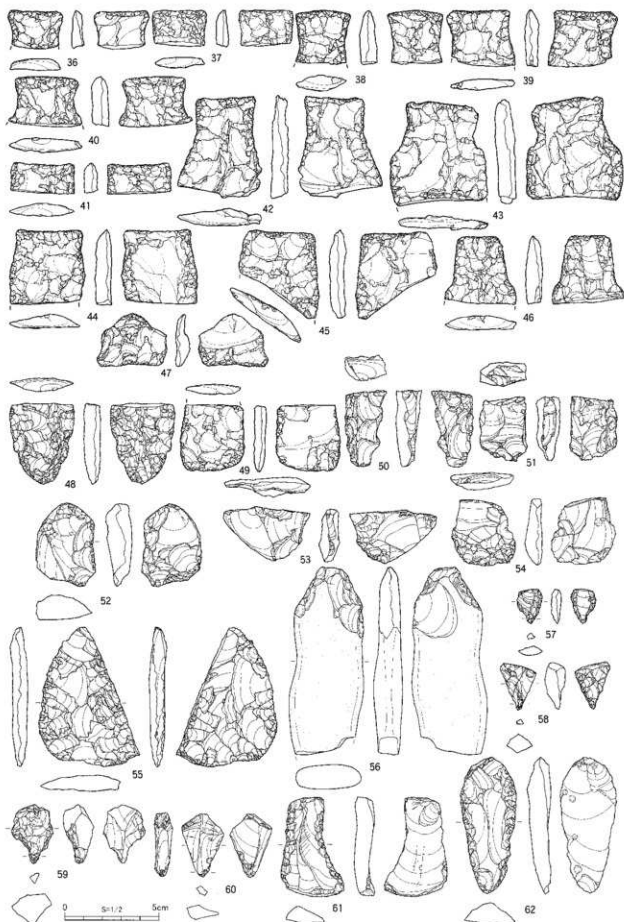
31点出土している。3点を図示した。114~116は長径3~5cmの黒曜石原石である。小型の転礫で、原石の形状で持ち込まれている。石核I類に対応し、概ねこのような原石が利用されていたと考えられる。石核の分析で判定された「上土観」産と考えるとサイズと円磨度から十勝川下流域で採取されたと推定される。

玉類 (図IV-73-117~133、図版82)

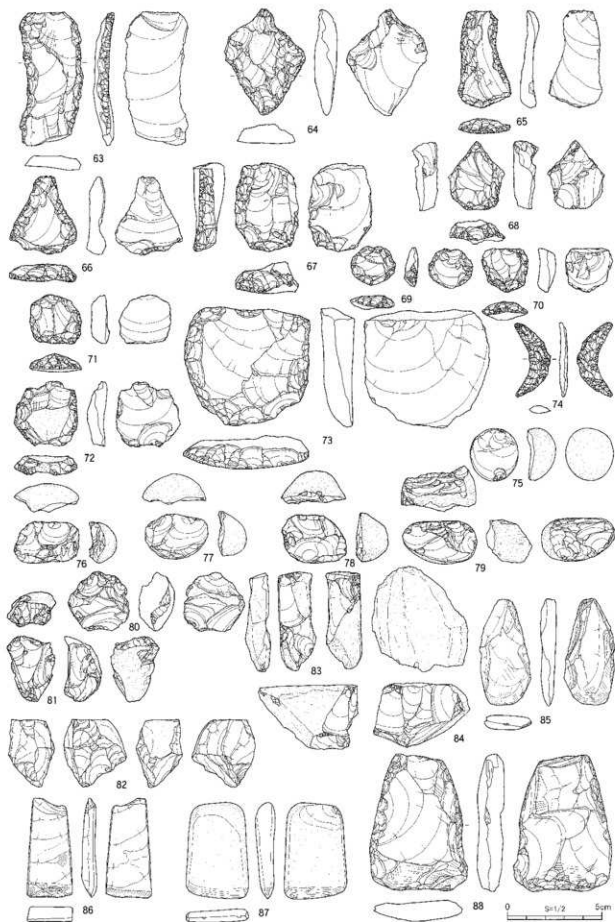
15点出土している。17点を図示した。117~119は緑色凝灰岩、120は泥岩、121はカンラン岩、122は泥岩、123~132はコハク、133は凝灰岩製である。117~119・121は小玉、120は平玉である。122・133は自然礫である。123~127はコハク製の垂飾で、128の孔は貫通していない。129~132はコハクの原石である。117~119には玉擦れの跡がある。コハクは長さ1~2cmの原石を採取して整形しないで穿孔のみ行われる。穿孔は両側から行われる。コハクは原石が比較的多く出土し、遺跡の近隣に石炭の産出地があることから周辺で採取可能とみられる。



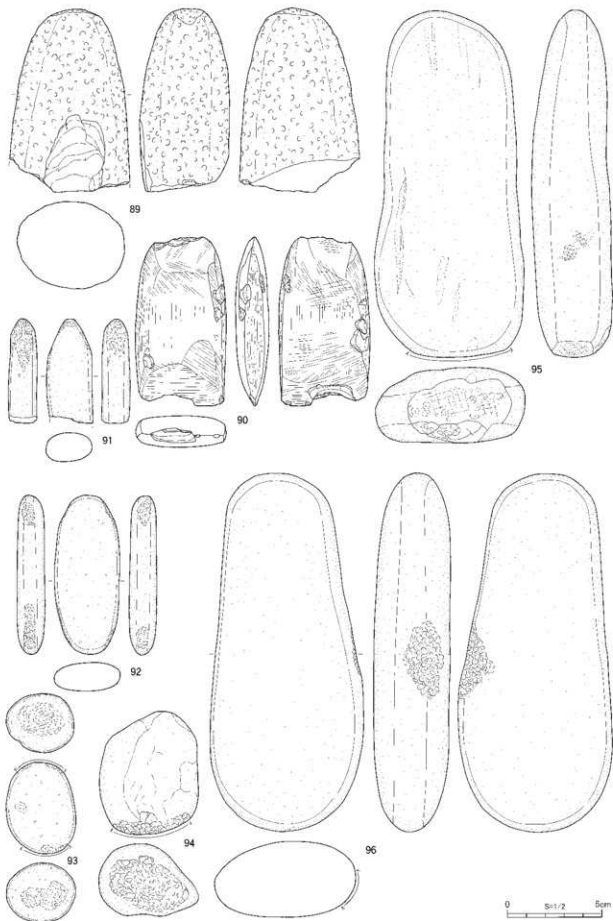
圖IV-68 魚骨層出土石器(1)



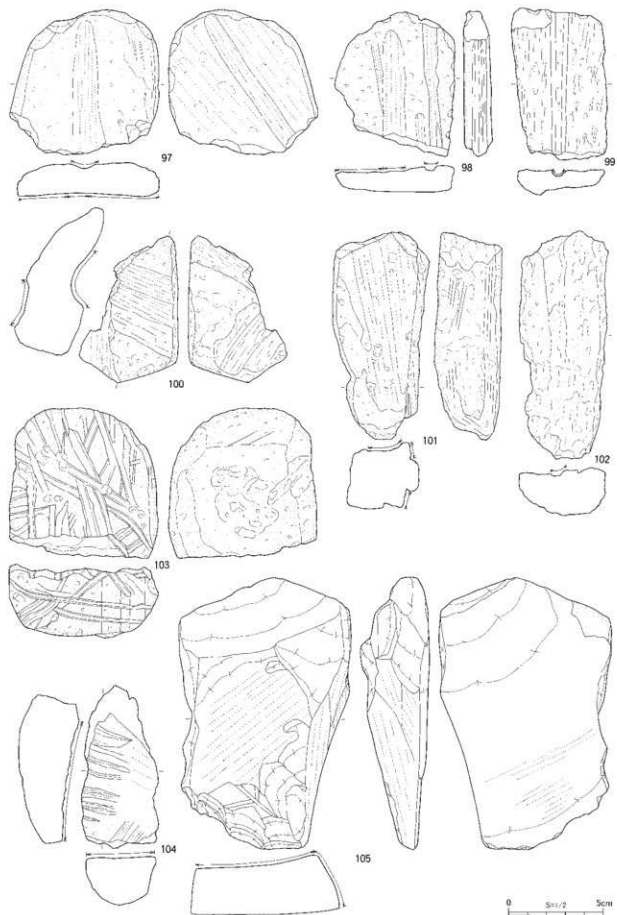
圖IV-69 魚骨層出土石器(2)



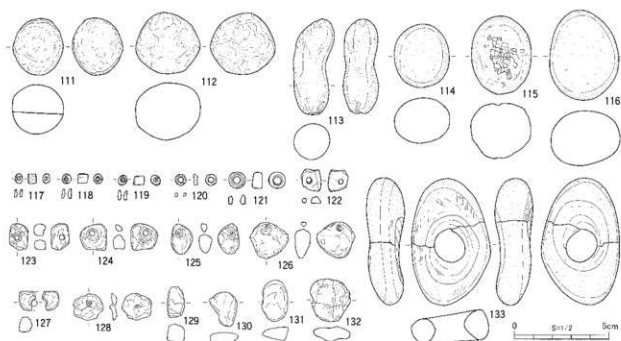
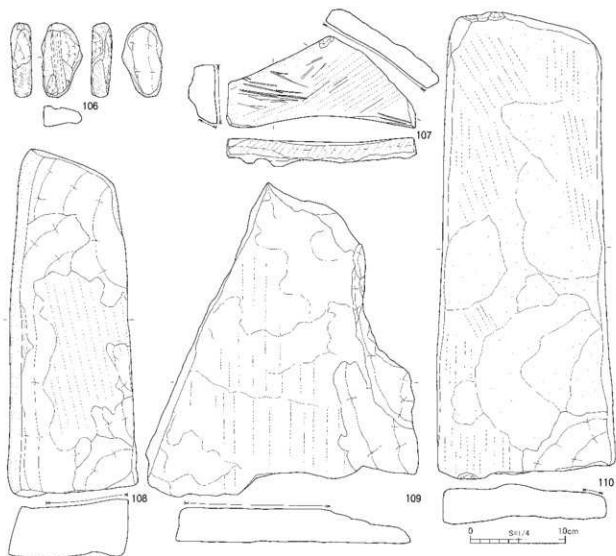
圖IV-70 魚骨層出土石器(3)



図IV-71 魚骨層出土石器(4)



圖IV-72 魚骨層出土石器(5)



4 骨角貝製品

鉦頭 (図IV-74-1～図IV-75-26、図版88)

I類が13点、II類が3点、III類が8点、IV類が5点出土している。I類13点、II類3点、III類7点、IV類3点を図示した。鉦頭は全て開高式である。1～13は単尾のもの (I類) で、1～8は尾部が中軸上にあるもの、9～11は尾部が左に偏るもの、12・13は尾部が右に偏るものである。14～16は双尾のもの (II類) である。17～19は先端部で尾部形状の不明なもの (IV類)。20～26は未成品 (III類) である。鹿角製がほとんどであるが中手・中足骨製の可能性があるものがある。全体的に反りが少なく、側面形が直線的である。索溝のある胴部が器体中央にあり、茎溝の上端部が索溝の上端 (胴部上端) に位置するものが多い。3・4・11・14～16は器体下部、5は器体上部に胴部が偏り、双尾のものが器体下部に偏る傾向がある。また、5・12は茎溝の上端部が索溝の上端より上位にあり、12は索溝の上部の区画が見られないことから先端部の折損後、再加工によって索溝の上部区画が消滅した可能性がある。

1は鹿角内側の海綿質が背面側に利用され、尾部先端には凹凸が作出されている。7の背面には鹿角の表面の凹凸があり、角の先端以外が利用されている。8・11の尾部側の索溝の区画は微隆起線状に作出される。10・13は尾部内側に刻みが見られる。10の背面右側の尾部には削りに切られる折損面の名残と双尾中央の切れ込みに類似した窪みが見られることから双尾の右尾部が折損した後、再加工によって左に偏る単尾に形態変化したものと考えられる。また、最終的に尾部内側に刻みが付けられている。13は尾部左側が張り出し、双尾から単尾へと加工により形態変化した可能性がある。また、10と同様刻みが見られる。これらの刻みは双尾から偏った単尾への形態変化時に付けられた可能性がある。14は鹿角内側の海綿質を背面側に利用している。15は加工の切り合いから①全体の整形②茎溝③索溝範囲の横方向区画の溝切り④索溝内部の縦方向削り、の順で製作されている。双尾の左尾部が腹面からの折れによって欠損し、その端部には欠損後に削られた加工痕がある。16の先端部は折損し、峰状の剥離面から判断して衝撃剥離の可能性がある。17は先端部折損品であるがその折れ面はいわゆる「曲げ型 (Bending)」(山田・志村1989) の特徴を持っている。鉦頭が獲物の体内で「T」字に回転した後、引き上げる際に折れた可能性がある。18は背面側に瘤状の突起によって索溝が区画されている。腹面側から折れた痕跡が残る。19は鹿角内側の海綿質が背面側に設定されている。20の背面側には鹿角の表面の凹凸が残り、腹面には海綿質が見られ、直線的で平坦な形状から角の先端部以外の部分が利用されている。21は鹿角内側の海綿質が背面側に設定され、全体の整形による形状が整わない段階で茎溝・索溝が粗く作出されている。21・22は鹿角の自然面が残る、その凹凸がはっきりしていること、直線的な形状から角の本体 (枝角ではない) 後頭側か内側の部分と思われる。全体形状の整形、索溝・茎溝の作出など全体的に中途半端である。23～25は加工初期段階のものである。23・24は背面に鹿角の凹凸のある自然面が残る、縦に分割された素材が利用される。先端部は長軸方向の研磨によって、背面・腹面の下部は斜め、横方向の研磨によって整形される。擦痕の形状から砥石を利用していると思われる。25は背面に鹿角の自然面が残るが、表面は平滑で角の先端と見られる。側面に長軸方向の擦痕が見られる。26は粗い擦痕によって索溝・茎溝が作り出される。

尖頭状骨角製品 (図IV-76-27～図IV-78-72、図版88～90)

I a類が5点、I b類が29点、II a類が48点、II b類が10点、III類が7点出土している。I a類4点、I b類を18点、II a類を17点、II b類を5点、III類を2点図示した。27～30はI a類。27・28はシカ中手骨または中足骨 (以後「シカ中手中足骨」と呼称) 製で、29・30は鹿角製。ヤス状の返しが

あるが、不明瞭である。31～48はI b類。31・40・43はシカ中手中足骨製、32・37・42・46～48は鹿角製、33・34・38・41は獣骨、35魚類、36・39は魚骨？、44はエゾシカ中足骨(R)内側、45はエゾシカ中足骨(L)内側製。31～41は棒状、42は先端部のみ細く、43～45・47・48はやや幅があり、46は素材形状を反映して湾曲する。32の右側面には石器の加工による段があり、左側面下部には素材分割段階と見られる剥離面がある。銚頭の未成品の可能性もある。33は表面の風化が激しい。34・36は右下がりや長軸方向の擦痕が見られる。35は下半部に横方向の擦痕がある。37の右側面、40の正面には擦り切り痕があり、40は下端部が断面三角形に整形される。39の上端には横方向の溝がある。42は上端の折れ面を切る研磨痕がある。43の側面には右下がりの擦痕がある。44は中足骨後側の中央と内側を擦り切り、素材が得られている。45はスパイラル剥片素材で、長軸方向の研磨で尖頭部が作出される。46は鹿角の先端部を利用し、上部は研磨によって丸く整形される。47・48は擦り切りで分割された鹿角で、47は凹凸の少ない自然面があることから鹿角の先端に近く、48は凹凸の自然面があることから先端部から離れた部位である。47の尖頭部、48の正面下部には長軸方向の粗い擦痕が残る。

49～65はII a類。49～57・59～64は鳥骨製で、49はウミウクラスの尺骨、55はオオハクチョウ？、59はオオハクチョウ脛足根骨(R)、60はオオハクチョウ脛足根骨、62はオオハクチョウ上腕骨(L)製である。58はシカ中手中足骨、65はシカ尺骨(L)製である。49は腹側翼羽乳頭があり、縁辺全体が滑らかに研磨される。50の内面には擦り切り痕が残り、丸みを帯びた縁辺には長軸方向の浅い擦痕がある。51はスパイラル剥片素材で、内面中央の左右に打点のある剥離面があることから両極剥離の可能性もある。左側縁のみ研磨される。52はスパイラル剥片素材。53～55は側縁全体が丸みを帯び、細長い形状である。54の上部には横方向の刻みがある。56は左側面に擦り切り痕がある。57～60は打割によって分割された素材で、58は先端部側のみ、59は尖頭状の広範囲にわたって研磨される。60は尖頭部と上部の突出部が研磨される。61の左側縁には素材剥離時の打点が残る。62～64は加工が側縁のみならず正面・裏面にも及び薄く、表面は平滑に整形され、縁辺は比較的鋭い。62の正面には模様のような線刻がある。65は尺骨の先端を尖らせたものである。

66～70はII b類。66はアホウドリ尺骨(R)、67はオオハクチョウ？脛足根骨(L)、68はオオハクチョウ上腕骨(R)、69は魚骨、70はオオハクチョウ上腕骨(L)を素材とする。66は打割によって分割された尺骨近位端を素材として細長い突出部が加工される。関節面近くには5条の溝が彫刻される。67・68は打割によって分割された剥片素材で先端部全体が丸く研磨される。70は上腕骨近位端側の破片が素材である。正面下部には厚みを薄くする粗い擦痕が残る。骨端部にはイヌ科の噛み跡がある。

71・72は先端部形状が不明なIII類。71はシカ中手中足骨製で、全面的に研磨され、断面が長方形である。72はエゾシカ中足骨(R)の近位端後側外側部で、擦り切りによって分割された素材を利用している。72は41と接合することが判明した。

錐形骨製品 (図IV-78-73・74、図版90)

2点が出土している。2点を図示した。73はシカ四肢骨、74はシカ中足骨(R)製で、スパイラル剥片の端部に断面が円形の尖頭部が作出され、尖頭部には横方向の明瞭な線状痕が認められる。

管状骨製品 (図IV-79-75～図IV-80-88、図版90)

I a類1点、I b類2点、I c類6点、II a類4点、II b類1点が出土している。I a類1点、I b類3点(1点はIII層出土)、I c類6点、II a類3点、II b類1点を図示した。81はI a類、79・80・84はI b類、75～78・82・83はI c類である。75はウ科橈骨(R)、76・77はアホウドリ橈骨(R)、78・80はガン族ヒシクイクラス橈骨(R)、79はガン族ヒシクイクラス橈骨(L)、81・82はオオハクチョウ橈骨(L)、84はアホウドリ尺骨(R)製である。全て斜めに切り落とされた端部の縁辺は丸く滑らか

である。81の上面には切断痕がある。

85～87はⅡa類、88はⅡb類である。85・86はアホドリ椀骨(R)、87はガン族ヒシクイラス椀骨(L)、88はコハクチョウ椀骨(L)製である。85・86の両端部は無調整で、端部に切残しがあり、87は両端とも縁辺が丸くなっている。88の下端部は無調整である。85～88は椀骨製で非常に直線的である。

骨針 (図Ⅳ-80-89-図Ⅳ-81-107、図版91)

I類が27点(うち未成品5点)、II類が20点出土している。I類9点、II類10点を図示した。89～97はI類で、鳥骨製。89～94は針頭にくびれのあるもの。95・97は上部欠損品、96は針頭にくびれが無いものである。完形品は長さ3～7cm、直径1～2mm以下で、針頭にくびれがあり、先端部は尖り、ちょうど爪楊枝に形状が類似する。89は裏面に鳥骨の内面の自然面が残る。長さは短く、尖頭部が切り出し状で片側に偏っていることから研ぎ直された可能性がある。90の上端部には折れた痕跡があり、くびれ部を再度作り直している。94は幅広であるが、側縁は丸みがある。95はくびれ部で針頭を欠損している。96は未成品の可能性がある。全面的に研磨され、針頭には横方向の浅い溝がある。

98～107はII類である。98～104は針孔のあるもの、105・106は針孔の無いもの、107は上部欠損品である。素材は全てシカ手中足骨製と思われる。針孔のある完形品の長さは7～16cm、直径は4・5mmで直径に比べ長さの変異が大きい。形状は針孔のある針頭がやや幅広で扁平になっており、先端にかけて断面円形で、針先は尖る。穿孔の方法は次の3つがある。①先端部が平坦な工具を回転させて両面から削り、その中央を先の細い工具で貫通させる(98)。②縦に溝を両面から彫り、薄くなったその中央を尖った工具で貫通させる(99)。③両面から先端の比較的丸い工具で穿孔するもの(100～102・104)。103は針孔の断面形が平行で、一方から穿孔された可能性がある。98～104は表面が非常に滑らかである。99は先端部が斜めに急に細くなっており、折損後に再加工された可能性がある。105・106は針孔が無く、未成品と推定される。105の表面は右下がりの粗い擦痕が各面に残り、断面も多角形で、粗い整形段階とみられる。106は粗い擦痕の後に研磨された痕跡があり、断面は円形で105より加工の進んだ段階と思われる。

短冊状骨角製品 (図Ⅳ-81-108～110、図版91)

3点出土している。3点を図示した。108は海獣骨、109・110は鹿角製。108は短冊状の素材を上端部は内湾するように、下端部は直線的に整形され、表面は研磨される。正面には断面四角の3条の沈線が両端まで伸び、沈線間には下部は破線状の短沈線、上部は1cm程の短沈線が彫刻される。109は全面に研磨が見られる。110は正面には長軸方向と右下がりの、裏面には右下がりのやや粗い研磨痕があり、さらに磨かれている。下部左右に切り込みがあり、下端部は折損している。

槍形骨製品 (図Ⅳ-81-111・112、図版91)

2点出土している。2点を図示した。111・112はクジラ骨製で、上部は尖頭状で、返し部があまり張り出さない槍形である。

その他骨角製品 (図Ⅳ-82-113・115～119・129、図Ⅳ-83-132、図版91・92)

23点出土している。7点を図示した。113は海獣骨、115・118は鹿角、116は獣骨、117はシカ手中骨(L)、119はオオハクチョウ癒合鎖骨、129はオオハクチョウ上顎骨、132はクジラ骨製である。113の正面には長軸方向・右下がり方向に粗い擦痕があり、下部左側面は被熱によって黒色に変色している。115は鹿角の先端部素材で、縦に割れている。正面左側に線刻があるが、「X」字状であったと推定される。116は裏面に左右からの連続した打ち欠きが見られる。117はシカ手中骨(L)の外側後側で、擦り切りによって分割された後、打ち欠きによる加工が行われる。118は、正面は粗い研磨によって整形され、中央は両面から穿孔されている。119は下部稜線の左側に擦痕が残る。また、表面には解

体痕と見られる擦痕が見られる。129はオオハクチョウ上顎の嘴で先端部が切断され、左右2か所穿孔される。132はリング状の一部で右側面には中央に一条の溝が廻る。

魚形骨製品 (図IV-82-114、図版91)

1点出土している。1点図示した。114は海獣骨製。表面には縦方向の浅い擦痕が見られるが、全体的に研磨によって滑らかである。上部は薄く、上端が直線的に加工され、両面から先端の丸い工具で穿孔される。胴部横断面は楕円形で下部は細くなる。左右側縁には1か所ずつ小さな突起がある。下端部は折損しているが若干開きそうで、尾鰭を表現している可能性がある。形状は魚形で、下部を尾鰭にすると右側縁には背鰭が、左側縁には臀鰭が表現されていることになる。細長い形状から本道跡出土主要魚種の中ではキュウリウオ科の魚に類似する。

玉類 (図IV-82-120~128、図版92)

14点出土している。9点図示した。120・121は貝製で、直径6mm前後の小型のものである。両面から穿孔される。122~127は獣骨製である。直径1~1.5cmで厚さは2mmと薄い。128はカモ類の尺骨製で、被熱により白色に変化している。

歯牙製品 (図IV-82-130・131、図版92)

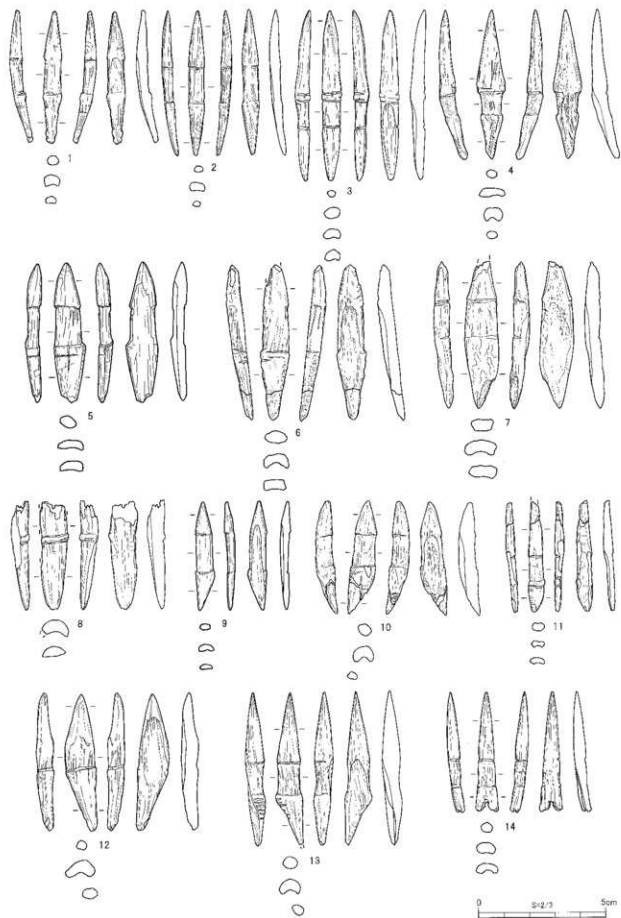
3点出土している。2点図示した。130はイノシシ下顎I1(R)製で、歯根部末端が丸く加工されている。穿孔は両側から行われる。131はイノシシ下顎I2(R)製で、縦方向の粗い擦痕が見られ、歯根部には横方向の線刻が見られる。

骨角製品素材 (図IV-83-133~139、図版92)

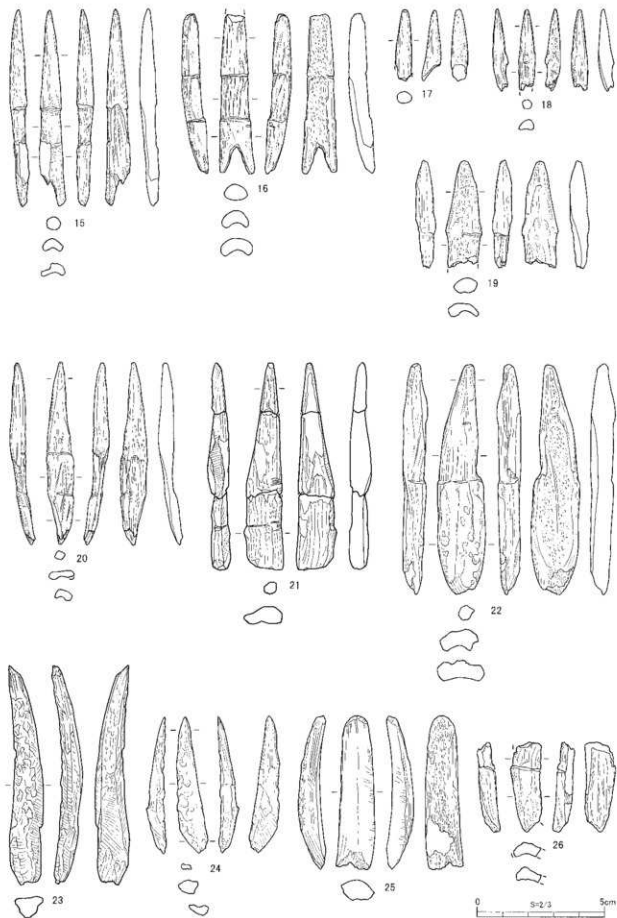
13点出土している。7点図示した。133~138は鳥骨製で、両側縁は擦り切りによって分割される。幅は3~5mmで、分割後加工された痕跡は無く、骨針I類などの素材と考えられる。139は鹿角(R)製で両側縁が擦り切りで分割される。1・2枝間内側の比較的直線的な部分で、銚頭や尖頭状角製品の素材とみられる。

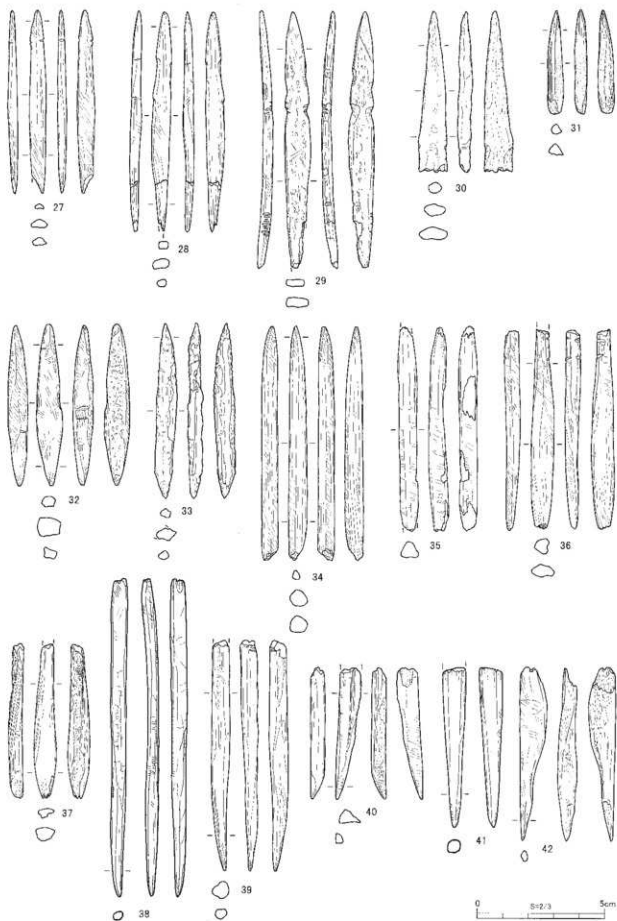
残片 (図IV-83-140~149、図版92)

17点出土し、I類が4点、II類が10点、III類が3点である。I類2点、II類6点、III類2点を図示した。140~149は骨角製品製作において出た屑と考えられるものである。140・141はI類、142~147はII類、148・149はIII類である。140・141はオオハクチョウ上腕骨(R)遠位端で横方向の溝切によって切断される。141の裏面関節部には切痕があり、141の関節部はイヌ科の噛み跡によって破壊されている。142はアホドリ尺骨(R)の近位端で縦方向の線条痕が多数見られる。中でも深い溝が約4mm間隔で3条あり、擦り切りによる切断の痕跡と考えられる。143は鳥骨、144はアホドリ尺骨(L)素材で長軸方向に深い溝が線刻される。両者とも骨端付近で、144の線刻の間隔は3mmである。145は鳥骨製で、縦に深い擦り切り痕がある。溝で割れていないが、素材分割後、一部研磨が見られる。146はシカ中足骨(L)内側前側の近位端近くで内面に擦り切り痕がある。打割された剥片の内面に溝を刻んで打割により分割したと思われる。147はシカ中足骨(R)の遠位端近くで神経孔から縦に溝を刻んで素材を分割したものと考えられる。148は鹿角製。裏面右側には自然面の不明瞭な凹凸が残ることから角の先端部付近と見られる。上下両端が溝切りによって切断されている。上面の切断面を観察すると切断の単位が5単位あり、少なくとも5回加工工具(おそらく石器)を持ち替えながら切断されたようである。149はシカ大腿骨(R)製、下部は溝切りと打割によって切断され、上部は打割によって分離される。

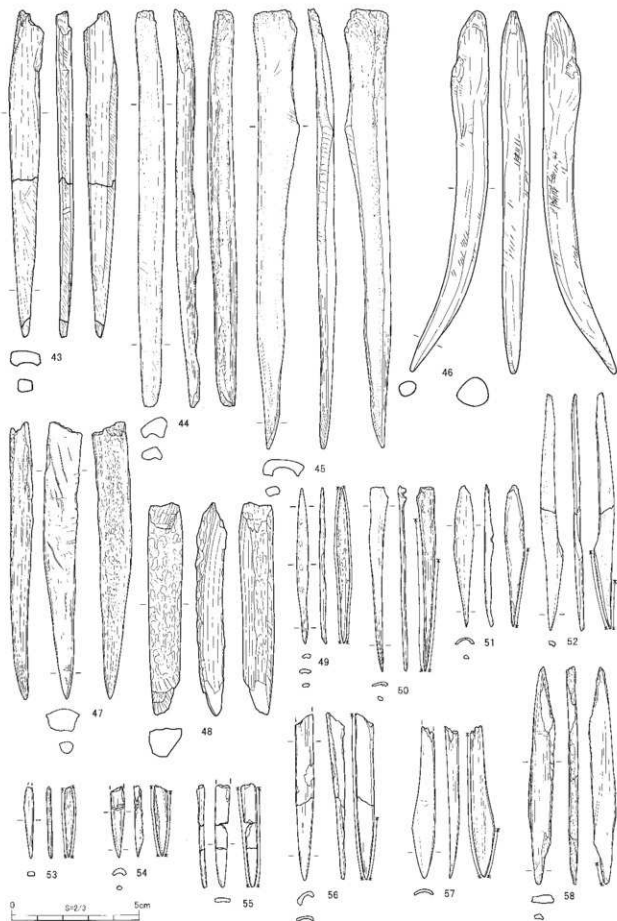


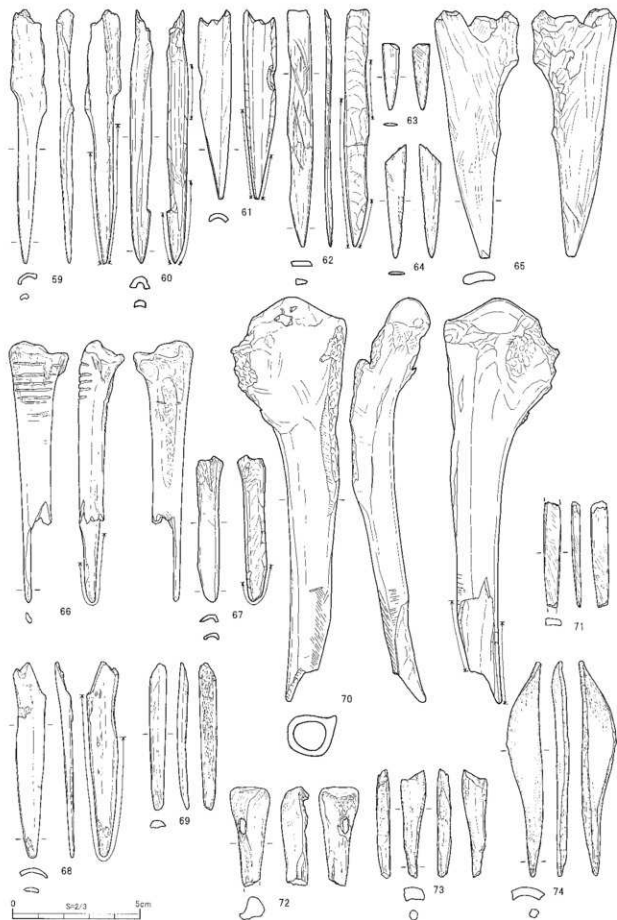
図IV-74 魚骨層出土骨角貝製品(1)





図IV-76 魚骨層出土骨角貝製品(3)





図IV-78 魚骨層出土骨角貝製品(5)

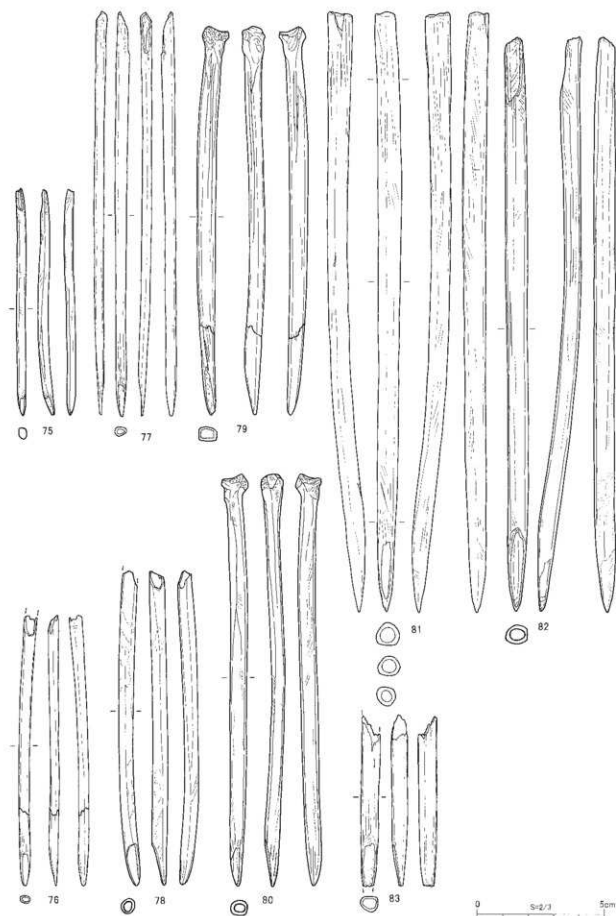
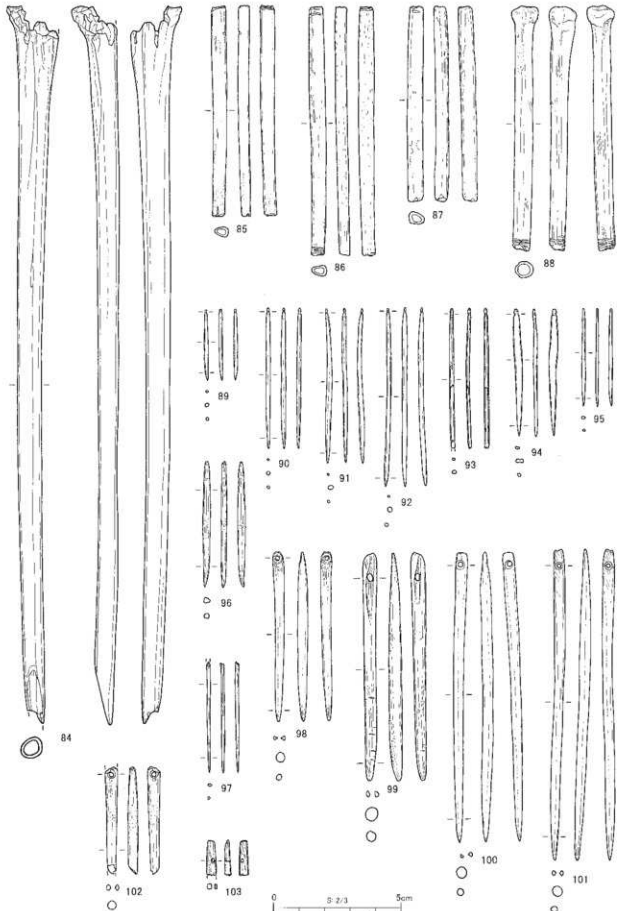
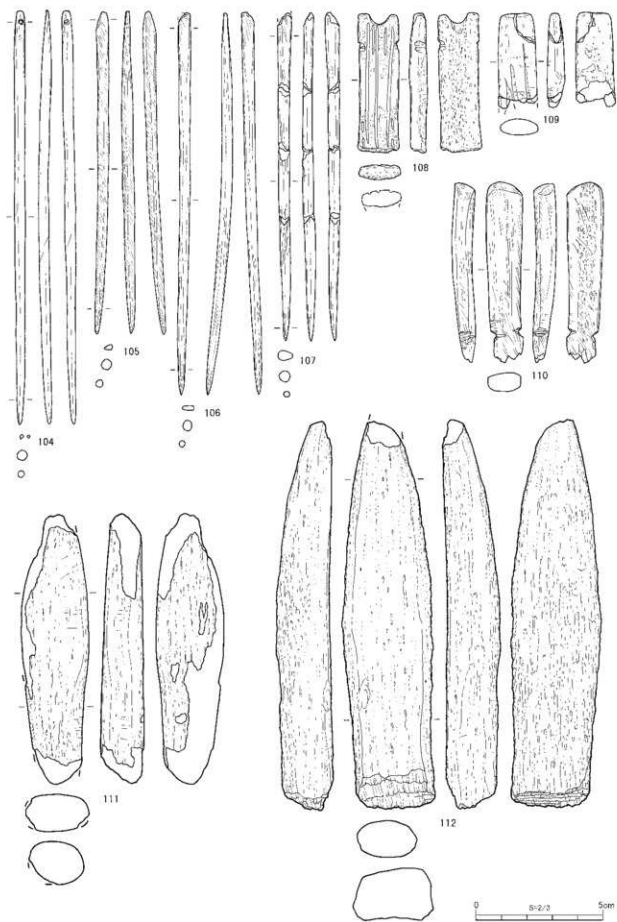


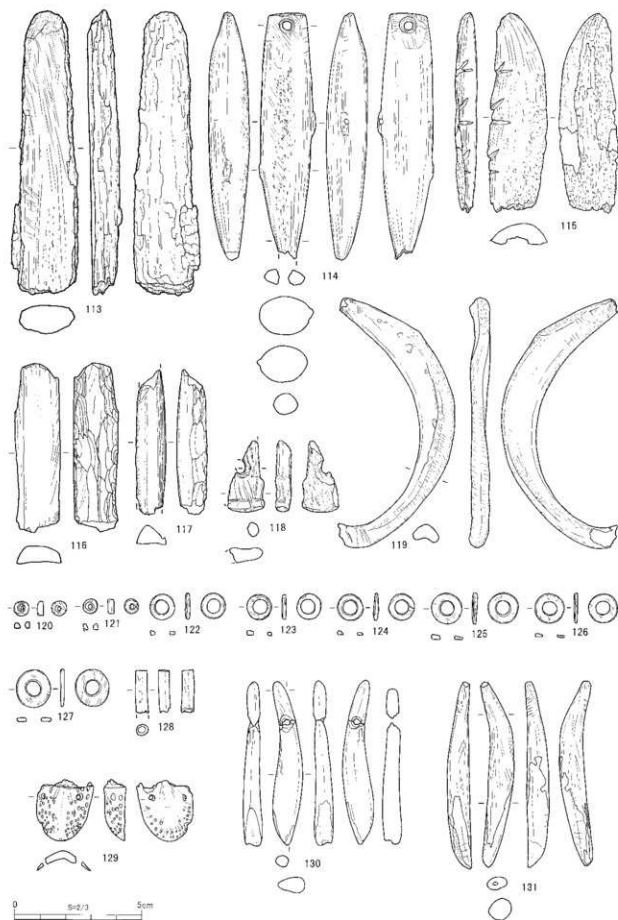
FIG-79 魚骨層出土骨角貝製品(6)



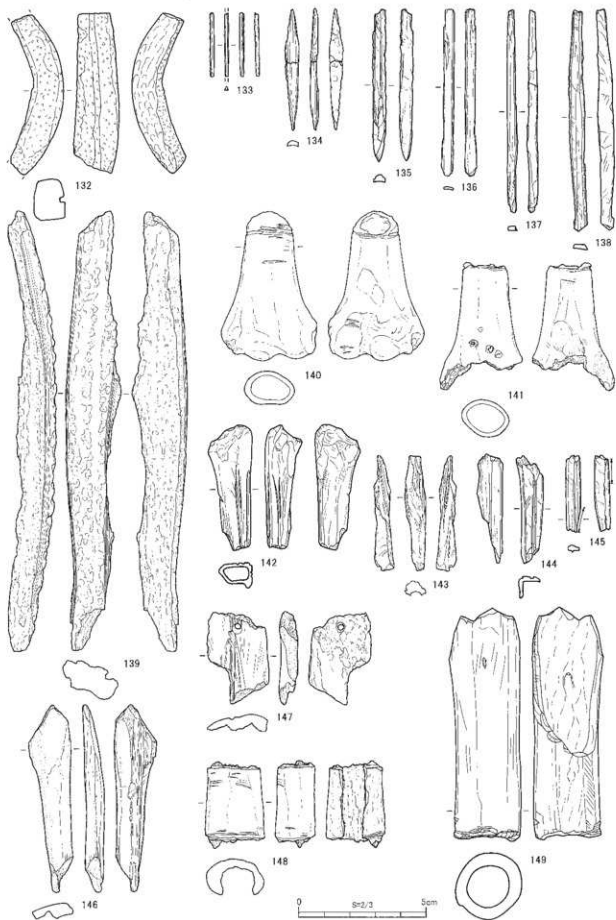
図IV-80 魚骨層出土骨角貝製品(7)



图IV-81 魚骨層出土骨角貝製品(8)



図IV-82 魚骨層出土骨角貝製品(9)



图IV-83 魚骨層出土骨角貝製品(10)

5 天寧1遺跡出土動物遺存体の分析

富岡直人・鈴木宏行・沖田絵麻・立石和也

はじめに

平成20年に北海道釧路町において発掘された天寧1遺跡出土動物遺存体について、同定と計測を実施し、当時の生業について論考を行った。分析に使用した資料は魚骨層出土資料で方法A～D(表I-1参照)によって選別された土壌水洗資料とA～D以外の点取り・手取り(目視による採集)資料である。資料は膨大で、同定は北海道埋蔵文化財センターにおいて富岡が確認しながら鈴木と整理作業員が主に行い、同定が困難な資料を岡山に持ち帰り再検討した(1章4(4)c参照)。同定が困難であった資料の分析については、奈良文化財研究所環境考古学研究室の御協力を頂いた(注1)。特に表中に「？」が付された資料は同定に疑問が残る資料であり、本来同定不能とすべき資料が含まれる。

(1) 動物遺存体の保存状況

出土資料は、ほとんどが縄文時代晩期に帰属していると推定されている。

動物遺存体の保存に強い影響を与える土壌pHは、貝殻や骨格のカルシウム分の保存に適したpH8程度であったことが、鈴木による測定で判明している(図IV-2)。

(2) 概要

同定された動物遺存体の種名・学名を「表IV-2 天寧1遺跡出土動物遺存体種名表」に示す。出土量については表IV-6～24に示す。以下に、門・綱・目・科以上が同定された動物遺存体について概要を記す(注2)。また、切創などの破損状況は表IV-3に示す記録法で記載した。

骨格等硬組織について、高い熱を受けたか否かをみるため、色調を記録した(表IV-6～24)。nはnormalを示し、熱による変化が看取されないもの。brはbrownを示し、茶褐色や暗褐色に変化し、熱を受けた可能性のあるもの。blはblackを示し、さらに強い熱を受けた可能性があるもの。whはwhiteを示し、最も強く熱を受けた可能性のあるものを示す。

proxはproximal近位端、distはdistal遠位端、diaはdiaphysis骨幹部を示している。

a. 貝類

斧足綱が出土し、腹足綱などは確認できなかった。

1. 斧足綱

①～③・⑤のうち属・種が同定できた斧足綱は塩水～汽水に生息するもので、潮間帯などの浅い水域で捕獲できるものであった。④のイシガイ目は淡水に生息する。

① オオノガイ目

(a). オオノガイ科 オオノガイ属 オオノガイ

② マルスダレガイ目

(a). シオサザナミガイ科 イソシジミ属 エゾイソシジミ

(b). バカガイ科 ウバガイ属 ウバガイ

(c). シジミ科 シジミ属 ヤマトシジミ

③ イタヤガイ目

(a). イタヤガイ科 ホタテガイ属 ホタテガイ

④ イシガイ目

(a). カワシンジュガイ科 カワシンジュガイ属 カワシンジュガイ

冷水に生息する淡水性の斧足綱で、幼生期にサケ科に選択的に寄生し [Kobayashi et al. 2005] 分布を広げることが知られている。現在は絶滅危惧種となっている。擬主歯を含む小破片が出土した。ただし、殻皮や擬主歯を含まない小破片などにはイシガイ科が含まれる可能性があるが、イシガイ科としての特徴を有す個体は見られなかった。

⑤ ウグイスガイ目

(a). イタボガキ科 属種不明

b. 棘皮動物門

1. ウニ綱

① ホンウニ目

主棘と殻板の破片が出土した。ムラサキウニに似るオオバフンウニ科キタムラサキウニの可能性のある個体がみられた。これ以外にも目不明のウニ綱が出土した。

c. 軟骨魚綱

1. 軟骨魚綱 板鰐亜綱

サメ類

表中サメと表記されているものはサメ類である。椎骨と歯が出土した。それぞれ形態から①～④の目・科等の各タイプに分類された。塩水～汽水に生息する。

① ホシザメタイプ

メジロザメ目ドチザメ科ホシザメ属ホシザメを含むタイプである。

② ネズミザメ目

(a). ネズミザメ科 アオザメ属 種不明

③ メジロザメ目

(a). メジロザメ科 ヨシキリザメ属 種不明

④ ツノザメ目 科属種不明

d. 硬骨魚綱

①～⑧は淡水～汽水・塩水に生息し、⑨⑩は塩水に主に生息し、稀に汽水域に侵入する。⑪は塩水に生息する。

① チョウザメ目

(a). チョウザメ科 属種不明

表中にチョウザメと記載されているものはチョウザメ科である。硬質の鱗板で同定を行った。属以上の特定は困難であった。淡水域へ遡上する生態を持った個体が、遺跡周辺で捕獲されたものと推定される。現在では生息数が激減しているが、縄文～弥生時代の遺跡から多く発見されている魚類である。

② サケ目

(a). サケ科

属種不明にはイワナ属とタイハイヨウサケ属が含まれる可能性がある。ただし、さらに明確に

小型の体格のものは属種不明（小型クラス）として分類した。

イワナ属 種不明

タイヘイヨウサケ属

サケ・サクラマスが同定できた。さらにこれらの種の特徴が困難な種不明も数多く検出された。

イトウ属 イトウ

淡水に生息する魚種として、非常に大型に育つイトウが数多く検出された。

③ スズキ目

(a). スズキ科 スズキ属 スズキ

(b). サバ科 マグロ属

(c). カジキ亜目 種不明

(c). アジ科 ブリ属 ブリ

④ カレイ目

(a). カレイ科

表中、カレイと記載されているものはカレイ科を示す。

従来カレイ科を詳細に分類する試みは少なかったが、天寧1遺跡ではタイプの異なるカレイ科が多量に出土したため、前上顎骨・歯骨について、歯列の数と歯の大きさよりA～Cタイプの細分を行った。このうちBはマツカワのみに当たることが判明したので、Bタイプはマツカワとして報告した。Aタイプにはオヒョウ・ムシガレイが含まれる。Cタイプにはソウハチ・スナガレイ・アサバガレイ・ヌマガレイ・マガレイ・イシガレイ・クロガシラガレイ・クロガレイ・マコガレイ・ヒレグロ・ババガレイが含まれる。

詳細に分類できたカレイ科について述べる。マツカワには、大型クラスのものと同様サイズのもののみだったので、別に分けて集計した。Cタイプのイシガレイ属イシガレイは、鱗板が特徴的なので、同定が出来た。ヌマガレイ属ヌマガレイ、ツノガレイ属クロガレイ、クロガシラガレイ、オヒョウ属オヒョウについても顔面骨などを同定することが出来た。

(b). ヒラメ科

ヒラメ属ヒラメが検出され、大きな個体は1m超級のものが含まれている。

⑤ コイ目

コイ科 ウグイ属 種不明

咽頭骨が多く出土している。咽頭骨には咽頭歯が植立している。ウグイ属にはウグイ・マルタウグイ・エゾウグイが含まれる。表中、ウグイと表記されているものはウグイ属である。

⑥ キュウリウオ目

(a). キュウリウオ科 キュウリウオ属 キュウリウオ

⑦ トゲウオ目

(a). トゲウオ科

表中にイトヨと記載されているものはイトヨが多いが、他のトゲウオ科も含んでいる可能性がある。

イトヨ属 イトヨ

二股に分かれているイトヨの腹鰭棘がフローテーション31より検出された。左骨盤骨と腹鰭棘が連結した状態で検出された。腹鰭棘全長は11.40mm、近位部最大幅5.90mmであった。札幌市で数多くのイトヨを同定して来たが、このような例は初見である。

トミヨ属 種不明

棘の表面の彫刻の違いからイトヨやその他のトゲウオ科と識別が容易である。

⑧ ボラ目

(a). ボラ科

ボラとメナダなどが含まれる。表中ボラとしてあるものはボラ科である。

⑨ カサゴ目

(a). アイナメ科

アイナメ属 アイナメ

ホッケ属 ホッケ

(b). フサカサゴ科 属種不明

(c). カジカ科 属種不明

(d). トクビレ科 属種不明

⑩ ニシン目

(a). ニシン科 ニシン属 ニシン

表中に書かれている耳石は耳骨を含んでいる（本来は耳骨は耳石を含むのであるが）。

⑪ タラ目

(a). タラ科 マダラ属 マダラ

夏などには深場に生息するが、北海道周辺での産卵期は冬～初春で、この時期には浅海で捕獲できる。このことから、天寧縄文人はこの時期にマダラを捕獲していた可能性が考えられる。

e. 両生綱

① カエル目

(a). 科属種不明

表中カエル目？とされている資料は、同定の困難なもので、本来は登録対象外である。

f. 爬虫綱

① カメ目

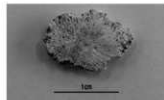
(a). オサガメ科 オサガメ属 オサガメ

遺跡において同定された例の極めて少ないウミガメ類の一つである。岡山理科大学高橋亮雄氏の御教示で、オサガメの背甲板内に形成される骨質を形態と骨質から同定することができた。これは不整形のモザイク状を呈する。

② ヘビ亜目

(a). 科属種不明

椎骨が出土した。食用とされたか混入かは判然としない。



オサガメ背甲板

g. 鳥類

鳥類の骨格は2880点が検出・確認され、1725点について科まで同定を行った。鳥類はほとんどの層位から出土がみられた。カモ科が最も多く出土し、スズメ目、ミズナギドリ科、タカ科がそれに次いでいた。水辺あるいは水域に生息する生態を持つものが多く含まれている。

鳥類の同定基準は現生標本から形態が特徴的な部分を選択して用いている。図IV-84に上腕骨の例を示す。出土量が最も多い四肢骨の同定基準では、骨格の骨端部である近位端と遠位端の形態が特徴

的であることから多くの場合、科～種までの同定が可能であった。

① アビ目

(a). アビ科

アビ属 オオハム

出土資料はアビ属では大型であるオオハムが含まれていた。

アビ属 種不明

オオハム以外に小型に分類できるシロエリオオハムも含まれている可能性がある。

② カイツブリ目

(a). カイツブリ科

属種不明（大型クラス）アカエリカイツブリが含まれている可能性がある。

属種不明（小型クラス）カイツブリが含まれている可能性がある。

③ ミズナギドリ目

(a). ミズナギドリ科 属種不明

(b). アホウドリ科 アホウドリ属 種不明

アホウドリとコアホウドリの種レベルの同定が困難なためアホウドリ属とし記載する。

(c). 科属種不明

④ ベリカン目

(a). ウ科

ウ属 ウミウ・ヒメウ・種不明

ウミウ・ヒメウの二種以外に、種不明とした資料にはカワウ、チシマウガラスが種不明に含まれている可能性がある。

⑤ カモ目

(a). カモ科

カモ科の中ではオオハクチョウの資料が最も多く、カモCクラス、カモBクラス、コハクチョウが次いで多い。

ハクチョウ属のオオハクチョウ、コハクチョウの骨格は形態的特徴から種を分類した。それ以下のカモ科については、大きさによりクラスという概念で分類する方法（富岡1995、1996）を利用した（表IV-4、図版95-5）。ガン族についてはヒシクイクラス、マガシクラスに分け、カモ族についてはカモAクラス、カモBクラス、カモCクラス、カモDクラス、カモEクラスに分類した。

骨質化した気管が出土している。大きさと形態よりオオハクチョウと同定した。

⑥ チドリ目

(a). ウミスズメ科

大きさと形態より、ウミスズメ属 ウミスズメ・ウミガラス属 ウミガラスを同定した。海鳥の一群である。

(b). シギ科 属種不明

(c). カモメ科 カモメ属 種不明

属種不明のカモメクラスと小型クラス（ユリカモメ・ミツユビカモメ・アカアシミツユビカモメ・ヒメクビワカモメ）を設定した。

⑦ スズメ目

遺存体資料が小さいため科以下の同定が困難だったが陸棲鳥類のアトリ科、ヒタキ科、カラス科が含まれていた。

骨格形態より科属種の同定が出来なかったものは大型（カラス科カラス属を含む）・中型（ヒタキ科ツグミ属の一部を含む）・小型（ヒタキ科ツグミ属の一部、ハタオリドリ科スズメ属・アトリ科を含む）・その他に分類した。

- (a). アトリ科 属種不明
- (b). ヒタキ科 属種不明
- (c). カラス科

カラス科では中～大型の体格であるカラス属と小型のカケス属カケスが同定できた。カラス属はハシボトガラス、ハシボソガラス、ワタリガラスなどの骨格が似ているため、種を特定できなかったものをまとめてカラス属として記載した。

⑧ タカ目

- (a). タカ科

トビ属トビが出土した。トビより小型（ツミ、ハイタカ、ノスリ他）、大型（オジロワシ、オオワシ、イヌワシ）の個体の資料がみられるためタカ類～ワシ類個体が出土していると考えられる。属種不明の大型・中型・小型に分類した。

h. 哺乳綱

1. 海獣類

海棲のネコ目の総称であるが、骨格を同定する場合、クジラ目も含まれている可能性がある。目科属種が特定できたものはアシカ科・アザラシ科であった。図版に掲げたE16a区魚骨層3層出土右肋骨は浅い切削（D1aタイプ）を前位側に残しており、食用などに供されたものと推定される。

① ネコ目

- (a). イヌ科

種まで同定できたものはイヌ・オオカミ・キツネであった。種不明には、これら以外にもタヌキ（エゾタヌキ）が含まれる可能性がある。

イヌ属 イヌ

幼～成獣まで偏りなく出ている。詳細は「Ⅲ.動物遺存体の特徴」で詳論する。

オオカミ

魚骨4層より第5基節骨が出土した。奈良文化財研究所の標本と比較し、オオカミと同定した。

キツネ属 キツネ

いわゆるキタキツネの可能性が高いが、体格などを推定する部位が含まれておらず、キツネという同定に止めた。

- (b). クマ科 クマ属 ヒグマ

魚骨層4層から末節骨（遺物Na122）、魚骨層5層から中節骨（遺物Na10）、魚骨層12層からは左腓骨が出土した。

D8d区魚骨層15より右上顎犬歯が出土した。全長（残存全長）84.00mmで最大幅23.00mmであった。

- (c). イタチ科 ラッコ属 ラッコ

ベルト1コラムサンプル6D8c、11IV層上部より、第3前臼歯を伴った上顎骨が出土している。また魚骨層15層より下顎骨、上顎第1大臼歯、IV層上部より左上顎第2前臼歯が出土した。

d). アシカ科

属種は特定できなかったが、左踵骨が魚骨第9層から出土している。

アシカ属 アシカ

キタオットセイ属 (キタ) オットセイ

ベルト2コラムサンプル1魚骨層6層よりオットセイの左耳骨が出土した。他にも魚骨層からは左尺骨、魚骨層4層からは左上腕骨、左第3中足骨、基節骨、中節骨が出土している。魚骨層5から右第3中足骨、右中心足根骨、基節骨が出土した。

トド属 トド

ベルト2コラムサンプル1魚骨層3層よりトドの第1末節骨が出土した。また、魚骨3層からは肋骨が出土した。

e). アザラシ科 属種不明

左肩甲骨が魚骨15層から出土している。

② ウシ目

a). イノシシ科 イノシシ属 イノシシ

当時、北海道に天然分布していなかったと考えられるイノシシが出土した。

魚骨層15層より左下顎骨と右第1切歯と第3・4足根骨と末節骨、魚骨層10層より第5胸椎、IV層上部からは第1切歯が出土した。魚骨層15層より出土した下顎骨(図版98-3-1)は第2、3小臼歯が残っているが、咬合面側が痛んでおり、詳細な観察は難しい。胸椎は椎体・椎頭・棘突起が伴った状態で出土した。

ベルト2コラムサンプル1・魚骨層4層より右下顎犬歯と右腓骨が出土した。

魚骨層12層からはイノシシの右下顎第2乳切歯と右下顎第1切歯が出土した。

b). シカ科

明らかに鹿角が数多く出土しており、鹿角製品の生産を目的とした流通が盛んであった可能性がうかがわれる。このように鹿角が多く出土する状況は全国の縄文遺跡で共通する現象といえる。

シカ属 シカ

ニホンジカあるいはエゾシカと考えられるものをシカとして同定している。

エゾシカ

明らかに大型のシカについてエゾシカと同定している。全てが狩猟で捕られたものではなく、落角を採集する場合もあったと考えられる。例えばE6d、魚骨層15層出土の鹿角(遺物番号23、図版99-3-3)は、角座骨(前頭骨角突起)を伴わず落角であったと推定される。出土部分は主幹と第1枝であり、主幹基部最大径は39.90mm、Drieschの基準でのNa41は119.90mmであった。

一方、D8a、魚骨層13層出土鹿角(遺物番号30、主幹+第1枝、図版99-3-2)は、角冠・角座骨があり、狩猟によるか頭蓋ごと採集されたものが遺跡に持ち込まれたと考えられる。この資料の主幹基部最大径は41.60mm、Drieschの基準でのNa41は116.40mmであった。さらに、E16b、魚骨層5出土鹿角(遺物番号2、角製品、主幹+第1枝、主幹基部最大径〈復元値〉43mm、図版99-3-1)の場合、基部側が火を受けて黒変し、角が強い火にあてられることがあったと推定される。

③ 食虫目

a). トガリネズミ科

トガリネズミ属 トガリネズミ

トガリネズミとともに、稀少種で現在は絶滅危惧種とされているチビトガリネズミ(=トウキョ

ウトガリネズミ)が検出された。

④ 齧歯目

(a). ネズミ科

属種不明として、体格から大型・小型・不明に分類した。

(b). リス科 属種不明

⑤ クジラ目

(a). ハクジラ亜目

属種不明 イルカクラス

数多くのイルカクラスのハクジラの遺存体が検出された。

(c). マイルカ科

カマイルカ属 カマイルカ

魚骨層9層より頭蓋が出土した。後部の脳頭蓋は破損し、上顎骨～前頭骨・鼻骨・間頸骨(前上顎骨)が残存している(図IV-85、図版100-3)。加工痕は不明確である同一層からは胸椎や肋骨が出土している。埋納した痕跡は把握できなかった。

また、F17a区、魚骨層4、遺物番号12クジラ目の部位不明の骨格(頭蓋あるいは椎骨横突起)骨幹部が出土。残存長30.5cm、残存最大幅約4cmであった。

⑥ サル目

(a). ヒト科

ヒト属 ヒト

散乱歯となった永久歯4本と乳歯10本が検出されている。別項で詳論されている(Ⅵ章9)。

(3) 動物遺存体の特徴

a. 鳥類

ここでは最も出土数が多いA～D選別5mmの資料について述べる。

鳥類遺存体の資料は2812点中目レヴェルで1700点同定でき、科レヴェルの同定は1592点確認できた。そのうち同定資料の中でカモ科は79.6%占め最も多い。また、水棲鳥類が89.6%、陸棲鳥類が10.4%占めた。

5mm資料の出土量はカモ科、スズメ目、ミズナギドリ科、タカ科の順で多い(図IV-86)。

天寧1遺跡でカモ科と同定された1354点の内訳はオオハクチョウクラス24.2%、コハクチョウクラス11.1%、ヒシクイクラス5.6%、マガンクラス2.5%、カモAクラス8.1%、カモBクラス11.6%、カモCクラス11.9%、カモDクラス10.4%、カモEクラス6.1%、カモ科8.5%である。カモ科の出土数が多いことが特徴として挙げられる。

遺跡出土の鳥類遺存体の最小個体数はオオハクチョウで15個体と多く他の個体では数個体であった。出土した部位は5mm資料で前肢46.7%、後肢20.1%、その他21.7%、部位不明11.5%、1mm資料で前肢13.0%、後肢6.5%、その他17.4%、部位不明63%、点取り・手取り資料前肢76.2%、後肢4.8%、その他9.5%、部位不明9.5%である(図IV-87)。特に上腕骨、鳥口骨が多い。椎骨のような丈夫で個数が多い骨格は比較的多いがほとんどの資料は破片でみられた。

また、スズメ目やカモEクラス等の小型鳥類の出土数が多い。この遺跡では小型鳥類についても積極的に狩猟を行っていたことがうかがわれる。

1. 鳥類の成長状況

鳥類の成長状況は骨格から推定される。四肢骨は、成長が終了するまでに以下の①～③の3段階の

成長段階が存在することから、これを利用して成長状況を観察することとした。

- ① 硬骨化の進行が進んでおらず、全体に軟骨組織に覆われ、シャフトである骨幹部が多孔質で栄養孔が相対的に大きい。
- ② 骨幹部の硬骨の緻密化の進行はするが、骨端部は軟骨組織のままである。
- ③ 骨端部が硬骨化し、四肢骨の関節としての形状が完成する。

鳥類の年齢は①、②を硬骨化未了とし③を硬骨化完了として集計した(図IV-88)。ただし、それぞれの部位によって硬骨化の進行は同時ではなく、バラツキが存在するので、成長状況の把握は正確に階梯を反映するものではない。

分析に用いた資料520点のうち305点(59%)は骨端が硬骨化(③)していた。骨端部の硬骨化未了(①②)は7点(1%)、硬骨化が不明な個体208点(40%)が確認された。そのうちカモCクラスに分類される資料で硬骨化未了がみつかったが、このクラスは現在日本でみられるものではキンクロハジロ・ヒドリガモ・ヨシガモなどを含み、これらのほとんどは冬鳥で日本国内で繁殖を行なうことの少ない習性である(ただし、ヨシガモは現在でも少数は北海道で繁殖することから、硬骨化が進んでいない骨格が出土した点は重要である。つまり、現在みられるカモCクラスは北海道で繁殖することの少ない個体群であるが、当時はやや寒冷であったためか、天寧遺跡の周辺で繁殖していた可能性を示唆していると考えられるのである。今後、近隣の遺跡での分析例を増加させ、当時のカモ科の渡りの問題について検討を深めていきたい。

2. 鳥類遺存体の破損状況

鳥類遺存体の形成過程について骨格に残された痕跡について検討した。出土資料520点を対象に行った。その結果スパイラル状(螺旋状)に割れたものが80点(15%)、B~Dタイプの切創がみられたものが28点(5%)動物に噛まれたものが11点(yタイプ:イヌなどによる噛痕1.9%、Zタイプ:ネズミなどの齧歯類などによる噛痕0.2%)、骨の表面が風化などで観察しにくくなり破損が確認できないものが374点(72%)痕跡のないものが40点(8%)含まれていた(図IV-89)。切創がみられた資料は大型個体に多く、骨製品の材料としても利用しやすいことから、遺跡内に残りやすかった可能性が考えられる。

3. ハクチョウ類による上腕骨全長の復元

天寧1遺跡出土のオオハクチョウの上腕骨片から上腕骨全長を復元したところ最小値で268.22±0.40mm、最高値で298.00±0.19mmであった(表IV-5)。現生資料の平均が258.00mmに対して天寧1遺跡出土の上腕骨の平均値は284.74mmであり現生個体よりも大きいことが分かった。

当時のオオハクチョウには、現在みられる個体群より大きな体格のものが多く存在していた可能性が高いと考えられ、果たして同じような生息環境・生態を有していたのか、検討すべき課題と指摘できる。

b. イヌ

出土イヌ頭蓋を図IV-90に掲げる。イヌ遺存体は、幼犬から成犬まで確認された。計数不可能な資料を1として数えた破片点数は475点にのぼり、縄文時代のイヌ資料として貴重である。四肢骨から算出した最小個体数は7個体(近位端の残る左右尺骨数)である。ただし、遊離歯では、上顎の乳臼歯dp4の左側が12点出土していることから、乳歯段階の幼犬は少なくとも12個体が存在したことになる。幼犬が多いことは、本資料群の特徴である。また、埋葬個体のように1個体の骨格がまとまって出土することはなかった。

1. 形質的特徴について

天寧1遺跡出土のイヌは、長谷部の分類(長谷部1952)では小級~中級に該当する資料である。残りの良い頭蓋骨(1号犬~3号犬)のうち、成犬である1号犬・2号犬の頭蓋骨のサイズやプローションは、西本(1981)による香深井A遺跡におけるB型のものに近い。東北・北海道地方の縄文時

代後期～晩期のイヌの範疇と考えられるが、ストップが大きいことや、特に2号犬には頬骨弓幅が広く、吻部が短い特徴が見られるなど、北方犬の影響も見受けられる。ただし、縄文時代イヌの形質は多様であり、特に東北・北海道地方の縄文時代イヌは北方犬の影響を受けている可能性があるため、ここでどちらかに当てはめることは避けたい。一方で下顎骨は下顎骨体下縁の湾曲傾向が若干認められ、先述の西本(1981)による分類のうちのAB型に近いが、全体的なサイズが小さく、歯も小さい。1号犬(D8 a区 魚骨層9 遺物No.5、図版96-4)の推定体高は46～47cm、2号犬(D8 d区 魚骨層9層 第4層 遺物No.2、図版96-5)の推定体高は山内(1958)の計算式では46.93cm、西中川ら(2008)の計算式では43.61cmであった。なお、天寧1号犬・同2号犬は、左右の外前頭縁が合うのはプレグマの後方であり、矢状隆起の発達が弱い等の特徴から、共に雌の可能性が高い。

四肢骨では、オホツク犬の計測データが入手できなかったため、東北地方の縄文時代後期～晩期のイヌのデータと比較した。これら縄文犬と比較して、本資料の方が全長が長く、骨幹中央の幅なども大きい。肩甲骨、橈骨、脛骨などに、特に頑丈な印象を受けるものがあつた。

このように、現時点では本遺跡の資料を積極的にオホツク犬と関連付けるようなデータは得られず、縄文犬に近い形質のイヌであると考えられる。今後、周辺遺跡出土資料との計測値や形態のより詳細な比較を行う必要がある。

D9 a区魚骨層1 D出土下顎骨は、生前に第4前臼歯が欠損し、それが生存中に摩滅し、欠落した歯根の歯槽も閉塞して治癒し、歯根が一つだけの犬歯状歯のような様相を呈している(図IV-91-d)。

2. 非形質的特徴から推測されるイヌの役割について

出土した頭蓋や四肢骨の中には、切創がみられた。2号犬・3号犬の頭蓋の上部～前部にみられた切創は主にD1 aタイプで、鋭利な薄刃の刃物により筋肉組織を切断したり皮を剥く際についた傷と考えられる(図版96-2、図版97-2)。下顎骨でもD9 a魚骨層10層より出土した遺物番号6の資料(図IV-91-d、図版97-6-2)には内面と下面にC1 aタイプの切創と肉食獣による噛痕が残されていた。四肢骨では、肩甲骨の骨体腹面や頸部、脛骨の近位部や遠位部などに、鋭利な薄刃の刃物による短い切創がみられた。また、橈骨近位端前面中央に、垂直方向の切創がみられた。こうした四肢骨にみられる切創は、筋肉組織や腱を切る際についたと考えられ、食用にされた個体の存在を示している。幼犬の個体数が多いことや、成犬でも歯の磨耗程度が弱い若い個体がみられたことは、若いイヌが食用とされる機会が多かったことを物語っている。

埋葬された個体が確認されておらず、骨にはネズミ類や肉食獣に噛られた痕跡がみられることから、その死後に特別な扱いがなされていないと考えられる。生前の生活を示唆する病変や骨異常の調査からも、縄文時代のイヌに多い歯槽骨の退縮や骨折治癒痕跡などがみられず、失歯や外傷の少ない生活を送っていた可能性がある。埋葬されるイヌが多い東北地方の縄文時代後期～晩期とのこうした相違は、イヌのもつ役割や意味が異なっていたことを示唆する。

なお、北海道内でイヌが多数出土した遺跡には、釧路市の幣舞遺跡や礼文島の浜中2遺跡、香深井A遺跡などがある。浜中2遺跡では、縄文時代のイヌ遺存体が多数出土しており[西本・内山2000]、切創の有無については報告されていないが、食用とされたと考えられている点や、イヌの年齢構成に本資料との共通点が指摘できる。しかし、浜中2遺跡の縄文犬は、縄文犬ではなくオホツク犬に近い形態的特徴を持つとされ、イヌの形質や利用状況には、時間的・地域的な差があることが想定される。北海道の縄文時代後期～縄文時代におけるイヌの利用状況や、イヌを利用した人々の文化的背景などを明らかにするためにも、形態と生前のイヌ利用の両面から、道内外の縄文時代～縄文時代・弥生時代・古墳時代遺跡出土資料との比較検討を行う必要がある。

(4) 天寧1遺跡における生業

a. 出土動物遺存体の重量組成と廃棄の様相

今回は、重量での組成の比較に取り組み、層的に変化を確認することができた(図IV-92~97)。

ベルト1コラムサンプル3の資料では8,9,10,12,15層、ベルト1コラムサンプル6の資料では10,12,13,15,IV層、ベルト2コラムサンプル1の資料では6,14,15,IV層の層的变化を検討することができた。1mmメッシュ資料も5mmメッシュ資料もいずれも大半は魚類が占めている。

コラムサンプル1と3をみるとIV層が堆積した時期には後の時期に比べると漁撈活動が低調であったため、哺乳類と鳥類の占める割合が高かったものと推定される。ただし、コラムサンプル6では哺乳類・鳥類ともに出土量が少なく、魚骨が多く出土している。これは明確に廃棄された動物遺存体に地点的なムラが存在していたことを示している。

コラムサンプル3では1mmメッシュサンプルではサケ科の出土量の変化は把握しにくい、コラムサンプル1ではIV→15→14→6層とサケ科とトゲウオ科が微増傾向にあるようで、似たような状況はコラムサンプル3の5mmメッシュサンプルのデータでみられた。コラムサンプル6ではこれらの種の増減の傾向性は1mmメッシュ・5mmメッシュともに把握しにくい。サケ科とトゲウオ科は、淡水域に滞留する個体群もあるが、遡河性を持つことから、河川下流域などでの漁撈活動が活発であった可能性を示唆する。また、グラフでは捉えられないものの、ニシン科はコラムサンプル6の1mmメッシュ資料で13層0.05g→12層(0.08g)→10層(0.14g)と微増する傾向がみられるが、数量が少ないため、確実な増加傾向とはいえない。

また、コラムサンプル6は12層における鳥類や哺乳類の比率について大きく異なっており、IV層の場合と同様に、廃棄物に地点的なムラが存在したことがうかがわれる。それに比べると、コラムサンプル6と12における15層での動物遺存体重量比の様相は類似度がやや高いと考えられる。

b. 天寧1遺跡における生業戦略

前節に記述したように、各動物質資源は、遺跡周辺の水域である汽水～海水域において調達されたものと、陸域の平原や森林において調達されたものから構成されている。

サケ科の漁労は秋～冬のサケの遡上時期を中心に盛んに行われたものと考えられ、またマダラが捕獲されている状況も同様に冬季での沿岸部における漁撈が盛んであった様子をうかがわせる。

当時の渡鳥の生態が現在と同じならば、ハクチョウ属・ガン族・アホドリなど大型の鳥類狩猟は冬季を中心に実施されていたと考えられる。一方で、現在渡りがみられるタンチョウを含むツル科は出土しておらず、少なくとも狩猟が盛んに行われたことがなかったと考えられる。

イヌについては、多くの解体痕跡がみられ、食用などに利用していたことが判明し、イヌ食やイヌ返りの文化が発達していた可能性をうかがわせる。

ヒグマや海獣類、ラッコなどは、わずかに頭部・四肢骨・指骨などが出土した。必ずしも量は多くはないが、彼らの文化において意味のある狩猟対象であったものと推定される。

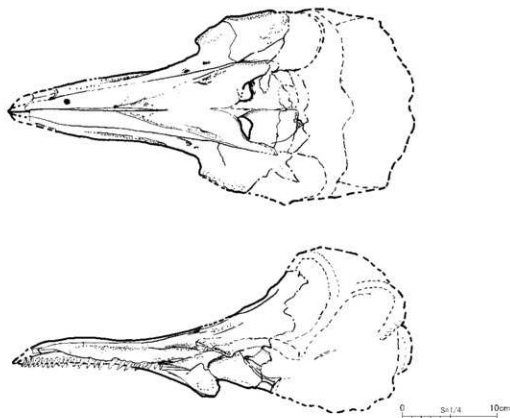
イノシシもヒグマなどと同様に全身の骨格が出土しなかった。特に、イノシシは当時の北海道に天然分布しなかったことから本州域などから搬入された可能性が高く、他の動物遺存体と異なった扱いが推定されるといえる。

注1 2009年5月に訪問し、松井章先生に同定の指導を頂いた。

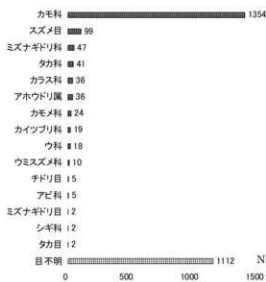
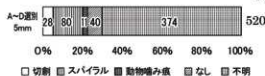
注2 集計は藤田美美さんと古賀日香里さんにご助力頂いた。

表IV-2 天塚1遺跡出土動物遺存体種名表

門	上級・科	亜科・目	亜目・科・期	新・期	分類		学名
					種・属・科	種・属・科	
軟体動物門	両足綱	オオノミ目	オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
			オオノミ科	オオノミ科	新石器時代	両足綱	<i>Melampus flavus</i> Inlet
硬体動物門	ウニ綱	ウニ目	ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
			ウニ科	ウニ科	新石器時代	ウニ綱	<i>Chitonoides</i> sp. et sp. indet.
魚類	硬骨魚綱	サケ目	サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
			サケ科	サケ科	新石器時代	硬骨魚綱	<i>Salmo</i> sp. indet.
鳥類	雀形目	ツグミ科	ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.
			ツグミ科	ツグミ科	新石器時代	雀形目	<i>Passer</i> sp. indet.



図IV-85 カマイルカ頭蓋 (D 8 a, 魚骨層 9, 遺物№ 6)

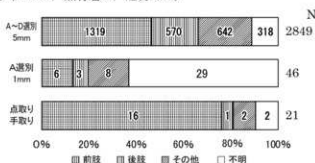
図IV-86 出土鳥類の同定部位数
(NISP: Number of Identifiable Species)

図IV-87 鳥類部位出土率 (NISP)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

□ 切断 ■ スパイラル ■ 動物噛み痕 ■ なし □ 不明

図IV-89 鳥類破損状況



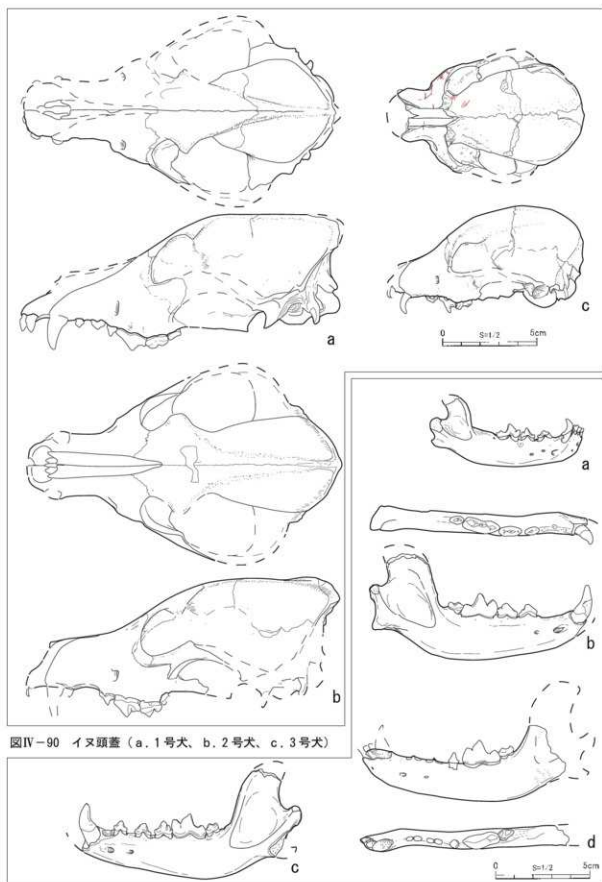
図IV-87 鳥類部位出土率 (NISP)



図IV-88 鳥類の成長状況

表IV-5 ハクチョウ属上腕骨計測値・全長復元図

遺跡	時代/期	種名	部位	厚径	計測値 (mm)	上腕骨全長推定値
天草1遺跡	縄文晩期	オオハクチョウ	上腕骨	dia	SC138.34	299.06±0.19
天草1遺跡	縄文晩期	オオハクチョウ	上腕骨	空孔一部欠損	SC139.02	296.00±0.19
天草1遺跡	縄文晩期	オオハクチョウ	上腕骨	procradial	Dp54.74	284.16±0.67
天草1遺跡	縄文晩期	オオハクチョウ	上腕骨	dist-dia	hd35.37	308.22±0.40
天草1遺跡	縄文晩期	オオハクチョウ	上腕骨	dist-dia	hd37.31	282.59±0.40
天草1遺跡	縄文晩期	オオハクチョウ	上腕骨	dist-dia	hd38.08	286.40±0.40
天草1遺跡	縄文晩期	コハクチョウ	上腕骨	dia+eprom	SC133.69	237.48±0.64
天草1遺跡	縄文晩期	コハクチョウ	上腕骨	空孔一部欠損	SC133.69	231.42±0.64
天草1遺跡	縄文晩期	コハクチョウ	上腕骨	dia	SC134.20	239.44±0.64
天草1遺跡	縄文晩期	コハクチョウ	上腕骨	dia+dist	SC133.11	180.48±0.64



図IV-90 イヌ頭蓋 (a. 1号犬、b. 2号犬、c. 3号犬)

図IV-91 イヌ下顎骨

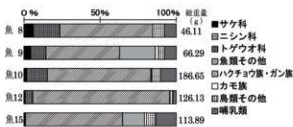


図 IV-92 層別動物遺存体重量比
(ベルト 1 コラムサンプル 3 5mm資料)

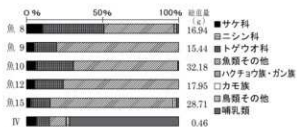


図 IV-93 層別動物遺存体重量比
(ベルト 1 コラムサンプル 3 1mm資料)

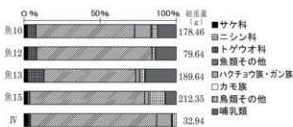


図 IV-94 層別動物遺存体重量比
(ベルト 1 コラムサンプル 6 5mm資料)

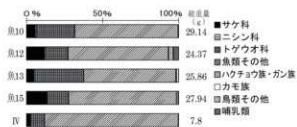


図 IV-95 層別動物遺存体重量比
(ベルト 1 コラムサンプル 6 1mm資料)

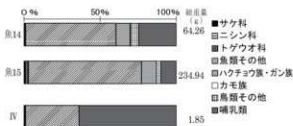


図 IV-96 層別動物遺存体重量比
(ベルト 2 コラムサンプル 1 5mm資料)

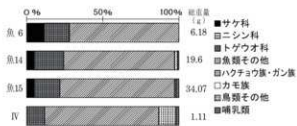


図 IV-97 層別動物遺存体重量比
(ベルト 2 コラムサンプル 1 1mm資料)

引用文献

- 江田真哉 2005 「生活復原資料としての鳥類遺存体の研究—カモ科遺体の同定とその考古学的意義—」『海と考古学』[六一書房]: pp.387—406
- 加藤嘉太郎 1995 「鶏の骨格、鶏の前肢の筋」『改著家畜比較解剖図説上巻』[養賢堂]: pp.94—107、174—177
- 黒田長久 2004 『世界文化生物大図鑑鳥類』[世界文化社]
- 斎藤弘吉 1963 『犬科動物骨格計測法』[私版]
- 茂原信生 1986 『東京大学総合研究資料館蔵 長谷部言人博士収集犬科動物資料カタログ』[東京大学総合資料館]: p.187
- 高野伸二 1982 『フィールドガイド日本の野鳥』[日本野鳥の会]
- 富岡直人 1995 「動物遺存体」『縄文時代晩期貝塚の研究 2 中沢目貝塚 2』[東北大学文学部考古学研究会]: pp.163—212
- 富岡直人 1996 「中在家南遺跡出土動物遺存体の分析」『中在家南遺跡他』[仙台市教育委員会]: pp.201—254
- 新美倫子 1999 「鳥類」『考古学と動物学』[同成社]: pp.37—50
- 西中川 駿・福島 晶・谷山 敦・池田省吾・土岐学司・小山田和央・松元光春 2008 「イヌの骨計測値から骨長ならびに体高の推定法」『動物考古学 25号』[動物考古学研究会]: pp.1—10
- 西本豊弘 1976 「香深井A遺跡」『香深井遺跡 上』[東京大学出版会]: pp.100—758
- 西本豊弘 1981 「香深井A遺跡」『香深井遺跡 下』[東京大学出版会]: pp.18—469
- 西本豊弘・内山幸子 2000 「第 4 章 7. e. イヌ」『国立歴史民俗博物館研究報告 第 85 集 浜中 2 遺跡発掘調査報告』[国立歴史民俗博物館]: pp.240—253
- 西本豊弘 2008 「天草 1 遺跡出土の爬虫類・鳥類・哺乳類」『天草 1 遺跡』[北海道埋蔵文化財センター]: pp.246—260
- 長谷部言人 1952 「犬骨」『吉胡貝塚』[文化庁]: pp.146—150
- 松井 章編著 2008 「鳥類」『動物考古学』[京都大学出版会]: pp.108—145
- 松岡廣繁 2009 「鳥の骨採集」『株式会社エヌ・ティ・エス』
- 安田喜恵 2004 「鳥類の考古学」『環境考古学ハンドブック』[朝倉書店]: pp.367—376
- 山内忠平 1958 「犬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告書 第 7 号』: pp.125—131
- Driesch, Angela Von Den 1976 "A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Site" [Peabody Museum Bulletin 1. Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University]
- Kobayashi, O. and Kondo, T. 2005 "Difference in Host Preference between Two Populations of the Freshwater Pearl Mussel *Margaritifera laevis* (Bivalvia: Margaritiferidae) in the Shinano River System, Japan," *VENUS* 64 (1-2): pp.63—70

表IV-6 A選別5mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外

種別	種名	骨種別					骨種別					計数	重量(g)	
		上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯	上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯			
哺乳綱	ネコ													
	イヌ													
	ウシ													
	馬													
	豚													
	鹿													
	熊													
	クマ													
	シカ													
	クマ													
鳥綱	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
魚綱	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													

表IV-7 A選別1mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外

種別	種名	骨種別					骨種別					計数	重量(g)	
		上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯	上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯			
哺乳綱	ネコ													
	イヌ													
	ウシ													
	馬													
	豚													
	鹿													
	熊													
	クマ													
	シカ													
	クマ													
鳥綱	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
魚綱	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													

表IV-8 B・C選別5mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外

種別	種名	骨種別					骨種別					計数	重量(g)	
		上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯	上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯			
哺乳綱	ネコ													
	イヌ													
	ウシ													
	馬													
	豚													
	鹿													
	熊													
	クマ													
	シカ													
	クマ													
鳥綱	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
魚綱	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													

表IV-9 D選別5mm出土魚上綱・鳥綱・哺乳綱以外

種別	種名	骨種別					骨種別					計数	重量(g)	
		上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯	上頰骨	下頰骨	上顎骨	下顎骨	歯			
哺乳綱	ネコ													
	イヌ													
	ウシ													
	馬													
	豚													
	鹿													
	熊													
	クマ													
	シカ													
	クマ													
鳥綱	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
	ハシロ													
魚綱	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													
	魚													

5 天草1遺跡出土動物遺存体の分析

品目 種別 種名	単位	モノ目		モノ目		モノ目		モノ目		モノ目		モノ目		モノ目		モノ目		モノ目																			
		品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目																		
		品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目	品目	種目																		
貝類	貝類	扇貝	M	1	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1																	
		扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M	1	扇貝	M																
		魚類	魚類	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M														
				魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M	1	魚類	M														
				鳥類	鳥類	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M												
						鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M	1	鳥類	M												
						哺乳類	哺乳類	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M										
								哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M	1	哺乳類	M										
								爬虫類	爬虫類	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M								
										爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M	1	爬虫類	M								
										両生類	両生類	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M						
												両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M	1	両生類	M						
												節足動物	節足動物	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M				
														節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M	1	節足動物	M				
														植物	植物	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M		
																植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M	1	植物	M		
																その他	その他	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M
																		その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M	1	その他	M

5 天草1遺跡出土動物遺存体の分析

種別	種名	種目	動物遺存体																																					
			M1(1)				M2				M3				M4(1)・M4(2)																									
			種別	種目	種目	種目	種別	種目	種目	種目	種別	種目	種目	種目	種別	種目	種目	種目																						
雑草	雑草	雑草	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯	犬歯																						
																								
			哺乳類	哺乳類	哺乳類																			
																							
						鳥類	鳥類	鳥類																
																							
									爬虫類	爬虫類	爬虫類													
																							
												両生類	両生類	両生類										
																							
															魚類	魚類	魚類							
																							
																		甲殻類	甲殻類	甲殻類				
																							
																					植物	植物	植物	
																							

種別	平成11年			平成12年			平成13年		
	不発見	発見	計	不発見	発見	計	不発見	発見	計
哺乳類	イヌ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ネコ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウサギ	0	0	0	0	0	0	0	0
	シカ	0	0	0	0	0	0	0	0
	鹿	0	0	0	0	0	0	0	0
	猪	0	0	0	0	0	0	0	0
	熊	0	0	0	0	0	0	0	0
	狼	0	0	0	0	0	0	0	0
	野良犬	0	0	0	0	0	0	0	0
	野良猫	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥類	カラス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハシロ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ツバメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	スズメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヒヨドリ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウグイス	0	0	0	0	0	0	0	0
	コノハシ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カモ	0	0	0	0	0	0	0	0
	鴨	0	0	0	0	0	0	0	0
	雁	0	0	0	0	0	0	0	0
爬虫類	ヘビ	0	0	0	0	0	0	0	0
	トカゲ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ワニ	0	0	0	0	0	0	0	0
	サメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	イモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カエル	0	0	0	0	0	0	0	0
	トビ	0	0	0	0	0	0	0	0
	フクロ	0	0	0	0	0	0	0	0
	コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
魚類	サケ	0	0	0	0	0	0	0	0
	マス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウナギ	0	0	0	0	0	0	0	0
	イサナ	0	0	0	0	0	0	0	0
	アサギ	0	0	0	0	0	0	0	0
	フナ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カレイ	0	0	0	0	0	0	0	0
	サメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	イシ	0	0	0	0	0	0	0	0
	貝	0	0	0	0	0	0	0	0
両生類	カエル	0	0	0	0	0	0	0	0
	トビ	0	0	0	0	0	0	0	0
	フクロ	0	0	0	0	0	0	0	0
	コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
	イモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カエル	0	0	0	0	0	0	0	0
	トビ	0	0	0	0	0	0	0	0
	フクロ	0	0	0	0	0	0	0	0
	コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
	イモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
昆虫類	アリ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハチ	0	0	0	0	0	0	0	0
	クマ	0	0	0	0	0	0	0	0
	シロ	0	0	0	0	0	0	0	0
	クモ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ムシ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	ワニ	0	0	0	0	0	0	0	0
	サメ	0	0	0	0	0	0	0	0
	イモリ	0	0	0	0	0	0	0	0
植物類	イモ	0	0	0	0	0	0	0	0
	タピオカ	0	0	0	0	0	0	0	0
	サトウ	0	0	0	0	0	0	0	0
	トウモロコシ	0	0	0	0	0	0	0	0
	小麦	0	0	0	0	0	0	0	0
	大豆	0	0	0	0	0	0	0	0
	米	0	0	0	0	0	0	0	0
	芋	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジャガイモ	0	0	0	0	0	0	0	0
	カボチャ	0	0	0	0	0	0	0	0

表IV-12 B・C選別5mm出土魚上綱

魚上綱	魚上綱		魚種別																
	魚上綱		メダカ				コイ				サケ				メダカ				
	種別	数量	種別	数量	種別	数量	種別	数量	種別	数量	種別	数量	種別	数量	種別	数量	種別	数量	
魚上綱	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ
	前・後頭部	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ	11	メダカ

5 天草1遺跡出土動物遺存体の分析

種別	種別別												合計	標準偏差	
	ムナヅク目			ムナヅク科			ムナヅク目			ムナヅク科					
種名	個体数	重量	体長	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量
ムナヅク目	10	1.00	1.00	ムナヅク科	10	1.00	ムナヅク目	10	1.00	ムナヅク科	10	1.00	ムナヅク目	10	1.00
合計	10	1.00	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00

表IV-14 A～D選別以外(点取り・手取り)出土魚上綱

魚種	種別別												合計	標準偏差	
	ムナヅク目			ムナヅク科			ムナヅク目			ムナヅク科					
種名	個体数	重量	体長	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量
ムナヅク目	10	1.00	1.00	ムナヅク科	10	1.00	ムナヅク目	10	1.00	ムナヅク科	10	1.00	ムナヅク目	10	1.00
合計	10	1.00	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00

図VI-15 A選別5mm出土鳥綱

種別	種別別												合計	標準偏差	
	ムナヅク目			ムナヅク科			ムナヅク目			ムナヅク科					
種名	個体数	重量	体長	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量	種名	個体数	重量
ムナヅク目	10	1.00	1.00	ムナヅク科	10	1.00	ムナヅク目	10	1.00	ムナヅク科	10	1.00	ムナヅク目	10	1.00
合計	10	1.00	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00	合計	10	1.00

6 その他

(1) 糞石

魚骨層からは40点出土した。全て魚骨層の水洗作業後、一次選別時に確認したもので、発掘時や水洗作業時に崩壊、または溶解したのもも多いと思われる。40点はほとんどが1cm以下で、本来の塊が崩れたものであるが、10点程度本来の形を維持しているものがある。それらは、長さ1.5cm程、幅0.8cmほどの依形のもの（図版102-1-1~4）とそれらより明らかに大きい直径2cm以上のものがある。糞石の中には黒曜石剥片（図版102-1-5）やキュウリウオ科椎骨（図版102-1-6・7）、ウグイ属椎骨（図版102-1-8）が混入するものがあり、その他にも部位の不明な骨片が混じる。

田柄貝塚（宮城県教育委員会1986）では埋葬犬の腹腔部から糞石が出土し、最大幅が9.9~19.9mmまで確認されており、幅10mm前後の小さな糞石はイヌの可能性が高いとされている。また、宮路淳子によると形態の単純な比較や内容物の肉眼観察だけではイヌとヒトの糞石の区別は困難で、糞石に鉱物粒子などが混入するとイヌの可能性が高いとされている（宮路2001）。本遺跡の糞石の大きさは田柄貝塚埋葬犬の例ではイヌのサイズに収まり、幅1cm以下の小型のものはイヌの可能性が高い。また、鉱物などが10倍のルーペで確認でき、多くはイヌの排泄物の可能性が高い。

(2) その他

高師小僧・ベンガラ・粘土・石炭が出土している。高師小僧は中空のストロー状のものが多く、ベンガラは赤色顔料として粒状で土に混在している。粘土は白色で、5cm程度の塊で出土したのもあるが、ほとんどは1cm程度の小型のものであった。石炭は少量であるが水洗資料から得られた。周辺に炭鉱があり、近隣で採取されたものと思われる。

表IV-25 魚骨層出土掲載土器一覧

押図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	袋番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-10	50	1	魚骨層	D6c	魚骨層			IVb	1	深鉢	胴部				
			魚骨層	E15	魚骨層II		437		2						
			魚骨層	E16d	魚骨層III		293		4						
			魚骨層	E16	魚骨層III				1						
			魚骨層	F17b	魚骨層III		238		1						
IV-10	36	2	東排土		排土			V e 1	1	深鉢	胴・頸	(40.0)	(37.7)	(9.7)	
				E15	I				3						
				E15	III				15						
				E16	I				1						
				E16	III				6						
				E16	IV				1						
IV-10	36	3	魚骨層	E16c	魚骨層III		69		2						
			魚骨層	E17b	魚骨層III				1						
			魚骨層	F17a	魚骨層III		151	V e 1	5	深鉢	胴・頸	(25.3)	(29.6)	—	
				E16	III				2						
				F17	III				8						
									1						
IV-11	36	4	PC-1	D7d	魚骨層				4						
			PC-1	D8a	魚骨層				2						
			魚骨層	C8b	魚骨層		792		1						
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		850		1						
			魚骨層	D8a	魚骨層		418		1						
			魚骨層	D8a	魚骨層		466		1						
			魚骨層	D8a	魚骨層		317	V e 1	1	深鉢	胴・頸	35.4	(27.5)	—	
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		889		1						
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		973		10						
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		859		3						
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		799		1						
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		972		1						
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		955		2						

陣岡	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考			
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		732		4	V c 1	深鉢	口縁	22.6	24.5	7.0			
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1026	1										
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		997	3										
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		フ037	1										
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		1304	1										
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		917	1										
			魚骨層	D8d	埴輪I段溝			5										
			魚骨層	D8d	埴輪I段溝			1										
			魚骨層	D9a	魚骨層I層		727	1										
			魚骨層	E7a	魚骨層I層		744	2										
			魚骨層	不明	魚骨層I層		1002	1										
					B地区	Ⅲ		1										
						D7	Ⅲ		1									
						D8	Ⅲ		1									
			IV-11	36	5	PC-1	D7b	魚骨層										5
						PC-1		魚骨層									4	
						魚骨層	D7c	魚骨層I層	1116								9	
魚骨層	D7d	魚骨層				823	1											
魚骨層	D7d	魚骨層I層				1120	19											
魚骨層	D8a	魚骨層I層				1153	1											
魚骨層	D8b	魚骨層I層				1121	7											
魚骨層	D8b	魚骨層I層				1113	2											
						D7	Ⅲ		2									
						PC-1	D7a	魚骨層		8								
IV-11	36	6	魚骨層	D7b	魚骨層		335	1										
			魚骨層	D7b	魚骨層		2											
			魚骨層	D8a	魚骨層I層	1146	2											
			魚骨層	D8a	魚骨層I層	1086	1											
			魚骨層	D8a	魚骨層I層	1152	1											
			魚骨層	D8c	魚骨層I層	1082	1											
			魚骨層	D8c	魚骨層I層	1152	1											
			魚骨層	D8c	魚骨層I層	フ097	1											
			魚骨層	D8d	魚骨層I層	フ051	1											
			魚骨層	D8d	埴輪I段溝	215	1											
			魚骨層	D8d	埴輪I段溝	257	3											
			魚骨層	D8d	埴輪I段溝		1											
						E8	Ⅲ		1									
IV-12	50	7			E16	埴輪I段溝	37	1	V c 1	深鉢	口縁							
					不明		1	6										
IV-12	50	8	魚骨層	D8d	魚骨層I層		4	1	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1152	2										
IV-12	50	9	魚骨層	D8a	魚骨層I層		1054	2	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	D8d	埴輪I段溝		675	2										
IV-12	50	10	魚骨層	D8c	魚骨層I層		1077	1	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	E8c	魚骨層I層		875	3										
IV-12	50	11	魚骨層	E16a	魚骨層I層		298	1	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	E16b	魚骨層I層		19	1										
			魚骨層	E16b	魚骨層I層		181	3										
			魚骨層	E16c	魚骨層I層		66	1										
			魚骨層	E16c	魚骨層I層		79	1										
			魚骨層	E16c	魚骨層I層		118	1										
			魚骨層	E16c	魚骨層I層		174	1										
			魚骨層	E16d	魚骨層I層		191	1										
			魚骨層	E16	魚骨層I層		フ08	2										
						東斜面	Ⅱ										1	
IV-12	50	12	魚骨層	D6c	魚骨層		544	2	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	D6c	魚骨層		703	1										
IV-12	50	13	魚骨層	D8d	埴輪I段溝			1	V c 1	深鉢	口縁							
IV-13	50	14	PC-1	D7d	魚骨層			1	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	E16d	魚骨層I層		120	1	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	E16d	魚骨層I層		フ09	1										
IV-13	50	16	魚骨層	D6c	魚骨層		653	1	V c 1	深鉢	口縁							
IV-13	50	17	魚骨層	D7c	魚骨層I層		959	1	V c 1	深鉢	口縁							
IV-13	50	18	魚骨層	E9a	魚骨層I層		1301	1	V c 1	深鉢	口縁							
IV-13	50	19	魚骨層	E7a	魚骨層I層		1067	1	V c 1	深鉢	口縁							
IV-13	50	20	PC-1	D7	魚骨層			4	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	D7b	魚骨層I層		1049	1										
			魚骨層	E16b	魚骨層I層		119	1										
IV-13	50	21	魚骨層	E16b	魚骨層I層		21	1	V c 1	深鉢	口縁							
			魚骨層	E16c	魚骨層I層		164	2										

付表

押印	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	枚数	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考			
			魚骨層	F16a	魚骨層		62		1									
			東斜面							1								
			PC-1	D7d	魚骨層					1								
IV-13	50	22	魚骨層	D8b	魚骨層口部		1149	V c 1	1	深鉢	胴部							
			魚骨層	D6c	魚骨層					1								
			魚骨層	D6c	魚骨層					432	V c 1	1	深鉢	口縁				
IV-13	50	23	魚骨層	D8c	魚骨層口部		1115		1									
			魚骨層	D8	魚骨層					984	V c 1	1	深鉢	口縁			同一個体	
			魚骨層	D8	魚骨層					984	V c 1	2	深鉢	口縁				
IV-13	50	25	魚骨層	D8	魚骨層		965	V c 1	1	深鉢	口縁							
			魚骨層	D8a	魚骨層口部					799	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8c	魚骨層口部					1024	V c 1	2	深鉢	口縁				
IV-13	50	26	魚骨層	D8a	魚骨層口部		1153	V c 1	3	深鉢	胴部							
			魚骨層	E16c	魚骨層					480		2						
			魚骨層	E16c	魚骨層					84	V c 1	1	深鉢	口縁				
IV-13	50	28	魚骨層	E16c	魚骨層		67	V c 1	1	深鉢	口縁							
			魚骨層	E16c	魚骨層					67		1						
			魚骨層	E16c	魚骨層					67		1						
IV-14	37	29	魚骨層	PC-1	D7d	魚骨層			1									
			魚骨層	PC-1	D8a	魚骨層				1								
			魚骨層	D7c	魚骨層口部				945		3							
			魚骨層	D8a	魚骨層口部				1153		1							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1110		4							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1111		3							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1113		5							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1156		5							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1109	V c 1	1	深鉢	胴+口縁	(29.9)	30.8	(9.5)		
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1118		1							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1114		1							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1157		1							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1096		1							
			魚骨層	D8b	魚骨層口部				1087		1							
			魚骨層	D8c	魚骨層口部				フロ53		1							
			魚骨層	D8c	魚骨層口部				949		1							
			IV-14	37	30	魚骨層	D7					1						
魚骨層	PC-1	D7a				魚骨層				1								
魚骨層	PC-1	D7d				魚骨層					1							
魚骨層	PC-1	D7				魚骨層					4							
魚骨層	PC-2	D7				■下					2							
魚骨層	PC-2	D8				■下					1							
魚骨層	D7d	魚骨層								1								
魚骨層	B地区									8								
魚骨層	D8									1								
魚骨層	D8									1								
IV-15	37	31	魚骨層	D6・7	魚骨層		フロ31		1									
			魚骨層	不明	■			262	V c 1	1	深鉢	胴+口縁	(24.4)	-	-			
			魚骨層	B地区						1								
			魚骨層	D6						1								
IV-15	37	32	魚骨層	D7b				2										
			魚骨層	D7b						2								
			魚骨層	D7b						2								
IV-15	37	33	魚骨層	PC-1	D7b	魚骨層			V c 1	15	深鉢	胴+口縁	(16.9)	20.1	(6.9)			
			魚骨層	D6c	魚骨層				720		2							
			魚骨層	D6c	魚骨層口部				455		1							
			魚骨層	D7b	魚骨層				91		1							
			魚骨層	D7b	魚骨層						2							
			魚骨層	D7b	魚骨層口部				1021		1							
			魚骨層	D7b	魚骨層口部				1075		4							
			魚骨層	D7b	魚骨層口部				1006		2							
			魚骨層	D7b	魚骨層口部				1125	V c 1	3	深鉢	胴+口縁	(31.5)	25.5	-		
			魚骨層	D7c	魚骨層口部				945		3							
			魚骨層	D7d	魚骨層口部				1120		5							
			魚骨層	D8a	魚骨層口部				1106		1							
			魚骨層	D7							4							
			魚骨層	D8	I編覆瓦						2							
IV-16	37	34	魚骨層	E7					1									
			魚骨層	D6c	魚骨層			515		1								
			魚骨層	D6d	魚骨層口部				861		1							
			魚骨層	E6a	魚骨層				513	V c 1	1	深鉢	胴+口縁	(25.0)	(17.3)	-		
			魚骨層	D6						1								
IV-16	38	35	魚骨層	E7					2									
			魚骨層	D6c	魚骨層			461		10								
			魚骨層	D6c	魚骨層				718		8							
			魚骨層	D6c	魚骨層				562	V c 1	1	深鉢	胴+口縁	(38.9)	(35.8)	(11.0)		
			魚骨層	D6c	魚骨層				451		4							
			魚骨層	D6c	魚骨層				544		4							

押印	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
			魚骨層	D6c	魚骨層		579		1						
			魚骨層	D6c	魚骨層		551		4						
			魚骨層	D6c	魚骨層		455		1						
			魚骨層	D6c	魚骨層		833		1						
			魚骨層	D6c	魚骨層I層		フ042		2						
			魚骨層	D7b	魚骨層				9						
			魚骨層	D7b	魚骨層I層		1103		1						
			魚骨層	D7b	魚骨層I層下		フ049		1						<6>トコヲ43区
			魚骨層	D7b	魚骨層I層下		1199		1						<6>トコヲ43区
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		1028		3						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		721		1						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		738		2						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		752		1						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		723		1						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		986		2						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		748		1						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		857		3						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		806		1						
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		1035		2						
			魚骨層	E7a	魚骨層I層		918		1						
			魚骨層	E7a	魚骨層I層		999		1						
			魚骨層	E7a	魚骨層I層下		1198		1						<6>トコヲ43区
			魚骨層	不明	陶器I層		318		2						
			魚骨層	不明	陶器I層		268		1						
			魚骨層	不明	陶器I層		498		1						
			魚骨層	不明	陶器I層		252		1						
			魚骨層	不明	陶器I層		270		1						
			魚骨層	不明	陶器I層		220		1						
			志トコナ2		III				1						
					D6	III			1						
					E8	III			2						
IV-17	51	36	魚骨層	F16a	魚骨層I層		235	V c 1	1	深鉢	口縁				
				E15	III				1						
IV-17	51	37	魚骨層	D8d	魚骨層I層	4		V c 1	2	深鉢	口縁				
				D7	IV				2						
IV-17	51	38	魚骨層	D8b	魚骨層I層		1012	V c 1	3	深鉢	口縁				
			未ト注記	未ト注記					4						
IV-17	38	39	魚骨層	D8a	魚骨層I層		1054	V c 1	2	深鉢	口縁	(36.1)	(20.1)	-	
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1160		1						
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1083		4						
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1113		1						
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1156		1						
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		606		1						
			魚骨層	D8d	陶器I層		570		1						
			魚骨層	D8d	陶器I層		257		1						
				D7	III				1						
				E7	IV層上部				1						
				E8					1						
IV-17	51	40	魚骨層	D6c	魚骨層		720	V c 1	2	深鉢	口縁				
			魚骨層	E6d	魚骨層I層		966		1						
IV-17	51	41	魚骨層	D6b	魚骨層		829	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		971		1						
IV-17	51	42	B地区		III			V c 1	5	深鉢	口縁				
				D8	III				1						
			PC-1	D7d	魚骨層				1						
IV-18	51	43	PC-2	D7	III下			V c 1	2	深鉢	口縁				
			魚骨層	D7b	魚骨層				1						
IV-18	51	44	魚骨層	D8a	魚骨層I層		1112	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		1206		4						<6>トコヲ45区
			魚骨層	E16a	魚骨層I層		386		1						
IV-18	51	45	魚骨層	F17b	魚骨層I層		238	V c 1	1	深鉢	口縁				
				E15	III				3						
				E16	I				1						
IV-18	51	46	PC-1	D7	魚骨層			V c 1	4	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		フ036		1						
IV-18	51	47	掃土		掃土			V c 1	1	深鉢	口縁				
				D8	III				2						
IV-18	51	48	魚骨層	D8b	魚骨層I層		1119	V c 1	7	深鉢	口縁				
			魚骨層	E16c	魚骨層I層		203		5						
IV-19	51	49	魚骨層	E16c	魚骨層I層		473	V c 1	3	深鉢	口縁				

付表

押込	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	図番	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考												
IV-19	51	50	魚骨層	D7d	魚骨層口層		1138	V c 1	3	深鉢	口縁				備考 同一個体												
				E8	II		1																				
IV-19	51	51	魚骨層	D9c	魚骨層		561	V c 1	3	深鉢	胴部																
			魚骨層	D9c	魚骨層		585		4																		
IV-19	51	52	魚骨層	F16d	魚骨層口層		87	V c 1	9	深鉢	口縁																
				E16	表トロンリ		51		1																		
IV-19	52	53	PC-1	D7b	魚骨層			V c 1	1	深鉢	口縁																
			魚骨層	D8a	魚骨層口層		1054		2																		
			魚骨層	D8a	魚骨層口層		1160		2																		
			魚骨層	D8b	魚骨層口層		1117		1																		
			魚骨層	D8b	魚骨層口層		1135		1																		
IV-19	52	54	魚骨層	D7b	魚骨層			V c 1	2	深鉢	口縁																
			魚骨層	D8b	魚骨層口層		1065		1																		
			魚骨層	D8c	魚骨層口層		1155		1																		
IV-19	52	55	魚骨層	D8c	魚骨層口層		1115	V c 1	1	深鉢	胴部																
			魚骨層	D8c	魚骨層口層				2																		
			B地区	III			10																				
IV-20	38	56	PC-1	D7a	魚骨層			V c 1	6	深鉢	口縁	(27.5)	(19.5)	-													
			PC-1	D7d	魚骨層		6																				
			PC-1	D7	魚骨層		1																				
				D7	III		4																				
				D8	III		1																				
IV-20	38	57	PC-1	D7b	魚骨層			V c 1	1	深鉢	口縁	(37.5)	(42.0)	(9.0)													
			PC-1	D7d	魚骨層		2																				
			PC-1	D8a	魚骨層		4																				
			PC-1		魚骨層		2																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	フ054	3																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	945	1																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	1032	3																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	1116	4																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	1007	1																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	1107	2																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	1094	2																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	1045	1																				
			魚骨層	D7c	魚骨層口層	944	12																				
			魚骨層	D7d	魚骨層	823	1																				
			魚骨層	D7d	魚骨層	905	1																				
			魚骨層	D7d	魚骨層口層	1120	2																				
			魚骨層	D8a	魚骨層	418	1																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1160	1																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1054	1																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1112	2																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1106	1																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1146	1																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1086	1																				
			魚骨層	D8a	魚骨層口層	1092	1																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1144	10																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1087	15																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1110	1																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1117	1																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1055	2																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1096	4																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1119	1																				
			魚骨層	D8b	魚骨層口層	1149	4																				
			魚骨層	E6d	魚骨層口層	フ042	1																				
			魚骨層	E8a	魚骨層口層	1005	2																				
					表トロンリ	III	1																				
					B地区	III	4																				
						E8	7																				
						E8	1																				
						E8	IV																				
						E8	木根																				
			IV-21	38	58	PC-1	D7d		魚骨層										V c 1	9	深鉢	口縁	(31.5)	(23.9)	-		
						魚骨層	D7a		魚骨層								543	1									
						魚骨層	D7b		魚骨層								91	1									
魚骨層	D7d	魚骨層口層				1034	1																				
		表トロンリ				III	1																				
		B地区	III	1																							
IV-21	39	59		D7	III			V c 1	7	深鉢	口縁	(38.5)	(22.1)	-													
			PC-1	D7b	魚骨層		1																				
			PC-1	D7	魚骨層		2																				
			PC-1	魚骨層				6																			

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	袋番号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考			
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		1045		1									
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		944		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1004		1									
			魚骨層	E8a	魚骨層I層		1132		2									
IV-22	52	60	PC-1	D7b	魚骨層				2									
			PC-1	D7	魚骨層				1									
			PC-2	D7	■下				2									
			PC-2	D8	■下				2	V c 1	2	深鉢	口縁					同一個体
			魚骨層	C8c	魚骨層		813		1									
			魚骨層	D8	魚骨層		984		1									
			B地区	■					3									
IV-22	52	61	PC-1	D7d	魚骨層				1									
			PC-1	D8a	魚骨層				1									
			PC-2	D7	■下				2	V c 1	2	深鉢	口縁					
			PC-2	D8	■下				4									
			西引面	■				1										
			B地区	■				1										
									3									
IV-23	52	62	魚骨層	D8a	魚骨層I層		1086		1									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1019		6									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1068		1									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1019		2									
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1113		2									
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1135		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1162		3	V c 1	3	深鉢	口縁					
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1065		1									
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		1108		1									
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		4		9									
			魚骨層	D8d	魚骨層I層				1									
			魚骨層	E8a	魚骨層I層		1005		4									
			魚骨層	不明	魚骨層I層		1070		1									
			IV-23	52	63	D7	IV				1							
魚骨層	E15	魚骨層II層					12		1									
魚骨層	E16b	魚骨層II層					277		1	V c 1	1	深鉢	口縁					
魚骨層	E16b	魚骨層II層					288		2									
魚骨層	E16b	魚骨層II層					188		2									
IV-24	39	64	E17	IV				3										
			魚骨層	E15	魚骨層II層		16		3	V c 1	3	深鉢	口縁	(25.8)	(28.8)	-		
			魚骨層	E15	魚骨層II層		27		1									
			魚骨層	E15	魚骨層II層		30		1									
			魚骨層	E15	魚骨層II層		437		1									
			魚骨層	E16b	魚骨層II層		119		1									
			魚骨層	E16b	魚骨層II層		287		1									
			魚骨層	E16c	魚骨層II層		68		2									
			魚骨層	E16c	魚骨層II層		69		2									
			魚骨層	E16c	魚骨層II層		99		1									
			魚骨層	E16c	魚骨層II層		118		1									
			魚骨層	E16c	魚骨層II層		174		1									
			魚骨層	E16	魚骨層II層		7 □ 10		1									
			魚骨層	E17b	魚骨層II層				2									
			魚骨層		魚骨層II層				1									
					E15	I			1									
					E15	■			7									
					E16	■			3									
					E16	■(1) □ 7.5層			74		1							
			IV-24	52	65	魚骨層	E16c	魚骨層II層		242	V c 1	8	深鉢	口縁				
IV-24	52	66	PC-1	D7	魚骨層				3									
				D10	V				1	V c 1	1	深鉢	口縁					
IV-24	53	67	PC-1	D7d	魚骨層				1									
			PC-2	D7	■下				7									
			西引面	■				1	V c 1	1	深鉢	口縁						
			B地区	■				1										
				D7	■				1									
IV-24	53	68	E8	■				1										
			魚骨層	E16a	魚骨層II層		351		1									
			魚骨層	E16a	魚骨層II層		356		1									
			魚骨層	E16a	魚骨層II層		357		1	V c 1	1	深鉢	口縁					
			魚骨層	E16c	魚骨層II層		105		1									
				E15	■				1									
IV-24	53	69	F15	I				1										
			魚骨層	F17	魚骨層II層				1	V c 1	1	深鉢	口縁					
			B地区	■				1										

付表

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	枚数	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-24	53	70	魚骨類	D6b	魚骨類		829	V c 1	1	深鉢	口縁				
IV-25	53	71	PC-1	D7d	魚骨類			V c 1	4	深鉢	口縁				
IV-25	53	72		D7	IV			V c 1	1	深鉢	口縁				同一個体
				D8	IV		1								
				E7	III		1								
				E8	IV		2								
IV-25	53	73	魚骨類	D7a	魚骨類		548	V c 1	1	深鉢	胴部				
			魚骨類	D7d	魚骨類		588		2						
			魚骨類	D7d	魚骨類		905		2						
				D7	IV		1								
IV-25	53	74		E8a	IV			V c 1	2	深鉢	口縁				
			魚骨類	E16b	魚骨類(組)		185		3						
			魚骨類	E16b	魚骨類(組)		202		1						
			魚骨類	E16b	魚骨類(組)		89		1						
IV-25	53	75	魚骨類	E16b	魚骨類(組)		117	V c 1	1	深鉢	口縁				
			PC-1	D7d	魚骨類				1						
			PC-1	D8a	魚骨類				5						
				D7	III				1						
IV-25	53	76		PC-1	魚骨類			V c 1	2	深鉢	胴部				
			魚骨類	D7e	魚骨類(口縁)		945		2						
			魚骨類	D8b	魚骨類(口縁)		7051		1						
				B地区	III				1						
IV-26	39	77		PC-1	D7	魚骨類		V c 1	1	深鉢	胴・頸	(32.5)	(15.8)	-	
			魚骨類	C8b	魚骨類		458		1						
			魚骨類	C8b	魚骨類		514		1						
			魚骨類	D7d	魚骨類(口縁)		1120		2						
			魚骨類	D8a	魚骨類(口縁)		1146		2						
			魚骨類	D8a	魚骨類(口縁)		1086		1						
			魚骨類	D8a	魚骨類(口縁)		1030		2						
			魚骨類	D8a	魚骨類(口縁)		1073		1						
			魚骨類	D8a	魚骨類(口縁)		1092		1						
			魚骨類	D8a	魚骨類(口縁)		1072		6						
			魚骨類	D8b	魚骨類(口縁)		1065		1						
			魚骨類	D8c	魚骨類(口縁)		1108		1						
			魚骨類	不明	魚骨類(口縁)		1070		1						
IV-26	39	78		D7	III			V c 1	2	深鉢	胴・頸	(40.7)	(23.2)	-	
			PC-1	D7b	魚骨類				2						
			PC-1	D7d	魚骨類				3						
			PC-1	D7	魚骨類				3						
			PC-2	D7	皿下				4						
			PC-2	D8	皿下				1						
				B地区	III				3						
				D7	III				1						
				D8	III				1						
				PC-1	D7d	魚骨類									
IV-27	39	79		B地区	III			V c 1	1	深鉢	胴・頸	(35.5)	(23.6)	-	
				D7	III				9						
			魚骨類	E15	魚骨類(組)		33		1						
			魚骨類	E15	魚骨類(組)		14		1						
IV-27	40	80	魚骨類	E16a	魚骨類(組)		469	V c 1	1	深鉢	胴・頸	(41.9)	(23.4)	-	
			魚骨類	E16a	魚骨類(組)		539		1						
			魚骨類	E16d	魚骨類(組)		94		1						
			魚骨類	F17b	魚骨類(組)		238		2						
				E15	III				4						
				E16	III				4						
				E16	IV				1						
IV-27	40	81	魚骨類	D7b	魚骨類(口縁)		1071	V c 1	1	深鉢	胴・頸	(17.0)	15.8	(5.1)	
			魚骨類	D7b	魚骨類(口縁)		1125		4						
			魚骨類	D7b	魚骨類(口縁)		1042		3						
			魚骨類	D7b	魚骨類(口縁)		1133		1						
			魚骨類	D7c	魚骨類(口縁)		1134		2						
			魚骨類	E7b	魚骨類(口縁)		1020		8						
				D7	III				1						
IV-27	40	82		PC-1	D7d	魚骨類		V c 1	10	深鉢	胴・頸	(11.8)	(12.7)	-	
			PC-2	D7	皿下				1						
				西側面下掘	III				2						
				D7	III				1						
IV-28	53	83		PC-1	D7b	魚骨類		V c 1	2	深鉢	口縁				
			PC-1	D7d	魚骨類				3						
			PC-2	D7	皿下				3						
				B地区	III				3						

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	袋番号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考			
IV-28	53	84	魚骨層	D6c	魚骨層		451		2									
			魚骨層	D6c	魚骨層		618		9									
			魚骨層	D6c	魚骨層		825		1									
			魚骨層	D6c	魚骨層		585		6									
			魚骨層	D6c	魚骨層		718		2									
			魚骨層	D6c	魚骨層		816		1									
			魚骨層	D6c	魚骨層		699		2									
			魚骨層	D6c	魚骨層		461		1	V c 1	1	深鉢	口縁					
			魚骨層	D7a	魚骨層		411		2									
			魚骨層	D7b	魚骨層				1									
			魚骨層	不明	編み目織		608		1									
					埴土				1									
					G5	V柄瓦鉢			1									
					G5	盛土			2									
		G5	盛土9割			1												
IV-29	54	85	魚骨層	D7b	魚骨層口縁		1103		1									
			魚骨層	D7c	魚骨層口縁		1124		2	V c 1	2	深鉢	口縁					
			B地区	Ⅲ				1										
IV-29	54	86	魚骨層	D7	Ⅲ				9									
			魚骨層	D7a	魚骨層		411		5	V c 1	5	深鉢	口縁					
IV-30	54	87	魚骨層	D7b	魚骨層				2									
			魚骨層	E6a	魚骨層口縁		893		1									
			魚骨層	E6a	魚骨層口縁		866		1									
			C地区	Ⅲ				2	V c 1	2	深鉢	口縁						
				D7	Ⅲ				1									
IV-30	54	88		E6	Ⅲ				15									
			魚骨層	D8d	魚骨層口縁下		1265		22	V c 1	22	深鉢	口縁				≪6ト12カラム迄	
			魚骨層	F16a	魚骨層口縁		290		4									
IV-30	54	89	魚骨層	F16a	魚骨層口縁		530		1									
			魚骨層	F16c	魚骨層口縁		271		1									
			魚骨層	F16d	魚骨層口縁		98		2	V c 1	2	深鉢	口縁					
			魚骨層	F16d	魚骨層口縁		239		1									
			魚骨層	F17a	魚骨層口縁		157		1									
				F16	Ⅲ				1									
IV-30	54	90	魚骨層	D8d	女し		1244		2							≪6ト12カラム迄		
			魚骨層	D8d	魚骨層口縁		1304		1	V c 1	1	深鉢	口縁				≪6ト12カラム迄	
			PC-1	D8a	魚骨層				1									
IV-30	54	91	魚骨層	D8a	魚骨層口縁		1086		1	V c 1	1	深鉢	口縁			編み目織・加賀一割		
			魚骨層	D8d	編み目織				1									
IV-31	54	92	PC-1	D8a	魚骨層				4									
			魚骨層	D8a	魚骨層				9	V c 1	9	深鉢	口縁					
IV-31	54	93	魚骨層	E6d	魚骨層口縁		738		4	V c 1	4	深鉢	口縁					
IV-31	55	94	魚骨層	D6c	魚骨層		636		2	V c 1	2	深鉢	口縁					
			魚骨層	D6c	魚骨層		618		1									
IV-31	55	95	PC-2	D7	Ⅲ下				2									
			PC-2	D8	Ⅲ下				5									
			魚骨層	D8d	覆瓦		1338		1	V c 1	1	深鉢	口縁				同一個体	
				Ⅲ					2									
				D8	Ⅲ				2									
IV-31	55	96	PC-2	D8	Ⅲ下				3									
			A地区	Ⅲ				1	V c 1	1	深鉢	胴部						
			B地区	Ⅲ				1										
			西斜面	Ⅲ				1										
IV-31	55	97	魚骨層	D8b	魚骨層口縁		978		3									
				E8	Ⅲ				1	V c 1	1	深鉢	口縁					
				E9	Ⅳ				1									
IV-31	55	98	魚骨層	D9b	魚骨層口縁		1247		2	V c 1	2	深鉢	口縁			同一個体		
				E9	Ⅲ				1									
IV-31	55	99	魚骨層	D8c	魚骨層口縁		1236		1	V c 1	1	深鉢	胴部					
			魚骨層	D8c	空型跡下蓋		215		1									
IV-31	55	100		E9	Ⅲ				4	V c 1	4	深鉢	口縁					
IV-32	55	101	魚骨層	D6c	魚骨層		515		3									
			魚骨層	D6c	魚骨層		594		1	V c 1	1	深鉢	口縁				同一個体	
			魚骨層	D6c	魚骨層		523		3									
			魚骨層	D6c	魚骨層		561		1									
IV-32	55	102	PC-1	D7	魚骨層				2	V c 1	2	深鉢	底部					
			魚骨層	D7d	魚骨層		782		2									
IV-32	55	103	魚骨層	D6c	魚骨層口縁		フコ40		1	V c 1	1	深鉢	口縁					
IV-32	55	104		E7	Ⅲ				1									
					Ⅲ				1	V c 1	1	深鉢	口縁				同一個体	

付表

種別	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	器形	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-32	55	105	魚骨類	D8d	灰層1層			V c 1	1	深鉢	口縁					
									2							
IV-32	55	106	C地区		Ⅲ			V c 1	1	深鉢	口縁					
									4							
IV-32	55	107	B地区		Ⅲ			V c 1	1	深鉢	胴部					
									1							
IV-32	55	108	魚骨類	D6・7	魚骨層		664	V c 1	1	深鉢	口縁					
									1							
IV-32	55	109	B地区		Ⅲ		659	V c 1	1	深鉢	口縁					同一個体
									1							
IV-32	55	110	魚骨類	D8	魚骨層		フ033	V c 1	1	深鉢	口縁					
									2							
IV-33	40	111		PC-1	D7b	Ⅲ下		V c 1	2	深鉢	胴+頸	(27.6)	(25.9)	-		
									7							
									12							
									2							
									2							
									1							
									1							
IV-33	40	112	魚骨類	D6c	魚骨層		442	V c 1	2	深鉢	胴+頸	(17.2)	(17.4)	-		
									3							
IV-33	41	113	魚骨類	D7b	魚骨層1層		フ070	V c 1	12	深鉢	胴+頸	(35.7)	(30.8)	-		~6トコヲスル
									1							
									3							
									8							
									8							
									3							
									3							
									2							
									1							
									1							
									1							
									2							
									1							
									1							
									5							
									1							
									1							
IV-34	41	114		PC-1	D7b	魚骨層		V c 1	2	深鉢	胴+頸	(30.3)	(19.7)	-		
									6							
									2							
									2							
									1							
									1							
									3							
IV-34	41	115	魚骨類	D7d	魚骨層		905	V c 1	1	深鉢	胴+頸	(30.8)	(31.7)	-		
									6							
									3							
									3							
									1							
									2							
									4							
									2							
									1							
									1							
									1							
									12							
									2							
									2							
									4							
									1							
									1							
									1							
									1							
									1							
1																
1																
1																
5																
2																
IV-35	55	116	魚骨類	C8b	魚骨層		826	V c 1	1	深鉢	口縁					
									2							
									1							
									4							
									4							
									1							
IV-35	55	117	魚骨類	D8d	魚骨層		1293	V c 1	1	深鉢	口縁					~6トコヲスル
									4							
									1							
									2							

坪図	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	枚数	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	蓋径(cm)	底径(cm)	備考
IV-35	55	118	魚骨層	D6c	魚骨層		403	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8d	魚骨層		1272		1						
IV-35	56	119	魚骨層	D8d	魚骨層		250	V c 1	1	深鉢	口縁				55-1274A註
			魚骨層	D8	Ⅲ				1						
			魚骨層	D7c	魚骨層		7054		1						
IV-36	56	120	B地区	Ⅲ				V c 1	1	深鉢	口縁				
				E8	Ⅲ				1						
IV-36	56	121	魚骨層	D8c	魚骨層		1068	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	E8a	魚骨層		942		1						
			PC-1	D7d	魚骨層				1						
			PC-2	D7	Ⅲ下				14						
			PC-2	D8	Ⅲ下				2						
IV-36	56	122	魚骨層	D8	魚骨層		793	V c 1	1	深鉢	口縁				
			B地区	Ⅲ					1						
				Ⅲ	土				1						
				D7	Ⅲ				1						
				D8	I層覆瓦				2						
				D8	Ⅲ				1						
IV-36	56	123	PC-1	D7	魚骨層			V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	E6d	魚骨層		743		2						
			魚骨層	E6d	魚骨層		738		1						
IV-37	56	124	魚骨層	E6d	魚骨層		806	V c 1	2	深鉢	口縁				
			魚骨層	E6d	魚骨層		853		1						
			C地区	Ⅲ					1						
			PC-1	D7d	魚骨層				7						
			PC-1	D7	魚骨層				1						
IV-37	56	125	PC-1	魚骨層				V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D7d	魚骨層				4						
				D7	Ⅲ				1						
IV-37	56	126	魚骨層	D7d	魚骨層			V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8a	魚骨層		1084		2	深鉢	口縁				
IV-37	56	127	魚骨層	D8c	魚骨層		364	V c 1	1						
IV-37	56	128	魚骨層	D8b	魚骨層		1162	V c 1	1	深鉢	口縁				
IV-37	56	129	PC-1	D8a	魚骨層			V c 1	2	深鉢	口縁				
			PC-2	D7	Ⅲ下				1						
			PC-2	D8	Ⅲ下				6						
			B地区	Ⅲ					3						
IV-37	56	130	魚骨層	D7c	魚骨層		1032	V c 1	1	深鉢	口縁				
IV-37	56	131	魚骨層	C8c	魚骨層		463	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8b	魚骨層		1065		3						
			魚骨層	D8c	魚骨層		1108		2						
IV-38	56	132	魚骨層	D8c	魚骨層		1105	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	D8c	魚骨層		1088		1						
				E8	Ⅲ				1						
IV-38	56	133	PC-1	D7b	魚骨層			V c 1	1	深鉢	口縁				
			PC-2	D8	Ⅲ下				4						
				D8	Ⅲ				1						
			魚骨層	D8a	魚骨層		719		2						
IV-38	56	134	B地区	Ⅲ				V c 1	1	深鉢	胴部				
				D7	Ⅲ				1						
IV-38	57	135	PC-1	D7	魚骨層			V c 1	16	深鉢	口縁				
IV-38	57	136	魚骨層	F17	魚骨層			V c 1	2	深鉢	口縁				
				E16a	魚骨層		298		2						
IV-39	57	137	魚骨層	E16	Ⅰ			V c 1	3	深鉢	口縁				同一個体
				E16	Ⅲ				5						
IV-39	57	138	東斜面	Ⅱ・Ⅲ				V c 1	1	深鉢	底部				
			東斜面	Ⅲ				V c 1	2						
			魚骨層	E16c	魚骨層		53		1						
			魚骨層	E16c	魚骨層		135		3						
			魚骨層	E16c	魚骨層		79		1						
IV-39	57	139	魚骨層	E16d	魚骨層		94	V c 1	3	深鉢	口縁				
				E15	Ⅲ				2						
				E16	Ⅲ				2						
IV-39	57	140	魚骨層	D8a	魚骨層		11	V c 1	2	深鉢	口縁				
IV-39	57	141	魚骨層	D8b	魚骨層		829	V c 1	4	深鉢	口縁				
IV-39	57	142	魚骨層	F17	魚骨層			V c 1	1	深鉢	口縁				
IV-39	57	143	魚骨層	F16a	魚骨層		96	V c 1	1	深鉢	口縁				
			魚骨層	F16a	魚骨層		93		1						
IV-39	57	144	魚骨層	F16d	魚骨層		108	V c 1	2	深鉢	口縁				
			魚骨層	F16d	魚骨層		705		2						

付表

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分期	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考				
IV-40	41	145	魚骨脣	F16d	魚骨脣		195		2										
			魚骨脣	D8b	魚骨脣		951		1										
			魚骨脣	D8d	魚骨脣					1									
			B地区							8									
			D7					3											
IV-40	57	146	魚骨脣	E16c	魚骨脣		174	V c 1	1	浅鉢	口縁	(34.2)	13.9	9.0					
IV-40	57	147	PC-1	D8a	魚骨脣			V c 1	3	浅鉢	口縁					赤彩			
IV-40	41	148	魚骨脣	C8b	魚骨脣		315		1										
			魚骨脣	D7c	魚骨脣		945		1										
			魚骨脣	D8b	魚骨脣		1121			1									
			魚骨脣	D8b	魚骨脣		1012			1									
			魚骨脣	D8b	魚骨脣		1111			1									
			魚骨脣	D8c	魚骨脣		1190			3									
			魚骨脣	D8c	魚骨脣		1206			5									<6>トコラ45
			魚骨脣	D8d	魚骨脣		1246			3									<6>トコラ45
			魚骨脣	D9b	魚骨脣		963			1									
			魚骨脣	D9b	魚骨脣		852			1									
			魚骨脣	D9b	魚骨脣		740			1									
			魚骨脣	D9b	魚骨脣		916			1									
			魚骨脣	E7a	なし		1177			1									<6>トコラ45
						D7					1								
IV-40	57	149	PC-1	D7	魚骨脣			V c 1	2	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	D7d	魚骨脣				1										
			魚骨脣	D7b	魚骨脣		417		1										
			魚骨脣	D7b	魚骨脣		387		1										
			魚骨脣	D7b	魚骨脣		1042		1										
			魚骨脣	D7b	魚骨脣		1071		1										
			魚骨脣	D7b	魚骨脣		フロ59		1										
IV-41	42	150	魚骨脣	E7a	魚骨脣		1060	V c 1	1	浅鉢	口縁	(36.8)	(11.1)	-		<6>トコラ45			
			魚骨脣	E7a	魚骨脣		1170		1										
			魚骨脣	E7b	魚骨脣		1020		1										
			C地区						1										
				E7					1										
				IV					1										
				F5					1										
IV-41	57	151	魚骨脣	C8b	魚骨脣		785	V c 1	2	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	D8a	魚骨脣		フロ36		1										
IV-41	57	152	魚骨脣	D8b	魚骨脣	4		V c 1	1	浅鉢	口縁						赤彩		
IV-41	57	153	魚骨脣	E16c	魚骨脣		66	V c 1	1	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	E16	魚骨脣		フロ8		1										
IV-41	57	154	魚骨脣	D6b	魚骨脣		449	V c 1	1	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	D7a	魚骨脣		1027		1										
IV-41	57	155	魚骨脣	D8a	魚骨脣		1001	V c 1	1	浅鉢	口縁						同一個体		
			魚骨脣	D8d	魚骨脣		917		2										
IV-41	57	156	魚骨脣	D6b	魚骨脣		829	V c 1	1	浅鉢	底部								
IV-41	57	157	魚骨脣	D7c	魚骨脣		1116	V c 1	1	浅鉢	口縁						同一個体 赤彩		
IV-41	57	158	魚骨脣	D8c	魚骨脣		1077	V c 1	1	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	D8c	魚骨脣		1098		1										
			魚骨脣	D7b	魚骨脣		1185		2								<6>トコラ45		
IV-42	57	159	魚骨脣	D7b	魚骨脣		1199	V c 1	2	浅鉢	口縁						<6>トコラ45		
			魚骨脣	不明	魚骨脣		252		1								同一個体		
IV-42	58	160	魚骨脣	D6c	魚骨脣		568	V c 1	1	浅鉢	口縁								
			香トロンナ						1										
IV-42	58	161	魚骨脣	D8b	魚骨脣		1093	V c 1	2	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	D8c	魚骨脣		948		1										
IV-42	58	162	魚骨脣	D9a	魚骨脣		880	V c 1	8	浅鉢	口縁								
IV-42	58	163	魚骨脣	D8b	魚骨脣		1014	V c 1	1	浅鉢	口縁								
IV-42	58	164	魚骨脣	E9				V c 1	1	浅鉢	口縁						赤彩		
IV-42	58	165	魚骨脣	E9a	魚骨脣		929	V c 1	1	浅鉢	口縁						同一個体 赤彩		
			魚骨脣	D7					1										
IV-42	58	166	魚骨脣	D6c	魚骨脣		632	V c 1	2	浅鉢	口縁								
			魚骨脣	D6c	魚骨脣		576		1										
									1										
IV-43	42	167	PC-1	D7	魚骨脣			V c 1	1	浅鉢	口縁	(22.4)	(12.4)	7.8					
			魚骨脣	D8b	魚骨脣		1096		2										
			魚骨脣	D8b	魚骨脣		1111		1										
IV-43	58	168	PC-1	D8a	魚骨脣			V c 1	2	浅鉢	口縁						赤彩		
IV-43	58	169	魚骨脣	D8b	魚骨脣		1114	V c 1	1	浅鉢	口縁						赤彩		
IV-43	58	170	魚骨脣	E8				V c 1	1	浅鉢	口縁						同一個体		
IV-43	58	171	魚骨脣	E8a	魚骨脣		942	V c 1	2	浅鉢	口縁								
IV-43	58	172	魚骨脣	D8a	魚骨脣		1152	V c 1	2	浅鉢	口縁						赤彩		
IV-43	58	173	PC-1	D8a	魚骨脣			V c 1	1	浅鉢	口縁								

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	
IV-43	58	174	魚骨層	D8a	魚骨層		438	V c 1	1	浅鉢	口縁					
			魚骨層	D8a	魚骨層		466		1							
IV-44	58	175	PC-1	D7	魚骨層			V c 1	1	浅鉢	口縁					
				E6d	魚骨層		321		2							
IV-44	42	176	魚骨層	E6	Ⅲ			V c 1	1	浅鉢	口縁	(33.6)/(30.5)	8.4	8.0		
				E7	Ⅳ				3							
IV-44	58	177	魚骨層	F16d	魚骨層		131	V c 1	4	浅鉢	口縁					
				魚骨層	D7c	魚骨層			959							1
IV-44	58	178	魚骨層	D8a	魚骨層		972	V c 1	2	浅鉢	口縁					
				魚骨層	D7d	魚骨層			1129							1
IV-44	58	179	魚骨層	D8a	魚骨層		1106	V c 1	1	浅鉢	口縁					
				魚骨層	F16d	魚骨層			705							2
IV-44	58	180	魚骨層	F16	Ⅲ			V c 1	1	浅鉢	口縁				赤彩	
				F17	Ⅲ				1							
IV-44	58	181	魚骨層	D7b	魚骨層		91	V c 1	3	浅鉢	口縁					
IV-44	58	182	PC-1	D8a	魚骨層			V c 1	1	浅鉢	口縁					
IV-44	58	183	魚骨層	E16d	魚骨層		160	V c 1	1	浅鉢	口縁					
IV-44	58	184	PC-1	D7d	魚骨層			V c 1	1	浅鉢?	口縁					
IV-44	58	185	魚骨層	D8c	魚骨層		1151	V c 1	1	浅鉢	口縁					
IV-44	58	186	魚骨層	D7c	魚骨層		1116	V c 1	1	浅鉢	口縁					
IV-45	42	187	魚骨層	PC-1	D7b	魚骨層			V c 1	1	角形	口縁	(34.0)/(15.5)	17.8	(6.6)	
				PC-1	D7d	魚骨層				5						
				PC-1	D7	魚骨層				1						
				PC-1	魚骨層					1						
				魚骨層	D7d	魚骨層		1034		8						
				魚骨層	D7d	魚骨層		1129		2						
				魚骨層	D8a	魚骨層		952		3						
				魚骨層	D8a	魚骨層		1026		1						
				魚骨層	D8a	魚骨層		729		1						
				魚骨層	D8a	魚骨層		932		2						
										2						
										1						
IV-45	42	188	魚骨層	D7c	魚骨層		1124	V c 1	1	角形	口縁	(15.1)/(12.9)	(7.4)	-		
				魚骨層	D8d	魚骨層			425							1
				E7	Ⅲ				1							
				E8	Ⅲ				3							
IV-45	42	189	魚骨層	D6b	魚骨層		716	V c 1	1	角形	口縁	(13.0)/(9.3)	(12.5)	-	赤彩	
				魚骨層	D6c	魚骨層			579							1
				魚骨層	D7b	魚骨層			906							1
				魚骨層	D7b	魚骨層			1058							1
				魚骨層	D8c	魚骨層			1297							1
				魚骨層	D8d	なし			1280							1
				魚骨層	D8d	魚骨層			1095							2
				魚骨層	不明	不明			674							5
				魚骨層	不明	不明			608							1
																608
IV-46	43	190	魚骨層	PC-1	D7a	魚骨層			V c 1	角形	口縁	(15.5)/(30.3)	(19.8)	(7.7)/(11.0)	赤彩	
				魚骨層	D7a	魚骨層		543								3
				魚骨層	D7b	魚骨層										1
				魚骨層	D7b	魚骨層		1075								6
				魚骨層	D7b	魚骨層		1021								1
				魚骨層	D7b	魚骨層		1042								2
				魚骨層	D7b	魚骨層		1103								1
				魚骨層	D7b	魚骨層		1123								2
				魚骨層	D7b	魚骨層		957								3
				魚骨層	D7b	魚骨層		7059								1
				魚骨層	D7c	魚骨層		1048								8
				魚骨層	D7c	魚骨層		1036								1
				魚骨層	D8b	魚骨層		1157								1
																2
																1
IV-46	43	191	魚骨層	E15	魚骨層		33	V c 1	1	角形	口縁	(34.9)/(16.7)	(14.8)	(7.5)/(4.9)		
				魚骨層	E15	魚骨層										1
				魚骨層	E15	魚骨層										1
				魚骨層	E16a	魚骨層			245							1
				魚骨層	E16a	魚骨層			300							1
				魚骨層	E16b	魚骨層			185							1
				魚骨層	E16b	魚骨層			288							1
				魚骨層	E16d	魚骨層			94							2
																3
																1

付表

採回	図版	番号	通称名	調査区	層位	遺物番号	発番号	分期	点数	器形	部位	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	備考			
IV-47	43	192	PC-1	D7d	魚骨層			V c 1	6	舟形	凹=縁	37.5/(23.4)	(20.5)	—	赤彩			
			魚骨層	D6c	魚骨層		551			3								
			魚骨層	D6c	魚骨層		699			4								
			魚骨層	D6c	魚骨層		653			1								
			魚骨層	D6c	魚骨層		692			1								
			魚骨層	D6c	魚骨層		636			1								
			魚骨層	D7c	魚骨層15層		1036			4								
			魚骨層	D7c	魚骨層15層		1052			8								
			魚骨層	D7c	魚骨層15層		1007			1								
			魚骨層	D7c	魚骨層15層		1052			6								
			魚骨層	D7c	魚骨層15層		16			3								
			魚骨層	D7d	魚骨層15層		943			1								
			魚骨層	E8a	魚骨層15層		1017			1								
						D9	IV				1							
			IV-47	43	193	魚骨層	D6c	魚骨層		667	V c 1	10	舟形	凹=縁	(22.0)/(14.7)	15.5	—	赤彩
魚骨層	D6c	魚骨層					512		2									
									3									
IV-48	43	194	魚骨層	D8b	魚骨層13層		1157		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1156		6									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1144		2									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1119		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1118		3									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1109		2	V c 1	10	舟形	凹=縁	(32.9)/(22.7)	(18.3)	—	赤彩	
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1055		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1080		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1113		2									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1087		1									
						B地区	III				1							
				E8	III			1										
IV-48	43	195	PC-1	D7d	魚骨層				1									
			魚骨層	D8a	魚骨層		774	V c 1	1	舟形	凹=縁	(30.3)/(18.9)	(17.1)	—				
			魚骨層	D8c	なし		1282		1									
			魚骨層	D9b	魚骨層13層		フ035		1									
					A地区	III				2								
					B地区	III				1								
						D7	III			3								
			D8	III			6											
IV-49	58	196	魚骨層	D8d	魚骨層13層		950	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩			
			魚骨層	D8d	魚骨層13層		425		1									
IV-49	58	197	魚骨層	E8-1b, F9	魚骨層13層		4	V c 1	5	舟形	突起				赤彩			
IV-49	58	198	魚骨層	D6b	魚骨層		591	V c 1	2	舟形	口縁				赤彩			
IV-49	58	199	魚骨層	D8d	魚骨層13層		フ079	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩			
IV-49	58	200	魚骨層	D7c	魚骨層13層		1130	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩			
			魚骨層	D7d	魚骨層13層		1120		1									
IV-49	58	201	魚骨層	F16d	魚骨層13層		201	V c 1	6	舟形	胴部				赤彩			
			魚骨層	F16d	魚骨層13層		169		1									
IV-49	58	202	魚骨層	D8a	魚骨層13層		1196		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		805		1									
			魚骨層	D8c	魚骨層13層		961		1	V c 1	1	舟形	口縁			赤彩		
			魚骨層	D8d	魚骨層13層		1269		1									
						D8	III				1							
IV-49	58	203	魚骨層	D8b	魚骨層13層		1055		2									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1080		1	V c 1	4	舟形	口縁			赤彩		
			魚骨層	D8c	魚骨層13層		1077		1									
IV-49	58	204	PC-1	D7d	魚骨層			V c 1	1	舟形	口縁				赤彩			
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		848		1									
IV-49	58	205			A地区	III		V c 1	2	舟形	口縁			赤彩				
IV-49	59	206	魚骨層	D8a	魚骨層13層		1112		6									
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		1090		1									
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		1091		2	V c 1	2	舟形	口縁					
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		1158		2									
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		1086		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層13層		1156		1									
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		726		1									
IV-50	44	207	魚骨層	D8a	魚骨層13層		796		1									
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		971		1									
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		11		1	V c 1	1	舟形	凹=縁	(25.0)/(31.2)	(18.9)	—		
			魚骨層	D8a	魚骨層13層		8		3									
			魚骨層	D8c	魚骨層13層		1262		1									
			魚骨層	D8d	魚骨層13層		950		1									
			魚骨層	D8d	魚骨層13層		749		1									

陣団	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考				
IV-51	44	208	魚骨層	D8d	魚骨層I層	4			2										
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		257		2										
				E8	Ⅲ					2									
			PC-1	D8a	魚骨層					1									
			魚骨層	D7c	魚骨層II層		フロ54			1									
			魚骨層	D7c	魚骨層II層		1116			1									
			魚骨層	D7c	魚骨層II層		1016			1									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1080			1									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1084			1									
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1118			1									
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		1308			1									
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		1298			1								<6>トコラム型	
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		364			1								<6>トコラム型	
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		431			1									
			魚骨層	E7b	魚骨層I層		1020			1									
		B地区	Ⅲ					1											
			E8	Ⅲ				1											
IV-51	44	209	魚骨層	D8b	魚骨層II層		フロ52		2										
			魚骨層	D8b	魚骨層II層		1156		3										
			魚骨層	D8b	魚骨層II層		1119			1									
			魚骨層	D8b	魚骨層II層		1109			1									
			魚骨層	D8c	魚骨層II層		1151			1									
			魚骨層	D8c	魚骨層II層		1077			2									
			魚骨層	D8c	魚骨層II層		1098			2									
			魚骨層	D8d	魚骨層II層		フロ51			1									
			魚骨層	D8d	魚骨層II層		361			1									
			魚骨層	D8d	魚骨層II層					1									
		D8	Ⅲ					1											
IV-51	59	210	魚骨層	D8d	魚骨層II層上		1222		1							<6>トコラム型			
			魚骨層	D8d	魚骨層II層				3										
			魚骨層	D7d	魚骨層				2									赤彩	
IV-51	59	211	魚骨層	D8	Ⅲ				3										
IV-51	59	212	魚骨層	E7a	魚骨層II層		968		V c 1	1	角形					口縁			
IV-52	59	213	魚骨層	D7c	魚骨層II層		945		V c 1	1	角形						口縁		
IV-52	59	214	魚骨層	E7a	魚骨層II層中		1201		V c 1	1	角形						口縁		
IV-52	59	215	魚骨層	D8b	魚骨層I層		1114		V c 1	3	角形							口縁	
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		663		5										
IV-52	59	216	魚骨層	D8d	魚骨層I層		421		1										
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		434		1										
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		313			1									
			魚骨層	D8	魚骨層II層		フロ32			1									
			魚骨層	D8	魚骨層II層		587			1									
			魚骨層	D8	魚骨層II層		967			1									
IV-52	44	217	魚骨層	D7b	魚骨層		521		1										
			魚骨層	D7b	魚骨層I層		1021		7										
			魚骨層	D7b	魚骨層I層		1075			1									
			魚骨層	D7c	魚骨層II層		フロ55			1									
			魚骨層	D7c	魚骨層II層		1066			2									
			魚骨層	D7c	魚骨層II層		1124			3									
					A地区	Ⅲ				2									
						Ⅲ				9									
						D7	Ⅲ			2									
						E7	Ⅲ			5									
			E8	木根			1												
IV-53	44	218	PC-1	D7	魚骨層				1										
			PC-2	D7	Ⅲ下				2										
			魚骨層	D7b	魚骨層		405			2									
					B地区	Ⅲ				3									
						D7	Ⅲ			6									
IV-53	44	219	魚骨層	D7b	魚骨層I層		1058		1										
			魚骨層	D7b	魚骨層I層		1059			1									
			魚骨層	D7b	魚骨層I層		1003			1									
			魚骨層	D7b	魚骨層II層下		1185			1									
			魚骨層	D8a	魚骨層		464			2									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1112			3									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1097			1									
			魚骨層	E7a	魚骨層I層		981			3									
魚骨層	不明	魚骨層I層		1101			1												
IV-53	45	220	PC-1	D7	魚骨層				1										
			PC-2	D7	Ⅲ下				4										

付表

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
			PC-2	D8	Ⅱ下				2						
			魚骨層	D8d	幅面/取壊				1						
			B地区		Ⅲ				4						
			排土		Ⅲ				1						
				D7	Ⅲ				1						
IV-54	45	221	魚骨層	D9a	魚骨層口縁		746	V c 1	1	舟形	凹=凹型	(16.7)/(11.3)	(11.0)	(4.9)/(6.5)	赤彩
			魚骨層	D9b	魚骨層口縁		1232								
			魚骨層	D9b	魚骨層口縁		1307								
			魚骨層	D9b	魚骨層口縁		1278								
			魚骨層	E9a	魚骨層口縁		1332								
			魚骨層	D9c	魚骨層		824								
IV-54	45	222	魚骨層	D7b	魚骨層		278	V c 1	2	舟形	凹=凹型	(15.4)/(11.7)	(13.0)	(13.0)/(9.7)	赤彩
			魚骨層	D7b	魚骨層		619								
			魚骨層	D8a	魚骨層口縁		1090								
			魚骨層	D8a	魚骨層口縁		1086								
			魚骨層	D8a	魚骨層口縁		1164								
			魚骨層	D8a	魚骨層口縁		1054								
IV-54	45	223	魚骨層	D8a	魚骨層口縁		1158	V c 1	2	舟形	凹=凹型	(20.2)/(14.5)	(11.1)	-	赤彩
			魚骨層	D8c	魚骨層口縁		1151								
			魚骨層	D8c	魚骨層口縁		413								
			魚骨層	D8d	幅面/取壊		425								
			魚骨層	D8d	幅面/取壊		496								
			魚骨層	D8d	幅面/取壊		490								
IV-55	45	224	魚骨層	E9a	不明		フ049	V c 1	1	舟形	凹=凹型	(17.1)/11.0	10.8	6.8/5.5	赤彩
			魚骨層	E9a	不明		433								
			魚骨層	E9	Ⅲ										
			魚骨層	D9c	魚骨層		461								
			魚骨層	D9c	魚骨層		824								
			魚骨層	D7b	魚骨層口縁		フ069								
			魚骨層	D7b	魚骨層口縁		1199								
			魚骨層	不明	幅面/取壊		253								
			魚骨層	不明	幅面/取壊		262								
			魚骨層	不明	幅面/取壊		266								
			魚骨層	不明	幅面/取壊		416								
			魚骨層	不明	幅面/取壊		322								
IV-55	45	225	魚骨層	E16a	魚骨層		95	V c 1	6	舟形	凹=凹型	(15.0)/(20.5)	(16.7)	-	赤彩
			魚骨層	E16a	魚骨層		300								
			魚骨層	F17	魚骨層										
			魚骨層	F17	Ⅲ										
			魚骨層	D7b	魚骨層口縁		フ070								
			魚骨層	D8d	幅面/取壊		257								
IV-55	59	226	魚骨層	E9a	魚骨層		1276	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
			魚骨層	D7b	魚骨層口縁										
			魚骨層	D8d	幅面/取壊										
IV-55	59	227	魚骨層	E9a	魚骨層		1276	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
IV-55	59	228	魚骨層	D8d	なし		1244	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
IV-55	59	229	PC-1	D8a	魚骨層			V c 1	2	舟形	口縁				赤彩
IV-55	59	230	魚骨層	D8b	魚骨層口縁		1081	V c 1	2	舟形	口縁				赤彩
IV-56	59	231	魚骨層	D8b	魚骨層口縁		1025	V c 1	1	舟形	口縁				同一個体 赤彩
IV-56	59	232	魚骨層	D8b	魚骨層口縁		1026	V c 1	1	舟形	口縁				
				D8	Ⅲ			V c 1	2						
IV-56	59	233	PC-1	D7b	魚骨層			V c 1	1	舟形	口縁				同一個体 赤彩
			PC-2	D7	Ⅱ下			V c 1	1						
IV-56	59	234	PC-2	D7	Ⅱ下			V c 1	1	舟形	胴部				
IV-56	59	235	PC-2	D7	Ⅱ下			V c 1	1	舟形	胴部				
IV-56	59	236	魚骨層	D7c	魚骨層口縁		1076	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
			魚骨層	D7c	魚骨層口縁		1124	V c 1	1						
IV-56	59	237	魚骨層	D9c	魚骨層		632	V c 1	1	舟形	口縁				
			魚骨層	D9c	魚骨層		657	V c 1	1						
IV-56	59	238	魚骨層	D9c	魚骨層		715	V c 1	1	舟形	口縁				
			魚骨層	D9c	魚骨層		598	V c 1	1						
IV-56	59	239	魚骨層	D9a	魚骨層口縁		1072	V c 1	3	舟形					
IV-56	59	240		E16	幅面/取壊		フ026	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
				F16	Ⅲ			V c 1	1						
IV-56	59	241	魚骨層	F17b	魚骨層		186	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
				F17	Ⅲ			V c 1	2						
			魚骨層	F16c	魚骨層		フ022	V c 1	1						
IV-56	59	242	魚骨層	F17	魚骨層		157	V c 1	1	舟形	口縁				赤彩
				E16	幅面/取壊		フ029	V c 1	3						
IV-56	59	243		F16	Ⅲ			V c 1	2	舟形	口縁				同一個体 赤彩

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-56	59	244	魚骨層 E16d	魚骨層E				V c 1	180	1	舟形	口縁			
			魚骨層 F16d						98	1					
IV-57	59	245	魚骨層 E16d	魚骨層E				V c 1	1	1	舟形	口縁			
			魚骨層 D6c						565	1					
IV-57	59	246	魚骨層 D7b	魚骨層D				V c 1	779	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7b						567	1					
IV-57	59	247	魚骨層 D7b	魚骨層D				V c 1	フ063	1	舟形	口縁			赤彩
			B地区Ⅲ						1						
IV-57	59	248	魚骨層 D7d	魚骨層D				V c 1	1	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8c						なし	フ087					
IV-57	59	248	魚骨層 D9b	魚骨層D				V c 1	フ035	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8d						魚骨層D上	1222					
IV-57	59	249	魚骨層 D8c	魚骨層D				V c 1	1	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8c						魚骨層D上	フ086					
IV-57	59	250	魚骨層 D8c	魚骨層D				V c 1	1206	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7						魚骨層D	1					
IV-57	59	251	魚骨層 D8d	魚骨層D				V c 1	412	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8d						魚骨層D上	488					
IV-57	60	252	魚骨層 D8	魚骨層D				V c 1	1	1	舟形	口縁			赤彩
			B地区Ⅲ						1						
IV-57	60	253	魚骨層 PC-1	魚骨層D				V c 1	1	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7b						魚骨層D上	946					
IV-57	60	254	魚骨層 D9b	魚骨層D				V c 1	1	1	舟形	口縁			赤彩
			B地区Ⅲ						1						
IV-57	60	255	魚骨層 D9b	魚骨層D				V c 1	862	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D9b						魚骨層D上	898					
IV-57	60	256	魚骨層 PC-1	魚骨層D				V c 1	1	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7b						魚骨層D上	1					
IV-57	60	257	魚骨層 PC-1	魚骨層D				V c 1	5	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8b						魚骨層D上	1122					
IV-57	60	258	魚骨層 D8c	魚骨層D				V c 1	1115	2	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8c						魚骨層D上	1115					
IV-57	60	259	魚骨層 E7a	IV層上層				V c 1	1251	13	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 E8a						魚骨層D上	976					
IV-57	60	260	魚骨層 D8c	魚骨層D				V c 1	フ098	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D9b						魚骨層D上	1270					
IV-57	60	261	魚骨層 D9b	魚骨層D				V c 1	1213	2	舟形	口縁			赤彩
			E9						IV	1					
IV-57	60	262	魚骨層 D8a	魚骨層D				V c 1	1054	2	舟形	胴部			赤彩
			魚骨層 D8a						魚骨層D上	1072					
IV-58	46	262	魚骨層 D6c	魚骨層D				V c 1	1155	2	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D6c						魚骨層D上	630					
IV-58	46	263	魚骨層 D6c	魚骨層D				V c 1	576	2	舟形	口縁	(18.0)/(13.5)	(21.1)	-
			魚骨層 D6c						魚骨層D上	455					
IV-58	46	263	魚骨層 D6c	魚骨層D				V c 1	720	3	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D6c						魚骨層D上	718					
IV-58	46	263	魚骨層 D6c	魚骨層D				V c 1	816	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D6c						魚骨層D上	597					
IV-58	46	263	魚骨層 D7b	魚骨層D				V c 1	643	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7b						魚骨層D上	フ069					
IV-58	46	263	魚骨層 D7b	魚骨層D				V c 1	フ070	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 E7a						魚骨層D上	1173					
IV-58	46	263	魚骨層 D7c	魚骨層D				V c 1	1016	9	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7c						魚骨層D上	944					
IV-58	46	263	魚骨層 D7c	魚骨層D				V c 1	1130	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7c						魚骨層D上	1062					
IV-58	46	263	魚骨層 D7c	魚骨層D				V c 1	1036	3	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D7c						魚骨層D上	1094					
IV-58	46	263	魚骨層 D7d	魚骨層D				V c 1	943	6	舟形	口縁			赤彩
			E7						IV	1					
IV-59	46	264	魚骨層 PC-1	魚骨層D				V c 1	2	2	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D6b						魚骨層D上	407					
IV-59	46	264	魚骨層 D6c	魚骨層D				V c 1	576	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8a						魚骨層D上	665					
IV-59	46	264	魚骨層 D8a	魚骨層D				V c 1	1091	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8a						魚骨層D上	1084					
IV-59	46	264	魚骨層 D8a	魚骨層D				V c 1	1112	4	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8a						魚骨層D上	1068					
IV-59	46	264	魚骨層 D8a	魚骨層D				V c 1	1092	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 D8c						IV層上層	1242					
IV-59	46	264	魚骨層 E6a	魚骨層E				V c 1	827	1	舟形	口縁			赤彩
			魚骨層 E6a						魚骨層E上	786					

付表

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考			
			魚骨類	E6a	魚骨類口縁		855		6							赤色顔料(9折)07N.3		
			魚骨類	E6a	魚骨類口縁		798		1									
			表トランプI	III				2										
IV-59	46	265	魚骨類	D7a	魚骨類		568	V c 1	1	角形	胴・腹	-	(14.1)	(8.0)/(6.1)				
			魚骨類	D7a	魚骨類		411										2	
			魚骨類	D7c	魚骨類口縁		1016										1	
			魚骨類	D7c	魚骨類口縁		16										1	
			粘土		粘土												1	
				D7	III												1	
				D7	IV												15	
IV-60	46	266	魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1054	V c 1	1	角形	胴・腹	(14.3)/(15.7)	(23.6)	(8.7)/(6.5)		赤彩		
			魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1160										2	
			魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1083										1	
			魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1019										1	
			魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1073										2	
			魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1072										2	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1157										2	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1113										1	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1087										1	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1119										2	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1157										1	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1074										1	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1014										1	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1162										1	
			魚骨類	D8c	魚骨類口縁		949										1	
			魚骨類	D8c	魚骨類口縁		1098										1	
			魚骨類	D8c	魚骨類口縁		1088										1	
魚骨類	D8c	魚骨類口縁		948	1													
IV-60	60	267	PC-1	D7	魚骨類			V c 1	1	角形	口縁					赤彩		
			PC-1		魚骨類												2	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1122										2	
IV-60	60	268	魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1083	V c 1	1	角形	胴部					赤彩		
IV-60	60	269	魚骨類	E6d	魚骨類口縁		854	V c 1	1	角形	胴部						赤彩	
IV-60	60	270	魚骨類	E16c	魚骨類口縁		67	V c 1	2	角形	底部						赤彩	
IV-60	60	271	魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1164	V c 1	2	角形	胴部						赤彩	
			魚骨類	D8a	魚骨類口縁		1158											1
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1156											1
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1118											2
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1111											3
			魚骨類	D8c	魚骨類口縁		1163											1
			魚骨類	D8d	魚骨類口縁	フオ51												1
魚骨類	E7a	なし		1296	1													
IV-60	60	272	魚骨類	C8b	魚骨類		785	V c 1	1	角形	胴部					赤彩		
IV-60	60	273	魚骨類	F16c	魚骨類口縁		156	V c 1	2	角形	口縁					同一個体 赤彩		
IV-60	60	274	魚骨類	F16c	魚骨類口縁		フオ23	V c 1	1	角形	口縁							
			魚骨類	F16c	魚骨類口縁		271											1
				F16	III													1
IV-60	60	275	魚骨類	F16c	魚骨類口縁		フオ23	V c 1	1	角形	底部							
			魚骨類	F17b	魚骨類口縁		72											1
				F16	III													1
IV-61	60	276	PC-1	D7d	魚骨類			V c 1	1	角形	口縁						赤彩	
			B地区	III														2
			魚骨類	D9b	魚骨類口縁		916											1
IV-61	60	277	魚骨類	不明	胴部(口縁)		253	V c 1	1	角形	口縁						赤彩	
			魚骨類	不明	胴部(口縁)		256											1
			魚骨類	不明	胴部(口縁)		268											2
			魚骨類	D7c	魚骨類口縁		945											1
IV-61	60	278	魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1149	V c 1	1	角形	口縁						赤彩	
			魚骨類	D8b	魚骨類口縁		1110											3
			魚骨類	D9c	魚骨類口縁		618											1
IV-61	60	279	魚骨類	D7d	魚骨類			V c 1	1	壺	胴部							
IV-61	60	280	魚骨類	D7	III			V c 1	1	壺	胴部							
IV-61	60	281	魚骨類	不明	胴部(口縁)		318	V c 1	1	壺	胴部							
IV-61	60	282	魚骨類	D7c	魚骨類口縁	16		V c 1	1	壺	胴部							
IV-61	60	283	魚骨類	D8d	魚骨類口縁			V c 1	1	壺	胴部						東西魚骨類接合	
			魚骨類	E16b	魚骨類口縁		134											1
IV-61	60	284	魚骨類	E16c	魚骨類口縁			V c 1	1	壺	胴・腹							
			魚骨類	F15a	魚骨類口縁		109											1

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
			魚骨層	F16a	魚骨層				237						
			魚骨層	F16b	魚骨層				194						
			魚骨層	F16d	魚骨層				122						
			魚骨層	F16d	魚骨層				145						
				E16	彫刻土層				41						
				E17	Ⅲ				1						
			魚骨層	D6c	魚骨層				907						
			魚骨層	D6c	魚骨層			V c 1	618		壺	胴部			
			魚骨層	D6c	魚骨層				636						
			魚骨層	E7a	なし			V e 2	1210		1	壺	口縁		ベロトコラス型
			魚骨層	D8c	IV層上部			V e 2	1292		1	壺	口縁		ベロトコラス型 赤彩
			PC-1	D7b	魚骨層			V e 2	2		2	壺	口縁		赤彩
			PC-1		魚骨層				1						
			魚骨層	D8a	魚骨層			V e 2	665		1	壺	口縁		
			PC-1	D7b	魚骨層			V e 2	1		1	壺	胴部		
			魚骨層	D7b	魚骨層				1122		1				赤色顔料分析07N.7
			A地区	Ⅲ				V e 2	1		1	壺	胴部		赤彩
				D7	IV				1						
			魚骨層	不明	彫刻土層			V e 2	348		1	壺	胴部		赤 赤色顔料分析07N.1
			魚骨層	D6c	魚骨層			V e 2	551		2	壺	胴部		
			魚骨層	D6・7	魚骨層			V e 2	フロ31		1	壺	胴部		
			魚骨層	D6b	魚骨層			V e 1	505		1	深鉢	胴・底		
			魚骨層	D6c	魚骨層				402		3				
			魚骨層	D8b	魚骨層				1119		3				
			魚骨層	D8b	魚骨層				1080		2				
			魚骨層	D8c	魚骨層				1098		2				
			魚骨層	D8c	魚骨層			V e 1	1206		4	深鉢	胴・底		ベロトコラス型
			魚骨層	D8d	魚骨層				213		1				
			B地区	Ⅲ					2						
				D6	Ⅲ				4						
			PC-2	D8	Ⅲ下				3						
			魚骨層	D6c	魚骨層			V e 1	375		1				
			B地区	Ⅲ					3						
			西斜面	Ⅲ					1						
			未注記						1						
				D8	Ⅲ				1						
			魚骨層	D6b	魚骨層				666		3				
			魚骨層	D6b	魚骨層				447		4				
			魚骨層	E6a	魚骨層			V e 1	439		3	深鉢	胴・底		(15.0) (10.2)
			魚骨層	E6a	魚骨層				378		1				
				Ⅲ					4						
			魚骨層	E16a	魚骨層			V e 1	95		1	深鉢	胴・底		(8.5) 7.6
			魚骨層	E16b	魚骨層				5						
			魚骨層	E16a	魚骨層				170		3				
			魚骨層	E16a	魚骨層				229		1				
			魚骨層	E16a	魚骨層				300		5				
			魚骨層	E16a	魚骨層				245		3				
			魚骨層	E16a	魚骨層			V e 1	536		5	深鉢	底部		(17.5) -
			魚骨層	E16a	魚骨層				539		3				
			魚骨層	E16a	魚骨層				540		2				
			魚骨層	E16d	魚骨層				180		1				
				F15	Ⅲ				2						
			魚骨層	D8a	魚骨層				1160		1				
			魚骨層	D8a	魚骨層				1083		1				
			魚骨層	D8a	魚骨層				1019		3				
			魚骨層	D8b	魚骨層			V e 1	982		4	深鉢	底部		(10.1) -
			魚骨層	D8b	魚骨層				1081		1				
			魚骨層	D8b	魚骨層				1014		1				
			魚骨層	D8b	魚骨層				1135		1				
			魚骨層	不明	彫刻土層				608		5				
			魚骨層	不明	彫刻土層			V e 1	685		2	深鉢	底部		
				未注記					1						
			魚骨層	D7a	魚骨層				727		1				
			魚骨層	D7b	魚骨層				779		1				
			魚骨層	不明	彫刻土層			V e 1	322		2	深鉢	底部		- 8.9
			A地区	Ⅲ					1						
				D7	Ⅲ				1						
				D8	Ⅲ				3						
			魚骨層	D6c	魚骨層			V e 1	602		1	深鉢	底部		
				Ⅲ					2						

付表

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分期	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考
IV-63	61	305	魚骨脣	西斜面下基	E16c			123	V c 1	2	深鉢	底部			
IV-63	61	306	魚骨脣		D8b			1044	V c 1	2	深鉢	底部			
			魚骨脣		不明			1070		2					
			魚骨脣		C8b			514		3					
IV-63	61	307	魚骨脣		C8b			792	V c 1	1	深鉢	底部			
			魚骨脣		C8b			458		1					
			魚骨脣		C8b			445		1					
IV-63	61	308	魚骨脣		D7b			7430	V c 1	14	深鉢	底部			
IV-63	61	309	魚骨脣		PC-1				V c 1	1	深鉢	底部			
			魚骨脣		D8					1					
IV-63	61	310	魚骨脣	西斜面下基	D6c			554	V c 1	1	深鉢	底部			
IV-63	61	311	魚骨脣		E6d			586	V c 1	2	深鉢	底部			
IV-63	61	312	魚骨脣		PC-1				V c 1	2	深鉢	底部			
IV-63	61	313	魚骨脣		D8a				V c 1	2	深鉢	底部			
			魚骨脣		D7d					1	深鉢	底部			
			魚骨脣		不明					2					
IV-63	61	314	魚骨脣		D8c			1159	V c 1	1	深鉢?	底部			
IV-64	61	315	魚骨脣		PC-1				V c 1	2	深鉢	底部			
IV-64	61	316	魚骨脣		E16c			53	V c 1	1	深鉢	底部			
IV-64	61	317	魚骨脣		D7d			782	V c 1	1	深鉢	底部			
IV-64	61	318	魚骨脣		D8c			1196	V c 1	1	深鉢	底部			
			魚骨脣		D8d			783		1					<6>12744誌
			魚骨脣		D6c			511		1					
IV-64	61	319	魚骨脣		D7a			411	V c 1	3	深鉢	底部			
			魚骨脣		D7b			443		1					
			魚骨脣		D8a			729		5					
			魚骨脣		D8a			932	V c 1	1	深鉢	底部			
IV-64	61	320	魚骨脣		D8b			1025		1					
			魚骨脣		D8b			911		1					
			魚骨脣		D8b			912		1					
			魚骨脣		D8b					1					
			魚骨脣		不明					1					
IV-64	61	321	魚骨脣		D7b			7459	V c 1	6	杯形	底部			赤彩
IV-64	61	322	魚骨脣		D8a			1090	V c 1	3	浅鉢	底部			
IV-64	61	323	魚骨脣		E16a			237	V c 1	1	杯形	底部			
IV-64	61	324	魚骨脣		D8b			1026	V c 1	3	杯形	底部			赤彩
			魚骨脣		D8c			735		3					
			魚骨脣		F16a			112		1					
IV-64	61	325	魚骨脣		F16d			129	V c 1	1	浅鉢	底部			
			魚骨脣		F16					1					
IV-64	61	326	魚骨脣		E9a			323	V c 1	3	浅鉢	底部			赤彩
			魚骨脣		E9a			433		2					
IV-64	61	327	魚骨脣		D6b			645	V c 1	2	浅鉢	底部			
IV-65	61	328	魚骨脣		D8b			1074	V c 1	1	浅鉢	底部			
			魚骨脣		E7a			1251	V c 1	1	浅鉢	底部			<6>12744誌
IV-65	61	329	魚骨脣		E7a			968	V c 1	1	浅鉢	底部			赤彩
			魚骨脣		D8b			1081		2					
IV-65	61	330	魚骨脣		D8b			978	V c 1	1	角形	底部			
			魚骨脣		E9					1					
			魚骨脣		IV					1					
			魚骨脣		PC-1					1					
IV-65	47	331	魚骨脣	B地区	D8a			952	V c 1	1	角形	底部			赤彩
			魚骨脣	B地区	不明					1					
			魚骨脣	B地区	掃土					1					
			魚骨脣	B地区	不明					2					
IV-65	62	332	魚骨脣		D8d				V c 1	1	角形	底部			
IV-65	62	333	魚骨脣		F16c			400	V c 1	2	角形	底部			赤彩
			魚骨脣		F16d			309		1					
			魚骨脣		D8c			956	V c 1	1	角形	底部			
IV-65	62	334	魚骨脣		D8d				V c 1	1	角形	底部			
IV-65	62	335	魚骨脣		D6c			377	V c 1	2	角形	底部			
IV-65	62	336	魚骨脣		D7b			1057	V c 1	1	角形	底部			
			魚骨脣		不明					1					
IV-65	62	337	魚骨脣		D8d				V c 1	1	角形	底部			赤彩
			魚骨脣		D7c			1134		2					
IV-65	62	338	魚骨脣		D8b			1121	V c 1	1	角形	底部			
			魚骨脣		不明					1					
IV-66	62	339	魚骨脣		D8d			1238	V c 1	2	角形	底部			<6>12744誌
IV-66	62	340	魚骨脣		E16b			172	V c 1	2	角形	胴部			赤彩
			魚骨脣		E16b			128		1					
IV-66	62	341	魚骨脣		D8d			1110	V c 1	1	角形	底部			
IV-66	62	342	魚骨脣		D7c			983	V c 1	1	角形	底部			

採回	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	発露番号	分類	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考			
IV-66	62	343	魚骨層	D7c	魚骨層I層		1150		1									
			魚骨層	D7	III				2									
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		1048			1								
			A地区	III					2		糸糸	縦=横					赤彩	
			B地区	III					1									
			E7	III				1										
IV-66	48	344	魚骨層	D8c	魚骨層I層		1206		2							<6トコナミ型		
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		フ096		1							<6トコナミ型		
			魚骨層	D8c	魚骨層I層		1299			1	小型深鉢	縦=横	10.8	10.4	(4.0)	<6トコナミ型		
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		1184			2							<6トコナミ型	
			魚骨層	D8d	魚骨層I層		フ083			2							<6トコナミ型	
			魚骨層	D8d	縦=横I型深					1								
IV-66	48	345	魚骨層	F16c	魚骨層II層		187		1									
			魚骨層	F16c	魚骨層II層		103		1									
			魚骨層	F16d	魚骨層II層		98			1								
			魚骨層	F16d	魚骨層II層		126			1	小型深鉢	縦=横	(10.0)	(8.6)	—			
			魚骨層	F16d	魚骨層II層		126			1								
			魚骨層	E16	縦=横I型深		36			1								
			魚骨層	F17	III					2								
IV-66	48	346	魚骨層	D7c	魚骨層I層		945		1									
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		1032		1									
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1110			1								
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1144			1	小型深鉢	縦=横	(10.4)	13.3	—			
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1118			1								
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1157			1								
			魚骨層	D7	III					1								
			魚骨層	D8	III					1								
IV-66	48	347	魚骨層	D6b	魚骨層		666		4	小型深鉢	縦=横	(9.8)	(8.6)	—				
			(西トランプ)	III				2										
IV-66	48	348	魚骨層	D7d	魚骨層				4	小型深鉢	縦=横	(6.5)	(6.0)	(3.0)				
			魚骨層	D6c	魚骨層I層		994		1									
			魚骨層	E6a	魚骨層I層		919		1									
IV-66	48	349	魚骨層	E6c	魚骨層I層		884		1	小型深鉢	縦=横	(7.9)	(7.4)	—				
			魚骨層	D8	IV				2									
			魚骨層	E6	IV				1									
IV-66	48	350	魚骨層	D6b	魚骨層		829		1									
			魚骨層	D7b	魚骨層		335		1									
			魚骨層	D7b	魚骨層		443			1								
			魚骨層	D7b	魚骨層I層上		フ062			1	小型深鉢	縦=横	—	—	(6.9)		<6トコナミ型	
			魚骨層	D7d	魚骨層		782			1								
			魚骨層	D6	III					1								
IV-66	62	351	魚骨層	C8b	魚骨層		785		1									
			魚骨層	D8d	縦=横I型深				1									
			魚骨層	F16d	魚骨層II層		286			1	小型深鉢	口縁					東西魚骨層接合	
			魚骨層	F17b	魚骨層II層		193			1								
			魚骨層	E9	III					1								
IV-66	62	352	魚骨層	F17a	魚骨層II層		81		1	小型深鉢	底座							
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1153		1									
IV-66	48	353	魚骨層	D8c	なし		1203		1	小型深鉢	縦=横	8.2	10.5	6.0	<6トコナミ型			
			魚骨層	D8d	なし		1244		1						<6トコナミ型			
IV-66	62	354	魚骨層	D8d	縦=横I型深		1303		1	小型深鉢	口縁					赤彩		
IV-66	49	355	魚骨層	D8a	魚骨層I層		4		2	小型深鉢	縦=横	9.0	9.8	5.5				
IV-67	62	356	魚骨層	D8a	魚骨層I層		1084		4									
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		1090			2	小型深鉢	口縁						
			魚骨層	D8a	魚骨層I層		729			1								
IV-67	62	357	魚骨層	D8d	縦=横I型深		372		1									
			魚骨層	D8d	縦=横I型深					1	小型深鉢	縦=横						
			魚骨層	D8	III					1								
IV-67	62	358	PC-1	D7	魚骨層				3	小型深鉢	口縁							
IV-67	62	359	魚骨層	D7b	魚骨層I層上		フ068		1	小型深鉢	口縁					<6トコナミ型		
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		1107		1									
			魚骨層	D7c	魚骨層I層		1076		1									
IV-67	49	360	魚骨層	D7c	魚骨層I層		1134		1	小型深鉢	縦=横	(11.2)	5.1	—		赤彩		
			魚骨層	D8b	魚骨層I層		1113			1								
			魚骨層	E8	III					1								
IV-67	49	361	魚骨層	F17a	魚骨層II層		77		1	小型深鉢	縦=横	12.7	7.2	5.3				
			魚骨層	F16	III					2								
IV-67	49	362	魚骨層	E6a	魚骨層I層		924		1									
			魚骨層	不明	縦=横I型深		266			1	縦=横I型深	縦=横	—	(2.4)	2.6			
			魚骨層	不明	縦=横I型深		416			1								
IV-67	49	363	魚骨層	D8c	魚骨層I層		27		1	縦=横I型深	口縁	—	(2.6)	4.4	赤彩層分析(別頁)			

付表

種別	図版	番号	遺構名	調査区	層位	遺物番号	袋番号	分期	点数	形状	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考		
IV-67	49	364	魚骨罎	D6b	魚骨罎		829	Vc 1	1	三フタ形	胴縁	5.0	4.2	1.6			
IV-67	49	365	魚骨罎	E9a	魚骨罎15層		1276	Vc 1	1	三フタ形	台座	6.2	3.5	2.0			
IV-67	49	366	魚骨罎	D7c	魚骨罎15層		18	Vc 1	1	三フタ形	台座	—	(1.9)	—			
IV-67	62	367	魚骨罎	D7c	魚骨罎15層		1050	Vc 1	1	土製品						赤彩	
IV-67	62	368	魚骨罎	D8d	魚骨罎		1293	Vc 1	1	土製品						ベロ1コラム2E	
IV-67	62	369	魚骨罎	E15	魚骨罎	46	1358	Vc 1	1	土土							
IV-67	62	370	魚骨罎	D7c	魚骨罎15層		1007	Vc 1	1	注口							
IV-67	62	371	魚骨罎	D6c	魚骨罎		544	Vc 1	1	注口							
IV-67	62	372	魚骨罎	D7a	魚骨罎15層		1027	Vc 1	1	胴縁1周							
IV-67	62	373	魚骨罎	E8a	魚骨罎15層		1017	Vc 1	1	胴縁1周							
IV-67	62	374	魚骨罎	E6a	魚骨罎14層		891	Vc 1	1	胴縁1周							
							893				胴縁1周						
IV-67	62	375	魚骨罎	D7c	魚骨罎15層		1134	Vc 1	1	胴縁1周							
IV-67	62	376	魚骨罎	D8d	魚骨罎15層		1140	Vc 1	1	胴縁1周							
IV-67	62	377	魚骨罎	D6d	魚骨罎15層		939	Vc 1	1	胴縁1周							
IV-67	62	378	魚骨罎	D8c	魚骨罎1周		1309	Vc 1	1	胴縁1周							ベロ1コラム2E
IV-67	62	379	魚骨罎	D6c	魚骨罎		703	Vc 1	1	胴縁1周							
IV-67	62	380	魚骨罎	D8b	魚骨罎15層		977	Vc 1	1	胴縁1周							

表IV-26 魚骨層出土掲載石器一覧

種別	図版	番号	器種名	調査区	層位	袋番号	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
IV-68	79	1	石鏃	F17b	魚骨罎4層	71	1	15.0	8.0	2.1	0.2	黒曜石	
IV-68	79	2	石鏃	D9b	魚骨罎13層	895	1	20.0	8.0	1.5	0.2	黒曜石	
IV-68	79	3	石鏃	D8a	魚骨罎15層	1092	1	(19.0)	12.0	3.0	0.4	黒曜石	
IV-68	79	4	石鏃	D8a	魚骨罎13層	1152	1	(23.0)	12.0	2.6	0.6	黒曜石	
IV-68	79	5	石鏃	F16d	魚骨罎5層	144	2	23.0	12.0	3.3	0.6	黒曜石	
IV-68	79	6	石鏃	F16d	魚骨罎5層	353	2	14.0	5.0	3.1	0.2	黒曜石	
IV-68	79	7	石鏃	E6d	魚骨罎15層	1102	1	26.0	9.0	3.4	0.7	黒曜石	
IV-68	79	8	石鏃	不明	魚骨罎13層	1089	1	26.0	12.0	3.2	0.9	黒曜石	
IV-68	79	9	石鏃	E16c	魚骨罎5層	212	1	21.0	10.5	3.0	0.8	黒曜石	
IV-68	79	10	石鏃	D8c	魚骨罎10層	844	1	(23.0)	13.0	3.4	1.3	黒曜石	
IV-68	79	11	石鏃	F16a	魚骨罎4層	470	1	43.5	10.5	3.8	1.6	黒曜石	
IV-68	79	12	石鏃	D8b	魚骨罎15層	1065	1	45.0	12.0	6.3	2.8	黒曜石	
IV-68	79	13	石鏃	E7a	魚骨罎15層	981	1	16.0	7.0	1.7	0.2	黒曜石	
IV-68	79	14	石鏃	E7a	魚骨罎14層	979	1	24.0	13.0	2.7	0.8	頁岩	
IV-68	79	15	石鏃	F16a	魚骨罎5層	538	1	27.0	16.0	2.8	1.1	黒曜石	
IV-68	79	16	石鏃	D7	魚骨罎	17	31.5	17.0	3.9	1.7	黒曜石		
IV-68	79	17	石鏃	D8d	魚骨罎1周上	1227	1	22.5	15.0	3.4	0.9	黒曜石	土器集#1
IV-68	79	18	石鏃	E7a	魚骨罎15層	1059	1	28.0	16.0	2.7	1.3	黒曜石	ベロ1コラムキャンプ4E2
IV-68	79	19	石鏃	F17b	魚骨罎4層	238	1	33.0	16.0	3.1	1.2	黒曜石	
IV-68	79	20	石鏃	E15	魚骨罎11層	11	1	40.0	17.5	3.4	2.2	黒曜石	
IV-68	79	21	石鏃	E6d	魚骨罎15層	993	2	42.0	12.5	4.4	1.7	黒曜石	
IV-68	79	22	石鏃	E6d	魚骨罎15層	993	5	32.5	20.0	5.4	3.1	黒曜石	
IV-68	79	23	ナイフ	D8b	魚骨罎13	15	55.5	24.5	7.0	7.9	黒曜石		
IV-68	79	24	ナイフ	D8a		3	37.0	22.0	5.0	4.8	めう	土器集#1	
IV-68	79	25	ナイフ	E16d	魚骨罎5層	533	1	48.0	25.0	10.0	10.5	黒曜石	
IV-68	79	26	ナイフ	F17	魚骨罎5層		13	52.0	29.0	7.0	12.0	黒曜石	
IV-68	79	27	ナイフ	E16b	魚骨罎4層	277	1	49.0	28.0	10.0	12.2	黒曜石	
IV-68	79	28	ナイフ	E16c	魚骨罎5層	358	1	80.0	30.0	15.0	18.8	黒曜石	
IV-68	79	29	ナイフ	D6c	魚骨罎	623	2	65.0	27.5	10.0	15.9	黒曜石	
IV-68	79	30	ナイフ	D6c	魚骨罎	525	1	63.0	33.0	11.5	21.0	黒曜石	
IV-68	79	31	ナイフ	D8a	魚骨罎11	2	66.0	37.0	9.0	22.0	黒曜石		
IV-68	79	32	ナイフ	D8	魚骨罎9層	965	1	69.0	34.0	9.5	15.6	黒曜石	
IV-68	79	33	ナイフ	不明	西田230層	416	2	71.0	44.0	10.5	19.5	黒曜石	
IV-68	79	34	ナイフ	D6c	魚骨罎	339	1	55.0	39.0	10.0	15.2	黒曜石	
IV-68	79	35	ナイフ	E7a	魚骨罎14層	1289	1	(41.5)	32.0	9.0	9.2	黒曜石	ベロ1コラムキャンプ4E2
IV-69	79	36	ナイフ	F16d	魚骨罎4層	85	1	(20.5)	29.5	7.0	3.8	黒曜石	
IV-69	79	37	ナイフ	E16c	魚骨罎4層	67	1	(19.0)	29.0	7.0	3.8	黒曜石	
IV-69	79	38	ナイフ	E16a	魚骨罎5層	205	1	(28.5)	29.0	9.5	7.6	黒曜石	
IV-69	79	39	ナイフ	E16c	魚骨罎4層	158	2	(30.0)	36.5	8.0	7.9	黒曜石	
IV-69	79	40	ナイフ	E16d	魚骨罎5層	5	1	(26.0)	39.0	10.0	10.5	黒曜石	
IV-69	79	41	ナイフ	D8d	魚骨罎1周下	1265	1	(16.5)	34.0	7.5	4.6	黒曜石	ベロ1コラムキャンプ4E2
IV-69	79	42	ナイフ	E16b	魚骨罎4層	183	2	(53.5)	44.0	10.0	19.1	黒曜石	

採回	図版	番号	品種類名	調査区	層位	袋番号	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考	
IV-69	79	43	ナイフ	D8a			2	(55.0)	51.0	11.0	30.0	黒曜石	土器集中1	
IV-69	79	44	ナイフ	F16c	魚骨層4層		474	2	(39.0)	40.0	9.5	14.1	黒曜石	
IV-69	79	45	ナイフ	D8b	魚骨層15層	1074	1	(47.0)	43.0	9.0	15.0	黒曜石		
IV-69	79	46	ナイフ	D6c	魚骨層	832	1	(36.0)	38.0	9.0	11.5	黒曜石		
IV-69	79	47	ナイフ	F17a	魚骨層4層	151	2	28.0	37.0	7.5	5.6	黒曜石		
IV-69	79	48	ナイフ	D8d	細部1区		2	(42.5)	34.0	8.0	12.3	黒曜石	トレンチ	
IV-69	79	49	ナイフ	E6d	魚骨層15層	887	2	(35.0)	34.0	7.0	7.9	黒曜石		
IV-69	79	50	両面調整石器	E16c	魚骨層4層	196	1	(40.0)	30.0	12.2	10.0	黒曜石		
IV-69	79	51	両面調整石器	E16b	魚骨層4層	172	1	32.5	23.6	12.0	10.9	黒曜石		
IV-69	79	52	両面調整石器	D8b	魚骨層15層	1081	1	42.0	30.5	13.2	18.8	黒曜石		
IV-69	79	53	両面調整石器	E7a	魚骨層14層	922	3	44.0	27.5	9.6	9.4	黒曜石		
IV-69	79	54	両面調整石器	F16c	魚骨層4層	83	1	33.5	33.0	8.6	10.0	黒曜石		
IV-69	79	55	両面調整石器	D6c	魚骨層	790	1	75.0	46.0	7.6	28.0	黒曜石		
IV-69	79	56	両面調整石器	D7c	魚骨層15層	1043	1	99.5	39.5	15.0	56.9	凝灰岩		
IV-69	79	57	石錐	E15	魚骨層1層	29	2	17.0	13.0	4.5	1.2	黒曜石		
IV-69	79	58	石錐	D8a	魚骨層10層	930	4	23.0	19.0	10.5	3.7	めものう		
IV-69	79	59	石錐	D8c	魚骨層15層	1296	3	30.0	21.0	16.0	7.0	めものう	ベロ1コラムキャンプ6区	
IV-69	79	60	石錐	D8a	魚骨層10層	889	1	33.0	22.5	8.7	4.5	黒曜石		
IV-69	80	61	削器	D8c	魚骨層12層	1320	3	52.5	33.5	9.8	13.8	黒曜石		
IV-69	80	62	削器	E16a	魚骨層5層	396	1	72.0	39.5	12.2	22.9	黒曜石		
IV-70	80	63	削器	E16c	魚骨層4層	84	4	71.0	31.0	7.8	22.5	黒曜石		
IV-70	80	64	削器	F17a	魚骨層4層	151	6	56.0	42.5	9.0	21.0	黒曜石		
IV-70	80	65	掻器	D7b	魚骨層15層	1185	1	51.0	27.0	7.0	8.8	黒曜石	ベロ1コラムキャンプ6区	
IV-70	80	66	掻器	D6c	魚骨層13層	1159	2	41.0	35.0	7.4	10.2	黒曜石		
IV-70	80	67	掻器	E7a	魚骨層14層	1289	2	47.5	32.5	16.1	27.2	黒曜石	ベロ1コラムキャンプ6区	
IV-70	80	68	掻器	D8b	魚骨層19層	1113	1	36.5	29.0	10.5	10.2	黒曜石		
IV-70	80	69	掻器	E6d	魚骨層15層	854	3	23.0	20.0	6.0	3.3	黒曜石		
IV-70	80	70	掻器	F16a	魚骨層4層	153	1	26.5	24.0	8.5	5.1	黒曜石		
IV-70	80	71	掻器	D8a	魚骨層13層	1164	1	30.0	25.0	9.4	7.1	黒曜石		
IV-70	80	72	掻器	F16c	魚骨層5層	347	1	35.0	32.5	8.5	10.7	黒曜石		
IV-70	80	73	掻器	E16c	魚骨層4層	158	5	66.0	62.0	15.3	88.6	安山岩		
IV-70	80	74	翼形石器	D7c	魚骨層15層	1007	2	39.0	10.5	3.8	1.7	黒曜石		
IV-70	80	75	石核	D8b	魚骨層19層	1044	1	28.0	25.0	12.2	10.9	黒曜石		
IV-70	80	76	石核	D7c	魚骨層15層	1045	2	34.5	21.0	12.0	10.0	黒曜石		
IV-70	80	77	石核	E16d	魚骨層4層	94	7	33.5	23.0	13.0	10.7	黒曜石		
IV-70	80	78	石核	F16d	魚骨層5層	309	3	36.0	26.0	15.8	14.2	黒曜石	産地分析08TN-X21	
IV-70	80	79	石核	D7c	魚骨層13層	1116	1	39.0	22.0	18.5	22.0	黒曜石		
IV-70	80	80	石核	D8b	魚骨層15層	982	3	33.0	31.0	18.7	16.3	黒曜石	産地分析08TN-X22	
IV-70	80	81	石核	E16c	魚骨層4層	69	3	36.0	23.0	16.0	13.3	黒曜石		
IV-70	80	82	石核	E8a	魚骨層15層	1040	1	38.0	33.5	23.3	29.0	めものう		
IV-70	80	83	石核	D7c	魚骨層13層	1032	3	52.0	17.0	10.0	12.4	黒曜石		
IV-70	80	84	石核	D8a	魚骨層12層	796	2	62.0	47.0	34.0	87.4	黒曜石	産地分析08TN-X23	
IV-70	80	85	石斧	D8b	魚骨層15層	1135	3	56.0	26.0	8.5	13.8	片岩		
IV-70	80	86	石斧	E9a	魚骨層15層	1300	2	52.1	25.0	8.0	15.6	片岩		
IV-70	80	87	石斧	D8b	魚骨層15層	1074	3	51.0	33.5	10.5	22.2	泥岩		
IV-70	80	88	石斧	D7	魚骨層		27	70.0	47.5	13.0	67.9	泥岩	土器集中1	
IV-71	80	89	石斧	D7	魚骨層		30	93.0	62.0	47.5	405.2	花崗岩	土器集中1	
IV-71	80	90	石斧	D7	魚骨層		28	89.0	47.0	17.2	136.8	泥岩	土器集中1	
IV-71	80	91	たたき石	D9b	魚骨層12層	963	2	53.0	24.0	15.0	31.6	砂岩		
IV-71	80	92	たたき石	D8a	魚骨層12層	975	2	83.9	34.5	15.0	66.0	砂岩		
IV-71	80	93	たたき石	D7c	魚骨層	377	3	48.0	37.0	31.0	76.0	花崗岩		
IV-71	80	94	たたき石	D7b	魚骨層15層上	1322	1	65.0	52.5	37.5	175.0	チャート	ベロ1コラムキャンプ6区	
IV-71	81	95	たたき石	D8b	魚骨層13		17	182.0	79.0	41.5	850.0	砂岩		
IV-71	81	96	たたき石	D8b	魚骨層13		5	189.0	81.0	40.0	960.0	砂岩		
IV-72	81	97	砥石	D8d	魚骨層15層	1329	4	74.0	77.5	17.0	98.3	軽石	ベロ1コラムキャンプ6区	
IV-72	81	98	砥石	E6d	魚骨層15層	1102	2	70.5	63.0	15.0	30.5	軽石		
IV-72	81	99	砥石	E15a	魚骨層5層		12	78.0	48.5	12.5	29.4	軽石		
IV-72	81	100	砥石	D8d	魚骨層12層	1288	1	70.0	52.0	31.0	21.9	軽石	ベロ1コラムキャンプ6区	
IV-72	81	101	砥石	D8b	魚骨層13層	1044	2	109.0	49.3	34.7	84.1	軽石		
IV-72	81	102	砥石	E16d	魚骨層4層	475	3	120.0	46.5	24.0	90.2	軽石		
IV-72	81	103	砥石	E16b	魚骨層4層	185	3	78.5	78.5	36.0	100.5	軽石		
IV-72	81	104	砥石	F16b	魚骨層4層	133	2	96.0	40.5	30.5	59.2	軽石		
IV-72	81	105	砥石	E16a	魚骨層5層	245	2	143.0	91.0	36.0	440.0	泥岩		

採段	図版	番号	器種名	調査区	層位	袋番号	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
IV-73	81	106	砥石	D7b	魚骨層6層	1039	6	39.0	20.5	10.5	10.6	凝灰岩	
IV-73	82	107	砥石	D8a	魚骨層12層	971	3	100.0	42.0	13.5	53.6	凝灰岩	
IV-73	82	108	砥石	D8b	魚骨層13層	1117	3	183.0	68.5	30.0	635.0	砂岩	
IV-73	82	109	台石	D8a	魚骨層13		22	154.0	144.0	18.0	450.0	砂岩	
IV-73	82	110	台石	E7a	魚骨層15		21	490.0	187.0	37.5	4500.0	砂岩	
IV-73	82	111	球状礫	D8a	魚骨層13層	1152	3	20.0	26.5	26.0	15.4	凝灰岩	
IV-73	82	112	球状礫		魚骨層		16	32.5	34.0	30.0	34.2	凝灰岩	土器集中I
IV-73	82	113	球状礫	D8c	魚骨層13層	1082	4	49.5	20.0	19.0	19.7	凝灰岩	
IV-73	82	114	原石	D7d	魚骨層13層	1120	1	33.5	29.0	24.0	27.4	黒曜石	
IV-73	82	115	原石	D8b	魚骨層10層	733	3	41.0	31.5	29.0	46.0	黒曜石	
IV-73	82	116	原石	D7b	なし	1214	1	47.5	36.5	29.0	59.9	黒曜石	ペルリコラムキャンプ6区
IV-73	82	117	石製品(白玉)	E6d	魚骨層15層	993	1	5.0	3.9	4.4	0.1	緑色凝灰岩	
IV-73	82	118	石製品(玉)	E6a	魚骨層14層	921	4	4.5	4.8	5.0	0.2	緑色凝灰岩	
IV-73	82	119	玉	D6b	魚骨層	709	1	5.3	4.5	5.9	0.2	緑色凝灰岩	
IV-73	82	120	石製品(半玉)	D9b	魚骨層10層	745	35	6.0	6.0	2.0	0.03	泥岩	
IV-73	82	121	石製品(小玉)	D9-ⅡP	魚骨層3層	61	1	8.3	8.1	5.1	0.5	緑泥石	
IV-73	82	122	石製品(海老石)	D9b	魚骨層10層	722	1	11.2	10.1	3.2	0.5	泥岩	
IV-73	82	123	石製品(玉)	D8d	魚骨層15層	1222	1	13.3	9.5	6.0	0.4	コハク	ペルリコラムキャンプ6区
IV-73	82	124	石製品(玉)	D9b	魚骨層12層	762	2	8.5	9.0	6.0	0.7	コハク	
IV-73	82	125	石製品(玉)	D6c	魚骨層	515	1	15.5	11.0	7.0	0.6	コハク	
IV-73	82	126	石製品(玉)	D6c		415	17	19.0	20.5	8.0	1.4	コハク	
IV-73	82	127	石製品(玉)	D8a	魚骨層10層	914	5	10.0	8.5	7.7	0.4	コハク	
IV-73	82	128	石製品(玉)	D8c	魚骨層10層	923	1	13.7	15.4	2.9	0.4	コハク	
IV-73	82	129	原石	D8	魚骨層9層	965	5	16.0	9.0	9.0	0.8	コハク	
IV-73	82	130	原石	D8d	魚骨層10層	1265	4	18.0	9.5	5.5	0.8	コハク	ペルリコラムキャンプ6区
IV-73	82	131	原石	D8d	魚骨層10層	1249	1	21.5	13.5	7.0	1.2	コハク	ペルリコラムキャンプ6区
IV-73	82	132	原石	E7a	魚骨層14層	1067	1	22.0	21.0	7.0	18.2	コハク	
IV-73	82	133	石製品	D7b	魚骨層15		19	67.5	41.5	20.0	46.7	凝灰岩	

表IV-27 魚骨層出土掲載骨角貝製品一覧

採段	図版	番号	器種名	調査区	層位	袋番号	遺物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	小分類	部位名	備考
IV-74	88	1	結頭Ⅰ	E16	Ⅱ-ⅠP+2層		1	53	8	5	1	シカ科	鹿角	ペルリコラムキャンプ6区
IV-74	88	2	結頭Ⅰ		魚骨層15層	1246	1	57	7	5	1	シカ科	鹿角	
IV-74	88	3	結頭Ⅰ		西原下3区-溝	671	1	68	8	7	2	シカ科	鹿角	
IV-74	88	4	結頭Ⅰ		魚骨層15層	929	2	59	11	7	2	シカ科	鹿角	
IV-74	88	5	結頭Ⅰ		西原下3区	692	8	59	12	5	1	シカ科	鹿角	
IV-74	88	6	結頭Ⅰ		魚骨層10層	927	1	(52)	6	15	2	シカ科	鹿角	
IV-74	88	7	結頭Ⅰ	E7a	魚骨層15層		22	(58.0)	13.0	6.0	1.9	シカ	鹿角	
IV-74	88	8	結頭Ⅰ		魚骨層4層	102	1	(43.0)	(11.0)	7.5	1.4	シカ科	鹿角	
IV-74	88	9	結頭Ⅰ		魚骨層13層	1120	19	42.5	7.1	3.6	0.7	シカ科	鹿角	
IV-74	88	10	結頭Ⅰ		魚骨層3層		5	44.0	10.0	7.0	1.2	シカ科	鹿角	
IV-74	88	11	結頭Ⅰ		魚骨層9層	964	33	44.0	6.5	4.0	0.7	シカ科	鹿角	
IV-74	88	12	結頭Ⅰ		魚骨層	814	1	54.5	12.5	7.0	2.4	シカ科	鹿角	
IV-74	88	13	結頭Ⅰ		魚骨層3層	42	1	60.5	11.0	7.5	2.6	シカ科	鹿角	
IV-74	88	14	結頭Ⅱ	E16	Ⅱ-ⅠP+2層		2	47.5	9.0	5.0	1.1	シカ科	鹿角	
IV-75	88	15	結頭Ⅱ		魚骨層15層	1308	1	77.5	(9.0)	7.0	2.7	シカ科	鹿角	ペルリコラムキャンプ6区
IV-75	88	16	結頭Ⅱ		魚骨層15層	845	1	(63.0)	13.5	7.5	3.7	シカ科	鹿角	
IV-75	88	17	結頭Ⅳ		魚骨層15層	1236	1	(28.5)	6.5	6.5	0.4	シカ科	鹿角	
IV-75	88	18	結頭Ⅳ		西原下3区	346	1	(32.5)	7.0	6.5	0.8	シカ科	鹿角	
IV-75	88	19	結頭Ⅳ		魚骨層4層	フロ5	86	(42.0)	14.0	7.5	2.3	シカ科	鹿角	
IV-75	88	20	結頭Ⅳ		魚骨層15層	1161	1	(70.5)	11.0	6.5	1.9	シカ科	鹿角	
IV-75	88	21	結頭Ⅲ		魚骨層15層	1095	22	81.0	15.0	9.0	2.7	シカ科	鹿角	
IV-75	88	22	結頭Ⅲ	D8c	IV層上部		1	91.0	18.5	9.0	6.0	シカ	鹿角	ペルリコラムキャンプ6区
IV-75	88	23	結頭Ⅲ		魚骨層15層上	フロ68	73	83.5	12.5	8.5	4.7	シカ	鹿角	ペルリコラムキャンプ6区
IV-75	88	24	結頭Ⅲ		魚骨層12層下	1197	34	54.0	10.5	7.0	1.3	シカ	鹿角	ペルリコラムキャンプ6区
IV-75	88	25	結頭Ⅲ	D7b	魚骨層6層		12	61.0	14.0	8.5	3.1	シカ科	鹿角	
IV-75	88	26	結頭Ⅲ		Ⅱ-ⅠP+2層	116	1	(36.0)	(12.0)	6.5	1.0	シカ科	鹿角	
IV-76	88	27	突頭骨角製品Ⅰa		西原下3区-溝	686	1	(72.5)	7.3	4.0	1.5	シカ	角の根	
IV-76	88	28	突頭骨角製品Ⅰa		魚骨層4層	158	1	(87.0)	7.5	4.5	1.5	シカ科	角の根	
IV-76	88	29	突頭骨角製品Ⅰa		魚骨層3層	25	1	(100.2)	10.5	4.0	3.4	シカ科	鹿角	
IV-76	88	30	突頭骨角製品Ⅰa		魚骨層12層	1247	1	64.0	11.5	5.5	2.7	シカ	鹿角	

採出	図版	番号	器種名	調査区	層位	図番号	器物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	小分類	部位名	備考	
IV-76	88	31	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層4層	1269	1	41.0	6.5	5.0	1.0	シカ	中足骨		
IV-76	88	32	突眼状骨製品Ⅰb		D7b 魚骨層4層		1	63.5	10.5	7.5	3.6	シカ科	鹿角		
IV-76	88	33	突眼状骨製品Ⅰb		不明	320	1	69.0	8.0	5.5	2.3	シカ	中足骨		
IV-76	88	34	突眼状骨製品Ⅰb		D8c 魚骨層15層		2	92.0	7.5	6.5	5.5	哺乳類	不明		
IV-76	88	35	突眼状骨製品Ⅰb		不明	320	2	81.0	7.0	7.5	3.5	マゾウ属	棘		
IV-76	88	36	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層15層	240	1	78.5	9.0	6.0	2.2	魚上綱	不明		
IV-76	88	37	突眼状骨製品Ⅰb		IV層上部	1292	1	(61.0)	9.0	6.0	2.2	シカ科	鹿角	ペルシコラムサンパ67層	
IV-76	88	38	突眼状骨製品Ⅰb		D8d 鱗層72層-1層		5	125.5	6.5	5.0	2.7	哺乳類	不明		
IV-76	88	39	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層13層	1091	2	91.0	7.5	7.0	2.7	鯨魚属	棘		
IV-76	88	40	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層12層	740	1	(52.5)	8.5	5.5	1.3	シカ	中足骨		
IV-76	88	41	突眼状骨製品Ⅰb		F16 魚骨層5層		1	63.0	9.0	5.0	1.9	シカ	中足骨		
IV-76	89	42	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層8層	582	34	69.0	11.0	7.5	3.5	シカ科	鹿角		
IV-77	89	43	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層4層	フロ15	5								
IV-77	89	44	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層5層	175	1	128.0	12.0	6.0	5.6	シカ	中足骨		
IV-77	89	45	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層15層	928	1	157.0	10.0	9.0	10.5	シカ	中足骨		
IV-77	89	46	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層13層	1159	1	174.0	17.5	7.0	12.5	シカ	中足骨		
IV-77	89	47	突眼状骨製品Ⅰb		E16 魚骨層		17	141.3	15.0	10.0	12.1	シカ科	鹿角		
IV-77	89	48	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層15層	937	1	109.5	18.5	9.0	9.0	シカ	鹿角		
IV-77	89	49	突眼状骨製品Ⅰb		魚骨層10層	860	29	84.0	13.5	11.5	4.6	シカ	鹿角		
IV-77	89	49	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層7層	263	1	61.5	4.7	2.5	0.4	鳥類	尺骨		
IV-77	89	50	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層15層	1062	1	73.0	7.5	3.0	0.4	鳥類	不明		
IV-77	89	51	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層13層	1083	1	56.0	8.0	3.5	0.6	鳥類	不明		
IV-77	89	52	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層4層	19	31	93.5	7.5	3.5	0.9	鳥類	不明		
IV-77	89	53	突眼状骨製品Ⅱa		なし	フロ91	98	26.8	3.9	1.6	0.2	鳥類	不明	ペルシコラムサンパ68層	
IV-77	89	54	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層13層	862	17	(28.0)	5.5	3.0	0.3	鳥類	不明		
IV-77	89	55	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層4層	フロ8	14	40.5	5.5	3.0	0.4	鳥類	不明		
IV-77	89	56	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層10層	1273	36	66.0	7.5	6.5	0.6	哺乳類	棘骨		
IV-77	89	57	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層8層	1241	23	(60.0)	9.0	5.0	0.7	鳥類	不明	ペルシコラムサンパ69層	
IV-77	89	58	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層12層	1355	1	86.0	9.5	4.0	2.0	シカ	中足骨		
IV-78	89	59	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層9層	793	75	100.5	13.5	6.5	2.5	哺乳類	脛骨		
IV-78	89	60	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層10層	965	26	96.0	8.0	5.0	2.6	哺乳類	鹿足骨		
IV-78	89	61	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層	417	7	71.0	13.0	4.0	2.6	鳥類	不明		
IV-78	89	62	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層15層	1060	16	9.4	10.0	2.5	1.8	哺乳類	上腕骨		
IV-78	89	63	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層12層	1272	17	26.0	6.5	1.1	0.2	鳥類	不明	ペルシコラムサンパ70層	
IV-78	89	64	突眼状骨製品Ⅱa		西層下部	341	19	41.5	8.0	1.0	0.3	鳥類	不明		
IV-78	89	65	突眼状骨製品Ⅱa		D8d 鱗層72層-1層		29	95.0	33.0	4.0	12.9	マゾウ属	尺骨		
IV-78	89	66	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層	644	1	103.0	23.5	17.0	5.6	哺乳類	尺骨		
IV-78	89	67	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層10層	1027	25	57.0	10.0	4.0	1.2	哺乳類	鹿足骨		
IV-78	89	68	突眼状骨製品Ⅱa		東トレンチ2層	38	18	77.5	11.5	5.0	2.0	哺乳類	棘骨		
IV-78	89	69	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層5層	フロ23	140	(58.0)	6.5	3.5	0.8	哺乳類	棘		
IV-78	90	70	突眼状骨製品Ⅱa		D8d 鱗層72層-1層		23	160.0	44.0	24.0	21.2	哺乳類	中足骨		
IV-78	90	71	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層8層	587	32	(42.0)	7.0	3.5	0.9	シカ	中足骨		
IV-78	90	72	突眼状骨製品Ⅱa		魚骨層5層	フロ23	139	(39.5)	15.5	10.5	2.1	シカ科	中足骨		
IV-78	90	73	錐形骨製品		魚骨層4層	58	28	43.0	10.0	5.0	1.4	シカ	不明		
IV-78	90	74	錐形骨製品		魚骨層15層	1268	1	85.0	13.5	6.0	3.2	シカ	中足骨		
IV-79	90	75	管状骨製品Ⅰc		魚骨層8層	714	15	89.5	3.3	4.0	1.1	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	76	管状骨製品Ⅰc		魚骨層15層	1135	15	(106.5)	5.0	4.0	1.1	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	77	管状骨製品Ⅰc		魚骨層1層	1322	1	159.5	5.0	4.5	1.7	哺乳類	棘骨	ペルシコラムサンパ71層	
IV-79	90	78	管状骨製品Ⅰc		魚骨層15層	768	10	124.0	6.0	6.0	3.1	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	79	管状骨製品Ⅰb		魚骨層13層	1140	21	162.5	10.0	8.5	4.3	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	80	管状骨製品Ⅰb		魚骨層15層	928	24	152.0	10.4	8.6	4.1	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	81	管状骨製品Ⅰa		D8a 魚骨層10層		4	137.0	9.0	9.5	14.1	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	82	管状骨製品Ⅰc		魚骨層13層	1163	38	227.0	8.5	7.5	9.1	哺乳類	棘骨		
IV-79	90	83	管状骨製品Ⅰc		魚骨層1層	11	21	(67.5)	7.5	6.5	1.3	哺乳類	尺骨		
IV-80	90	84	管状骨製品Ⅰb		D8 鱗層		43	277.0	17.0	14.0	13.3	哺乳類	尺骨		
IV-80	90	85	管状骨製品Ⅱa		鱗層72層-1層	391	1	83.5	6.0	5.0	1.2	哺乳類	棘骨		
IV-80	90	86	管状骨製品Ⅱa		魚骨層5層	231	1	98.0	6.5	4.5	1.5	哺乳類	棘骨		
IV-80	90	87	管状骨製品Ⅱa		東トレンチ2層	37	17	77.0	6.5	6.0	1.7	哺乳類	棘骨		
IV-80	90	88	管状骨製品Ⅱb		魚骨層15層	1057	1	97.0	11.0	11.0	3.4	哺乳類	棘骨		
IV-80	91	89	骨針Ⅰ		魚骨層10層	750	46	28.0	1.5	1.5	0.1	鳥類	不明		
IV-80	91	90	骨針Ⅰ		魚骨層9層	758	41	56.0	1.5	2.0	0.2	鳥類	不明		
IV-80	91	91	骨針Ⅰ		魚骨層4層	2	37	61.0	2.0	1.5	0.2	鳥類	不明		
IV-80	91	92	骨針Ⅰ		魚骨層	503	1	71.0	2.0	2.0	0.3	鳥類	不明		

付表

採回	図版	番号	品類名	調査区	層位	図番号	動物番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	小分類	部位名	備考
IV-80	91	93	骨針 I		魚骨層10層	フロ67	67	55.5	1.5	1.3	0.1	鳥綱?	不明	ベルトリウムサンプリング区
IV-80	91	94	骨針 I		魚骨層10層	927	2	50.0	3.0	1.5	0.2	鳥綱	不明	
IV-80	91	95	骨針 I		魚骨層10層	フロ76	68	38.5	1.5	1.0	0.1	鳥綱	不明	ベルトリウムサンプリング区
IV-80	91	96	骨針 I		覆瓦魚骨層	1341	1	50.0	3.0	2.0	0.4	鳥綱	不明	
IV-80	91	97	骨針 I	D8a	魚骨層		3	(43.5)	1.5	1.5	0.1	鳥綱	不明	
IV-80	91	98	骨針 II		魚骨層	631	1	67.0	4.5	4.0	1.0	シカ	中足骨	
IV-80	91	99	骨針 II		魚骨層4層	290	1	90.0	5.5	5.0	1.5	シカ科	中足骨	
IV-80	91	100	骨針 II	D9b	魚骨層15層		3	114.0	4.5	4.5	2.4	シカ	中足骨	
IV-80	91	101	骨針 II		魚骨層13層	1151	1	123.0	4.5	4.5	2.4	シカ	中足骨	
IV-80	91	102	骨針 II		船跡7跡-3層	487	1	(42.5)	5.0	3.5	0.8	シカ	中足骨	
IV-80	91	103	骨針 II		魚骨層13層	1111	3	13.5	3.5	2.5	0.2	雑動物	不明	
IV-81	91	104	骨針 II	D8d	魚骨層13層		31	163.5	4.5	4.5	3.2	シカ	中足骨	
IV-81	91	105	骨針 II		西岸下層部	252	1	127.5	5.0	4.5	2.6	シカ	中足骨	
IV-81	91	106	骨針 II		魚骨層19層	1245	1	151.0	4.5	4.0	3.2	シカ	中足骨	
IV-81	91	107	骨針 II		魚骨層	832	1	(129.5)	5.5	4.5	1.8	シカ科	鹿角	
IV-81	91	108	短粗状骨角製品		西岸下層部	322	1	55.0	1.6	7.0	6.2	海獣類	不明	
IV-81	91	109	短粗状骨角製品		魚骨層5層	350	1	(37.5)	1.6	7.5	1.8	シカ科	鹿角	
IV-81	91	110	短粗状骨角製品	F16c	魚骨層4層		8	71.0	14.5	8.5	5.7	シカ科	鹿角	
IV-81	91	111	楕形骨角製品		魚骨層4層	98	1	(107.0)	(27.0)	(17.0)	23.0	クラジ目	肋骨	
IV-81	91	112	楕形骨角製品	D7b	魚骨層6層		10	(153.5)	35.0	21.0	53.3	タヌキ	肋骨骨?	
IV-82	91	113	その他骨角製品		魚骨層10層	1249	1	112.5	26.5	12.0	30.1	海獣類	不明	ベルトリウムサンプリング区
IV-82	91	114	魚形骨角製品	E15c	魚骨層1層		1	98.0	21.5	15.5	21.9	海獣	不明	
IV-82	91	115	その他骨角製品		魚骨層3層		4	79.0	23.0	9.0	5.6	シカ	鹿角	
IV-82	91	116	その他骨角製品		魚骨層3層	フロ1	48	66.5	19.5	7.0	5.4	シカ	中手骨	
IV-82	91	117	その他骨角製品		魚骨層4層	75	16	57.0	12.0	8.0	3.3	シカ	不明	
IV-82	91	118	その他骨角製品		覆瓦魚骨層	1257	1	(28.5)	(14.5)	6.0	1.0	シカ科	鹿角	
IV-82	92	119	その他骨角製品		魚骨層4層	176	1	99.0	15.5	8.0	3.9	『シカ』	鹿角部分	
IV-82	92	120	貝製品(小玉)		魚骨層5層	281	27	5.5	6.0	2.0	0.1	雑動物	貝殻部分	
IV-82	92	121	貝製品(小玉)		魚骨層4層	43	46	6.0	6.0	3.0	0.1	雑動物	貝殻	
IV-82	92	122	骨角製品(平玉)		船跡7跡-3層	488	1	10.5	10.0	2.0	0.1	シカ	中手骨	
IV-82	92	123	骨角製品(平玉)		船跡7跡-3層	257	4	10.0	9.8	2.0	0.1	シカ	中手骨	
IV-82	92	124	骨角製品(平玉)		魚骨層	546	1	10.5	10.5	2.0	0.1	シカ	中手骨	
IV-82	92	125	骨角製品(平玉)		船跡7跡-3層	257	2	12.5	12.5	2.0	0.2	シカ	中手骨	
IV-82	92	126	骨角製品(平玉)		船跡7跡-3層	257	3	12.0	12.0	1.5	0.1	シカ	中手骨	
IV-82	92	127	骨角製品(平玉)		魚骨層12層	1000	1	15.0	14.0	1.5	0.3	シカ	中手骨	
IV-82	92	128	管玉		魚骨層4層	フロ5	85	17.0	5.0	4.0	0.3	鳥綱	尺骨	
IV-82	92	129	その他骨角製品		なし	1244	1	24.5	21.5	9.0	0.8	カモ類	上顎骨	ベルトリウムサンプリング区
IV-82	92	130	歯牙製品(歯)		船跡7跡-3層	626	1	65.0	11.0	7.5	3.2	イノシシ	歯1	
IV-82	92	131	歯牙製品		魚骨層4層	62	1	74.0	10.0	9.0	4.4	イノシシ	歯12下	
IV-83	92	132	その他骨角製品		魚骨層	514	6	62.0	13.0	17.0	5.9	クラジ目	椎骨	
IV-83	92	133	骨角製品素材		魚骨層15層	744	39	(25.0)	1.5	2.0	0.1	鳥綱	不明	
IV-83	92	134	骨角製品素材		魚骨層9層	965	67	42.5	5.5	3.5	0.3	鳥綱	不明	
IV-83	92	135	骨角製品素材		魚骨層10層	フロ75	176	60.0	5.0	3.0	0.7	鳥綱	不明	ベルトリウムサンプリング区
IV-83	92	136	骨角製品素材		魚骨層4層	158	2	66.0	5.0	2.0	0.4	鳥綱	不明	
IV-83	92	137	骨角製品素材		魚骨層5層	206	28	80.0	4.0	2.0	0.6	鳥綱	不明	
IV-83	92	138	骨角製品素材		船跡7跡-3層	434	9	87.5	5.9	2.4	0.9	鳥綱	不明	
IV-83	92	139	骨角製品素材		魚骨層13層	1118	1	174.0	22.0	16.0	30.9	シカ	鹿角	
IV-83	92	140	残片 I		魚骨層15層	1003	1	59.0	38.0	13.0	10.4	『シカ』	上腕骨	
IV-83	92	141	残片 I		魚骨層	902	2	50.0	30.5	15.0	4.0	『シカ』	上腕骨	
IV-83	92	142	残片 II		なし	1248	1	49.0	17.1	14.1	2.3	『鳥綱』	尺骨	ベルトリウムサンプリング区
IV-83	92	143	残片 III		魚骨層4層	104	12	46.0	8.5	7.5	1.1	『シカ』	中手骨	
IV-83	92	144	残片 III		魚骨層4層	112	17	41.7	9.0	10.0	1.1	『鳥綱』	尺骨	
IV-83	92	145	残片 III		魚骨層12層	867	31	30.0	6.0	3.0	0.5	鳥綱	不明	
IV-83	92	146	残片 III		船跡7跡-3層	257	1	74.0	16.5	7.5	5.2	シカ	中足骨	
IV-83	92	147	残片 III		魚骨層15層	892	1	36.0	23.5	7.0	2.0	シカ	中足骨	
IV-83	92	148	残片 III		魚骨層13層	1152	1	34.5	24.0	16.0	6.0	シカ	鹿角	
IV-83	92	149	残片 III	東斜面	層		37	80.5	28.0	28.0	31.6	エゾシカ	大腸骨	

表IV-28 魚骨層出土写真掲載動物遺存体ほか一覧

種別	図版	写録	種別	小分類	部位名	L・R	色調	調査区	層位	袋番号	総計	備考
	93	1	1	ホタテガイ	殻体殻質	L	n	D8c	魚骨層15層	1299	55	ベルト1コラムサンプル7①層
	93	1	2	ウバガイ	殻体殻質	L	n	D8a	魚骨層13層	1312	38	
	93	1	3	エゾイソシジミ	殻体殻質	R	n	D8c	魚骨層13層	1313	41	ベルト1コラムサンプル8①層
	93	1	4	ケウソウナトリ	殻体殻質	R	n	E9a	西斜面下部1層	673	8	
	93	1	5	オオノガイ	殻体殻質	L	n	D9b	魚骨層13中層	1245	55	
	93	1	6	オオノガイ	殻体殻質	R	n	E16a	魚骨層5層	245	21	
	93	1	7	ヤマトシジミ	殻体殻質	R	n	D9b	魚骨層13層	1278	45	
	93	1	8	ヤマトシジミ	殻体殻質	L	n	D9b	魚骨層13中層	1245	59	
	93	1	9	カワシジメガイ	殻体殻質	L	n	D8a	魚骨層15層	1313	42	ベルト1コラムサンプル8①層
	93	2	1	フノザメ目	骨髄棘	M	n	E9d	西斜面下部1層	690	18	
	93	2	2	フノザメ目	骨髄棘	M	n	D8d	西斜面下部2-3層	693	7	
	93	2	3	サメ類	椎骨	M	n	D8d	西斜面下部2-3層	491	4	
	93	2	4	サメ類	椎骨	M	n	D8d	魚骨層15層	868	6	
	93	2	5・6	サメ類	歯	n	n	D9b	魚骨層15層	869	4	
	93	2	7	サメ類	歯	n	n	不明	魚骨層5層	281	17	
	93	3	1	チョウザメ科	不明	n	n	D8a	魚骨層13層	1312	1	
	93	3	2	チョウザメ科	鱗板	n	n	D8d	魚骨層9層	1269	2	ベルト1コラムサンプル1④層
	93	3	3	チョウザメ科	鱗板	n	n	D8d	魚骨層12下層	1288	1	ベルト1コラムサンプル4⑥層
	93	4	1	マツカウ	前上顎骨	L	n	E16	東トレンチ2層	1347	3	
	93	4	2	マツカウ	前上顎骨	R	n	E16	東トレンチ1層	1350	4	
	93	4	3・4	マツカウ	歯骨	R	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	90	ベルト1コラムサンプル3⑤層
	93	4	5・6	カレイ科	腹椎	M	n	D8c	魚骨層10層下	フ086	200	ベルト1コラムサンプル6①層
	93	4	7-17	カレイ科	尾椎	M	n	D8	魚骨層7層	フ032	103	
	93	4	18-19	カレイ科	尾部棒状骨	M	n	D8d	魚骨層10層下	フ076	113	ベルト1コラムサンプル3⑤層
	93	4	20-21	カレイ科	下尾軸骨	M	n	D8d	魚骨層12下層	フ079	88	ベルト1コラムサンプル3⑦層
	93	5	1	カレイ科	主上顎骨	L	n	D8c	魚骨層15層	フ043	61	
	93	5	2	カレイ科	主上顎骨	R	n	D8c	魚骨層15層	フ043	60	
	93	5	3・4	カレイ科	外翼状骨	R	n	E16b	魚骨層4層	フ015	123	
	93	5	5	カレイ科	角骨	R	n	D8d	なし	1182	2	ベルト1コラムサンプル1②層
	93	5	6	カレイ科	角骨	R	n	D8c	魚骨層10層上	フ085	59	ベルト1コラムサンプル6①層
	93	5	7	カレイ科	尾舌骨	M	n	D8c	魚骨層15層	フ096	43	ベルト1コラムサンプル6⑩層
	93	5	8	カレイ科	前鰓蓋骨	R	n	D8c	魚骨層10層上	フ085	42	ベルト1コラムサンプル6①層
	93	5	9	カレイ科	間鰓蓋骨	R	n	D9b	魚骨層12層	フ046	50	
	93	5	10	カレイ科	下鰓蓋骨	R	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	114	ベルト1コラムサンプル3⑤層
	93	5	11	カレイ科	上鰓蓋骨	R	n	D8	魚骨層7層	フ032	92	
	93	5	12-14	カレイ科	舌顎骨	R	n	D8c	魚骨層10層上	フ086	76	ベルト1コラムサンプル6①層
	93	5	15	カレイ科	第1血管間棘	M	n	D8a	魚骨層13層	1097	5	
	93	6	1	ヒラメ	頭蓋(銅構形骨+上後通骨+腹骨1①+基底頭骨)	M	n	D8a	魚骨層10層	フ036	172	
	93	6	2	ヒラメ	前上顎骨	L	n	D8d	魚骨層10層	934	14	
	93	6	3	ヒラメ	主上顎骨	L	n	E①・F①	魚骨層3層	フ02	32	
	93	6	4	ヒラメ	外翼状骨	L	n	E7a	魚骨層15層	741	13	
	93	6	5	ヒラメ	前鰓蓋骨	L	n	D9b	魚骨層12層	フ057	115	
	93	6	6	ヒラメ	主鰓蓋骨	L	n	E16	東トレンチ2層	1349	11	
	93	6	7	ヒラメ	間鰓蓋骨	L	n	D8c	魚骨層15層	1308	21	ベルト1コラムサンプル7①層
	93	6	8	ヒラメ	第1血管間棘	M	n	D8c	魚骨層10層下	フ088	82	ベルト1コラムサンプル6③層
	93	6	9	ヒラメ	第1血管間棘	M	n	E①・F①	魚骨層3層	25	22	
	93	7	1	ヒラメ	歯骨	L	n	F16c	魚骨層5層	274	9	
	93	7	2	ヒラメ	角骨	L	n	F16c	魚骨層4層	121	4	
	93	7	3	ヒラメ	腹椎	L	n	D8c	魚骨層10層上	フ086	150	ベルト1コラムサンプル6①層
	93	7	4	ヒラメ	腹椎	M	n	D8d	魚骨層12下層	フ079	117	ベルト1コラムサンプル3⑦層
	93	7	5	ヒラメ	腹椎	M	n	D8a	魚骨層12層	799	27	
	93	7	6	ヒラメ	尾椎	M	n	E16b	魚骨層4層	フ04	51	
	93	7	7	ヒラメ	尾部棒状骨+下尾軸骨	M	n	E16b	魚骨層4層	117	17	
	93	8	1	ズズキ	前歯骨	M	n	E①・F①	魚骨層3層	32	13	
	93	8	2	ズズキ	前歯骨	L	n	E8d	魚骨層15層	1064	7	
	93	8	3	ズズキ	後側頭骨	L	n	D9b	魚骨層13中層	1245	18	
	93	8	4	ズズキ	上鰓蓋骨	L	n	D9b	魚骨層13中層	1245	19	
	93	8	5	ズズキ	前鰓蓋骨	R	n	E9a	不明	323	6	
	93	8	6	ズズキ	主鰓蓋骨	L	n	D8a	魚骨層15層	1072	13	
	93	8	7	ズズキ	角骨	L	n	D8b	魚骨層15層	1065	18	
	93	9	1	ズズキ	前上顎骨	L	n	D8c	魚骨層13層	1077	14	
	93	9	2	ズズキ	主上顎骨	L	n	E8d	魚骨層15層	フ058	100	
	93	9	3	ズズキ	歯骨	L	n	D8a	魚骨層13層	1086	9	
	93	9	4	ズズキ	尾舌骨	M	n	D9b	魚骨層12下層	725	25	
	93	9	5	ズズキ	尾椎	M	n	不明	不明	11	11	
	93	9	6	ズズキ	尾部棒状骨	M	n	E①・F①	魚骨層3層	32	14	

付表

種別	図版	図録	図録	小分類	部位名	L・R	色調	調査区	層位	袋番号	測計	備考
	93	9	7	スズキ	下尾軸骨	M	n	E16b	魚骨層3層	32	14	
	94	1	1	ウダイ属	第1椎骨	M	n	E16b	魚骨層4層	フ04	30	
	94	1	2	ウダイ属	第2椎骨	M	n	E16b	魚骨層5層	フ016	34	
	94	1	3	ウダイ属	第2椎骨	M	n	E16b	魚骨層4層	フ04	31	
	94	1	4+5	ウダイ属	主腰蓋骨	L	n	E16b	魚骨層4層	フ03	45	
	94	1	6	ウダイ属	主腰蓋骨	R	n	E16b	魚骨層4層	フ03	41	
	94	1	7	ウダイ属	角骨	L	n	E16b	魚骨層4層	フ03	38	
	94	2	1	サケ	第1椎骨	M	n	D9b	魚骨層12下層	751	23	
	94	2	2	サケ	第1椎骨	M	n	E9a	西斜面下部3層	346	14	
	94	2	3	サケ科	尾椎	M	n	E16b	魚骨層3層	フ02	44	
	94	2	4	サケ科	尾椎	M	n	F16d	魚骨層4層	フ05	78	
	94	2	5	サケ科	尾椎	M	n	E16b	魚骨層4層	フ06	62	
	94	2	6	サケ科	尾椎	M	n	E16b	魚骨層4層	フ03	99	
	94	3	1	イトウ	第1椎骨	M	n	E9a	不明	323	8	
	94	3	2	イトウ	第2椎骨	M	n	E16b	魚骨層4層	フ06	84	
	94	3	3	イトウ	腹椎	M	n	E16b	魚骨層4層	フ03	102	
	94	4	1	カジカ科	歯骨	R	n	D8	西斜面下部3層	412	12	
	94	4	2	カジカ科	歯骨	L	n	D9a	魚骨層10層	846	18	
	94	4	3	カジカ科	上腹結骨	R	n	E16c	魚骨層4層	163	18	
	94	4	4	カジカ科	腹結骨	L	n	D9b	魚骨層10層	フ035	146	
	94	4	5	フナナガサシロ属	歯骨	R	n	F16b	魚骨層5層	296	17	
	94	4	6	カサゴ目	前歯骨	M	n	E7a	魚骨層15層	フ041	68	
	94	4	7	アйнаメ科	下咽頭骨	L	n	F16a	魚骨層4層	フ012	85	
	94	4	8	ホッケ	前上顎骨	R	n	D8c	なし	フ093	69	ベルト1コラムサンプル6区層
	94	4	9	コイ科	第2背鰭棘	R	n	D9b	魚骨層12下層	730	16	
	94	5	1	イトヨ	頭骨	M	n	F16a	魚骨層5層	96	7	
	94	5	2	イトヨ	第1背鰭棘+第1腹鰭骨	M	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	28	ベルト1コラムサンプル3区層
	94	5	3	イトヨ	第2背鰭棘+第2腹鰭骨	M	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	31	
	94	5	4	イトヨ	歯骨	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	8	
	94	5	5	イトヨ	前腰蓋骨	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	17	
	94	5	6	イトヨ	主腰蓋骨	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	15	
	94	5	7	イトヨ	腹結骨	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	21	
	94	5	8	イトヨ	角口骨	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	25	
	94	5	9	イトヨ	骨盤骨	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	37	
	94	5	10	イトヨ	腹鰭棘	L	n	D8d	魚骨層10層下	フ077	37	
	94	5	11	イトヨ	腹椎	M	n	D9b	魚骨層10層	フ035	44	
	94	5	12	イトヨ	尾椎	M	n	D9b	魚骨層10層	フ035	45	
	94	5	13	イトヨ	尾端軟骨+下尾軸骨	M	n	D9b	魚骨層13層	フ056	40	
	94	6	1	キュウリウオ科	主上顎骨	L	n	D8d	魚骨層9層	フ074	51	ベルト1コラムサンプル3区層
	94	6	2-4	キュウリウオ科	歯骨	L	n	D8d	魚骨層10層上	フ075	51	ベルト1コラムサンプル3区層
	94	6	5	キュウリウオ科	主腰蓋骨	L	n	E16b	魚骨層4層	フ03	34	
	94	6	6	キュウリウオ科	主腰蓋骨	L	n	D8d	魚骨層8層上	フ072	38	ベルト1コラムサンプル3区層
	94	6	7	キュウリウオ科	腹結骨	L	n	D8c	魚骨層13上層	フ094	49	ベルト1コラムサンプル6区層
	94	6	8-10	キュウリウオ科	角骨	L	n	D8c	魚骨層10層上	フ086	49	ベルト1コラムサンプル6区層
	94	6	11	キュウリウオ科	方骨	L	n	D9b	魚骨層10層	フ035	49	
	94	6	11-9	キュウリウオ科	腹椎	M	n	E16b	魚骨層4層	フ015	3	
	94	6	11-9	キュウリウオ科	尾椎	M	n	E16b	魚骨層4層	フ015	4	
	94	7	1	ブリ	前上顎骨	R	n	D8a	魚骨層11層	729	15	
	94	7	2	ブリ	歯骨	R	n	不明	西斜面下部3層	684	12	
	94	7	3	ブリ	主腰蓋骨	L	n	D8c	魚骨層13層	1237	17	
	94	7	4	ブリ	角口骨	L	n	D8c	魚骨層13層	1082	39	
	94	7	5	ブリ	腹椎	M	n	D7b	魚骨層15層	937	33	
	94	7	6	ブリ	腹椎	M	n	D8c	魚骨層13層	1082	40	
	94	7	7	ボラ科	主腰蓋骨	R	n	D9b	魚骨層13層	フ056	205	
	94	7	8	マダラ	前上顎骨	R	n	不明	西斜面下部3層	256	7	
	94	7	9	マダラ	方骨	L	n	不明	西斜面下部3層	256	8	
	94	8	1	マダロ属	尾椎	M	n	C8b	魚骨層	578	1	
	94	8	2+3	マダロ属	尾椎	M	n	D8a	魚骨層13層	14	20	
	95	1	1	オオハクチョウ	上腕骨	L	n	D7b	魚骨層15層	10	14	
	95	1	2	オオハクチョウ	上腕骨	R	n	E16b	魚骨層5層	1	1	
	95	1	3	オオハクチョウ	上腕骨	R	n	D7b	魚骨層6層	4	4	
	95	1	4	オオハクチョウ	上腕骨	L	n	D7b	魚骨層6層	11	11	
	95	1	5	コハクチョウ	上腕骨	R	n	F16c	魚骨層4層	7	7	
	95	1	6	コハクチョウ	上腕骨	R	n	D8a	魚骨層9層	4	4	
	95	2	1	フシカカ科	上腕骨	L	n	D8a	魚骨層15層	9	9	
	95	2	2	アホウドリ属	上腕骨	L	n	F16d	魚骨層4層	10	10	
	95	2	3	オオハクチョウ	尺骨	R	n	D7b	魚骨層15層下	フ070	136	ベルト2コラムサンプル18層
	95	2	4	オオハクチョウ	尺骨	R	n	D6c	魚骨層6層	15	15	
	95	2	5	オオハクチョウ	橈骨	L	n	D8a	魚骨層13層	6	6	

種別	図版	図録	図録	小分類	部位名	L・R	色調	調査区	層位	袋番号	測計	備考
95	2	6		ミズギドリ科	楯骨	R	n	F16a	魚骨層4層	58	13	
95	2	7		ウツシツドリ科	尺骨	R	n	D7b	魚骨層6層		9	
95	2	8		ウツシツドリ科	尺骨	R	n	D8a	魚骨層11層		5	
95	2	9		コハタチヨウ科	脛足眼骨	R	n	D8a	魚骨層13層		21	
95	3	1		オオハクチョウ	上顎骨	M	n	E16b	魚骨層4層	22	17	
95	3	2		オオハクチョウ	頭骨	M	n	E16a	魚骨層4層		15	
95	3	3		コハタチヨウ	頭骨	M	n					現生標本
95	4	1		アヒ科	下顎骨	L	n	D8	魚骨層9層	984	29	
95	4	2		シギ科	胸骨	M	n	D8d	魚骨層10層上	1249	16	ベルト1コラムサンプル23層
95	4	3		スズメ科	上顎骨	L	n	E9a	西斜面下部1層	328	13	
95	4	4		タカ科?	肩甲骨	L	n	D8d	西斜面下部1層	426	5	
95	4	5		鳥綱目不明	上腕骨	R	n	E6d	魚骨層	321	10	
95	4	6		カモ科	脛足眼骨	R	n	E16d	魚骨層4層	フ09	45	
95	4	7		鳥綱目不明	足根中足骨	L	n	C8b	魚骨層	457	13	
95	4	8		鳥綱目不明	脛足眼骨	L	n	F16c	魚骨層5層	フ023	151	
95	5	1		カモ類Dクラス	鳥口骨	L	n	D8c	魚骨層13上層	1235	34	ベルト1コラムサンプル8層
95	5	2		カモ類Dクラス	鳥口骨	L	n	D8c	魚骨層10層	844	16	
95	5	3		カモ類Cクラス	鳥口骨	L	n	E16b	魚骨層4層	1370	26	
95	5	4		カモ類Bクラス	鳥口骨	L	n	D6c	魚骨層15層	856	31	
95	5	5		カモ類Aクラス	鳥口骨	L	n	D8c	魚骨層15層	フ097	218	ベルト1コラムサンプル610層
95	5	6		ウツシツドリ科	鳥口骨	R	n	D7b	魚骨層	417	5	
95	5	7		コハタチヨウ科	鳥口骨	L	n	D6・7	魚骨層6層	フ031	64	
95	5	8		オオハクチョウ	鳥口骨	L	n	不明	西斜面下部4層	684	13	
96	1	1		オオハクチョウ	肋骨	R	n	D7b	魚骨層14層下	フ067	53	ベルト2コラムサンプル10層
96	1	2		カモ類Dクラス	上腕骨	L	n	D8c	魚骨層10層上	フ085	108	ベルト1コラムサンプル61層
96	1	3		カモ類Cクラス	尺骨	L	n	D9b	魚骨層12層	フ047	86	
96	1	4		カモ類Dクラス	尺骨	L	n	F12	■層		3	骨角製品
IV-83-144	96	1	5	アホウドリ	尺骨	L	n	F16a	魚骨層4層	112	17	
IV-90c	96	2	3	イヌ	頭骨	M	n	F16d	魚骨層5層	100	20	
IV-90a	96	4		イヌ	頭骨・環椎・軸椎	M	n	D8a	魚骨層9層		5	
IV-90b	96	5		イヌ	頭骨	M	n	D8d	魚骨層9層		2	ベルト1コラムサンプル15層
IV-90c	97	1	2	イヌ	頭骨	M	n	D8d	魚骨層9層		2	ベルト1コラムサンプル15層
IV-91a	97	3	4	イヌ	下顎骨	L	n	F16d	魚骨層5層		6	
						R	n				5	
	97	5	1	イヌ	下顎骨	R	n	D8a	魚骨層9層		1	
	97	5	2	イヌ	下顎骨	R	n	D9b	魚骨層10層	1229	1	
IV-91b	97	5	3	イヌ	下顎骨	R	n	E16c	魚骨層4層		13	
	97	6	1	イヌ	下顎骨	L	n	E16b	魚骨層4層	183	31	
IV-91d	97	6	2	イヌ	下顎骨	L	n	D9a	魚骨層10層		6	
IV-91c	97	6	3	イヌ	下顎骨	L	n	C8c	魚骨層	463	1	
	98	1	1	イヌ	椎骨	M	n	D8a	魚骨層13層		11-1	
	98	1	2	イヌ	肩甲骨	R	n	D8d	魚骨層15層		1	ベルト1コラムサンプル39層
	98	1	3	イヌ	上腕骨	R	n	D8a	魚骨層11層		3	
	98	1	4	イヌ	上腕骨	R	n	D8a	魚骨層11層		1	
	98	1	5	イヌ	尺骨	R	n	D8a	魚骨層13層		20	
	98	1	6	イヌ	楯骨	L	n	F16d	魚骨層4層		6	
	98	1	7	イヌ	大腸骨	R	n	F16d	魚骨層4層		4	
	98	1	8	イヌ	脛骨	L	n	D7b	魚骨層6層		14	
	98	1	9	イヌ	脛骨	L	n	D8a	魚骨層13層		10	
	98	1	10	イヌ	脛骨	R	n	D8a	魚骨層10層		5	
	98	2	1	ヒグマ	上顎犬歯	R	n	D8d	魚骨層15層		1	
	98	2	2	ヒグマ	中肋骨	R	n	F16d	魚骨層5層	303	10	
	98	2	3	ヒグマ	末肋骨	R	n	F16d	魚骨層4層	122	14	
	98	3	1	イノシシ	下顎骨	M	n	D8a	魚骨層15層		12	
	98	3	2	イノシシ	下顎切歯(11)	R	n	D9b	魚骨層12下層	763	33	
	98	3	3	イノシシ	下顎切歯(11)	R	n	D7b	IV層上部	1131	1	
	98	3	4	イノシシ	第5胸椎	M	n	D8d	魚骨層10層上	フ075	156	ベルト1コラムサンプル34層
	98	3	5	イノシシ	楯骨	R	n	E16a	魚骨層5層	205	26	
	98	3	6	イノシシ	中心足眼骨	R	n	D7b	魚骨層15層下	フ070	121	ベルト2コラムサンプル18層
				イノシシ	第3足眼骨	R	n	D7b	魚骨層15層	1021	24	
				イノシシ	第4足眼骨	R	n	D7b	魚骨層15層	1123	28	
	98	3	7	イノシシ	膝骨	R	n	E16	魚骨層4層	フ08	16	
	98	3	8	イノシシ	基礎骨	l	n	D8a	魚骨層13層	1112	27	
	98	3	9	イノシシ	基礎骨	r	n	D8a	魚骨層13層	1112	28	
	98	3	10	イノシシ	中肋骨	r	wh	F16a	魚骨層5層	152	16	
	99	1	1	エゾシカ	尺骨	R	n	E6d	魚骨層15層		24	
	99	1	2	エゾシカ	中手骨	R	n	D8b	魚骨層13層		29	
	99	1	3	エゾシカ	脛骨	L	n	E16d	魚骨層4層		14	
	99	1	4	エゾシカ	脛骨	R	n	D8b	魚骨層15層		5	

付表

種別	図版	図録	図録	小分類	部位名	L・R	色調	調査区	層位	袋番号	總計	備考
	99	1	5	エゾシカ	肋骨	L	n	D8b	魚骨層15層		28	
	99	2		エゾシカ	肩甲骨	R	n	E16d	魚骨層5層		9	
	99	3	1	エゾシカ	鹿角	L	n	E16b	魚骨層5層		2	
	99	3	2	エゾシカ	鹿角	L	n	D8a	魚骨層13層		30	
	99	3	3	エゾシカ	鹿角	L	n	E6d	魚骨層15層		23	
	100	1	1	ラッコ	上顎骨	L	n	D8c	IV層上部	1292	2	ベルト1コラムサンプル70層
	100	1	2	ラッコ	上顎歯(M1)	R	n	D8d	魚骨層15層	1260	14	ベルト1コラムサンプル49層
	100	1	3	ラッコ	下顎骨	L	n	D9a	魚骨層15層	839	1	
	100	1	4	ラッコ	寛骨	R	n	D9a	魚骨層10層		5	
	100	1	5	カワウソウ	上腕骨	L	n	D9a	魚骨層12層	746	30	
	100	2	1	海獣類	肩甲骨	L	n	D8c	魚骨層12層		1	
	100	2	2	クジラ目	肋骨?	n		D7b	IV層上部		7	
IV-85	100	3		カマイルカ	肋骨	M	n	D8a	魚骨層9層		6	
	101	1	1	ワジラ類目イカ	環椎椎体	M	n	D7b	魚骨層6層		1	
	101	1	2	ワジラ類目イカ	肋骨	L	n	D8a	魚骨層9層		3	
	101	1	3	ワジラ類目イカ	胸骨	M	n	D8c	魚骨層10層		1	
	101	1	4	ワジラ類目イカ	胸椎	M	n	D8a	魚骨層9層		2	
	101	1	5	ワジラ類目イカ	尾椎	M	n	E16a	魚骨層5層		3	
	101	1	6	ワジラ類目イカ	椎骨V字骨	M	n	D7b	魚骨層6層		13	
	101	2	1	ワジラ類目イカ	歯	n		D9b	魚骨層12層	947	12	
	101	2	2	ワジラ類目イカ	歯	n		D8d	西斜面下部2-3層	434	8	
	101	2	3	ワジラ類目イカ	歯	n		D8c	魚骨層12下層	1252	29	
	101	2	4	ワジラ類目イカ	歯	n		不明	西斜面下部最層	498	10	
	101	2	5	ワジラ類目イカ	歯	n		D9b	魚骨層12下層	730	27	
	101	2	6	ワジラ類目イカ	歯	n		D9b	魚骨層12下層	763	36	
	101	2	7	ワジラ類目イカ	耳骨	R	n	D8	魚骨層9層	793	68	
	101	3	1	オットセイ	耳骨	L	n	D6・7	魚骨層6層	フロ31	72	
	101	3	2	オットセイ	上腕骨	L	n	E16c	魚骨層4層	113	29	
	101	3	3	オットセイ	橈骨	L	n	D7b	魚骨層14層	1046	20	
	101	3	4	アシカ科	踵骨	L	n	D8	魚骨層9層	965	53	
	101	3	5	海獣類	肋骨	R	wh	D6・7	魚骨層6層	フロ31	73	
	101	4		クジラ目	不明	n		F17a	魚骨層4層		12	
	102	1	1~4		礫石	n		D8c	魚骨層15層	1108		
	102	1	5		礫石	n		D8a	魚骨層8層	714		
	102	1	6		礫石	n		D8d	西斜面下部2-3層	325	12	
	102	1	7		礫石	n		E16c	魚骨層4層	203	25	
	102	1	8		礫石	n		D8b	魚骨層13層	1118	42	
	102	2			鹿角	n		S-6	V~VI層		16	
V-31-72	102	3			ナイフ	n		D12	Ⅷ層		76	
IV-31-98	102	4			土器	n		D9b	魚骨層13中層	1247		
					土器	n		E9	Ⅷ			
	102	5	1~3		土器	n		F16	Ⅷ層			
	102	5	4		土器	n		D8a	魚骨層15層	1030		
IV-52-215	102	6			土器	n		D8b	魚骨層13層	1114		
IV-67-373	102	7	1		焼成粘土塊	n		E8a	魚骨層15層	1017		
IV-67-376	102	7	2		焼成粘土塊	n		D8d	魚骨層13層	1140		

引用文献

- 赤石慎三・中国利泰 2000『油駒遺跡』えりも町教育委員会
 安西正人・飯島武次ほか 1977『岐阜第3遺跡』東京大学文学部考古学研究室
 石川 朗 1995『銅路市東銅路貝塚調査報告書』銅路市埋蔵文化財調査センター
 石川 朗 2004『北海道東部縄文晩期後半から続縄文初期における動物の取り扱いについて—銅路市幣舞遺跡を例として—』『宇田川洋先生甲記論文集 アイス文化の成立』北海道出版企画センター
 石川 朗 2005『幣舞2遺跡調査報告書Ⅰ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 石川 朗 2007『銅路市緑ヶ岡遺跡出土の骨角器について』『銅路市博物館報』No.396
 石川 朗編 1994『銅路市幣舞遺跡調査報告書Ⅱ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 石川 朗編 1996『銅路市幣舞遺跡調査報告書Ⅲ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 石川 朗編 1999『銅路市幣舞遺跡調査報告書Ⅳ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 岩崎隆人・畑 宏明・澤 四朗・西 幸隆 1980『銅路市東銅路遺跡Ⅱ地点の発掘調査昭和41年—』『銅路市立郷土博物館紀要』第7輯
 宇田川洋 1982『住居』『縄文文化の研究』第6巻 雄山閣出版株式会社
 宇田川洋・澤 四朗 1984『銅路緑ヶ岡遺跡の墓塚(1983年度)』『河野広道博士没後二十年記念論文集北海道出版企画センター』
 内山幸子 2003『イス・イノシシ類利用からみる北海道とサハリンの文化的位相』『古代文化』第55巻第10号
 牛沢百合子 1979『銅路市興津遺跡1977・1978年度調査時に出土した動物遺体の概要』『銅路市興津遺跡発掘報告Ⅲ』銅路市郷土博物館・銅路市埋蔵文化財調査センター
 大沼忠春 1999『付表 縄文土器全国編年表(東日本)』『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
 大沼忠春 2008『幣舞式土器』『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 岡崎由夫・澤 四朗 1961『銅路村岩保木附近の旧式土器を出土する二つの遺跡』『銅路の古代文化』第3号 銅路考古学研究会
 岡崎由夫・澤 四朗 1968a『銅路村トリウシ貝塚(細田)調査略報』『銅路考古学研究会連絡紙』vol.1-6
 岡崎由夫・澤 四朗 1968b『銅路村トンネル北貝塚調査略報』『銅路考古学研究会連絡紙』第1巻第6号
 岡崎由夫・澤 四朗 1968c『銅路村遠矢床丹地区の踏査報告』『銅路考古学研究会連絡紙』第1巻第6号
 尾高真大 2009『日本版校正曲線の作成と新たな課題』『弥生農耕のはじまりとその年代』新弥生時代のはじまり第4巻
 Hiromasa Ozaki・Mineo Imamura・Hiroyuki Matsuzaki・Takumi Mitatani 2007 RADIOCARBON IN 9TH TO 5TH CENTURY BC TREE-RING SAMPLES FROM THE OUBAN 1 ARCHAEOLOGICAL SITE,HIRO SHIMA,JAPAN. RADIOCARBON,VOL.49
 尾高真大・小林謙一・坂本稔・中村俊夫・木村勝彦・荒川隆史 2009『炭素14年代法による新潟県青田遺跡の年代研究』『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XⅧ
 葛西 勲・高橋 潤・児玉大成 1996『宇鉄遺跡』青森県三坂村教育委員会
 加藤邦夫ほか 1983『瀬棚南川』瀬棚町教育委員会
 金子浩昌 1968『東銅路貝塚から出土した動物遺骸』『銅路考古学研究会連絡紙』vol.1-2
 金子浩昌 1986『北海道における縄文時代貝塚の形成と動物相』『北海道考古』第22輯
 金子浩昌 1989『材木5遺跡出土の動物遺骸』『材木5遺跡調査報告書』銅路市埋蔵文化財調査センター
 金子浩昌 1990『銅路市幣舞遺跡出土の動物遺骸』『銅路市幣舞遺跡調査報告書』銅路市教育委員会
 金子浩昌 1994『北斗遺跡出土の動物遺骸』『銅路市北斗遺跡Ⅳ』銅路市教育委員会
 金子浩昌 1996『銅路市幣舞遺跡出土の動物遺骸』『幣舞遺跡調査報告書Ⅲ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 金子浩昌 1998『銅路市武佐川1遺跡出土の脊椎動物遺骸』『武佐川1遺跡調査報告書』銅路市埋蔵文化財調査センター
 金子浩昌 1999『銅路市幣舞遺跡出土の動物遺骸—1997,1998年度—』『幣舞遺跡調査報告書Ⅳ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 金子浩昌 2010『東銅路貝塚の脊椎動物遺骸(1994,2009年度調査)』『東銅路貝塚調査報告書Ⅱ』銅路市埋蔵文化財調査センター
 銅路川共同調査団 1969『銅路川』銅路市
 銅路原総合調査団編 1977『銅路原』銅路市
 銅路町役場 1990『銅路町史』
 久保勝範 1978『北見市中ノ島遺跡発掘調査報告書』北見市立北見郷土博物館
 久保勝範 1986『北見市中ノ島遺跡Ⅱ』北見市立北見文化センター
 久米学・北村武文 2003『第10章 同地域におけるイトヨビ型の繁殖生態と生殖的隔離』『トゲウオの自然史』
 河野常吉編 1918『北海道史 附属地区』北海道庁
 河野広道 1953『銅路附近の貝塚と骨塚』『銅路博物館新聞』
 河野広道 1958『トリウシ貝塚』『北海道学芸大学考古学研究会連絡誌』第11号
 小西雅徳 1983『銅路町トンネル第1地点出土の遺物』『銅路市立博物館々報』283号
 小西雅徳 1985『トンネル式土器再考』『國學院大學』
 佐川俊一・和泉田毅・藤井浩・山中文雄・王邑肇章・袖岡享子・阿部明義 1999『キウス4遺跡(3)』『北埋調査134』財団法人北海道埋蔵文化財センター
 佐藤直太郎 1957『トリウシ貝塚とリタツコブチャシコフの踏査』『銅路博物館新聞』No.68
 佐藤直太郎 1960『銅路市に於ける失われたる先住民族の遺跡の話(9)貝塚について』『銅路市立郷土博物館々報』No.105
 佐藤直太郎 1959『銅路市に於けるチャシコフについて(2)』『銅路博物館新聞』No.85
 佐藤直太郎 1967『郷土の足おと(1)』『銅路市立郷土博物館々報』No.186・187・188
 澤 四朗 1960『新たに発見された天塚貝塚』『銅路市立郷土博物館々報』No.105
 澤 四朗 1962a〔解説〕縄文早期沼尻式土器(仮称)『銅路市立郷土博物館々報』No.124
 澤 四朗 1962b〔解説〕縄文早期沼尻式土器(仮称)『銅路市立郷土博物館々報』No.125
 澤 四朗 1962c『沼尻式土器のまとめ』『銅路市立郷土博物館々報』No.126
 澤 四朗 1963『銅路村トンネル出土の一土器片について』『銅路市立郷土博物館々報』No.144
 澤 四朗 1964a『銅路地方の埋蔵文化財破壊の現状(3)』『銅路市立郷土博物館々報』No.154・155

- 澤 四郎 1964b 『北海道釧路村テネル第一地点出土土器について』『釧路の古代文化』第6集
- 澤 四郎 1966 『釧路地方の先史時代の貝塚及び骨塚(1)』『釧路市立郷土博物館々報』No.178・179
- 澤 四郎 1968a 『釧路村における埋蔵文化財破壊の現状』『釧路市立郷土博物館々報』No.193
- 澤 四郎 1968b 『釧路市東釧路遺跡発掘調査概報(昭和42年度)』釧路市教育委員会
- 澤 四郎 1969 『釧路川』
- 澤 四郎 1972 『新たに発見された釧路村遠矢の貝塚』『釧路博物館報』No.217
- 澤 四郎 1987 『釧路の先史』
- 澤 四郎編 1978 『釧路市東釧路第3遺跡発掘報告』釧路市立郷土博物館・釧路市埋蔵文化財調査センター
- 澤 四郎編 1979 『釧路市興津遺跡発掘報告Ⅲ』釧路市立郷土博物館・釧路市埋蔵文化財調査センター
- 澤 四郎・宇田川洋 1969 『北海道東釧路遺跡の壑穴発掘報告』『考古学雑誌』第55巻第1号
- 澤 四郎・岡崎由夫 1974 『自然・先史編』『釧路市史 第1巻』釧路市
- 澤 四郎・河野広道ほか 1962 『東釧路-東釧路貝塚発掘調査報告書-』釧路市教育委員会
- 澤 四郎・西幸 隆 1974 『釧路市貝塚町1丁目遺跡調査報告-第4次調査-』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆 1975a 『釧路渥原周縁の遺跡分布』『釧路渥原総合調査報告書』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆 1975b 『釧路市桂恋フシココタンチェン』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆 1977 『釧路市興津遺跡発掘報告』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆 1978 『釧路市興津遺跡発掘報告Ⅱ』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆 1979 『釧路市興津遺跡発掘報告Ⅲ』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆編 1974 『釧路市貝塚町1丁目遺跡調査報告書-第4次調査-』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆ほか 1976 『釧路市三津浦遺跡発掘報告』釧路市立郷土博物館
- 澤 四郎・西幸 隆・松田 猛 1987a 『釧路市坂ヶ岡1・2遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 澤 四郎・西幸 隆・松田 猛 1987b 『釧路市坂ヶ岡3遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 澤 四郎・松田猛ほか 1988 『釧路市坂ヶ岡2遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 澤 四郎・西幸 隆・山崎 哲・山本文男・松田 猛 1971 『東釧路遺跡第1地点(東釧路貝塚)の発掘-昭和45年-』
『釧路市立郷土博物館々報』No.209
- 澤 四郎・橋本正雄・山崎哲・山本文男・松田 猛 1971 『東釧路遺跡第1地点(東釧路貝塚)の発掘-昭和46年-』
『釧路市立郷土博物館々報』No.212
- 神 康夫・赤羽真由美 1999 『十勝内(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書261集 青森県埋蔵文化財センター
- 鈴木 信・宗像公司 2008 『千歳市梅川4遺跡(1)』北理調報253 財団法人北海道埋蔵文化財センター
- 鈴木敏彦・武田将男・山本悦也 1972 『釧路村別保川鉄橋付近壑穴分布調査報告』『エカシ』第7号釧路湖陵高等学校考古学部
- 高橋和樹 2006 『天草1遺跡表探遺物』『東陽1遺跡』北理調報230 財団法人北海道埋蔵文化財センター
- 高橋正勝編 1979 『江別太田遺跡』江別市文化財調査報告書IX
- 榎市幸生・吹次俊男・田口 尚・立川トマス・小山田真由美 1983 『旭町1遺跡』北理調報10 財団法人北海道埋蔵文化財センター
- 西 幸隆 1969 『石刃鏃の新資料』『釧路市立郷土博物館々報』No.200
- 西 幸隆 1970 『釧路地方のオホフク式土器について』『釧路市立郷土博物館々報』No.207
- 西 幸隆 1982 『道東地方の墳墓』『縄文文化の研究』6巻 雄山閣出版株式会社
- 西 幸隆 1997 『釧路市鶴ヶ岱4遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 西 幸隆・石川 朗 1990 『釧路市幣舞遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 西 幸隆・澤 四郎 1977 『釧路渥原周縁における縄文早期の小貝塚について』『釧路市立郷土博物館紀要』第4輯
- 西 幸隆・松田 猛 1989 『材木5遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 西本豊弘 1975 『動物遺存体について』『遠矢8遺跡』調査報告書 北海道教育委員会
- 西本豊弘 1987 『遠矢8遺跡アイヌ文化期の動物遺体について』『遠矢8遺跡』釧路町教育委員会
- 畑 宏明 1976 『貝塚町1丁目遺跡出土の有舌尖頭器』『釧路市立郷土博物館々報』No.237
- 福井淳一編 2008 『釧路町天草1遺跡』北理調報254 財団法人北海道埋蔵文化財センター
- 福田友之編 1975 『遠矢第2チャン跡遺跡調査報告書』北海道教育委員会
- 藤本英夫編 1982 『縄文文化概論』『縄文文化の研究』第6巻 雄山閣出版株式会社
- 藤本英夫編 1980 『北海道』『日本城郭大系1』新人物往來社
- 古川竜夫・中川光弘・古堅千絵・吉本充宏 2006 『樽前川左岸先史時代の噴火活動』『月刊地球』28-5
- 北海道火災命害委員会 1979 『北海道の火山灰分布図』
- 北海道教育委員会編 1981 『遠矢8遺跡-個人住宅建築に伴う緊急発掘調査報告書-』北海道教育委員会
- 松田 猛 1990a 『釧路市材木町5遺跡調査報告書Ⅱ』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 松田 猛 1990b 『釧路市武佐川3遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 松田 猛 1994 『釧路市北斗遺跡Ⅳ』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 松田 猛編 1998 『釧路市武佐川1遺跡調査報告書』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 松田 猛・加藤春雄 1985 『釧路市武佐川周辺の遺跡』『釧路博物館館報』No.295
- 宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚』
- 宮路淳子 2001 『遺跡土壌の微細形態学的解析』『日本の美術』第423号
- 三善 敏・阿部伸一 1959 『釧路市武佐遺跡について』『釧路博物館新聞』No.92
- 八木勝枝・新井田えり子・吉田真由美 2006 『大橋遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書481 06岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 山代淳一 1986 『北海道釧路町天草から産出した洪積層貝化石について』『釧路市立博物館紀要第11輯』
- 山田しょう・志村宗昭 1989 『石器の破壊力学②』『旧石器考古学』39 旧石器文化談話会
- 山本文男 1972 『釧路市紫雲台遺跡』『釧路市立郷土博物館々報』No.214
- 山本文男編 1981 『別保川左岸1遺跡発掘調査報告書』釧路町文化財調査報告書4 釧路町教育委員会
- 山本文男編 1987 『遠矢8遺跡-昭和61年度釧路町遠矢8遺跡発掘調査報告書-』釧路町文化財調査報告書5 釧路町教育委員会
- 山本文男編 1984 『ノトロ岬-昭和58年度 音別町ノトロ岬遺跡 発掘調査』音別町教育委員会

報告書抄録

ふりがな	くしろちょうてんねる1いせき②一ちょうどうかいりょうちてんー							
書名	釧路町天寧1遺跡②ー町道改良地点ー							
副書名	町道床丹5号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	00北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第274集							
編著者名	鈴木宏行・笠原興							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685番地1							
発行年月日	2011年3月25日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
天寧1遺跡	北海道釧路郡釧路町中央7-15	01661	M-02-28	43°00'37"	144°26'02"	20080623～20080918	700㎡	道路建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
天寧1遺跡	集落跡	縄文時代 晩期後半	土坑 東西斜面魚骨層	縄文土器（緑ヶ岡式・大洞A式） 石器等（石鏃・ナイフ・砥石等） 骨角製品（銚頭・骨針等） 動物遺存体		大洞A式並行期の緑ヶ岡式古段階期の魚骨層が検出され、短期間で形成された人工遺物と動物遺存体が得られた。また、参考値ではあるが、大洞A式の壺の胎土中の黒曜石が「岩木山系」と判定された。		
		統縄文時代 前半	竪穴住居跡 4	統縄文土器（フシココタン下層式・興津式） 石器等（石鏃、ナイフ等）				
		統縄文時代 後半	土坑	北大Ⅱ式土器・円形釐器				
要約	<p>天寧1遺跡町道改良地点は釧路川の左岸、現在の海岸線から5.5km内陸に位置し、釧路湿原に向かって突き出た段丘上に立地する。台地上には統縄文時代前・後半期の遺構・遺物が検出され、段丘崖に相当する斜面部では樽前c₁テフラの上位で縄文時代晩期後葉の動物遺存体を多量に含む魚骨層が検出された。</p> <p>縄文時代晩期後葉は台地部の土坑と斜面部の魚骨層が検出され、土坑は直径1m以下の小型のものが多い。副葬品があるものは少なく、石斧3本と大型刮片が副葬された熟年女性の墓が確認された。魚骨層は緑ヶ岡式古段階に相当し、多くの動物遺存体と土器・石器等が出土した。動物遺存体は魚が最も多く、イトヨ・カレイ類・ヒラメなど砂泥底に棲息する魚がほとんどで、当時道跡近くまで砂地の海が迫っていたと考えられる。鳥はハクチョウ類・ガン類・大小のカモ類が多く、長管骨は骨製品の素材となる。哺乳類で多いのはイヌで、切削や幼獣の比率が高い特徴は当該期の道東北部の道跡に類似する。海棲哺乳類は少ない。土器は緑ヶ岡式古段階で、深鉢・鉢・壺・舟形土器が出土した。また、大洞A式の搬入土器（壺）付着黒曜石が参考値ではあるが岩木山系と判定され、津軽周辺で作られて道跡まで持ち込まれた可能性が高い。</p> <p>統縄文時代前半期は竪穴住居跡が検出され、それに伴う土器・石器類が出土した。縄文時代晩期に比べ石器類の内容はほとんど変化が見られない。</p> <p>統縄文時代後半期は北大Ⅱ式の土坑墓が検出され、縄文時代晩期のものより直径が大きい。包含層からは同時期と思われるオホーツク式土器が1個体出土した。</p>							

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第274集

くしろ
釧路町 てんねる
天寧1遺跡(2)

—町道改良地点—

町道床丹5号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成23年3月25日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[E-mail] mail@domaibun.or.jp
[URL] <http://www.domaibun.or.jp>

印刷 株式会社 中央広販社
〒064-0826 札幌市中央区北6条西28丁目3番地16号
TEL (011)631-9339
